

# 目次

## 三田キャンパスガイド

主な事務室と事務取扱時間	2
振鈴表	2
掲示板	2
校舎と教室番号	2
三田キャンパスマップ	2
<b>第1 学事関連スケジュール(三田)</b>	4
<b>第2 学籍(休学・留学・退学)</b>	
1 休学	8
2 留学	8
3 退学	8
海外の教育機関に留学する場合の取扱い	9
<b>第3 学生証・諸届・証明書</b>	
1 学生証	10
2 住所変更(本人・保証人)	10
3 保証人変更	10
4 改姓・改名	10
5 国籍変更	10
6 通学区間の変更	11
7 証明書(成績証明書・学割証等)	11
<b>第4 Web システム</b>	
1 Web システム概要	12
2 Web システム操作上の注意	13
3 パスワード再発行	13
<b>第5 履修・授業・成績</b>	
1 履修申告	14
2 教員を訪ねる場合	15
3 教室使用申請三田	15
4 AV 機器の鍵・機材の貸出	15
5 緊急時における授業の取扱い	15
6 早慶野球戦時における授業の取扱い	16
7 成績	16
8 採点結果問い合わせ制度	16
<b>第6 試験</b>	
1 試験の種類	17
2 不正行為	18
3 レポート	18
<b>第7 学生総合センター</b>	
1 窓口案内	19
2 学生生活支援	19
3 遺失物の取扱い	20
4 奨学金	20
5 就職・進路支援	20
6 学生相談室	20
7 学生健康保険互助組合	21
8 学生教育研究災害傷害保険	21
9 任意加入の補償制度	21

定期健康診断	21
--------	----

## 法律学科 学習指導要綱

1 カリキュラム改正に伴う履修上の移行措置について	23
2 平成 21 年度開講科目一覧	24
3 卒業・進級について	27
4 履修ルールについて	29
5 他学科・他学部・他キャンパス・諸研究所の科目の履修方法	31
6 クラス担任・学習指導について	33

## 政治学科 学習指導要綱

1 入学年度とカリキュラムについて	35
2 平成 21 年度開講科目一覧	35
3 卒業・進級について	38
4 履修ルールについて	40
5 他学科・他学部・他キャンパス・諸研究所の科目の履修方法	42
6 クラス担任・学習指導について	44

## 講義要綱・シラバス

### 諸研究所設置講座

1 慶應義塾外国語学校	177
2 教職課程センター	178
3 言語文化研究所	179
4 メディア・コミュニケーション研究所	184
5 斯道文庫	201
6 体育研究所	203
7 福澤研究センター	211
8 国際センター	214
9 保健管理センター	236
10 情報処理教育室	238
11 アート・センター	240
12 知的資産センター	241
13 外国語教育研究センター	243
14 グローバルセキュリティ研究所	246

# 三田キャンパスガイド

## 主な事務室と事務取扱時間

事務室	主な業務	事務取扱時間	場 所
学事センター	履修・授業・成績	授業期間中 平日 8:45～16:45 休業期間中の 11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 大学院校舎1階
学生総合センター	学生生活・奨学金・就職		5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 仮設A棟
	学生相談	平日 9:30～11:30 / 12:30～16:30	西校舎地下2階
国際センター	留学	授業期間中 平日 8:45～16:45 休業期間中の 11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎1階 5月下旬以後 未定
教職課程センター	教職課程		南館地下1階
保健管理センター	健康診断・ヘルスケア	平日 8:45～11:30/13:00～16:15	北館1階
三田 ITC	keio.jp, PC 関連	授業期間中 平日 8:45～18:15 休業期間中は 8:45～17:00	大学院校舎地下1階

南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。

土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。

大学が定める休日 …… 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）

大学の事務一斉休業期間（三田） …… 8月中旬および年末年始

変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

## 振鈴表

時 限	授業期間	定期試験期間		追加試験期間	
	三田・日吉	三田	日吉	三田	日吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30	9:00～10:20	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50	10:30～11:50	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50	12:30～13:50	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10	14:00～15:20	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30	15:30～16:50	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45	16:50～17:50	17:00～18:20	16:50～17:50

## 掲示板

掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している学部の掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、「共通」掲示板を確認してください。研究会に関する掲示は、西校舎501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。掲示内容の一部については学事 Web システム、塾生ページでも確認できます。

学事センター（三田法学部係）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html>

## 校舎と教室番号

第一校舎	大学院校舎	西校舎	南 館	南別館	仮設教室
101～147	313, 321-A～375-C	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42	621～672	K 11

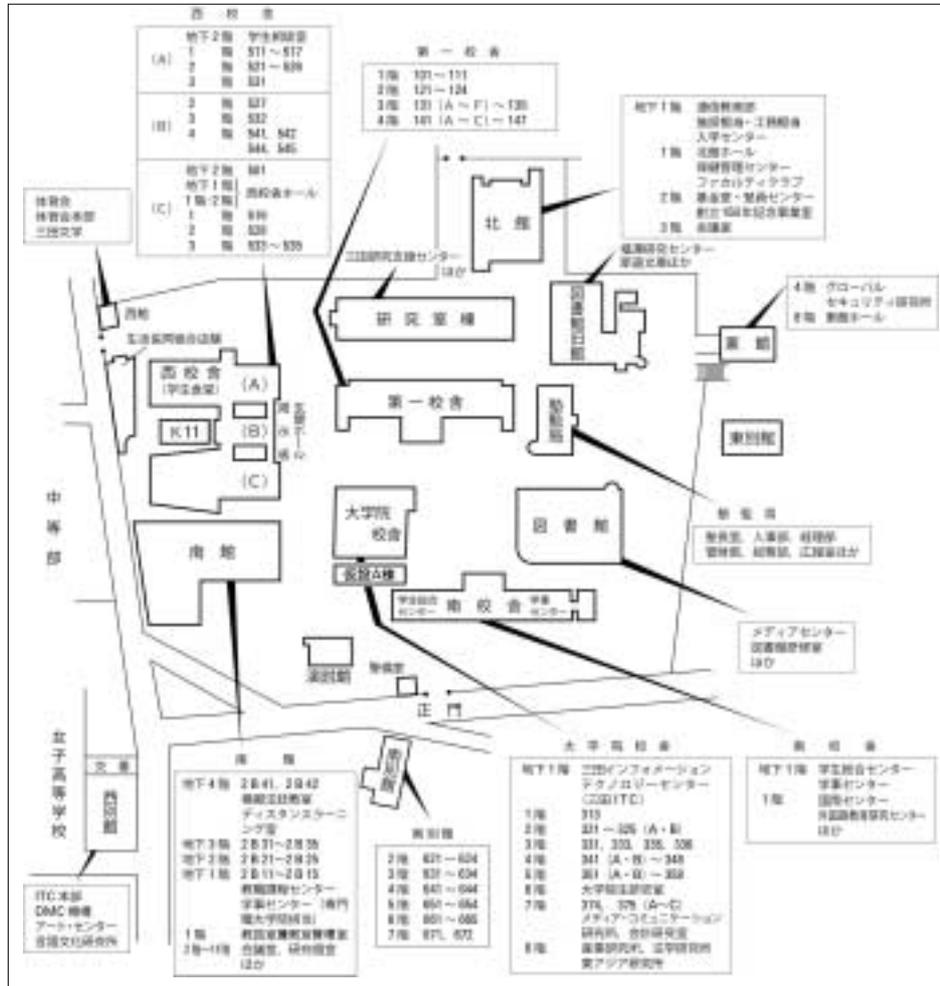
「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に建設し、2009年4月に竣工する予定です。

「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には十分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

## 三田キャンパスマップ（2009年4月現在）

「南校舎」は、2009年の5月下旬以降に建て替え工事に入る予定です。建て替え工事期間中の代替教室や各事務室の移転先等について、掲示やHPで確認をしてください。

「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にあります。信号待ちのある国道を横断しなくてはなりません。



## その他

### (1) PC アカウント・パスワード

三田キャンパス内の PC を利用するためには、新たに三田 ITC でアカウントとパスワードを作成する必要があります。他キャンパスのアカウントとパスワードでログインすることはできません。

### (2) PC を利用できる場所

PC は第一校舎、大学院校舎、メディアセンター、南館図書室、東館等に設置されています。

### (3) 証明書自動発行機

証明書自動発行機は学事センター内に 1 台、南校舎中庭側に 3 台設置されています。ただし、南校舎建て替え工事の開始にあわせて、いずれも設置場所を移転します。掲示やホームページで確認してください。

### (4) コピー

コピーは生協購買部、生協食堂、メディアセンター等で行うことができます。

### (5) 食堂

三田キャンパス内には、西校舎に「山食(やましょく)」と「生協食堂」の 2 つの食堂があります。

# 第1

## 学事関連スケジュール（三田）

日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3	4
	諸研究所ガイダンスの詳細はこのページの下部を参照のこと 4月下旬 定期健康診断		成績証明書発行開始 (12:30) ガイダンス期間		入学式	
	5	6	7	8	9	10
		学事WebシステムPW変更 締切(学事センター提出)	春学期授業開始		Web履修申告期間 (16:00~16日10:00)	
	ガイダンス期間					
	12	13	14	15	16	17
					(~10:00)	
	19	20	21	22	23	24
					開校記念日	
	26	27	28	29	30	
			昭和の日		授業料等納入期限 (全納または春学期分納)	
5月	5月上旬 履修申告科目確認表送付(本人宛) 5月上旬 定期健康診断				1	2
	3	4	5	6	7	8
	憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日	履修申告修正期間(~11日予定) 4年生用卒業見込証明書発行開始	
	10	11	12	13	14	15
	17	18	19	20	21	22
	24	25	26	27	28	29
					休学願提出締切(春学期分)	早慶野球戦(予定)
	31	早慶野球戦(予定)				
6月		1	2	3	4	5
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	19
	21	22	23	24	25	26
	28	29	30			

### 諸研究所ガイダンス日程

情報処理教育室ガイダンス	4月3日(金)10時45分	515番教室
福澤研究センターガイダンス	4月3日(金)13時00分	513番教室
斯道文庫ガイダンス	4月6日(月)10時45分	512番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス	4月6日(月)10時45分	526番教室
グローバルセキュリティ研究所ガイダンス	4月6日(月)12時15分	515番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者)	4月6日(月)13時00分	519番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日(月)13時00分	531番教室
教育実習事前指導(今年度実習予定者)	4月6日(月)14時45分	519番教室
教職課程ガイダンス(学校教育学コース)	4月6日(月)16時30分	514番教室
体育研究所ガイダンス	4月7日(火)9時00分・10時45分	512番教室

	日	月	火	水	木	金	土	
7月				1	2	3	4	
		7月上旬 春学期末定期試験時間割発表 7月上旬 春学期末追加試験申込受付						
	5	6	7	8	9	10	11	
						補講日		
	12	13	14	15	16	17	18	
			春学期授業終了	春学期末定期試験（～27日予定）			→	
19	20	21	22	23	24	25		
	海の日						→	
26	27	28	29	30	31			
		夏季休業（～9月23日）						
8月							1	
	2	3	4	5	6	7	8	
			春学期末追加試験（予定）	春学期末追加試験（予定）				
	9	10	11	12	13	14	15	
	三田キャンパス一斉休業（～8月15日）							→
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
30	31							
9月			1	2	3	4	5	
	9月上旬 春学期学業成績表送付（保証人宛）					9月卒業者発表		
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
						卒業式		
20	21	22	23	24	25	26		
	敬老の日	国民の休日	秋分の日	入学式 ガイダンス	秋学期授業開始			
27	28	29	30					

- ・補講日には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。
- また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。

	日	月	火	水	木	金	土	
10月						1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10	
	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
						授業料等納入期限(秋学期分納)	早慶野球戦(予定)	
11月	1	2	3	4	5	6	7	
	早慶野球戦(予定)		文化の日					
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
				補講日(午前) 三田祭準備(午後)	三田祭準備	三田祭	三田祭	
22	23	24	25	26	27	28		
三田祭	勤労感謝の日 三田祭	三田祭片付け						
29	30							
						休学願提出締切(秋学期分)		
12月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
				天皇誕生日 冬季休業(-1月5日)				
27	28	29	30	31				
			三田キャンパス-斉休業(-1月5日)					

- ・補講日には、実際の授業開講曜日にかかわらず、補講を行うことがあります。  
また、補講日以外の通常授業時でも補講を行うことがありますので、掲示板をよく確認してください。

	日	月	火	水	木	金	土	
1月						1	2	
		1月上旬 秋学期末定期試験時間割発表 1月上旬 秋学期末追加試験申込受付					元日	
	3	4	5	6	7	8	9	
				授業開始				
	10	11	12	13	14	15	16	
	福澤先生誕生記念日	成人の日				月曜代替講義日		
	17	18	19	20	21	22	23	
		秋学期授業終了	補講日	秋学期末定期試験(2月3日予定)				
24	25	26	27	28	29	30		
31								
2月		1	2	3	4	5	6	
				福澤先生生日				
	7	8	9	10	11	12	13	
					建国記念の日			
	14	15	16	17	18	19	20	
21	22	23	24	25	26	27		
28	2月上旬~3月下旬 春季休業 2月下旬 秋学期末追加試験(予定)							
3月		1	2	3	4	5	6	
	7	8	9	10	11	12	13	
				卒業生発表				
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
春分の日	振替休日	卒業式						
28	29	30	31	3月中旬 学業成績表送付(保証人宛)				

・月曜代替講義日(1/15(金))には、実際の曜日にかかわらず、月曜開講の授業が行われます。

# 第2 学籍（休学・留学・退学）

## 1 休学

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、学習指導と面接し承認印を受けたうえで学事センター法学部窓口へ提出してください。面接の申し込みについては学事センター法学部窓口で行ってください。休学が次の年度におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。学生総合センター学生生活支援窓口にお問い合わせください。

### (1) 休学期間

春学期 2009年4月1日～9月21日

秋学期 2009年9月22日～2010年3月31日

法律学科の2004年度以前入学者および2007年度以前学士入学者の休学期間は、2009年4月1日～2010年3月31日（年度単位）となります。

### (2) 休学願提出締切

春学期分 2009年5月末日の事務取扱日

秋学期分 2009年11月末日の事務取扱日

法律学科の2004年度以前入学者および2007年度以前学士入学者は、2009年11月末日の事務取扱日となります。

### (3) 就学届

休学期間が終了し、再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を学事センター法学部窓口へ提出してください。

病気・怪我を理由に休学をしていた場合は、あわせて医師の診断書の提出が必要です。

## 2 留学

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修等は留学に該当せず、休学の対象となります。

### (1) 国外留学申請

留学を希望する場合は、あらかじめ三田学事センターで確認・相談のうえ必要書類を用意し、所定の「国外留学申請書」を三田学事センターへ提出してください。また、学習指導と面接し、教授会での承認も必要です。これらを含めて出発の1ヶ月前までに済ませてください。

その他留学に関する詳細については後述の「海外の教育機関に留学する場合の取扱い」を参照してください。

### (2) 就学届

留学期間が終了し再び学業に戻る場合は、速やかに所定の「就学届」を学事センター法学部窓口へ提出してください。

### (3) 留学に伴う単位認定

30単位を超えない範囲で慶應義塾大学での履修単位として認定することがあります。認定を希望する場合は、「就学届」の提出とあわせて、所定の「留学に伴う単位申請書」と留学先での成績証明書、講義要綱を用意して三田学事センターで確認・相談をしてください。

## 3 退学

### (1) 自主退学

病気その他の事由により退学したい者は退学届を記入し、学生証を添えて学事センターへ提出してください。授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします（学則第171条）。退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍および取得した成績は無効となります。

### (2) 退学処分

4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・4学年併せて4年間在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められたとき、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願いもなく修学の意志が確認できないときなどには学則第188条により退学処分となります。

海外の教育機関に留学する場合の取扱い（留学以外の休学については法学部窓口にお問い合わせください）

	留 学	休 学
種 類	「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3種類。いずれの場合も、教授会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）のみ「留学」として認められる。	語学研修やその他左記の留学として認定されない場合。
期 間	「留学」の開始日から最長1年間まで。 年度途中に開始し、年度途中で終了することが可能。 [例] 2009.9.22～2010.9.21	休学開始日にかかわらず、当該学期（法律学科の2004年度以前入学者および2007年度以降学士入学者については当該年度）は休学扱いとなる。
間 延 長	1回まで可能。最長で留学開始日から2年間まで。3年目以降は「休学」。希望する場合は所定の「国外留学申請書」の再提出が必要。	学期をまたいで休学する場合、新学期に「休学願」の再提出が必要。
学 費 ・ 渡 航 費	1年目：私費留学の場合、留学により在学しなかった学期の属する年度の授業料と実験実習費の年額の4分の1を各学期において免除される場合あり。 2年目：留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料と実験実習費の半額を免除される場合あり。	減免制度なし。
補 助 費	「交換留学」または「奨学金による留学」の場合は渡航費が補助される場合あり。窓口は国際センター。	渡航費補助制度なし。
単 位 取 得 ・ 履 修	研究会の扱いについては、事前に学事センターに相談・要確認。 なお、体育実技は、履修登録が学期開始日前で、履修定員に余裕があり、健康診断証明書を持参した場合のみ継続履修可能。	休学開始日にかかわらず、当該学期（法律学科の2004年度以前入学者および2007年度以降学士入学者については当該年度）はすべて休学扱いとなるため、学期途中から休学する場合、当該学期（法律学科の2004年度以前入学者および2007年度以降学士入学者については当該年度）の履修申告した科目はすべて削除となる。
認 定	30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学の単位として認定される場合あり。認定希望の場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出、「就学届」提出時に要申請。認定対象科目は専門科目。	単位認定なし。
在 学 年 数 へ の 算 入	1年間に限り留学期間が慶應義塾大学の在学年数に算入される場合あり。 研究会の扱いについては学事センターにて要確認。	在学年数への算入は不可。休学終了後は原級にとどまる。

注意 TOEFL, GRE, GMAT 等受験の際、身分証明書としてパスポートが必要になります。

留学は二重学籍を認めるものではありませんので、学籍について次の点に注意してください。

慶應義塾大学で取得した単位を外国大学に振り替えた場合（Transfer）その単位は慶應義塾大学から抹消される。

外国大学で学位を取得せずに帰国する場合、により抹消した単位は慶應義塾大学での単位として認定し、外国大学で取得した単位も慶應義塾大学に振り替え（Transfer）する場合がある。

外国大学で学位を取得した場合、外国大学に振り替えた単位と取得した単位は、ともに外国大学で取得した単位として扱う。

なお、上記のことについて確認するために、帰国後に成績証明書の提出を求められることがあります。

交換・私費・奨学金による留学

留学出発前			留学終了直後		
国外留学申請書を入手	必要書類を用意	学習指導面談 要予約	国外留学申請書・必要書類を学事センターに提出	就学届を学事センターに提出	留学期間中取得単位認定希望者のみ 学習指導面談 要予約
					単位認定申請書類等を学事センターに提出

- ・ 国外留学申請書、就学届は学事センターにあります。
- ・ 必要書類は留学の種類によって異なります。  
交換留学：交換留学証明書（写）、講義内容、留学先大学の入学許可書  
私費留学：入学願書（写）、講義内容、留学先大学の入学許可書
- ・ 学習指導面談の予約は、学事センター法学部窓口で行ってください。  
（学習指導面談日… p.33, 44 参照）
- ・ 学習指導面談は授業期間中のみに行われるので、必要書類は早めに揃えるようにしてください。
- ・ 留学期間中取得単位認定の面談には、留学先大学の成績証明書が必要です。  
（成績表は不可）
- ・ 不明な点は、学事センター法学部係にお問い合わせください。

休学

休学申請締切日まで			休学終了後	
休学願を入手	必要書類を用意	学習指導面談 要予約	休学願・必要書類を学事センターに提出	就学届を学事センターに提出

- ・ 休学願、就学届は学事センターにあります。
- ・ 必要書類については学事センター法学部係にお問い合わせください。
- ・ 学習指導面談の予約は、学事センター法学部窓口で行ってください。  
（学習指導面談日… p.33, 44 参照）

# 第3 学生証・諸届・証明書

## 1 学生証

学生証は本大学学生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

### (1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに三田学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

**必要書類** ( 所定用紙 は学事センターにあります )

学生証, 証明書用写真 ( 縦 4cm 横 3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし, 3ヶ月以内に撮影されたもの ), 2,000円 ( 証紙 証紙は学事センター内の券売機で販売しています ), 学生証再交付願 所定用紙

### (2) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業等で離籍した場合はただちに三田学事センターへ返却してください。

### (3) 国際学生証

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。(TEL: 03 3455 6651)

## 2 住所変更 (本人・保証人)

住所 (本人・保証人) を変更した場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

**必要書類** ( 所定用紙 は学事センターにあります )

学生証, 在学カード 所定用紙

## 3 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

**必要書類** ( 所定用紙 は学事センターにあります )

学生証, 保証人変更届 所定用紙, 在学カード 所定用紙, 誓約書 (本人・新保証人押印) 所定用紙, 新保証人の住民票

## 4 改姓・改名

改姓・改名をした場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。届け出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

**必要書類** ( 所定用紙 は学事センターにあります )

学生証, 改姓(名)届 所定用紙, 在学カード 所定用紙, 誓約書 (本人・保証人押印) 所定用紙, 学生証再交付願 (写真貼付 縦 4cm 横 3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし, 3ヶ月以内に撮影されたもの, 手数料不要) 所定用紙, 新姓名の戸籍抄本

## 5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

**必要書類**

学生証, 戸籍謄本 (コピーでも可), 住民票

## 6 通学区間の変更

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

### 必要書類

学生証

## 7 証明書（成績証明書・学割証等）

### (1) 証明書自動発行機

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

南校舎1階（中庭側） 月～土 9:00 20:00 授業・定期試験のない土曜日は利用できません。

学事センター内 月～金 8:45 16:45 授業・定期試験のない日は8:45 11:30 / 12:30 16:45

5月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報は、適時HP等でお知らせします。http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html

### (2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。

なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

### (3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

#### 必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

委任状には特に所定の書式はありませんが、例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

#### [例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20xx年 月 日・本人署名・捺印

身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

### (4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
卒業見込証明書	和文	200円	自動発行機	即日	5月7日	4年生のみ発行されます。
卒業見込付成績証明書	和文	400円	自動発行機	即日	5月7日	4年生のみ発行されます。
履修科目証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月1日	
	英文	200円	窓口	即日		
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月中旬	受診した年度の年度末まで発行されます。
	英文	保健管理センターに問い合わせてください。(TEL:03-5427-1607)				
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1人1日10枚まで発行できます。
通学証明書	和文	無料	窓口	即日		学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です。
旧司法試験受験用単位取得証明書	和文	200円	窓口	数日 <sup>(注)</sup>		旧司法試験一次試験免除用の証明書です。発行スケジュールは適時掲示板でお知らせします。
各種資格試験等受験用単位取得証明書	和文	200円	窓口	数日 <sup>(注)</sup>		
提出先所定の用紙(リクエストフォーム)に証明を要するもの	和文	200円	窓口	数日 <sup>(注)</sup>		

(注) 発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもって申請してください。

証明書発行には学生証が必要です。

2002年度以前の入学者が初めて英文の証明書を発行する場合は、窓口に出してください。

学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

特別学割証と団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、窓口に出してください。

学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

# 第4 Webシステム

## 1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	<a href="http://www.gakuji.keio.ac.jp/">http://www.gakuji.keio.ac.jp/</a>
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	<b>授業 / 履修 / 試験</b> ・履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 / 卒業・修了発表 (学籍番号のみ公開) 等 <b>学生生活 / 進路</b> ・窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

学事 Web システム	
URL	<a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/</a>
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	<a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/</a>
概要	履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学生証持参のうえ、学事センター窓口までお越しください。
主な提供サービス	<b>履修申告</b> 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更になる場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。 <b>履修確認</b> 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。 <b>休講・補講</b> 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。 <b>連絡・呼出</b> 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。

Web エントリーシステム	
URL	<a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/</a>
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	<a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/</a>
概要	各種の申込み (エントリー) を行うシステムです。 ログインには学事 Web システムと同じ学籍番号/学事 Web パスワードを利用します。パスワードを忘れた場合は学生証持参のうえ、学事センター窓口までお越しください。
主な提供サービス	<b>抽選エントリー</b> 事前抽選が必要な科目の抽選申込み (エントリー) を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口に提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。

keio.jp (共通認証システム)	
URL	http://keio.jp/
ID/パスワード	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp/
概要	共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。
主な提供サービス	<p><b>学業成績表閲覧</b> 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 学部生は保証人，大学院生は本人へ郵送した学業成績表の原本から，個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は，学部・研究科，学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。</p> <p><b>健診結果お知らせ</b> 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p><b>就職・進路支援システム</b> 進路希望，進路届，就職体験記，求人票等</p> <p><b>その他</b> ・慶應メール/教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)</p>
慶應 ID 取得	<p>慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は，以下を参照してください。 <a href="http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html">http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</a></p> <p>アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は，各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>

## 2 Web システム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は，ブラウザの [ 戻る ] および [ 進む ] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には，[ 更新 ] ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で，長時間同じ画面が表示された場合は，次の画面には進めないようになっています。そのような場合は，一旦ブラウザを終了し，10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合，画面上にうまく表示できない場合がありますが，システム上問題はありません。
- (5) Web システムは，推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は，ログインできないことがあります。推奨環境，設定方法，操作方法については，各 Web システムのマニュアルを参照してください。

## 3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

	ログイン ID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
学事 Web システム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
Web エントリーシステム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
keio.jp (共通認証システム)	慶應 ID	keio.jp パスワード	三田 ITC	学生証・慶應 ID
塾生の皆様へ	不要	不要		

三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。

# 第5 履修・授業・成績

## 1 履修申告

### (1) 履修申告方法

学事 Web システムによる申告期間 4月10日(金)16:00 ~ 4月16日(木)10:00

学事 Web システム URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

操作方法・注意は学事 Web システムのオンラインマニュアルを参照してください。

#### 履修申告期間前

- 最新の学業成績表で、すでに取得している科目・単位を確認し、本項や「学習指導要項」の項を正確に理解し、「講義要綱・シラバス」等本冊子の各部を参照のうえ、今年度の履修計画をたててください。なお、学業成績表は保証人宛に送付しています。
- 履修者数の事前調整（抽選）がある科目の情報入手や、諸研究所（国際センターや情報処理教育室等）のガイダンスに参加する等、個別にも事前手続を把握しておいてください。なお、諸研究所のガイダンス日程は「第2 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。
- 履修に関する疑問点その他を学習指導と、または学事センターで確認しておいてください。
- 住所等が変わっている場合は、「第3 学生証・諸届・証明書」の項を参照し、「住所変更届」等を提出してください。履修・卒業・進級等にかかわる連絡は、大学に届け出のある住所に郵送します。

#### 履修申告期間中

- 学事 Web システムにより履修申告をしてください。  
期間最終日に初めて申告するのではなく、期間中の早い時期に申告してください。期間中は何度でも申告内容の修正ができます。なお、毎日午前4時から1時間程度は定期メンテナンスのためシステムの稼働を停止します。
- 時間割が変更すること等がありますので、随時掲示版等で最新の情報を確認してください。  
登録していない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。  
期日までに履修申告をしない場合は、修学の意志がないものとして退学処分になります。（学則第188条）

#### 履修申告期間後

- 履修の変更・追加・取消は一切認めません。また、閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録科目の一覧画面を印刷し、時間割とともに控えとして保管してください。
- 5月上旬に、「履修申告科目確認表」（申告した科目のリスト）を、大学に届け出のある本人の住所宛に郵送します。学事センターから修正の指示があった場合は、修正期間中に学事センター窓口に申し出て修正を行ってください。
- 修正期間は掲示で案内します（送付後約一週間の予定）。この期間経過後は本年度の履修確認が終了したものとみなし、履修内容は確定されます。  
以上を怠ったために生じた問題（申告漏れ、科目間違い等により、結果として進級・卒業単位不足となる、住所変更届が未提出であったために確認表が届かない等）について大学は一切責任を持ちません。

### (2) 科目の登録方法

授業科目名、担当者名と登録番号（5桁）を確認してください。

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。集中講義や実験を伴う科目等、曜日・時限が複数にわたって開講している授業科目についても、登録番号は1つだけです。その登録番号を1つ登録することで他の時限についても登録されます。この場合、どの曜日・時限にも別の科目を登録することはできません。

法学部設置科目のうち、他学部・諸研究所と併設している科目については、必ず法学部の設置科目を履修しなければなりません。法学部の時間割で登録番号を確認してください。

履修科目により、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合（A欄申告）と、各自分野を選択しなければならない場合（B欄申告）があります。他学部や諸研究所の科目を履修したり、自由科目として履修する場合などはB欄申告となります。詳細は「学習指導要項」の項を参照してください。

### (3) 秋学期履修申告

法律学科・政治学科ともに、9月に進級した学生と春学期で休学や留学期間が終わった学生のみ、秋学期に履修申告を行うことができます。秋学期履修申告の詳細については、春学期学業成績表とともに送付します。

#### (4) 政治学科の秋学期追加履修について

政治学科の学生は、4月の履修申告で登録した単位数が50単位以下だった場合、秋学期に「政治学科目」についてのみ履修上限52単位の範囲内で追加することができます。政治学科目以外の科目の追加や、春学期に落とした単位分の追加はできないので注意してください。追加申告期間・方法の詳細については、春学期学業成績表とともに送付します。

## 2 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、新年度書類配布物に同封されている専任者一覧を参照してください。なお、講義要綱・シラバスも参照し、該当授業の訪問ルールに留意してください。

(1) 三田所属専任教員（教授・准教授・専任講師・助教）……研究室（研究室棟または南館）

(2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南館1階）

専任教員が講師が不明な場合はシラバス等で確認してください。

## 3 教室使用申請（三田）

### (1) 研究会の教室使用申請

所定の「学内集会届」を窓口に提出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

使用不可能期間	……	土曜・日曜・祝日、大学が定めた休日、定期試験期間中
受付窓口	……	三田学事センター教室担当
申込期日	……	使用希望日の2週間前から事務取扱日換算の前日まで

### (2) 公認学生団体の教室使用申請

「第7 学生総合センター」の項を参照してください。

### (3) 外部団体の教室使用申請

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。

他キャンパスの教室利用については、各キャンパスで申請方法等を確認してください。

## 4 AV 機器の鍵・機材の貸出

貸出窓口 …… 教員室（南館1階）

休業期間中は学事センターが窓口

手続 …… 学生証提示

## 5 緊急時における授業の取扱い

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

### (1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

### (2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

#### その他の注意事項

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。

掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

## 6 早慶野球戦時における授業の取扱い

授業は 1 時限のみとし、2 時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による 3 回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京 6 大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください。

URL <http://www.big6.gr.jp/>

雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場（神宮球場）の判断によります。

神宮テレフォンサービス：TEL 03 3236 8000

## 7 成績

### (1) 成績評語

所定の授業に出席し評価試験（定期試験またはレポート）を受けた後に評語が決まります。学業成績の評語は A・B・C・D の 4 種で示すことを基本とし、A・B・C を合格、D を不合格とします。ただし、特定の科目は、評語を P・F の 2 種とし、この場合、P を合格、F を不合格とします。さらに、他大学等で履修した科目を A・B・C または P の評語を用いずに認定する場合は、これを G とします。また、法学部においては未受験の場合、評語は D となります。

### (2) 学業成績表

学業成績表を保証人宛に郵送します。春学期終了科目については 9 月上旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については 3 月中旬に発送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

### (3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表を Web で閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」の ID・パスワードおよび「学事 Web システム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Web システムの利用案内については、「第 4 Web システム」の項を参照してください。

### (4) 学業成績証明書

成績結果が学業成績証明書に記載されるのは翌学期以降（法律学科の 2004 年度以前入学者・2007 年度以前学士入学者は翌年度以降）です。ただし、卒業発表後、卒業決定者については事前申請により卒業式の日以降に発行します。詳細は 1 月（9 月卒業者については 7 月）に掲示します。卒業式の日程については、「第 1 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。

## 8 採点結果問い合わせ制度

法学部では法学部設置科目の採点結果について質問がある場合、科目設置地区の学事センター法学部窓口にて質問を受け付けます。なお、これ以外の方法で評語に関する質問は受け付けませんので注意してください（科目担当者は個別の質問には対応いたしません）。手続きについての詳細は春学期は 9 月、秋学期は 3 月に掲示します。

# 第6 試験

## 1 試験の種類

### (1) 定期試験

定期試験は春学期末と秋学期末に実施されます。日程は「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

定期試験時間割, 持ち込み指示, 受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

定期試験・追加試験の URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

定期試験に関する注意

#### a 学生証

(a) 学生証を必ず携帯し, 提示してください。

(b) 試験当日, 万一学生証を携帯しなかった場合は, 学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効, 図書館入館も可)の交付を受けてください。なお, 仮学生証の発行には, 手数料 500 円が必要となります。

(c) 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。

(d) 仮学生証の発行手続により, 試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また追加試験の対象とはなりません。

#### b 禁止事項

(a) 2 時限以降は, 前時限の監督者が退室しない限り, 試験場へ入室できません。

(b) 試験場(教室)を間違えないようにしてください。履修していない科目の試験場へは立ち入らないでください。

(c) 答案は必ず提出しなければなりません。未提出の場合, 不正行為と判断され, 処分の対象とされます。

#### c 定期試験の実施時間

(a) 定期試験の振鈴は授業時の振鈴とは異なります。「三田キャンパスガイド」の項を参照してください。また, 定期試験の振鈴は日吉キャンパスと三田キャンパスで異なりますので注意してください。

(b) 三田キャンパスの追加試験の振鈴は定期試験の振鈴とは異なります。

#### d 遅刻

(a) 試験開始後 20 分までの遅刻の場合は, 試験を受験することができます(試験時間の延長はありません)。ただし, 遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合, 当該試験をそのまま受験するのか, あるいは追加試験の申請をするのかは, 本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので, 必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。

#### e 退室

(a) 試験開始後 20 分間および試験終了前 10 分間は退室を認めません。また, 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は, 追加試験の対象とはなりません。

#### f その他

(a) 試験時間割発表時に掲示する注意事項, 持ち込み等は, その都度掲示しますので注意してください。

(b) 答案用紙の担当者および科目名ならびに氏名・学籍番号の記入事項は, すべて略さず正確に記入してください。記入がない場合は成績はつきません。

定期試験時間割重複の取扱いについて

a 所属キャンパスで時間割が重複した場合, 所属キャンパスの学事センターで手続が必要です。

(a) 時間割確認後すぐに学事センターへ申し出てください。

(b) 期日に遅れると受験できません(申し込み期間は掲示します)。

(c) 受験料は不要です。

b 他キャンパスの試験と重複した場合は, いずれかの学事センター窓口で確認してください。

(a) 三田と日吉の試験が重複した場合は, その旨申し出てください。また, 矢上, 藤沢の各設置科目を追加試験とする場合は, 各地区に早急に確認してください。

### (2) 平常試験

随時授業時間内に行われます。

### (3) 追加試験

追加試験は, 履修申告を行った授業科目で, 病気その他「やむを得ない理由」のため定期試験を受けられなかった授業科目について施行します(受験料=1科目につき2,000円)。ただし, 語学, 演習科目, その他定期試験

を行わず、レポート等により評価の定まる科目、定期試験期間以外で試験を行う科目は追加試験を行いません。

受験を希望する者は、追加試験申込用紙（用紙は学事センターで交付）に、その理由を明らかにする診断書等の文書を添えて、指定する期日までに学事センター窓口で申し込んでください。詳細は定期試験時間割発表時に掲示します。

追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となります。ただし、国家試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、二親等以内の葬儀があり会葬状など事実を客観的に証明する書類を用意した場合はこの限りではありません。

#### (4) 試験時間の重複により定期試験を受験できなかった授業科目の試験

三田と日吉の試験時間が重複したために受験できなかった授業科目の試験は、追加試験期間中に行います。この場合の受験は、追加試験扱いではなく、定期試験扱い（一段階下の評語にはなりません）となります。この場合の受験も、追加試験申込用紙を用い、追加試験受験の場合と同じ手続きで申し込んでください（受験料不要）。

## 2 試験における不正行為

定期試験（レポートも含む）において不正行為（答案の持ち帰りも不正行為です）があった場合は、当該科目を不合格とし、当該学期（法律学科の2004年度以前入学者および2007年度以前学士入学者は当該年度）に履修合格した他の全科目について減点します。追加試験の場合も同様です。なお、事情によっては退学・停学の処分も行われるので厳正な態度をもって受験してください。

## 3 レポート

### (1) レポートを三田学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。

一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、レポートに添付して提出してください（2枚とも）。レポート提出用紙は三田学事センターにあります。

学事センターレポートボックス受付時間

	受付曜日	受付時間
三田地区	火・水曜日、木・金曜日	8:45～16:45

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。  
授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

	授業・定期試験のある時	授業のない時（夏・冬・春季休業中）
日吉地区	月～金曜日 8:45～16:45	月～金曜日 8:45～11:30, 12:30～16:45

授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

### レポート・論文の執筆上の注意

レポートや論文の執筆・提出は、定期試験、教場試験と並んで大学での勉学の成果の証となる重要なものです。ところがレポートや論文の書き方のルールを守らないため、不合格になったり、場合によっては不正行為と判定されて処分の対象となったりすることもあります。そこで執筆上の最も重要なポイントを挙げておきます。

1. 自分の意見とそれ以外の部分を明確に分ける。
2. 他人の意見などを引用する場合は必ず出典を挙げる。
3. 文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
4. 出典の示し方はルールに従う。（下記の文献参照）
5. インターネットからの引用は URL とその取得日を載せる。

これらのルールを守らない場合、剽窃、盗作と判定され、定期試験での不正行為と同様の扱いで処分が行われることがあるので、レポートや論文の執筆にあたっては十分に注意してください。

以下のうち最低1点に目を通しておくことを勧めます。出典の示し方の一般的な方法については、これらの参考書で学んでください。

佐藤望、湯川武、横山千晶、近藤明彦著『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門』（慶應義塾出版会、2006年）

木下是雄著『理科系の作文技術』（中公新書、1981年）

[本書は理科系、文科系を問わず必読]

木下是雄著『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994年）

澤田昭夫著『論文の書き方』（講談社学術文庫、1977年）

澤田昭夫著『論文のレトリック』（講談社学術文庫、1983年）

野口悠紀雄著『「超」文章法』（中公新書、2002年）

# 第7 学生総合センター

## 1 窓口案内

- (1) **学生生活支援**  
課外活動，課外教養，奨学金，学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。
- (2) **就職・進路支援**  
就職・進路相談，OB・OG 情報，就職ガイダンス，求人情報等に関することを取り扱っています。
- (3) **学生相談室**  
さまざまな悩みや相談を受け付けています。

## 2 学生生活支援

### (1) 教室等の使用申請

- 対 象 ..... 公認学生団体の会合  
使用可能期間 ..... 授業期間中のみ使用可能。  
ただし，日・祝日・大学が定めた休日，定期試験期間中・休業期間中は不可。  
使用可能時間 ..... 月～金曜日 9:00～20:00  
土曜日 9:00～18:00  
音楽団体指定時間  
月～金曜日 18:10～20:10  
土曜日 13:00～18:00  
手 続 ..... 「学内集会届」を学生総合センター受付窓口に提出  
「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。  
申 込 期 日 ..... 使用希望日の2週間前から事務室開室日換算の3日前まで  
備 考 ..... 教室以外に使用できるスペースとして，「学生談話室 A・B」と「音楽練習室」があります。  
研究会で使用する場合には「第5 履修・授業・成績」の項を参照してください。

### (2) 学生食堂の使用申請

- 対 象 ..... 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー  
使用可能期間 ..... 日曜・祝日以外  
手 続 ..... 予約後2週間以内に，窓口に「学内集会届」を提出して正式申込をしてください。  
備 考 ..... 「学内集会届」が提出されなかった場合，予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に，当該食堂に直接相談をしてください。

### (3) 学外行事の届出，団体割引の届出

- 対 象 ..... 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿，コンサート，懇親会  
手 続 ..... 窓口に「学外行事届」を提出  
申 込 期 日 ..... 行事の4日前（土・日・祝日を除く）まで  
備 考 ..... 受理されると傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。また，団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

### (4) 備品借用の申請

- 対 象 ..... 公認学生団体の備品借用 [例] ステッカー，ワイヤレスマイク，塾旗，水差，椅子，机等  
手 続 ..... 窓口に「借用書」を提出  
申 込 期 日 ..... 借用希望日の4日前（土・日・祝日を除く）まで

### (5) 郵便物の取扱い

- 対 象 ..... 外部から送付される公認学生団体宛の郵便物  
取 扱 い ..... 学生総合センター内のメールボックスに区分けしてあります。責任者が定期的に取りに来てください。  
備 考 ..... 個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

### (6) 組織届

- 対 象 ..... クラブ，サークル等を新設し，公認学生団体の認定を希望する組織  
手 続 ..... 窓口に「組織届」を提出

### (7) 掲示・チラシ配布の申請

- 対 象 ..... ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布  
手 続 ..... 窓口に「届出書」を提出  
申 込 期 日 ..... 行事の4日前（土・日・祝日を除く）まで

### (8) 伝言板および「DENGON」

- 対 象 ..... 塾生間の連絡用  
手 続 ..... 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入  
備 考 ..... A4 用紙 1 枚のみ掲示可能

### (9) 車輛入構の申請

塾生の車輛入構は認められていません。やむを得ず車輛入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手続 …… 窓口に「届出書」を提出

申込期日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

### (10) 大学生生活懇談会

講演会や見学会をはじめ、スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページを参照してください。

### (11) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。また、ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

## 3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター(総合窓口)にて保管します(学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます)。

## 4 奨学金

### (1) 奨学金案内

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

### (2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。

慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。年2回出願受付を行います。

慶應義塾維持会奨学金〔給付〕

募集は4月に行います。

指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と、第二種(有利子)があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。

### (3) 奨学融資制度(利子給付奨学金制度付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

## 5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

## 6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できるところです。

相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

## 7 学生健康保険互助組合

- (1) 保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

慶應病院で受診した場合... 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月 20 日に、入院は翌々月 20 日に給付金が振り込まれます。

一般病院で受診した場合... 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で 1 か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の 3 点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4 か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月 20 日です。

- (2) 組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。
- (3) その他、入学時に配布した「健保の手引き」でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。「健保の手引き」は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

## 8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

### (1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

### (2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

### (3) (1) 以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

### (4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

## 9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の 2 種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

### (1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）TEL 03 3453 3846

### (2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045 563 8489

## 定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年 1 回実施しています。学則第 179 条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことがない方、あるいはワクチンを 1 回接種し 10 年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。



# 法律学科 学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

入学年度によってカリキュラムが異なります。異なる部分については必ず分けて記載していますので間違いのないように十分注意してください。

## 第1 カリキュラム改正に伴う履修上の移行措置について

### 1 通年制と旧カリキュラムの廃止について

法律学科では、2005年度からセメスター制を導入し、2007年度から新カリキュラム（分野と卒業に必要な単位数の見直しを行い、「系列」による区分を廃止し、導入科目・基幹科目・展開科目という3区分を設置、卒業に必要な単位数は144単位から136単位に変更）を導入しました。

2009年度から法律学科3・4年生の大多数がセメスター制、約半数が新カリキュラム適用者となることに伴い、法律学科設置の通年科目（研究会を除く）が全て廃止され、半期科目のみ開講されることとなり、通年制の学生（2004年度以前入学者・2007年度以前学士入学者）も半期科目を履修できるようになりました。ただし、科目名が「          」「          」、「           A」「           B」となっている科目については、          、A・Bの両方を履修しなければなりません。

また、今年度は旧カリキュラムの科目と新カリキュラムの科目の両方が開講されますが、2010年度以降は旧カリキュラムの科目が全て開講されなくなります。したがって、旧カリキュラムにしかない科目の履修を考えている学生は、今年度中に履修するようにしてください。

旧カリキュラム適用者は2010年度以降、新カリキュラムの科目を履修することになり、新カリキュラムの科目が旧カリキュラムのどの系列に該当するかといった分野の読み替えを行います。卒業に必要な単位数は変わりません。

この移行措置は以下の表のとおり実施されます。

	2008年度(昨年度)	2009年度	2010年度(予定)
2004年度以前入学者 2007年度以前学士入学者	・通年制 ・旧カリ科目履修	・通年制 ・旧カリ科目履修	・通年制 ・新カリ科目履修
2005・2006年度入学者 2008年度学士入学者	・セメスター制 ・旧カリ科目履修	・セメスター制 ・旧カリ科目履修	・セメスター制 ・新カリ科目履修
2007年度以降入学者 2009年度学士入学者	・セメスター制 ・新カリ科目履修	・セメスター制 ・新カリ科目履修	・セメスター制 ・新カリ科目履修

旧カリ科目履修...旧カリキュラムの科目を履修

新カリ科目履修...新カリキュラムの科目を履修

### 2 C無効の廃止について

2008年度までは、法律学科の学生にはC無効のルール（下記参照）が適用されていましたが、2009年度からC無効のルールは廃止となりました。

#### 2009年度から廃止となったC無効のルール

「第3学年において進級不合格となった場合、取得済みと認められる単位は、A・Bの評語を得た授業科目に限られます。ただし、外国語科目必修、体育科目、法律学科必修、自由科目、分野11-30-01の教職課程教科に関する科目はCの評語を得た授業科目も取得済みと認めます。」

下線のついてる科目は今年度開講されません。

科目名の前に\*のついてる科目は、新カリキュラムの科目ですが、旧カリキュラムの学生も履修できます。

科目名の前に\*\*のついてる科目は、旧カリキュラムの科目ですが、新カリキュラムの学生も履修できます。

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
			三田	英語第 (1)
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1)
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)
	01-10-16	必修 イタリア語(初級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)
	01-10-66	必修 イタリア語(中級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-20-01	選択 英語	日吉	英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
			三田	英語インテンシブ(1) 英語第 (1)
	01-20-02	選択 ドイツ語	日吉	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
			三田	ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)
	01-20-03	選択 フランス語	日吉	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
			三田	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-20-04	選択 中国語	日吉	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
			三田	中国語インテンシブ(1)
	01-20-05	選択 スペイン語	日吉	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
			三田	スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-20-06	選択 ロシア語	日吉	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)
			三田	ロシア語インテンシブ(1)
	01-20-10	選択 朝鮮語	日吉	朝鮮語(1)
			三田	朝鮮語第 (1)
01-20-11	選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)	
		三田	ラテン語(中級)(1)	
01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)	
01-20-14	選択 ポルトガル語	日吉	ポルトガル語(1)	
		三田	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)	
01-20-15	選択 アラビア語	日吉	アラビア語(1)	
01-20-16	選択 イタリア語	日吉	イタリア語(1)	
		三田	イタリア語第 (1)	
人文科学科目	02-20-01	選択	日吉	言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 文学(4) 文学 (2) 文学 (2) 歴史 (2) 歴史 (2) 歴史(4) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 論理学(4) 論理学 (2) 論理学 (2) 倫理学(4) 倫理学 (2) 倫理学 (2) 宗教学(4) 宗教学 (2) 宗教学 (2) 哲学(4) 哲学 (2) 哲学 (2) 音楽(4) 音楽 (2) 音楽 (2) 漢文(2) 美術(4) 美術 (2) 美術 (2) 人文科学特論 (2) 人文科学特論 (2) 人文総合講座 (2) 人文総合講座 (2)
			三田	人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2)
自然科学科目	03-20-01	選択	日吉	物理学 (実験を含む)(3) 物理学 (実験を含む)(3) 化学 (実験を含む)(3) 化学 (実験を含む)(3) 生物学 (実験を含む)(3) 生物学 (実験を含む)(3) 基礎数学 (2) 基礎数学 (2) 心理学 (2) 心理学 (2) 基礎統計学 (2) 基礎統計学 (2) 自然科学特論(2) 自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)
			三田	自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2) 実践自然科学(2)
数学・統計・情報処理科目	04-20-11	選択 数学系列 自然科学科目として算入できます	日吉	数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
			三田	数学概論 (2) 数学概論 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)

数学・統計・ 情報処理科目	04-20-12 選択 統計系列 自然科学科目として算入できます	日吉 三田	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
	04-20-13 選択 情報処理系列	日吉 三田	情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2)
社会科学科目	05-10-01 必修	日吉	法学 (憲法を含む)(2) 法学 (憲法を含む)(2)
	05-11-01 選択必修	日吉	社会学(4) 社会学 (2) 社会学 (2) 地理学(4) 地理学 (2) 地理学 (2) 経済学(4) 経済学 (2) 経済学 (2) 政治学(4) 政治学 (2) 政治学 (2) 近代思想史(4) 近代思想史 (2) 近代思想史 (2)
2006 年度以前入学者・ 2008 年度以前学士入学者	06-10-01 必修 憲法	日吉	憲法 A(2) 憲法 B(2)
	06-10-02 必修 民法	日吉	民法 A(2) 民法 B(2)
	06-10-03 必修 刑法	日吉	刑法 A(2) 刑法 B(2)
	06-20-01 選択 A系列	日吉	憲法 A(2) 憲法 B(2)
		三田	法理学 (2) 法理学 (2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) 外国法 (英米)(2) 外国法 (英米)(2) 外国法 (独)(2) 外国法 (独)(2) 外国法 (仏)(2) 外国法 (仏)(2) 外国法 (中)(2) 外国法 (中)(2) 外国法 (EU)(2) 外国法 (EU)(2) 外国法 (ラテンアメリカ)(2) 外国法 (ラテンアメリカ)(2)
	06-20-02 選択 B系列	日吉	民法 A(2) 民法 B(2) 民法 A(2) 民法 B(2)
		三田	民法 A(2) 民法 B(2) 民法 A(2) 民法 B(2)
	06-20-03 選択 C系列	日吉	刑法 A(2) 刑法 B(2)
		三田	刑法 A(2) 刑法 B(2) 刑事訴訟法 (2) 刑事訴訟法 (2) 刑事政策 (2) 刑事政策 (2)
	06-20-04 選択 D系列	三田	商法 A(2) 商法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 民事訴訟法 A(2) 民事訴訟法 B(2)
	06-20-05 選択 E系列	三田	行政法 A(2) 行政法 B(2) 行政法 A(2) 行政法 B(2) 労働法 (2) 労働法 (2) 経済法 (2) 経済法 (2)
	06-20-06 選択 F系列	日吉	民法演習 A(2) 民法演習 B(2) 民法演習 A(2) 民法演習 B(2)
		三田	研究会(4) 憲法演習(2) 民法演習(2) 刑法演習(2) 刑事学演習(2) 商法演習(2) 行政法演習(2) 知的財産法演習(2) 国際私法演習(2) 刑事訴訟法演習(2) 民事訴訟法演習(2) 破産法演習(2) 刑事政策演習(2) 医事法演習(2) 外国法演習(英米)(2) 外国法演習(独)(2) 外国法演習(仏)(2) 外国法演習(EU)(2) 外国法演習(ラテンアメリカ)(2) 国際法演習(2) 社会法演習(2) 法思想史演習(2) 法制史演習(2) 環境法演習(2) 刑事法演習(2) 国際民事訴訟法演習(2)
06-20-07 選択 系列外	日吉	法学情報処理(2) 団体法(2) 法制史 (基礎)(2) 法制史 (基礎)(2)	
	三田	行政法 A(2) 行政法 B(2) 行政法 A(2) 行政法 B(2) 国際法 A(2) 国際法 B(2) *国際武力紛争法(2) 担保法 (2) 担保法 (2) 商法 A(2) 商法 B(2) *会社法 (2) 民事訴訟法 A(2) 民事訴訟法 B(2) 破産法 (2) 破産法 (2) 国際私法 (2) 国際私法 (2) 国際取引法 (2) *外国法(韓国)(2) 航空法(2) 宇宙法(2) 犯罪学 (2) 犯罪学 (2) 被害者学 (2) 被害者学 (2) *国際刑事法(2) 法制史 (日本)(2) 法制史 (日本)(2) 法制史 (東洋)(2) 法制史 (東洋)(2) 法制史 (西洋)(2) 法制史 (西洋)(2) *ローマ法(2) 法医学 (2) 法医学 (2) 団体法(2) 租税法 (2) 租税法 (2) *資産税法(2) *租税法総論(2) 国際租税法 (2) 国際租税法 (2) 海洋法 (2) 海洋法 (2) 医事法 (2) 医事法 (2) 信託法 (2) 信託法 (2) 知的財産権法 (2) 知的財産権法 (2) 知的財産法 (2) 知的財産法 (2) 裁判法 (2) 裁判法 (2) 社会保障法 (2) 社会保障法 (2) 法とコンピュータ (2) 法とコンピュータ (2) 環境法 (2) 環境法 (2) 金融商品取引法 (2) 金融商品取引法 (2) 政策と法 (2) 政策と法 (2) 法と経済(2) 法思想史 (2) 法思想史 (2) 国際宇宙法(2) 国際環境法(2) 国際経済法(2) 比較競争法(2) 政治学 (2) 政治学 (2) 社会学 (2) 社会学 (2) 法社会学 (2) 法社会学 (2) 経済政策 (2) 経済政策 (2) 経済原論 (2) 経済原論 (2) 財政論 (2) 財政論 (2) 金融論 (2) 金融論 (2) 会計学 (2) 会計学 (2) 経営学 (2) 経営学 (2) 他学部等の専門的授業科目	
2007 年度以降入学者・ 2009 年度学士入学者	06-20-01 基幹科目	三田	会社法 (2) 会社法 (2) 会社法 (2) 有価証券法 (2) 有価証券法 (2) 民事訴訟法 (2) 民事訴訟法 (2) 民事訴訟法 (2) 刑事訴訟法 (2) 刑事訴訟法 (2) 行政法総論 (2) 行政法総論 (2) 行政救済法 (2) 労働法 (2) 経済法 (2) 民法 (債権総論) (2) 民法 (債権総論) (2) 国際法 (2) 国際私法 (2)
	06-30-01 展開科目	三田	法制史 日本 (2) 法制史 東洋 (2) 法制史 西洋 (2) ローマ法(2) 法社会学(2) 法理学(2) * *法理学 (2) 法思想史(2) 法文化論(2) 行政救済法 (2) 行政組織法 (2) 行政組織法 (2) 行政作用法各論 (2) 行政作用法各論 (2) 所得税法(2) 企業税法(2) 資産税法(2) 租税法総論(2) 国際租税法 (2) 国際租税法 (2) 労働法 (2) 経済法 (2) 比較競争法(2) 国際経済法(2) 社会保障法 (2) 社会保障法 (2) 刑事政策 犯罪者処遇論 (2) 刑事政策 刑事制裁論 (2) 被害者学 基礎理論 (2) 被害者学 犯罪被害者支援論 (2) 国際刑事法(2) 法医学(2) * *法医学 (2) 民法 家族法 (2) 民法 家族法 (2) 担保法 (2) 担保法 (2) 団体法(2) 企業法総論(2) 企業取引法(2) 保険法 (2) 保険法 (2) 金融商品取引法(2) * *政策と法 (2) * *政策と法 (2) * *法と経済(2) 倒産法 (2) 倒産法 (2) 民事執行法(2) 裁判法(2) 国際民事手続法(2) 国際法 (2) 国際武力紛争法(2) 国際海洋法(2) * *国際環境法(2) 国際宇宙法(2) 国際私法 (2) 国際取引法(2) 外国法 英米 (2) 外国法 英米 (2) 外国法 独 (2) 外国法 独 (2) 外国法 仏 (2) 外国法 仏 (2) 外国法 EU (2) 外国法 アジア (2) 外国法 韓国 (2) 外国法 ラテンアメリカ (2) 外国法 中 (2) 知的財産法 (2) 知的財産法 (2) 環境法 (2) 環境法 (2) 医事法 (2) 医事法 (2) 政治学 (2) 政治学 (2) 社会学 (2) 社会学 (2) 経済政策 (2) 経済政策 (2) 経済原論 (2) 経済原論 (2) 財政論 (2) 財政論 (2) 金融論 (2) 金融論 (2) 会計学 (2) 会計学 (2) 経営学 (2) 経営学 (2) 他学科・他学部等の専門的授業科目

法律 学 科 目		06-30-02 展開科目 (研究会・演習)	三田	研究会(2+2) 憲法演習(2) 民法演習(2) 刑法演習(2) 商法演習(2) 行政法演習(2) 国際私法演習(2) 刑事訴訟法演習(2) 民事訴訟演習(2) 倒産法演習(2) 刑事政策演習(2) 外国法演習(2) 国際法演習(2) 社会法演習(2) 法制史演習(2) 法思想史演習(2) 知的財産法演習(2) 環境法演習(2) ** 医事法演習(2)
体 育 科 目	08-20-01	選択 講義系	日吉	体育学講義(2) 体育学演習(1)
	08-20-02	選択 実技系	日吉	体育実技A(1) 体育実技B(1)
			三田	体育実技A(1)
自主選択 科目	09-20-01	選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由 科目	10-30-01	自由		進級および卒業要件とならない科目
	11-30-01	自由		教職課程センター設置科目

## 1 卒業までに必要な単位

## 2006年度以前入学者用

※この表は <http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html> からダウンロードできます。毎年、本人の計算違いによる卒業単位不足で、卒業不合格となる学生が出ています。そのようなことのないように必ずこの確認表と学期末に送付される「**学業成績表(緑色)**」(成績証明書(青)ではなく)により、各自の責任において卒業に必要な単位を確認してください。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位	
外国語科目(必修)		01-10-01~ 01-10-66	16		
外国語科目(選択)		01-20-01~ 01-20-16			
人文科学科目		02-20-01	8以上		
自然科学科目		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8以上		※数学・統計科目は自然科学科目に含まれます。
情報処理科目		04-20-13			
社会科学科目	必修	法学Ⅰ・Ⅱ(憲法を含む)	05-10-01	4	※2004年度以前入学者で2008年度までに取得した場合は「法学(憲法を含む)」「社会学」「地理学」「経済学」「政治学」「近代思想史」
	選択必修	社会学Ⅰ・Ⅱ、 地理学Ⅰ・Ⅱ、 経済学Ⅰ・Ⅱ、 政治学Ⅰ・Ⅱ、 近代思想史Ⅰ・Ⅱ	05-11-01	4以上	
法律学科目	必修科目	憲法ⅠA・B ※2004年度以前入学者は「憲法Ⅰ」	06-10-01	4	法律学科目合計  06-10-01 5 06-20-07  計( )単位  *88単位以上必要
		民法ⅠA・B ※2004年度以前入学者は「民法Ⅰ」	06-10-02	4	
		刑法ⅠA・B ※2004年度以前入学者は「刑法Ⅰ」	06-10-03	4	
	系列科目	A系列	06-20-01	8以上	
		B系列	06-20-02	8以上	
		C系列	06-20-03	8以上	
		D系列	06-20-04	8以上	
E系列	06-20-05	8以上			
F系列	06-20-06	8以上			
系列外科目	06-20-07				
体育科目		08-20-01 08-20-02			
自主選択科目		09-20-01			
総単位		01-10-01~ 09-20-01	144以上		

※1 前学期までに取得した単位数は学期末に送付された**学業成績表(緑色)**で確認してください。

※2 自由科目(分野:10-30-01と11-30-01)は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

## 2008年度以前学士入学者用

分野名	分野番号	内容等
法律学科目	必修科目	06-10-01~ 06-10-03 憲法 A, 憲法 B, 民法 A, 民法 B, 刑法 A, 刑法 B 6科目 12単位 2007年度以前学士入学者で2008年度までに取得した場合は、憲法, 民法, 刑法
	系列科目	06-20-01~ 06-20-06 A~Fの6系列それぞれ8単位, 合計48単位
		06-20-01~ 06-20-07 A~Fの6系列および系列外科目から合計28単位
合計		88単位以上

## 2007年度以降入学者用

毎年、本人の計算違いによる卒業単位不足で、卒業不合格となる学生が出ています。そのようなことのないように必ずこの確認表と学期末に送付される「**学業成績表（緑色）**」（成績証明書（青）ではなく）により、各自の責任において卒業に必要な単位を確認してください。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位	
外国語科目（必修）		01-10-01～ 01-10-66	16		
外国語科目（選択）		01-20-01～ 01-20-16	/		
人文科学科目		02-20-01	8以上		
自然科学科目 *数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8以上		
情報処理科目		04-20-13	/		
社会科学科目	必修	法学Ⅰ・Ⅱ（憲法を含む）	05-10-01	4	
	選択必修	社会学Ⅰ・Ⅱ、 地理学Ⅰ・Ⅱ、 経済学Ⅰ・Ⅱ、 政治学Ⅰ・Ⅱ、 近代思想史Ⅰ・Ⅱ	05-11-01	4以上	
法律学科目	導入科目	必修	憲法（総論・人権）Ⅰ・Ⅱ、 民法（総論）Ⅰ・Ⅱ、 刑法（総論）Ⅰ・Ⅱ	06-10-01	12
		選択必修	法の基礎、国際化と法、 法制史概論Ⅰ・Ⅱ、 法学情報処理	06-10-02	2以上
	基幹科目		06-20-01	30以上	
	展開科目		06-30-01	36以上	
	展開科目（研究会・演習）		06-30-02	8以上	
体育科目		08-20-01 08-20-02	/		
自主選択科目		09-20-01	/		
総単位		01-10-01 ～ 09-20-01	136以上		

※1 前学期までに取得した単位数は学期末に送付された**学業成績表（緑色）**で確認してください。

※2 自由科目(分野：10-30-01と11-30-01)は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

## 2009年度学士入学者用

分野名		分野番号	内容等
法律学科目	導入科目	必修	06-10-01 憲法(総論・人権)・, 民法(総論)・, 刑法(総論)・ 6科目12単位
		選択必修	06-10-02 法の基礎, 国際化と法, 法制史概論・, 法学情報処理の中から1科目2単位以上
	基幹科目		06-20-01 30単位以上
	展開科目		06-30-01 36単位以上
	展開科目(研究会・演習)		06-30-02 8単位以上
合計			88単位以上

## 2 進級に必要な単位

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除き自主選択科目を含む)から、30単位以上取得することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種(英語を除く)につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取得し終わることができませんので、第4学年に進級することはできません。

学士入学者の場合、第3学年において履修する授業科目(自由科目を除く)から、30単位以上取得することが必要です。この中には、認定科目は含まれません。

## 3 復活制度について

原級などによる理由のため同一学年で3学期以上在学する学生が対象です。進級した場合、進級直後の学期において進級に必要な単位(卒業要件)を満たすことができれば半期で進級(卒業)できるという制度です。

(例)2008年度1年間2年生に在学し、28単位しか取得できず原級になったとします。この場合、次の春学期(2009年度)で2単位以上取得できれば進級に必要な30単位を満たすため、9月に3年生に進級することができます。さらに秋学期(2009年度)において30単位取得できれば2010年4月に4年生になることができます。

また、進級直後の学期(この場合は2009年度秋学期)に限り、前学年で取得した単位数のうち30単位を超える分を進級に必要な単位として繰り越すことができます。この場合は2009年度春学期に20単位取得すれば2年生(3学期間)で48単位取得したことになり、次の学期に限り進級単位として18単位分を繰り越すことができます。ただし、進級直後の学期において原級の場合、繰り越した分の単位は進級単位には含まれなくなります。詳細については学事センター法学部窓口で確認してください。

## 4 自主留年制度について

4年生が卒業単位を満たしたうえで、さらに翌年度の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに研究会担当者に承認印をもらい、本人・保証人連署の誓約書を添えて願い出なければなりません。研究会に所属していない場合は学習指導との面接が必要です。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

在学を許可された年度は、1年間在学しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

在学を許可された年度には、自由科目を除き法律学科目(必修を除く)を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないことになります。

なお、9月卒業予定者のみ、半年間の自主留年を認めることがあります。日程は5月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

# 第4 履修ルールについて

### 履修上限

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ48単位とし、自由科目を含めて、56単位までとします。ただし、教職課程教科に関する科目に履修の上限はありません。

### 再履修する場合

- 「法学(憲法を含む)」:日吉において履修してください。再履修にあたって**クラス指定はありません。**
- 「憲法(総論・人権)・(憲法A・B)」「民法(総論)・(民法A・B)」「刑法(総論)・(刑法A・B)」:日吉において履修してください。再履修にあたって**クラス指定はありません。**
- 前年度までに取得した授業科目はたとえ担当者が変わった場合でも履修することはできません。ただし、人文科学研究会、F系列・展開科目の演習科目、体育実技科目、および不合格となった授業科目の履修についてはこの限りではありません。また、A系列の「外国法(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)・(ラテンアメリカ)それぞれを別科目として履修することができますが、4単位を超える場合は系列外科目となります。

### 集中講義(2時限連続授業)を履修する場合

集中講義(商法A・B, 商法A・B, 会社法, 有価証券法等)は一週2時限ずつ履修しなければなりません。

### 履修上の注意点

科目の分野ごとに履修上の注意点があります。以下の表を熟読のうえ履修申告をしてください。不明な点は、履修申告期間終了前までに学事センター法学部係に問い合わせてください。

外国語科目																
必修外国語科目の再履修について	<p>外国語科目必修で取得すべき16単位を満たしていない場合は、日吉において再履修してください。なお、一部の科目ではWebエントリーによる抽選を行います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>抽選する外国語科目</th> <th>Webエントリー期間</th> <th>抽選結果発表日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語第(A群)(B群)</td> <td>4月2日(木)10:00～6日(月)10:00</td> <td>4月8日(水)8:45</td> </tr> <tr> <td>ドイツ語第</td> <td>4月8日(水)10:00～9日(木)13:00</td> <td>4月11日(土)8:45</td> </tr> <tr> <td>フランス語第</td> <td>4月8日(水)10:00～9日(木)13:00</td> <td>4月11日(土)8:45</td> </tr> <tr> <td>スペイン語第(A群)(B群)</td> <td>4月8日(水)10:00～9日(木)13:00</td> <td>4月11日(土)8:45</td> </tr> </tbody> </table> <p>Webエントリー: <a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html</a>            結果発表HP: <a href="http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/index.html">http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/index.html</a> (日吉J11番教室前掲示板でも発表します。)</p>	抽選する外国語科目	Webエントリー期間	抽選結果発表日	英語第(A群)(B群)	4月2日(木)10:00～6日(月)10:00	4月8日(水)8:45	ドイツ語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45	フランス語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45	スペイン語第(A群)(B群)	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45
抽選する外国語科目	Webエントリー期間	抽選結果発表日														
英語第(A群)(B群)	4月2日(木)10:00～6日(月)10:00	4月8日(水)8:45														
ドイツ語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45														
フランス語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45														
スペイン語第(A群)(B群)	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45														

外国語科目	
三田設置の外国語履修について (他学部諸研究所設置の外国語履修について p.31 参照)	三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。授業内容については講義要綱・シラバスの共通部分を参照してください。 それぞれの語学のインテンシブコースは1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目(卒業に必要な単位に含まれない科目)となりますので注意してください。詳細については掲示します。
ドイツ語	「ドイツ語インテンシブ」 有機的に関連する週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月3日(金)8時45分から三田512番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する場合は担当者(三瓶)に相談してください。 「ドイツ語速習」 初級、中級各1コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。原則として春と秋を両方履修してください。
フランス語	「フランス語インテンシブ」 8コマの授業のうち4つないし3つ(春・秋とも)を選択して履修してください。第3学年で2つないし1つしか履修しない場合、第4学年であらためて4つないし3つ履修しないと「インテンシブ修了」と認められません。セット履修が難しい場合はフランス語担当の学習指導(今年度は笠井裕之)に相談してください。 「フランス語第」 日吉のレギュラー・コースで学んだ諸君がフランス語の学習を継続するための授業です。積極的に参加してください。
中国語	「中国語インテンシブ」 週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は学習指導(安田)に相談してください。週1回の中・上級に相当する授業としては政治学科の「文献講読」「文献講読」が設置されています。
スペイン語	「スペイン語インテンシブ」 週6回の授業で、6コマのうち3つ以上を選択して履修してください。日吉からの連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。
ロシア語	「ロシア語インテンシブ」 週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読」「文献講読」に参加してください。

人文・自然科学科目	
人文科学研究会	「人文科学研究会」を履修するには、日吉においてすでに人文科学科目を8単位以上取得済みであることが必要です。2年連続で同じ担当者の研究会を履修する場合、原則として第3学年で「人文科学研究会Ⅰ,Ⅱ」、第4学年で「人文科学研究会Ⅲ,Ⅳ」として履修してください。また、担当者が異なれば、同一科目名(同一のローマ数字)であっても、2年連続で人文科学科目として履修することができます。ただし研究会という科目の性質上、履修者数を制限したり、科目担当者による選抜が行われることがあります。
自然科学研究会	「自然科学研究会Ⅲ,Ⅳ」を履修するには、日吉においてすでに自然科学科目を8単位以上取得済みであることが望ましい。「自然科学研究会Ⅲ,Ⅳ」を自然科学科目として履修できるのは原則として一度のみですが、副専攻として同一担当者の研究会を履修する場合に限り、2年連続で自然科学科目として履修することができます。ただし研究会という科目の性質上、履修者数を制限したり、科目担当者による選抜が行われることがあります。
数学・統計・情報処理科目	数学・統計・情報処理科目のうち、「数学系列」(分野番号 04-20-11)および「統計系列」(分野番号 04-20-12)については、卒業に必要な単位を計算するうえで自然科学科目の単位として算入できます。なお、「情報処理系列」(分野番号 04-20-13)は自然科学科目の単位に算入することはできません。

法律学科目		
	入学年度によって、履修できる科目名や算入される分野が異なりますので注意してください。	
【2006年度以前入学者・2008年度以前学士入学者】	外国法	A系列の「外国法」「外国法」を履修する際、(英米)・(独)・(仏)・(中)・(EU)・(ラテンアメリカ)についてはそれぞれ別科目として履修することができますが、A系列として履修できるのは4単位までです。4単位を超える場合は『系列外科目』として履修することになります。時間割にはA系列として履修する場合の登録番号と系列外科目として履修する場合の登録番号の2種類が記載されています。
	商法	D系列の「商法 A・B」「商法 A・B」を履修する場合は、3年生・4年生ともに指定されたクラスで原則として「A・B」両方履修してください。
	演習科目	F系列の演習科目は同一科目名であっても担当者が異なる場合には履修することができます。 (例) 憲法演習(春) 担当者A君 / 憲法演習(春) 担当者B君 担当者が異なるため 憲法演習(春) 担当者A君 / 憲法演習(秋) 担当者A君 学期が異なるため x 憲法演習(春) 担当者A君 / 憲法演習(春) 担当者A君 同一学期、同一担当者のため x
	研究会	研究会は3・4年生を通じて履修しなければなりません。 F系列の法律学科の研究会の単位は学期ごとではなく、年度ごとに認定されます。第3学年で4単位の研究会、第4学年4単位の研究会というかたちで年度ごとに成績が与えられる科目となっています。秋学期に第3学年に進級する場合は取扱いが異なるので、必ず学事センター法学部窓口まで申し出てください。法律学科以外の研究会については次項を参照してください。
	他学部・他学科の研究会	法律学科以外の研究会は、系列外科目の『他学科・他学部等の専門的授業科目の一つ』として位置付けられます。2008年度までは、法律学科以外の研究会を履修する場合、1科目2単位までをF系列として履修することができ、残りの研究会の単位は「自由科目」として履修しなければなりませんでした。2009年度より単位の取扱いが変わり、2科目目以降も系列外科目として履修できるようになりました。
【2007年度以降入学者・2009年度学士入学者】	他学部・他学科の専門科目	政治学科や他学部の専門科目を法律学科目の系列外として履修できることがあります。詳しくは次項の「他学部・他学部・他キャンパス・諸研究所設置科目の履修方法」p.31を参照してください。
	研究会	研究会は3・4年生を通じて履修しなければなりません。 法律学科の研究会の単位は学期ごとに認定されます。
	他学部・他学科の研究会	法律学科以外の研究会は、法律学科の研究会と取扱いが異なるので注意してください。法律学科以外の研究会は、展開科目『他学部・他学部等の専門的授業科目』の一つとして位置付けられます。卒業までに取得しなければならない展開科目の44単位には含めることができますが、展開科目(研究会・演習科目)の8単位には含まれません。
他学部・他学科の専門科目	政治学科や他学部の専門科目を法律学科目の展開科目として履修できることがあります。詳しくは次項の「他学部・他学部・他キャンパス・諸研究所設置科目の履修方法」p.31を参照してください。	

他学部・他学科・他キャンパス・諸研究所設置科目の履修申告は、以下の順序で行ってください。

#### 履修申告の基本的な流れ

- 履修したい科目が他学部・他学科生の履修を制限していないかどうか確認する。( <http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html> ,講義要項)
- 履修したい科目が法律学科ではどの分野になるか確認する。P.32 参照
- 科目認定用紙を入手する。(学事センター法学部窓口, 上記 HP よりダウンロード)
- 履修したい科目の担当教員に履修の許可を得る。
- 法律学科の学習指導面談を受け, 許可を得る。(学習指導面談を受けるには予約が必要。P.33 参照)
- 科目認定用紙を学事センターに提出する。
- 履修申告を履修申告期間中に行う。(B 欄を使って申告をする。P.32 参照)
- 後日自宅に送付される履修申告科目確認表で不備が無いか確認する。
- 科目によっては ~ の手続きが不要となります。詳細は以下のとおりです。

### 三田キャンパス

#### 政治学科・他学部

専門科目...系列外科目・展開科目として認められる科目があります。どの科目が認められるかは, 系列外科目・展開科目認定一覧で確認してください。初回の授業時に担当教員に口頭で許可をとったうえで履修申告(B 欄)を行ってください。学習指導面談および科目認定用紙の提出は不要です。

外国語科目...他学部, 他学科の必修外国語科目は履修できません。履修可能な科目は, 「全学部共通外国語履修案内」に記載されています。学習指導面談および科目認定用紙の提出は不要です。

「全学部共通外国語履修案内」 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html>

### 日吉キャンパス(再履修については「第3 履修ルールについて」の項を参照)

#### 政治学科

日吉に設置されている政治学科の必修科目については自由科目, 必修科目以外の社会科学科目と政治学科目については自主選択科目の取り扱いとなります。いずれの場合も授業担当者の許可を得た上で「科目認定用紙」を日吉学事センター法学部窓口提出する必要があります。

#### 他学部

他学部の授業科目(必修科目を除く)を履修する場合は, 履修申告期間終了までに「科目認定用紙」を提出しなければなりません。「科目認定用紙」を提出せずに他学部設置科目を履修した場合, その科目の履修は取り消されますので注意してください。また, 「科目認定用紙」を提出しても, 履修申告をしなかった場合, 履修は無効となります。

### S F C

担当教員の許可, 学習指導面談, 科目認定用紙の提出が必要です。春学期の科目を履修する場合も, 秋学期の科目を履修する場合も, 担当教員の許可を得たうえで学習指導面談を受け, 春学期履修申告期間中に科目認定用紙を三田学事センター法学部窓口提出してください。ただし, 自由科目として履修する場合, 学習指導面談と科目認定用紙の提出は不要です。

### 諸研究所(メディア・コミュニケーション研究所, 国際センター設置科目など)

メディア・コミュニケーション研究所や国際センターなどの諸研究所設置科目は, 科目によって分野(自主選択科目, 自由科目などの区分)が異なり, 履修申告時には「B 欄」を使用します。どの分野になるかは卒業に必要な単位の計算に関わってきます。履修申告前に必ず次ページの「B 欄分野番号一覧表」を参照してどの分野になるのかを確認し, 正しい分野番号で履修申告を行ってください。学習指導面談, 科目認定用紙の提出は不要です。

また, 体育研究所・情報処理教育室・外国語教育センターなど, 事前に当該研究所において所定の手続きが必要になる場合があります。不明な点は必ず手続き期間前に当該研究所に問い合わせてください。

諸研究所の詳細については以下を参照してください。

外国語学校...p.177	教職課程センター...p.178	言語文化研究所...p.179
メディア・コミュニケーション研究所...p.184	ス道文庫...p.201	体育研究所...p.203
福澤研究センター...p.211	国際センター...p.214	保健管理センター...p.236
情報処理教育室...p.238	アート・センター...p.240	知的資産センター...p.241
外国語教育研究センター...p.243	グローバルセキュリティ研究所...p.246	

## B欄分野番号一覧表

他学部・政治学科の科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
政治学科の専門科目	B欄	55	主に系列外科目 (2007年度以降入学者は展開科目)	政治学科の時間割	<ul style="list-style-type: none"> <li>履修を希望する科目が専門科目として履修できるかは学事センターのHPに掲載される一覧表で確認してください。http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html</li> <li>履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。</li> </ul>
他学部の専門科目	B欄	55	主に系列外科目 (2007年度以降入学者は展開科目)	科目設置学部の時間割	
他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	77	主に自主選択科目	科目設置学部の時間割	
他学部の外国語科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	「全学部共通外国語履修案内」HP上で公開されています。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html	開講科目は「全学部共通外国語履修案内」で確認してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
		アラビア語：15			
イタリア語：16					

他学部・他学科の科目を履修する場合のみ、その学部・学科の最新の学則における科目を履修してください。最新の学則(三田設置科目)は次のとおりです。  
 文学部：07学則 経済学部：05学則 政治学科：57学則(2007年度以降入学者) 商学部：05学則

### 研究所設置科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
外国語教育研究センター設置科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	法律学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 243 ページを参照してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
		アラビア語：15			
イタリア語：16					
言語文化研究所設置科目	B欄	朝鮮語：10	外国語科目(選択)	法律学科の時間割(巻末)	
		アラビア語：15			
		その他：77			
メディアコミュニケーション研究所設置科目	B欄	55	主に系列外科目 (2007年度以降入学者は展開科目)	法律学科の時間割(巻末)	系列外・展開科目として履修できない科目は以下のとおり： 「時事英語・」 「文章作法・」...自主選択科目(B欄77) 研究会(～)の4単位を超えた分...自由科目(B欄99)
		77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	履修を希望する科目が自主選択科目と自由科目のどちらで認定されるかは履修案内 217, 218 ページを参照してください。
国際センター設置科目	B欄	99	自由科目	法律学科の時間割(巻末)	
教職課程センター設置科目	B欄	95	自由科目	教職課程の時間割	履修上限単位数(48単位)には含まれません。教職課程登録者のみ履修できます。
情報処理教育室設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 238 ページを参照してください。
知的資産センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
体育研究所設置科目	B欄	講義系：81 実技系：82	体育科目	法律学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 203～206 ページを参照してください。
保健管理センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
教養研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	日吉の時間割	
福澤研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
アート・センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
斯道文庫設置科目	B欄	99	自由科目	法律学科の時間割(巻末)	
グローバルセキュリティ研究所設置科目	B欄	77	自主選択科目	法律学科の時間割(巻末)	
外国語学校設置科目	B欄	99	自由科目	法律学科の時間割(土曜日の下欄)	入学手続きが必要となります。受講の申し込みは履修案内 177 ページを参照してください。

いずれの科目も「自由科目」として履修する場合はB欄を使用してください。分野番号は99です。

(教職課程センター設置科目を履修する際のB欄分野番号は95)

## 1 クラス担任

本年度のクラス担任は次のとおりです。学問的な研究の指導ばかりでなく、日常生活ないし就職など、学生生活の全般にわたって相談や助言が行われます。具体的な指導運営については必要に応じて担当者の指示があるはずですが、同時に学生諸君の自主的なクラス運営が望まれます。

クラス	第3学年	第4学年
A	君嶋 祐子	西川 理恵子
B	前田 美千代	水津 太郎
C	安富 潔	鈴木 千佳子
D	斎藤 和夫	島原 宏明
E	田村 次朗	宮島 司
F	加藤 修	岩谷 十郎
G	太田 達也	山本 為三郎
H	亀井 源太郎	坂原 正夫
I	吉村 典久	池田 真朗
J	明石 欽司	尹 仁河
K	小林 節	高田 晴仁
L	武川 幸嗣	青木 淳一
M	霞 信彦	太田 達也
N	武川 幸嗣	内藤 恵
O	武川 幸嗣	三木 浩一
P	杉田 貴洋	北澤 安紀
Q	薮本 将典	大森 正仁
R	太田 達也	オステン,フィリップ
S	犬伏 由子	佐藤 拓磨
T	太田 達也	小山 剛

## 2 学習指導

法律学科の学習指導は次のとおりです。

教授 太田 達也

教授 武川 幸嗣

学習指導の面談は原則として授業期間内の木曜日の昼休みに、三田研究室棟 1 階の教員談話室で行います。面談希望者は面談日前々日の火曜日午後 4 時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。



# 政治学科 学習指導要項

この学習指導要項は、学則の実際の運用の仕方や、学則には明示されていない細則を解説したものです。皆さんがこれから三田で履修しようとする授業科目を決めるにあたっては、学則とこの指導要項を熟読し、各自の問題意識や研究関心に応じて主体的かつ体系的に科目を決定してください。なお、カリキュラム全体の枠組みや主旨、日吉に設置されている科目の履修については、日吉の履修案内を参照してください。

入学年度によってカリキュラムが異なります。異なる部分については必ず分けて記載していますので間違いのないように十分注意してください。

## 第1 入学年度とカリキュラムについて

今年度より、入学年度に関係なく政治学科の全ての学生が、政治学科設置の全ての科目を学期単位で履修できるようになりました。昨年度までは入学年度によって履修申告する科目名や登録番号が異なりましたが、今年度は同じ科目名・登録番号を使うことになります。

政治学科ではセメスター制をとっていますが、昨年度までは2004年度以前入学者および2007年度以前学士入学者は、一部の科目（経済政策や日吉設置の文学、美術など）について通年で履修しなければなりません。在学生の大多数が政治学科設置の全ての科目を学期単位で履修するようになった現状を受け、今回のような特別措置をとることとなりました。

## 第2 平成21年度開講科目一覧

下線のついている科目は今年度開講されません。

科目名の先頭に\*がついている科目は複数の分野で開講されています。

種類	分野番号	分野	設置地区	科目区分
外国語科目	01-10-01	必修 英語	日吉	英語第 (1) 英語第 (レベル1)(1) 英語第 (レベル2)(1)
			三田	英語第 (1)
	01-10-02	必修 ドイツ語(初級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1)
	01-10-03	必修 フランス語(初級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1)
	01-10-04	必修 中国語(初級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1)
	01-10-05	必修 スペイン語(初級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1)
	01-10-06	必修 ロシア語(初級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1)
	01-10-10	必修 朝鮮語(初級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-13	必修 日本語(初級)	日吉	日本語(1)
	01-10-16	必修 イタリア語(初級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-10-51	必修 英語	日吉	英語第 (レベル3)(1) 英語第 (1) 英語第 (1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
	01-10-52	必修 ドイツ語(中級)	日吉	ドイツ語第 (1) ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1)
	01-10-53	必修 フランス語(中級)	日吉	フランス語第 (1) フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-10-54	必修 中国語(中級)	日吉	中国語第 (1) 中国語第 (1) 中国語インテンシブ(1)
	01-10-55	必修 スペイン語(中級)	日吉	スペイン語第 (1) スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-10-56	必修 ロシア語(中級)	日吉	ロシア語第 (1) ロシア語第 (1) ロシア語インテンシブ(1)
	01-10-60	必修 朝鮮語(中級)	日吉	朝鮮語第 (1) 朝鮮語第 (1)
	01-10-63	必修 日本語(中級)	日吉	日本語(1)
	01-10-66	必修 イタリア語(中級)	日吉	イタリア語第 (1) イタリア語第 (1)
	01-20-01	選択 英語	日吉	英語(1) 英語インテンシブ(1) 外国語特殊(英語)(2)
			三田	英語インテンシブ(1) 英語第 (1)
	01-20-02	選択 ドイツ語	日吉	ドイツ語(1) 初級ドイツ語演習(1) ドイツ語インテンシブ(1)
			三田	ドイツ語第 (1) ドイツ語インテンシブ(1) ドイツ語速習(初級)(1) ドイツ語速習(中級)(1)
	01-20-03	選択 フランス語	日吉	フランス語(1) フランス語インテンシブ(1) 初級フランス語演習(1)
			三田	フランス語第 (1) フランス語インテンシブ(1)
	01-20-04	選択 中国語	日吉	中国語(1) 中国語インテンシブ(1)
			三田	中国語インテンシブ(1)
	01-20-05	選択 スペイン語	日吉	スペイン語(1) スペイン語インテンシブ(1)
			三田	スペイン語第 (1) スペイン語インテンシブ(1)
	01-20-06	選択 ロシア語	日吉	ロシア語(1) ロシア語インテンシブ(1)
三田			ロシア語インテンシブ(1)	
01-20-10	選択 朝鮮語	日吉	朝鮮語(1)	
		三田	朝鮮語第 (1)	
01-20-11	選択 ラテン語	日吉	ラテン語(1)	
		三田	ラテン語(中級)(1)	
01-20-12	選択 ギリシャ語	日吉	ギリシャ語(1)	

外国語科目	01-20-14	選択	ポルトガル語	日吉	ポルトガル語(1)
				三田	ポルトガル語第 (中級)(1) ポルトガル語第 (上級)(1)
	01-20-15	選択	アラビア語	日吉	アラビア語(1)
	01-20-16	選択	イタリア語	日吉	イタリア語(1)
				三田	イタリア語第 (1)
人文科学科目	02-20-01	選択		日吉	言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 言語学 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 地域文化論 (2) 文学(4) 文学 (2) 文学 (2) 歴史 (2) 歴史 (2) 歴史(4) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 科学史 (2) 論理学(4) 論理学 (2) 論理学 (2) 倫理学(4) 倫理学 (2) 倫理学 (2) 宗教学(4) 宗教学 (2) 宗教学 (2) 哲学(4) 哲学 (2) 哲学 (2) 音楽(4) 音楽 (2) 音楽 (2) 漢文(2) 美術(4) 美術 (2) 美術 (2) 人文科学特論 (2) 人文科学特論 (2) 人文総合講座 (2) 人文総合講座 (2)
				三田	人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2) 人文科学研究会 (2)
自然科学科目	03-20-01	選択		日吉	物理学 (実験を含む)(3) 物理学 (実験を含む)(3) 化学 (実験を含む)(3) 化学 (実験を含む)(3) 生物学 (実験を含む)(3) 生物学 (実験を含む)(3) 基礎数学 (2) 基礎数学 (2) 心理学 (2) 心理学 (2) 基礎統計学 (2) 基礎統計学 (2) 自然科学特論(2) 自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2)
				三田	自然科学特論 (2) 自然科学特論 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学研究会 (2) 自然科学総合講座 (2) 自然科学総合講座 (2) 実践自然科学(2)
数学・統計・情報処理科目	04-20-11	選択	数学系列 自然科学科目として算入できます	日吉	数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
				三田	数学概論 (2) 数学概論 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2) 数学 (2)
	04-20-12	選択	統計系列 自然科学科目として算入できます	日吉	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
				三田	統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2) 統計学 (2)
	04-20-13	選択	情報処理系列	日吉	情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2) 情報処理 (2)
				三田	情報処理 (2) 情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2) 統計情報処理 (2)
社会科学科目	05-10-11	必修	社会学系列	日吉	社会学(4)
	05-10-12	必修	法学系列	日吉	(2003年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 法学(憲法を含む)(4) 憲法(4) 民法 (4) 民法 (4) (2004年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 法学(憲法を含む)(4) 憲法(4)
	05-10-13	必修	経済学・商学系列	日吉	経済原論 (4) 経済原論 (4)
	05-11-12	選択必修	法学系列	日吉	(2003年度以前入学者)(2007年度以前学士入学者) 行政法(4) 刑法(4) 国際法(4) (2004年度以降入学者)(2008年度学士入学者) 行政法(4) 刑法(4) 国際法(4) 民法 (4) 民法 (4)
	05-11-13	選択必修		三田	経済政策 (2) 経済政策 (2) 財政論 (2) 財政論 (2) 国際経済論 (2) 国際経済論 (2)
	05-20-11	選択	社会学系列	日吉	社会心理学 (2) 社会心理学 (2) 文化人類学 (2) 文化人類学 (2)
	05-20-12	選択	法学系列	三田	民法 A(2) 民法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 商法 A(2) 商法 B(2) 労働法 (2) 労働法 (2) 経済法 (2) 経済法 (2) 犯罪学 (2) 犯罪学 (2)
	05-20-13	選択	経済学・商学系列	三田	計量経済学 (2) 計量経済学 (2) 経済史 (2) 経済史 (2) 日本経済論 (2) 日本経済論 (2) 金融論 (2) 金融論 (2) 労働経済論 (2) 労働経済論 (2) 社会保障論 (2) 社会保障論 (2) 経営学 (2) 経営学 (2) 会計学 (2) 会計学 (2)
政治学科目	07-10-01	必修基礎科目		日吉	政治学基礎 (2) 政治学基礎 (2) 政治思想基礎(2) 日本政治基礎(2) 地域研究基礎(2) 国際政治基礎(2)
	07-20-01	選択・系列科目	政治思想論	日吉	政治文化論(2) 民主主義思想論 (2)
				三田	近代政治思想史 (2) 近代政治思想史 (2) 現代政治思想 (2) 現代政治思想 (2) 政治哲学 (2) 政治哲学 (2) 政治理論史 (2) 政治理論史 (2) 政治理論史 (2) 政治理論史 (2) 中世政治思想(2) *東洋政治思想史 (2) *東洋政治思想史 (2) *日本政治思想史 (2) *日本政治思想史 (2) 現代政治思想特殊研究 (2) 現代政治思想特殊研究 (2) 政治文化論特殊研究 (2) 政治理論史特殊研究 (2)
	07-20-02	選択・系列科目	政治・社会論	日吉	行政学 (2) 行政学 (2) *マス・コミュニケーション論 (2)
				三田	アメリカの司法と政治(2) 行政学特論 (2) 行政学特論 (2) 現代行政論 (2) 現代社会理論 (2) 現代社会理論 (2) 現代政治理論 (2) 現代政治理論 (2) 公共経済論 (2) 公共経済論 (2) *国際コミュニケーション論 (2) *国際コミュニケーション論 (2) 社会調査論 (2) 社会調査論 (2) 社会変動論 (2) 政治過程論 (2) 政治過程論 (2) 政治権力論 (2) 政治権力論 (2) 地域社会論 (2) 地域社会論 (2) 地方自治論 (2) 地方自治論 (2) *マス・コミュニケーション発達史 (2) *マス・コミュニケーション発達史 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) メディア社会論 (2) 社会変動論特殊研究 (2) 社会変動論特殊研究 (2) 政治過程論特殊研究 (2) 政治権力論特殊研究 (2) 地域社会論特殊研究 (2)
07-20-03	選択・系列科目	日本政治論	日吉	*日本外交史 (2) 日本政治運動史 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) 近代日本政治史 (2) 立法過程論 (2)	
			三田	近世日本政治史 (2) 近世日本政治史 (2) 近代日本政治史 (2) 近代日本政治史 (2) 近代日本政党史 (2) 近代日本政党史 (2) 現代日本行政論 (2) 現代日本行政論 (2) 現代日本政治論 (2) 現代日本政治論 (2) 古代日本政治史 (2) 古代日本政治史 (2) 戦後日本政治史 (2) 戦後日本政治史 (2) 中世日本政治史 (2) 中世日本政治史 (2) *日本外交史 (2) 日本行政史 (2) 日本行政史 (2) 日本政治運動史 (2) 日本政治運動史 (2) *日本政治思想史 (2) *日本政治思想史 (2) *マス・コミュニケーション発達史 (2) *マス・コミュニケーション発達史 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) *マス・コミュニケーション論 (2) 立法過程論 (2) 立法過程論 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 近代日本政治史特殊研究 (2) 日本行政史特殊研究 (2) 日本行政史特殊研究 (2) 日本政治思想史特殊研究 (2)	

政治学科目	07-20-04 選択・系列科目 地域研究論	日吉	アフリカ現代史 (2) 現代中東論 (2) 現代中国論 (2) 中国政治史 (2) 比較地域研究論 (2) 現代ロシア論 (2) 現代アメリカ論 (2)
		三田	アフリカ社会論 (2) アフリカ社会論 (2) アフリカの国際政治 (2) アメリカ政治史 (2) アメリカ政治史 (2) イスラーム社会論 (2) イスラーム社会論 (2) *開発援助政策論 (2) *開発援助政策論 (2) 現代アフリカ論 (2) 現代アフリカ論 (2) 現代アメリカ論 (2) 現代オーストラリア論 (2) 現代オーストラリア論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) 現代台湾論 (2) 現代中国論 (2) 現代中国論 (2) 現代中東論 (2) 現代中東論 (2) *現代東南アジア論 (2) 現代ラテン・アメリカ論 (2) 現代ラテン・アメリカ論 (2) 現代ロシア論 (2) 現代ロシア論 (2) 西洋法制史 (2) 中国政治史 (2) 中国政治史 (2) 中国法制史 (2) *東洋政治思想史 (2) *東洋政治思想史 (2) 比較地域研究論 (2) 現代中国論特殊研究 (2) 現代アフリカ論特殊研究 (2) *現代東南アジア論特殊研究 (2) 現代東南アジア論特殊研究 (2) *現代韓国朝鮮論特殊研究 (2) 現代ラテン・アメリカ論特殊研究 (2) 現代ラテン・アメリカ論特殊研究 (2) 現代ロシア論特殊研究 (2) 地域研究論特殊研究 (2) 比較地域研究論特殊研究 (2) 比較地域研究論特殊研究 (2)
	07-20-05 選択・系列科目 国際政治論	日吉	国際政治論 (2) 国際政治論 (2) 西洋外交史 (2) *日本外交史 (2)
		三田	*開発援助政策論 (2) *開発援助政策論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) *現代韓国朝鮮論 (2) 現代国際政治 (2) 現代国際政治 (2) *現代東南アジア論 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) 現代ヨーロッパの国際関係 (2) *国際コミュニケーション論 (2) *国際コミュニケーション論 (2) 国際政治経済論 (2) 国際政治経済論 (2) 国際政治理論 (2) 国際政治理論 (2) 国際政治論 (2) 国際政治論 (2) 西洋外交史 (2) *日本外交史 (2) 安全保障論 (2) 安全保障論特殊研究 (2) 安全保障論特殊研究 (2) *現代東南アジア論特殊研究 (2) 現代東南アジア論特殊研究 (2) *現代韓国朝鮮論特殊研究 (2) 国際政治経済論特殊研究 (2) 国際政治理論特殊研究 (2) 国際政治理論特殊研究 (2) 西洋外交史特殊研究 (2) 西洋外交史特殊研究 (2) 東アジアの国際関係特殊研究 (2) 東アジアの国際関係特殊研究 (2)
	07-20-06 選択・系列科目 研究会	三田	研究会(2)
	07-20-07 選択・系列科目 文献講読	三田	文献講読 (2) 文献講読 (2)
	07-20-08 選択・系列科目 政治学総合講座	三田	戦後世界と日本(2)
07-22-01 選択・系列科目 集中学習科目	日吉	演習 (2) 演習 (2)	
体育科目	08-20-01 選択・講義系	日吉	体育学講義(2) 体育学演習(1)
	08-20-02 選択・実技系	日吉	体育実技A(1) 体育実技B(1)
三田		体育実技A(1)	
自主選択科目	09-20-01 選択		他学科または他学部および教授会の認める大学付設の研究所その他諸機関の授業科目で、あらかじめ当該授業科目の担当者および学習指導の承認を得た人文・自然・社会科学科目に相当するもの
自由科目	10-30-01 自由		進級および卒業要件とならない科目
	11-30-01 自由		教職課程センター設置科目

# 第3 卒業・進級について

## 1 卒業までに必要な単位

### 2004～2006年度入学者用

※この表は、<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html> からダウンロードできます。

毎年、本人の計算違いによる卒業単位不足で、卒業不合格となる学生が出ています。そのようなことのないように必ずこの確認表と学期末に送付される「**学業成績表（緑色）**」（成績証明書（青）ではなく）により、各自の責任において卒業に必要な単位を確認してください。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位
外国語科目（必修）		01-10-01 ～ 01-10-66	16	
外国語科目（選択）		01-20-01 ～ 01-20-16		
外国語科目（選択インテンシブ）		01-30-01 ～ 01-30-06		
人文科学科目		02-20-01	8以上	
自然科学科目 *数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8以上	
情報処理科目		04-20-13		
社会科学科目	必修	社会学	05-10-11	4
		法学・憲法	05-10-12	8
		経済原論Ⅰ・経済原論Ⅱ	05-10-13	8
	選択必修	行政法、国際法、刑法、民法Ⅰ、民法Ⅱのうち1科目	05-11-12	4以上
		経済政策Ⅰ・Ⅱ、財政論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱのうち2科目	05-11-13	4以上
	選択	社会学系列	05-20-11	
法学系列		05-20-12		
経済学・商学系列		05-20-13		
政治学科目	基礎	政治学基礎Ⅰ・政治学基礎Ⅱ 政治思想基礎・日本政治基礎 地域研究基礎・国際政治基礎	07-10-01	12
		政治思想論	07-20-01	4以上
	系列科目	政治・社会論	07-20-02	4以上
		日本政治論	07-20-03	4以上
		地域研究論	07-20-04	4以上
		国際政治論	07-20-05	4以上
研究会、文献講読、演習等	07-20-06 07-20-07 07-20-08 07-22-01			
体育科目		08-20-01 08-20-02		
自主選択科目		09-20-01		
総単位		01-10-01 ～ 09-20-01	144以上	

系列科目合計  
07-20-01  
～  
07-22-01  
計( )単位  
\*40単位以上必要

※1 前学期までに取得した単位数は学期末に送付された**学業成績表（緑色）**で確認のうえ記入してください。

※2 自由科目(分野：10-30-01と11-30-01)は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

### 学士入学者用

授業科目	単位数	内容等
社会科学科目	28 1	社会学，法学（憲法を含む），憲法，経済原論，経済原論 の5科目 20単位 2 行政法，国際法，刑法，民法，民法 のうち1科目 4単位 3 経済政策，経済政策，財政論，財政論，国際経済論，国際経済論 のうち2科目 4単位
政治学科目	基礎科目 系列科目	政治学基礎，政治学基礎，政治思想基礎，日本政治基礎，地域研究基礎，国際政治基礎の6科目 12単位
		政治思想論系列，政治・社会論系列，日本政治論系列， 地域研究論系列，国際政治論系列 それぞれ4単位以上 研究会，文献講読，文献講読，演習，演習 4
合計	80	5

- 2007年度以前学士入学者は社会科学科目を36単位取得する必要があります。
- 2007年度以前学士入学者は社会学，法学（憲法を含む），憲法，経済原論，経済原論，民法，民法 の7科目28単位取得する必要があります。
- 2007年度以前学士入学者は行政法，国際法，刑法のうち1科目4単位を取得する必要があります。
- 2007年度以前学士入学者は演習，演習 は系列科目に含まれません。
- 2007年度以前学士入学者は合計88単位です。

## 2007年度以降入学者用

毎年、本人の計算違いによる卒業単位不足で、卒業不合格となる学生が出ています。そのようなことのないように必ずこの確認表と学期末に送付される「学業成績表(緑色)」(成績証明書(青)ではなく)により、各自の責任において卒業に必要な単位を確認してください。

分野・科目名		分野番号	卒業に必要な単位	前学期までに取得した単位	
外国語科目(必修)		01-10-01 ~ 01-10-66	16		
外国語科目(選択)		01-20-01 ~ 01-20-16	/		
外国語科目(選択インテンシブ)		01-30-01 ~ 01-30-06	/		
人文科学科目		02-20-01	8以上		
自然科学科目 *数学・統計科目も含まれます		03-20-01 04-20-11 04-20-12	8以上		
情報処理科目		04-20-13	/		
社会科学科目	必修	社会学	05-10-11	4	
		法学・憲法	05-10-12	8	
		経済原論Ⅰ・経済原論Ⅱ	05-10-13	8	
	選択必修	行政法、国際法、刑法、民法Ⅰ、民法Ⅱのうち1科目	05-11-12	4以上	
		経済政策Ⅰ・Ⅱ、財政論Ⅰ・Ⅱ、国際経済論Ⅰ・Ⅱのうち2科目	05-11-13	4以上	
	選択	社会学系列	05-20-11	/	
法学系列		05-20-12	/		
経済学・商学系列		05-20-13	/		
政治学科目	基礎	政治学基礎Ⅰ・政治学基礎Ⅱ 政治思想基礎・日本政治基礎 地域研究基礎・国際政治基礎	07-10-01	12	
	系列科目	政治思想論	07-20-01	4以上	
		政治・社会論	07-20-02	4以上	
		日本政治論	07-20-03	4以上	
		地域研究論	07-20-04	4以上	
		国際政治論	07-20-05	4以上	
研究会、文献講読、演習等	07-20-06 07-20-07 07-20-08 07-22-01	/			
体育科目		08-20-01 08-20-02	/		
自主選択科目		09-20-01	/		
総単位		01-10-01 ~ 09-20-01	136以上		

系列科目合計	
07-20-01 ~ 07-22-01	
計( )単位	
*40単位以上必要	

※1 前学期までに取得した単位数は学期末に送付された学業成績表(緑色)で確認のうえ記入してください。

※2 自由科目(分野:10-30-01と11-30-01)は卒業の単位には含まれないのでこの確認表に記載欄はありません。

## 2 進級に必要な単位

第3学年において履修する授業科目(自由科目を除き自主選択科目を含む)から、30単位以上取得することが必要です。ただし、必修として履修した外国語それぞれの語種(英語を除く)につき、いまだ取得していない単位が4単位を超える場合には、1年間でそれを取り終えることができませんので、第4学年に進級することはできません。

学士入学者の場合は、第3学年において履修する授業科目(自由科目を除く)から、30単位以上取得することが必要です。この中に、認定された単位のうち、最大16単位を繰り入れることができます。

### 3 復活制度について

原級などによる理由のため同一学年で3学期以上在学する学生が対象です。進級した場合、進級直後の学期において進級に必要な単位（卒業要件）を満たすことができれば半期で進級（卒業）できるという制度です。

（例）2008年度1年間2年生に在学し、28単位しか取得できず原級になったとします。この場合、次の春学期（2009年度）で2単位以上取得できれば進級に必要な30単位を満たすため、9月に3年生に進級することができます。さらに秋学期（2009年度）において30単位取得できれば2010年4月に4年生になることができます。

また、進級直後の学期（この場合は2009年度秋学期）に限り、前学年で取得した単位数のうち30単位を超える分を進級に必要な単位として繰り越すことができます。この場合は2009年度春学期に20単位取得すれば2年生（3学期間）で48単位取得したことになり、次の学期に限り進級単位として18単位分を繰り越すことができます。ただし、進級直後の学期において原級の場合、繰り越した分の単位は進級単位には含まれなくなります。詳細については学事センター法学部窓口で確認してください。

### 4 自主留年制度について

4年生が卒業単位を満たしたうえで、さらに翌年度1年間の在学を希望する場合は、これを認めることがあります。在学を希望する者は、定められた日時までに研究会担当者に承認印をもらい、本人・保証人連署の誓約書を添えて願出しなければなりません。研究会に所属していない場合は学習指導との面接が必要です。日程は12月上旬に掲示します。自主留年を許可された年度においては、次の条件が課せられます。

在学を許可された年度は、1年間在学しなければなりません。途中で籍を離れる場合は、退学となります。

在学を許可された年度には、自由科目を除き政治学科目（必修を除く）を1科目以上履修し、合格しなくてはなりません。最低1科目に合格しない場合、卒業不合格となり、当該年度の卒業はできないこととなります。

なお、9月卒業予定者のみ、半年間の自主留年を認めることがあります。日程は5月上旬に掲示します。内容詳細については学事センター法学部係に問い合わせてください。

## 第4 履修ルールについて

### 履修上限

各学年の履修単位数の最高限度はそれぞれ52単位とし、それを越えて履修する場合は「自由科目」として履修してください。なお、秋学期の履修申告については前述「第5 履修・授業・成績」の項を参照してください。

### 再履修する場合

#### (1) 外国語科目必修

日吉において指定クラスで履修してください。なお、一部の科目では抽選を行います。

#### (2) 社会科学科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってクラス指定はありません。同一名称の科目が他学部等の三田の科目に存在しても、特別の場合を除きそれを代替科目とは認めません。

#### (3) 政治学科目基礎科目

すべて日吉において再履修してください。再履修にあたってクラス指定はありません。

### 同一科目名の科目を履修する場合

すでに（過年度）一度履修合格した授業科目は、たとえ担当者が変わった場合でも、自由科目として以外は再履修はできません。ただし、1) 担当者の異なる同一名称の特殊研究、2) 担当者の異なる人文科学研究会、3) 不合格となった授業科目の再履修についてはこの限りではありません。なお取得済みの授業科目はたとえ名称が変わった場合でも再履修はできません。現在までのところ、名称変更があったのは次の科目です。

### 名称が変わった科目（政治学科目）

	分野	旧科目名	新科目名		分野	旧科目名	新科目名	
ば 担 者 異 な れ ば 履 修 可 能	02-20-01 人文科学科目	文学	文学Ⅰ	文学Ⅱ	02-20-01 人文科学科目	宗教学	宗教学Ⅰ	宗教学Ⅱ
		歴史	歴史Ⅰ	歴史Ⅱ		哲学	哲学Ⅰ	哲学Ⅱ
		論理学	論理学Ⅰ	論理学Ⅱ		音楽	音楽Ⅰ	音楽Ⅱ
		倫理学	倫理学Ⅰ	倫理学Ⅱ		美術	美術Ⅰ	美術Ⅱ

(自 由 科 目 と し て な ら 履 修 不 可 能)	03-20-01 自然科学科目	物理学(実験を含む)	物理学(実験を含む)Ⅰ	物理学(実験を含む)Ⅱ	05-20-13 社会科学科目	計量経済学	計量経済学Ⅰ	計量経済学Ⅱ
		化学(実験を含む)	化学(実験を含む)Ⅰ	化学(実験を含む)Ⅱ		経済史	経済史Ⅰ	経済史Ⅱ
		生物科学(実験を含む)	生物科学(実験を含む)Ⅰ	生物科学(実験を含む)Ⅱ		日本経済論	日本経済論Ⅰ	日本経済論Ⅱ
	05-11-13 社会科学科目	経済政策	経済政策Ⅰ	経済政策Ⅱ		金融論	金融論Ⅰ	金融論Ⅱ
		財政論	財政論Ⅰ	財政論Ⅱ		労働経済論	労働経済論Ⅰ	労働経済論Ⅱ
		国際経済論	国際経済論Ⅰ	国際経済論Ⅱ		社会保障論	社会保障論Ⅰ	社会保障論Ⅱ
	05-20-12 社会科学科目	労働法	労働法Ⅰ	労働法Ⅱ		経営学	経営学Ⅰ	経営学Ⅱ
		経済法	経済法Ⅰ	経済法Ⅱ		会計学	会計学Ⅰ	会計学Ⅱ
		犯罪学	犯罪学Ⅰ	犯罪学Ⅱ		現代中近東論Ⅰ	現代中東論Ⅰ	
		民法Ⅲ	民法ⅢA	民法ⅢB		現代中近東論Ⅱ	現代中東論Ⅱ	
		商法Ⅰ	商法ⅠA	商法ⅠB		イスラム社会論Ⅰ	イスラーム社会論Ⅰ	
		商法Ⅱ	商法ⅡA	商法ⅡB		イスラム社会論Ⅱ	イスラーム社会論Ⅱ	
						アメリカ政治史	アメリカ政治史Ⅰ	アメリカ政治史Ⅱ
						現代朝鮮論Ⅱ	現代韓国朝鮮論Ⅱ	

### 履修上の注意点（分野別）

科目の分野ごとに履修上の注意点があります。以下の表を熟読のうえ履修申告をしてください。不明な点は、履修申告期間終了前までに学事センター法学部係に問い合わせてください。

外国語科目																	
必修外国語科目の再履修について	外国語科目必修で取得すべき16単位を満たしていない場合は、日吉において再履修してください。なお、一部の科目ではWebエントリーによる抽選を行います。																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>抽選する外国語科目</th> <th>Web エントリー期間</th> <th>抽選結果発表日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>英語第 (A群)(B群)</td> <td>4月2日(木)10:00～6日(月)10:00</td> <td>4月8日(水)8:45</td> </tr> <tr> <td>ドイツ語第</td> <td>4月8日(水)10:00～9日(木)13:00</td> <td>4月11日(土)8:45</td> </tr> <tr> <td>フランス語第</td> <td>4月8日(水)10:00～9日(木)13:00</td> <td>4月11日(土)8:45</td> </tr> <tr> <td>スペイン語第 (A群)(B群)</td> <td>4月8日(水)10:00～9日(木)13:00</td> <td>4月11日(土)8:45</td> </tr> </tbody> </table>	抽選する外国語科目	Web エントリー期間	抽選結果発表日	英語第 (A群)(B群)	4月2日(木)10:00～6日(月)10:00	4月8日(水)8:45	ドイツ語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45	フランス語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45	スペイン語第 (A群)(B群)	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45	
抽選する外国語科目	Web エントリー期間	抽選結果発表日															
英語第 (A群)(B群)	4月2日(木)10:00～6日(月)10:00	4月8日(水)8:45															
ドイツ語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45															
フランス語第	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45															
スペイン語第 (A群)(B群)	4月8日(水)10:00～9日(木)13:00	4月11日(土)8:45															
	Web エントリー： <a href="http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html">http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html</a> 結果発表 HP： <a href="http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/index.html">http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/index.html</a>																
三田設置の外国語履修について (他学部諸研究所設置の外国語履修について p.42 参照)	三田に設置される外国語科目はすべて「外国語科目選択」となりますので、日吉の「外国語科目必修」の単位に振り替えることはできません。授業内容については講義要綱・シラバスの共通部分を参照してください。 それぞれの語学のインテンシブコースは1年を通じて受講すること、週3ないし4回の授業をセットとして受講することを原則とします。ほかの授業と重なる場合は、担当者に相談してください。なお、セットで履修できない場合はインテンシブコースは自由科目(卒業に必要な単位に含まれない科目)となりますので注意してください。詳細については掲示します。																
ドイツ語	「ドイツ語インテンシブ」 有機的に関連する週4回の授業で、1コース開講します。週4回セットで履修してください。4月3日(金)8時45分から三田512番教室で選抜テストを行って履修者を決定します。新たに参加を希望する場合は担当者(三瓶)に相談してください。 「ドイツ語速習」 初級、中級各1コースが開講されます。ドイツ語未習者を対象として、1年間で文献が読めるまでの力をつけることを目的とします。原則として春と秋を両方履修してください。																
フランス語	「フランス語インテンシブ」 8コマの授業のうち4つないし3つ(春・秋とも)を選択して履修してください。第3学年で2つないし1つしか履修しない場合、第4学年であらためて4つないし3つ履修しないと「インテンシブ修了」と認められません。セット履修が難しい場合はフランス語担当の学習指導(今年度は笠井裕之)に相談してください。 「フランス語第」 日吉のレギュラー・コースで学んだ諸君がフランス語の学習を継続するための授業です。積極的に参加してください。																
中国語	「中国語インテンシブ」 週3回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は学習指導(安田)に相談してください。週1回の中・上級に相当する授業としては政治学科の「文献講読」「文献講読」が設置されています。																
スペイン語	「スペイン語インテンシブ」 週6回の授業で、6コマのうち3つ以上を選択して履修してください。日吉からの連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。																
ロシア語	「ロシア語インテンシブ」 週4回の授業で、1コース開講します。日吉からの3年連続コースですが、新たに参加を希望する者は担当者に相談してください。週1回の中・上級の授業を希望する者は政治学科の「文献講読」「文献講読」に参加してください。																

人文・自然科学科目	
人文科学研究会	「人文科学研究会」を履修するには、日吉においてすでに人文科学科目を8単位以上取得済みであることが必要です。2年連続で同じ担当者の研究会を履修する場合、原則として第3学年で「人文科学研究会 I, II」、第4学年で「人文科学研究会 III, IV」として履修してください。また、担当者が異なれば、同一科目名(同一のローマ数字)であっても、2年連続で人文科学科目として履修することができます。ただし研究会という科目の性質上、履修者数を制限したり、科目担当者による選抜が行われることがあります。
自然科学研究会	「自然科学研究会 III, IV」を履修するには、日吉においてすでに自然科学科目を8単位以上取得済みであることが望ましい。「自然科学研究会 III, IV」を自然科学科目として履修できるのは原則として一度のみですが、副専攻として同一担当者の研究会を履修する場合に限り、2年連続で自然科学科目として履修することができます。ただし研究会という科目の性質上、履修者数を制限したり、科目担当者による選抜が行われることがあります。
数学・統計・情報処理科目	数学・統計・情報処理科目のうち、「数学系列」(分野番号 04-20-11)および「統計系列」(分野番号 04-20-12)については、卒業に必要な単位を計算するうえで自然科学科目の単位として算入できます。なお、「情報処理系列」(分野番号 04-20-13)は自然科学科目の単位に算入することはできません。

社会科学科目	
経済政策 財政論 国際経済論	社会科学科目の中で、経済政策、経済政策、財政論、財政論、国際経済論、国際経済論のうち2科目4単位が必修です。 3年生のうちに2科目以上を履修し終わることが望ましいでしょう。2科目の組み合わせは自由ですが、なるべく・を通して履修することが望まれます。ただし、2004年度以前入学者と2007年度以前学士入学者は、必ず・を通して履修しなければなりません。 「国際経済論」は他学部では別の名前の授業科目ですが、法学部では同一科目名の授業科目となりますので、担当者が異なる場合でも同一科目を2科目以上履修することはできませんので注意してください。

政治学科目	
系列科目 ・政治思想論系列 ・政治・社会論系列 ・日本政治論系列 ・地域研究論系列 ・国際政治論系列	卒業までに「政治思想論系列」、「政治・社会論系列」、「日本政治論系列」、「地域研究論系列」、「国際政治論系列」の5系列の中から、各系列とも4単位以上、また文献講読、文献講読、研究会、演習、演習（ ）も含めて合計40単位以上の履修が必要です。これにはもちろん、日吉で開講されている行政学、行政学などの系列科目の単位も含まれます。 系列科目の一部の授業科目は二つの系列に属しています。たとえば「マス・コミュニケーション論」は、「政治・社会論系列」と「日本政治論系列」にそれぞれ属しています。したがって、履修申告の際、どちらの系列科目として履修するのかが決定し、いずれか一方の登録番号だけを登録することが必要です。登録番号はそれぞれの系列ごとにあります。履修申告後に指定した分野を変更することはできません。 2003年度以前入学者および2007年度以前学士入学者については「演習」、「演習」は系列科目の合計単位に含まれません。
文献講読	文献講読は、大学院への進学や外国語の政治学文献の読解力を高めたい意欲ある学生のための科目です。 文献講読の履修にあたっては、担当者が適当と認める方法で受講者を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。 文献講読の授業への出席が全体の3分の2に満たない場合は、不合格とします。具体的な出欠の認定は担当者が最も適当と考える方法によって行います。
研究会	研究会、いわゆるゼミは、第3・4学年に開講され、政治学科の専任教員が担当する系列科目です。研究会は必修ではありませんが、その履修を途中で放棄することは、様々な意味で望ましくありません。2年間という長丁場での大学生活の中心となる授業科目です。研究会の履修は一人1科目に限られます。また科目の性格から履修者数は限定されます。研究会の履修者の決定は、原則として、4月の初めの統一試験において行われます。研究会は2単位として、学期毎に成績を取得することができます。2単位科目となりますが、同一担当者の研究会を、第3・4学年を通じて2年以上履修するという原則は変わりません。なお、研究会の入会のタイミングは第3学年の春学期からとなり、途中から研究会を履修することはできません。2009年度の研究会入会者選考の日程は次のとおりです。 第一次統一選考 4月3日(金)13:00 第一次合格発表 4月4日(土)9:00以降 西校舎地下2階掲示板にて 第二次選考以降 4月6日(月)13:00以降 秋学期に三田に進級してくる学生で、研究会の入会を希望する場合は学事センターに問い合わせてください。 研究会の履修においては、4月の履修申告時に当該学年の春学期・秋学期分を履修してください。
他学部・他学科の研究会	政治学科以外の研究会は、自主選択科目として位置付けられます。2008年度までは、政治学科以外の研究会を履修する場合、1科目2単位までを自主選択科目として履修することができ、残りの研究会の単位は「自由科目」として履修しなければなりませんでした。2009年度より単位の取扱いが変わり、2科目め以降も自主選択科目として履修できるようになりました。ただし、取得済みの科目の分野を変えることはできません。
特殊研究	集中学習科目として設置されている特殊研究は、特定の主題に関して受講者の積極的参加を前提として行われる、少人数制のセミナー形式の授業です。したがって、担当者が適当と認める方法で受講者数を制限する場合がありますので、講義要綱を十分に参照すると同時に授業開始頃の掲示にも注意し、初回の授業に必ず出席してください。なお同一担当者の特殊研究は、その名称のいかんにかかわらず、との2科目4単位までが卒業必要科目として履修できる上限です。それ以上履修を希望する場合は「自由科目」の扱いになります。 (例1) × 担当者A君「特殊研究」担当者A君「特殊研究」 (例2) 担当者A君「特殊研究」担当者A君「特殊研究」 (例3) 担当者A君「特殊研究」担当者A君「特殊研究」
他学部・他学科の専門科目	法律学科や他学部の専門科目を自主選択科目として履修できることがあります。詳しくは以下の「他学科・他学部・他キャンパス・諸研究所設置科目の履修方法」を参照してください。

## 第5 他学科・他学部・他キャンパス・諸研究所設置科目の履修方法

他学部・他学科・他キャンパス・諸研究所設置科目の履修申告は、以下の順序で行ってください。

### 履修申告の基本的な流れ

履修したい科目が他学部・他学科生の履修を制限していないかどうか確認する。( <http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html> , 講義要項 )

履修したい科目が法学部ではどの分野になるか確認する。p.43, 44 参照

科目認定用紙を入手する。(学事センター法学部窓口, 上記HPよりダウンロード)

履修したい科目の担当教員に履修の許可を得る。

政治学科の学習指導面談を受け、許可を得る。(学習指導面談を受けるには予約が必要。p.44 参照)

科目認定用紙を学事センターに提出する。

履修申告を履修申告期間中に行う。(B欄を使って申告をする。p.43, 44 参照)

後日自宅に送付される履修申告科目確認表で不備が無いか確認する。

科目によっては ~ の手続きが不要となります。詳細は以下のとおりです。

### 三田キャンパス

#### 法律学科・他学部

専門科目...自主選択科目として認められる科目があります。どの科目が認められるかは、自主選択科目認定一覧で確認してください。初回の授業時に担当教員に口頭で許可をとったうえで履修申告(B欄)を行ってください。学習指導面談および科目認定用紙の提出は不要です。

外国語科目...他学部、他学科の必修外国語科目は履修できません。履修可能な科目は、「全学部共通外国語履修案内」に記載されています。

学習指導面談および科目認定用紙の提出は不要です。

「全学部共通外国語履修案内」 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html>

日吉キャンパス（再履修については「第3 履修ルールについて」の「再履修する場合」項を参照）

法律学科

日吉に設置されている政治学科の必修科目については自由科目、必修科目以外の社会科学科目と法律学科については自主選択科目の取り扱いとなります。いずれの場合も授業担当者の許可を得た上で「科目認定用紙」を日吉学事センター法学部窓口へ提出する必要があります。

他学部

他学部の授業科目（必修科目を除く）を履修する場合は、履修申告期間終了までに「科目認定用紙」を提出しなければなりません。「科目認定用紙」を提出せずに他学部設置科目を履修した場合、その科目の履修は取り消されますので注意してください。また、「科目認定用紙」を提出しても、履修申告をしなかった場合、履修は無効となります。

S F C

担当教員の許可、学習指導面談、科目認定用紙の提出が必要です。春学期の科目を履修する場合も、秋学期の科目を履修する場合も、担当教員の許可を得たうえで学習指導面談を受け、春学期履修申告期間中に科目認定用紙を三田学事センター法学部窓口へ提出してください。ただし、自由科目として履修する場合、学習指導面談と科目認定用紙の提出は不要です。

諸研究所（メディア・コミュニケーション研究所、国際センター設置科目など）

メディア・コミュニケーション研究所や国際センターなどの諸研究所設置科目は、科目によって分野（自主選択科目、自由科目などの区分）が異なり、履修申告時には「B欄」を使用します。どの分野になるかは卒業に必要な単位の計算に関わってきます。履修申告前に必ず次ページの「B欄分野番号一覧表」を参照してどの分野になるのかを確認し、正しい分野番号で履修申告を行ってください。学習指導面談、科目認定用紙の提出は不要です。

また、体育研究所・情報処理教育室・外国語教育センターなど、事前に当該研究所において所定の手続きが必要になる場合があります。不明な点は必ず手続き期間前に当該研究所に問い合わせてください。

諸研究所の詳細については以下を参照してください。

外国語学校...p.177	教職課程センター...p.178	言語文化研究所...p.179
メディア・コミュニケーション研究所...p.184	斯道文庫...p.201	体育研究所...p.203
福澤研究センター...p.211	国際センター...p.214	保健管理センター...p.236
情報処理教育室...p.238	アート・センター...p.240	知的資産センター...p.241
外国語教育研究センター...p.243	グローバルセキュリティ研究所...p.246	

B欄分野番号一覧表

他学部・法律学科の科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
法律学科の専門科目	B欄	77	主に自主選択科目	法律学科の時間割	・履修を希望する科目が自主選択科目として履修できるかは学事センターのHPに掲載される一覧表で確認してください。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/hou/index.html ・履修申告前に必ず授業担当者の許可を得てください。
他学部の専門科目	B欄	77	主に自主選択科目	科目設置学部の時間割	
他学部の人文・自然・社会科学科目	B欄	77	主に自主選択科目	科目設置学部の時間割	
他学部の外国語科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	「全学部共通外国語履修案内」HP上で公開されています。 http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/rishu/index.html	開講科目は「全学部共通外国語履修案内」で確認してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
アラビア語：15					
イタリア語：16					

他学部・他学科の科目を履修する場合のみ、その学部・学科の最新の学則における科目を履修してください。最新の学則（三田設置科目）は次のとおりです。

文学部：07 学則    経済学部：05 学則    法律学科：57 学則（2007年度以降入学者）    商学部：05 学則

研究所設置科目

履修する科目の種類	使用欄	分野番号	分野の扱い	登録番号の記載場所	注意事項
外国語教育研究センター設置科目	B欄	英語：01	外国語科目(選択)	政治学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 243 ページを参照してください。
		ドイツ語：02			
		フランス語：03			
		中国語：04			
		スペイン語：05			
		ロシア語：06			
		朝鮮語：10			
		ラテン語：11			
		ギリシア語：12			
		ポルトガル語：14			
		アラビア語：15			
		イタリア語：16			
		その他：77	自主選択科目		
言語文化研究所設置科目	B欄	朝鮮語：10	外国語科目(選択)	政治学科の時間割(巻末)	
		アラビア語：15			
		その他：77	自主選択科目		
メディアコミュニケーション研究所設置科目	B欄	77	主に自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	研究会( ~ )の4単位を超えた分は自由科目(B欄99)
国際センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	履修を希望する科目が自主選択科目と自由科目のどちらで認定されるかは履修案内 217, 218 ページを参照してください。
		99	自由科目		
教職課程センター設置科目	B欄	95	自由科目	教職課程の時間割	履修上限単位数(52単位)には含まれません。教職課程登録者のみ履修できます。
情報処理教育室設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 238 ページを参照してください。
知的資産センター設置科目	B欄	99	自由科目	政治学科の時間割(巻末)	
体育研究所設置科目	B欄	講義系：81 実技系：82	体育科目	政治学科の時間割(巻末)	受講の申し込みは履修案内 203～206 ページを参照してください。
保健管理センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
教養研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	日吉の時間割	
福澤研究センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
アート・センター設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
斯道文庫設置科目	B欄	99	自由科目	政治学科の時間割(巻末)	
グローバルセキュリティ研究所設置科目	B欄	77	自主選択科目	政治学科の時間割(巻末)	
外国語学校設置科目	B欄	99	自由科目	政治学科の時間割(土曜日の下欄)	入学手続きが必要となります。受講の申し込みは履修案内 177 ページを参照してください。

いずれの科目も「自由科目」として履修する場合はB欄を使用してください。分野番号は99です。  
(教職課程センター設置科目を履修する際のB欄分野番号は95)

## 第6 クラス担任・学習指導について

### 1 クラス担任

クラス担任は学問上の研究指導を行うと同時に、学生生活全般にわたって相談にのり助言を与えることになっています。政治学科では、研究会担当者がクラス担任となります。研究会に所属していない者のクラス担任は、次のとおりです。

A-J組 高橋 伸夫  
K-T組 山本 信人

### 2 学習指導

政治学科の学習指導は次のとおりです。

教授 高橋 伸夫  
教授 山本 信人

学習指導の面談は原則として授業期間内の金曜日昼休みに、三田研究室棟 1 階の教員談話室で行います。面談希望者は面談日前々日の水曜日午後 4 時までに学事センター法学部係へ申し込んでください。なお、三田祭期間中は行いません。

# 講義要綱・シラバス

講義の内容とその順番は授業の展開等に応じて変更される  
こともあります。

またその他の項目についても変更されることがあります。

## 法律学科目（科目名 50 音順）

ア行（医事法～）	47
カ行（会計学～）	48
研究会（3年）（分野別）	64
研究会（4年）（分野別）	72
サ行（財政論～）	85
タ行（団体法～）	94
ハ行（破産法～）	95
マ行（民事訴訟法～）	102
ラ行（労働法～）	107

## 政治学科目（系列別）

文献講読	109
政治思想論	110
政治・社会論	113
日本政治論	119
地域研究論	125
国際政治論	133
研究会（3年）	138
研究会（4年）	143

## 社会科学科目（系列別）

選択 法学系列	147
選択必修 経済学・商学系列	149
選択 経済学・商学系列	151

## 法律学科・政治学科設置 共通科目（分野別）

外国語科目	155
人文科学科目	164
自然科学科目	168
数学・統計・情報処理科目	171



## 〔法律学科目〕

〔科目名 50音順〕

医事法 【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

医事法 【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

入門講義・医事法と生命倫理

(共同担当)法務研究科 教授 古川 俊 治

(共同担当)法務研究科 教授 井 田 良

授業科目の内容:

講義形式により、現代の医療が提起している法的・倫理的諸問題につき、法と生命倫理の観点から検討を加える。受講者には、それぞれの問題についての基礎的知識を得るとともに、法的思考力を鍛えていただきたい。関連する法令や判例のほか、外国の制度やそこにおける議論の状況も紹介する。個々のトピックは、基本的に独立したものであるため、各回の講義ごとにまとめを行いたい。

この授業の到達目標は、現代医療の法的・倫理的諸問題についての、基本的知識と法的思考方法を学び取ることにある。単に法律論を学ぶだけでなく、先端医療の現状について実践的な学修ができるよう、現場の医師をゲストとして招くことを予定している。医師である実務家と、刑法の研究者教員が共同で講義を担当することを通じて、問題点を多角的に論じ、この分野における問題の本質を受講者に偏りなく理解していただくことに力を注ぎたい。

テキスト:

特定の教科書は使用しない。毎回講義資料としてのプリントを配布する。

参考書:

赤林朗編『入門医療倫理』(2005年,2007年,勁草書房)石原明『法と生命倫理20講〔第4版〕』(2004年,日本評論社),宇都木伸ほか編『医事法判例百選』(2006年,有斐閣),坂本百大=青木清=山田卓生編著『生命倫理 21世紀のグローバル・バイオエシックス』(2005年,北樹出版),樋口範雄編著『ケーススタディ生命倫理と法』(2004年,有斐閣),樋口範雄=土屋裕子編『生命倫理と法,同』(2005年,2007年,弘文堂),樋口範雄『医療と法を考える 救急車と正義』(2007年,有斐閣),同『続・医療と法を考える 終末期医療ガイドライン』(2008年,有斐閣)など。

医事法 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

医事法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

入門講義・医事法と生命倫理(後半)

(共同担当)法務研究科 教授 古川 俊 治

(共同担当)法務研究科 教授 井 田 良

授業科目の内容:

医事法(春学期)と同様に、講義形式により、現代の医療が提起している法的・倫理的諸問題につき、法と生命倫理の観点から検討を加える。受講者には、それぞれの問題についての基礎的知識を得るとともに、法的思考力を鍛えていただきたい。関連する法令や判例のほか、外国の制度やそこにおける議論の状況も紹介する。個々のトピックは、基本的に独立したものであるため、各回の講義ごとにまとめを行いたい。

この授業の到達目標は、現代医療の法的・倫理的諸問題についての、基本的知識と法的思考方法を学び取ることにある。単に法律論を学ぶだけでなく、先端医療の現状について実践的な学修ができるよう、現場の医師をゲストとして招くことを予定している。医師である実務家と、刑法の研究者教員が共同で講義を担当することを通じて、問題点を多角的に論じ、この分野における問題の本質を受講者に偏りなく理解していただくことに力を注ぎたい。

テキスト:

特定の教科書は使用しない。毎回講義資料としてのプリントを配布する。

参考書:

赤林朗編『入門医療倫理』(2005年,2007年,勁草書房)石原明『法と生命倫理20講〔第4版〕』(2004年,日本評論社),宇都木伸ほか編『医事法判例百選』(2006年,有斐閣),坂本百大=青木清=山田卓生編著『生命倫理 21世紀のグローバル・バイオエシックス』(2005年,北樹出版),樋口範雄編著『ケーススタディ生命倫理と法』(2004年,有斐閣),樋口範雄=土屋裕子編『生命倫理と法,同』(2005年,2007年,弘文堂),樋口範雄『医療と法を考える 救急車と正義』(2007年,有斐閣),同『続・医療と法を考える 終末期医療ガイドライン』(2008年,有斐閣)など。

医事法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

医事法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

医療過誤民事事件における論点及び具体的事案における民法・民事訴訟法の応用

講師 鈴木 雄 介

授業科目の内容:

近年、メディアを介して医療紛争に関する情報を見聞きする機会が増えていきます。こうした医療紛争の理解を通じ、現代の医療制度の問題点を考えていただければ幸いです。また、医療紛争の具体的事案を検討することにより、民法、民事訴訟法の理解が深まることを期待しています。

具体的内容としては、医療水準論(最高裁平成7年6月9日判決等)、医師の説明義務(最高裁平成13年11月27日判決等)、「生存の相当程度の可能性」に対する侵害(最高裁平成12年9月22日判決等)等医療過誤事件に特有の論点を扱います。これらの論点に加え、因果関係、時効、除斥期間といった民法の基本論点、弁論主義、主張立証責任の分配といった民事訴訟法の基本論点につき、医療過誤判例を通して検討します。また、法律論だけでなく、法曹及び医師の視点から、事実認定、医療の実情などを解説します。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

宇都木・町野・平林・甲斐蘭「医事法判例百選」(有斐閣,2006年)  
樋口編「ケース・スタディ 生命倫理と法」(有斐閣,2004年)  
古川著「メディカルケオリティ・アシユアランス 判例にみる医療水準(第2版)」(医学書院,2005)

医事法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

医事法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

医事刑法及び生命倫理

講師 鈴木 雄 介

授業科目の内容:

近年、メディアを介して医療に関する刑事事件又は生命倫理に関する情報を見聞きする機会が増えていきます。これらの事案の理解を通じ、現代の医療制度及び生命倫理上の問題点を考えていただければ幸いです。また、医療紛争の具体的事案を検討することで、刑法の理解が深まることを期待しています。

具体的内容としては、抗癌剤過剰投与事件(最高裁平成17年11月15日決定)、薬害エイズ事件(最高裁平成20年3月3日決定,東京地裁平成13年3月28日判決等)等の事案により過失犯における予見可能性、結果回避義務を検討します。この他、医療過誤刑事事件における患者・被害者の同意、正当行為、罪刑法定主義等刑法の基本論点を学習します。生命倫理に関しては、終末期医療、治験・臨床研究等を通じて検討します。

テキスト:

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書:

宇都木・町野・平林・甲斐蘭「医事法判例百選」(有斐閣,2006年)  
樋口編「ケース・スタディ 生命倫理と法」(有斐閣,2004年)  
古川著「メディカルケオリティ・アシユアランス 判例にみる医療水準(第2版)」(医学書院,2005)

会計学 【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

会計学 【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

商学部 名誉教授 笠井 昭 次

授業科目の内容:

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探究する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト:

笠井昭次著『現代会計論』(慶應義塾大学出版会)

会計学 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

会計学 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

商学部 名誉教授 笠井 昭 次

授業科目の内容:

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探究する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト:

笠井昭次著『現代会計論』(慶應義塾大学出版会)

外国法（英米）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（春学期）  
 外国法（英米） 【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）  
 教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができると思っている。

本講義はイギリスを中心にする。

テキスト：

特に指定しないが、参考書のうち、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書：

- ・ジュリスト英米法百選、英米法総論（田中英夫）
- ・アメリカ法入門、英米法（現代法学全集）等

外国法（英米）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（秋学期）  
 外国法（英米） 【2007年度以降入学者】【展開】（秋学期）  
 教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

世界に存在する法体系を大きく分類したとき、わが国の法体系である大陸法と異なる体系として存在するのがいわゆるコモンロー体系である。この体系をとる国家は、アメリカ合衆国をはじめとして、イギリス、カナダ、オーストラリアなど、日本と関係の深い国家が多い。本稿では、コモンローシステムがどのように、成立し、どのようにわが国と異なっているかを考える。わが国の法と異なる体系について考えることにより、法に対する認識、理解を深めることができると思っている。

この講義はアメリカ法を中心にするが、外国法（英米）の続編という形でイギリス法を継受したアメリカ法の発展に着目する。 は必修。

テキスト：

特に指定しないが、参考書のうち、履修者の気に入ったものを読むことはすすめる。

参考書：

- ・ジュリスト英米法百選、英米法総論（田中英夫）
- ・アメリカ法入門、英米法（現代法学全集）等

外国法（独）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（春学期）  
 外国法（独） 【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）  
 准教授 オステン、フィリップ

授業科目の内容：

ドイツ法の全体像を理解してもらえるような講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト：

毎回、講義資料プリント（レジュメ等）を配布することにする。

参考書：

参考文献については講義の中で必要に応じて紹介することにする。概説書としては、村上淳一＝守矢健一／ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第7版』（有斐閣、2008年）がある。

外国法（独）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（秋学期）  
 外国法（独） 【2007年度以降入学者】【展開】（秋学期）  
 准教授 オステン、フィリップ

授業科目の内容：

ドイツ法の全体像を理解してもらえるような講義にすることに力を注ぎたい。

テキスト：

毎回、講義資料プリント（レジュメ等）を配布することにする。

参考書：

参考文献については講義の中で必要に応じて紹介することにする。概説書としては、村上淳一＝守矢健一／ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門・改訂第7版』（有斐閣、2008年）がある。

外国法（仏）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（春学期）  
 外国法（仏） 【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）  
 フランス法概論〔外側から見たフランス法〕  
 講師 小川 健

授業科目の内容：

フランス法は、1789年の人権宣言そして近代法の先駆けとなったナポレオン法典をはじめとして、世界各国の近代および現代の法制に大きな

影響を与えて来た。日本法にとっても、同法はドイツ法や英米法と並ぶ民法の一つであり、その理解は日本法の学習のために欠くことができない。

他方、今後わが国が諸外国と様々な関係を構築し維持発展させていくためには外国諸制度への対応やこれらと国内諸制度の調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連およびEUの主要な構成国であるとともに国際取引の分野にも影響力のあるこの国の法制や法認識の理解は我が国にとって重要なものであり続ける筈である。

春学期は、「外側から見たフランス法」と題して、フランス法とそれ以外の法系等との関係やフランス法の影響力等、世界の中におけるフランス法の位置づけを中心に、日本やフランスの法制度を理解するのに必要な基礎的な問題を概観する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・フランス第五共和国憲法邦訳（辻村みよ子）樋口・吉田編「解説世界憲法集」4版（2001）；
- ・『フランスの裁判法制』小島武司他編 中央大学出版部 1991；
- ・庄司克宏『EU法 基礎編』（岩波書店）2003.

外国法（仏）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（秋学期）  
 外国法（仏） 【2007年度以降入学者】【展開】（秋学期）  
 フランス法概論〔内側から見たフランス法〕  
 講師 小川 健

授業科目の内容：

春学期に、日本やフランスの国家制度法制度の、世界のなかでの位置付けを確認した上で、秋学期には「内側から見たフランス法」として、フランス法の国内諸制度について講義形式で概説する予定である。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・フランス第五共和国憲法邦訳（辻村みよ子）樋口・吉田編「解説世界憲法集」4版（2001）；
- ・『フランスの裁判法制』小島武司他編 中央大学出版部 1991；
- ・庄司克宏『EU法 基礎編』（岩波書店）2003.

外国法（EU）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（春学期）  
 外国法（EU）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）  
 EU法の入門、基礎理論と実務への架橋  
 法務研究科 教授 庄司克宏

授業科目の内容：

欧州連合（EU）法は新領域の法分野として研究者や学生の興味をそそる研究対象となっているだけでなく、実務的な必要性からも注目を集めるようになってきている。なぜならば、EUは27加盟国、総人口5億人からなる巨大な単一市場を形成し、そこで制定されるEU法規制は域内で直接適用されるか又は国内法化され、かつ国内法に優越して施行されるからである。それはまた、域外においても環境規制のように事実上のグローバル・スタンダードを形成する場合がある。

このように、EU域内で事業を展開する域外企業にとってもEU法は無視できない存在である。日系企業も細心の注意を払って、競争法をはじめとするEU法令のコンプライアンスを確保する必要がある。しかし、わが国ではEU法に十分精通した日本人がほとんど存在しないため、ビジネス上多くの問題に直面しがちであると言われていた。本授業では、このような需要に対応して「EU法ギャップ」を解消するため、受講者にとって実社会で役立つ専門知識を提供することを目的とする。

具体的内容としては、欧州連合（EU）法の中核をなす欧州共同体（EU）法に関する基本的知識の習得を目的とする。第1に組織法（EU諸機関、立法手続、行政制度、司法制度）、第2に国内法との関係（直接効果、優越性、EC法上の権利の国内的救済）、第3に実体法としての域内市場法（物・人・サービス・資本の自由移動、競争法）について双方向的講義を行う。

テキスト：

- 下記の3冊をすべて教科書として使用します。毎回持参下さい。
- 庄司克宏『EU法 基礎編』岩波書店、2003年
- 庄司克宏『EU法 政策編』岩波書店、2003年
- 庄司克宏『欧州連合 統治の論理とゆくえ』岩波新書、2007年

参考書：

授業中に適宜紹介します。

外国法（EU）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（秋学期）  
 EU法の基礎理論と実務への架橋  
 法務研究科 教授 庄司克宏

授業科目の内容：

欧州連合（EU）法は新領域の法分野として研究者や学生の興味をそそる研究対象となっているだけでなく、実務的な必要性からも注目を集めるようになってきている。なぜならば、EUは27加盟国、総人口5億人からなる巨大な単一市場を形成し、そこで制定されるEU法規制は域内で直接

適用されるか又は国内法化され、かつ国内法に優越して施行されるからである。それはまた、域外においても環境規制のように事実上のグローバル・スタンダードを形成する場合がある。

このように、EU域内で事業を展開する域外企業にとってもEU法は無視できない存在である。日系企業も細心の注意を払って、競争法をはじめとするEU法令のコンプライアンスを確保する必要がある。しかし、わが国ではEU法に十分精通した日本人がほとんど存在しないため、ビジネス上多くの問題に直面しがちであると言われている。本授業では、このような需要に対応して「EU法ギャップ」を解消するため、受講者にとって実社会で役立つ専門知識を提供することを目的とする。

具体的内容としては、春学期の外国法（EU）の授業内容を踏まえて、とくに環境法、競争法、租税法、経済通貨同盟、司法内務協力などに焦点を当てて、より専門的なEU法規制についての講義を行う。

テキスト：

下記の3冊をすべて教科書として使用します。毎回持参下さい。

庄司克宏『EU法 基礎編』岩波書店、2003年

庄司克宏『EU法 政策編』岩波書店、2003年

庄司克宏『欧州連合 統治の論理とゆくえ』岩波新書、2007年

参考書：

授業中に適宜紹介します。

外国法（韓国）【2006年度以前入学者】【系列外】（秋学期）

外国法（韓国）【2007年度以降入学者】【展開】（秋学期）

韓国法 教授 太田 達也

授業科目の内容：

韓国の法制度について講義をするが、後半は韓国の刑事司法制度を中心に話を進める。また、講義期間中に2回ほど、韓国の研究者を招いての特別講義を予定している

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

参考資料は講義の内容に応じて紹介する。

外国法（ラテンアメリカ）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（春学期）

外国法（ラテンアメリカ）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）

ラテンアメリカ法・総論・歴史 准教授 前田 美千代

授業科目の内容：

本講義では、ラテンアメリカ法の総論部分として、ラテンアメリカ地域の概要、ラテンアメリカ法の意義および歴史（300年間のスペインとポルトガルによる支配の時代）を中心に学習します。

テキスト：

- ・講義資料プリントを配布します。
- ・講義資料プリントは keio.jp からダウンロードできます。

参考書：

授業中に指示します。

外国法（ラテンアメリカ）【2006年度以前入学者】

【A系列】【系列外】（秋学期）

ラテンアメリカ法・各論 准教授 前田 美千代

授業科目の内容：

本講義では、ラテンアメリカ法の各論部分として、インディアス私法を概観し、独立後の憲法の制定や民法の制定の経緯を学習し、ラテンアメリカ諸国の現代法として、ブラジルを中心に民法と消費者法に焦点をあてて学習します。

テキスト：

- ・講義資料プリントを配布します。
- ・講義資料プリントは keio.jp からダウンロードできます。

参考書：

授業中に指示します。

外国法（中）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（春学期）

外国法（中）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）

現代中国法概説 講師 黄 清 溪

授業科目の内容：

社会主義国家を堅持しながら、改革開放を推進し、市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において、いかなる法制度が展開されているか、民法と会社法を重点において見つめていきたいと思えます。前半は近代中国法の形成に関する、歴史、沿革、社会背景などについて講義をしたのち、後半は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には、現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

外国法（中）【2006年度以前入学者】【A系列】【系列外】（秋学期）  
現代中国法概説 講師 黄 清 溪

授業科目の内容：

社会主義国家を堅持しながら、改革開放を推進し、市場経済制度を大胆に採り入れる。そのような中国において、いかなる法制度が展開されているか、民法と会社法を重点において見つめていきたいと思えます。前半は近代中国法の形成に関する、歴史、沿革、社会背景などについて講義をしたのち、後半は輪読の方式で実際の規定条文を理解していく予定です。履修者諸君には、現代中国法体系に関する基礎的理解が得られることが本講義の目標です。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

外国法演習（英米）【2006年度以前入学者】【F系列】（春学期）

外国法演習【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）

教授 西川 理恵子

授業科目の内容：

アメリカの「不法行為（Torts）」を勉強する。不法行為は、日本では、政権法の一部として議論されるが、アメリカでは法を学ぶに当たっての最も大切な基礎科目の一つと考えられている。そこで、不法行為のケースや論文を読みながら、不法行為をめぐるさまざまな論点、アメリカの法思考方法などを学ぼうというのが、法演習の目的である。

テキスト：

適宜、教材のコピーを配布する。

参考書：

開講時に指定

外国法演習（独）【2006年度以前入学者】【F系列】（春学期）（秋学期）

外国法演習【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）

准教授 オステン、フィリップ

授業科目の内容：

本演習は、ドイツ法・ドイツ法学に関する原書（ドイツ語文献）を理解できるようにすることを目的とするものである。

テキスト：

テキストについては、履修者の希望・語学力等を考慮して、開講時に決定したうえで、プリントをして配布する予定。

参考書：

参考文献については、演習のなかで必要に応じて紹介することになる。

外国法演習（仏）【2006年度以前入学者】【F系列】（春学期）

外国法演習【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）

フランス法入門そしてフランス法文献の読み方と調べ方

講師 小川 健

授業科目の内容：

フランス法は、1789年の人権宣言そして近代法の先駆けとなったナポレオン法典をはじめとして、世界各国の近代および現代の法制に大きな影響を与えて来た。日本法にとっても、同法はドイツ法や英米法と並ぶ母法の一つであり、その理解は日本法の学習のために欠くことができない。

他方、今後わが国が諸外国と様々な関係を構築し維持発展させていくためには外国諸制度に対する対応やこれらとの国内諸制度の調整がどうしても必要となってくるであろう。この点でも、国連およびEUの主要な構成国であるとともに国際取引の分野にも影響力のあるこの国の法制や法認識の理解は我が国にとって重要なものであり続ける筈である。

「フランス法学習を自らするための手ほどき」を担当する科目として、本演習では、フランス語の読みやすい文献を参照しつつ、フランス法の基礎的な知識及びフランス法学の問題の分析の仕方が解るように授業をすすめていきたいと思う。むしろフランス社会や歴史文化一般についての理解もその前提として欠かせないことから、これらの点についての「道草」も厭わないつもりである。

受講者の、英米法や他の大陸法の理解、日本法の理解、フランス語の能力、等に応じ適宜これを補充しつつテキストの講義をおこなうつもりである。

テキスト：

受講者の興味のある所在、フランス語の能力等を勘案して話し合っ

て決めるが、  
・ J. -L. Aubert, Introduction au droit, Que sias-je?, PUF (2002)「法学入門」;  
・ H. Batiffol, La Philosophie du droit, Que sias-je?, PUF (2999)「法哲学」。  
(いずれも我が国でいう新書のようなもの)あるいは仏文の新聞雑誌の記事あたりであろうか。

2007年、2008年度には、上記「法学入門」の最初の部分の他、1789年の人権宣言(正式には Déclaration des Droits de l'homme et du citoyen 人と市民の権利の宣言)、Conseil d'Etat, Droit communautaire et Droit

## 法律

français, Documentation française (1982)「ヨーロッパ法とフランス国内法」, Traité établissant une Constitution pour l'Europe, CIG 87/2/04 REV 2 (2004)「ヨーロッパ憲法制定条約」等の一部, 破棄院やコンセイユ デタ (フランス行政最高裁判所) のいくつかの判例を講読した参考書:

初学者にも使いやすい本格的な仏和辞書として, 少々かさばり, やや値も張るが, 田村毅・他編「ロワイヤル仏和中辞典」2 版 (2005) 税込 6,300 円, を一応挙げておく。

外国法演習 (仏)【2006 年度以前入学者】【F 系列】(秋学期)

外国法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

フランス法入門そしてフランス法文献の読み方と調べ方  
講師 小川 健

授業科目の内容:

内容その他については, 本科目の春学期の講義要項・シラバスを参照のこと。

外国法演習 (ラテンアメリカ)【2006 年度以前入学者】【F 系列】(春学期)

外国法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

ラテンアメリカ法研究のためのスペイン語とポルトガル語  
准教授 前田 美千代

授業科目の内容:

本演習では, 特にラテンアメリカ法研究の基礎となる, スペイン語とポルトガル語の基本的事項を学習しつつ, 受講生の状況に合わせて, スペイン消費者法を条文ごとに検討します。

テキスト:

プリント配布

参考書:

森征一・二宮正人著『ポ日法律用語集』(有斐閣, 二〇〇〇年)  
山田信彦編著『スペイン語法律用語辞典』(信山社, 二〇〇六年)

外国法演習 (ラテンアメリカ)【2006 年度以前入学者】【F 系列】(秋学期)

外国法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

准教授 前田 美千代

授業科目の内容:

春学期に進歩状況に合わせて, スペイン消費者法を継続購読し, 日本法や他のヨーロッパ諸国の法と比較しつつ検討する。

テキスト:

プリント配布

参考書:

森征一・二宮正人著『ポ日法律用語集』(有斐閣, 二〇〇〇年)  
山田信彦編著『スペイン語法律用語辞典』(信山社, 二〇〇六年)

会社法 ・ 商法 A・B に記載しています

会社法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

会社法 【2007 年度以降入学者】【基幹】(秋学期)

教授 山本 爲三郎

授業科目の内容:

会社法に関する一般講義。全体を通して少なくとも卒業論文程度の水準での講義にしたいと思います。対象とするのは, 会社法ファイナンス応用 (株式会社会計, 募集株式発行等) および企業の起業・再編に関する諸問題です。会社法ガバナンス (株式会社の機関) および会社法ファイナンス基礎 (株式) を前提とするので, 会社法 (商法 A) および会社法 (商法 B) を履修しておくことを勧めます。

テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方 第 7 版』(八千代出版, 2008 年)

海洋法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

国際海洋法【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

海の国際法の変動と現状 講師 青木 隆

授業科目の内容:

海洋法条約を中心とする現代の海洋国際法における色々な制度の現状について, その歴史的背景や交渉の経過, 事例等を用いて講述します。

テキスト:

特に指定しません。初回授業において次項 (参考書) とともに説明します。

参考書:

国連海洋法条約, 同第 11 部実施協定, 同公海漁業実施協定等の主要な条文の参照が必要となります。

環境法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)

環境法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

法はどのようにして環境を破壊から守ろうとしているのか(基礎編)  
法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容:

受講者が環境法の全体像を 1 年間 (春学期, 秋学期) でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は, さまざまな分野にわたって発生しています。なかには, 私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり, 私たちの世代だけでなく, 次の世代にまで影響を及ぼし, あるいは国内にとどまらず, 地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り, 後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか, ということを考えながら進めていきます。春学期は, 下記授業の計画に記載してある内容を講義する予定です。

テキスト:

プリントを配る予定です。

参考書:

・大塚 直「環境法 第 2 版」有斐閣, 2006 年  
・交告直史・白杵知史・前田陽一・黒川哲志「環境法入門〔補訂版〕」有斐閣, 2007 年

環境法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

環境法 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

法はどのようにして環境を破壊から守ろうとしているのか(発展編)  
法務研究科 教授 六車 明

授業科目の内容:

受講者が環境法の全体像を 1 年間 (春学期, 秋学期) でとらえることができるようになることを目標に講義を進めます。環境問題は, さまざまな分野にわたって発生しています。なかには, 私たち自身が被害者であるとともに加害者であったり, 私たちの世代だけでなく, 次の世代にまで影響を及ぼし, あるいは国内にとどまらず, 地球全体に影響を及ぼす問題もあります。環境法の対象もますます広がってきています。法はどのようにして環境を破壊から守り, 後の世代によりよい環境を残そうとしているのであろうか, ということを考えながら進めていきます。秋学期は, 下記授業の計画に記載してある内容を講義する予定です。

テキスト:

プリントを配る予定です。

参考書:

・大塚 直「環境法 第 2 版」有斐閣, 2006 年  
・交告直史・白杵知史・前田陽一・黒川哲志「環境法入門〔補訂版〕」有斐閣, 2007 年

企業税法 租税法 に記載しています

企業法総論 商法 A に記載しています

企業取引法 商法 B に記載しています

行政法 A【2006 年度以前入学者】【E 系列】(春学期)

行政法総論【2007 年度以降入学者】【基幹】(春学期)

行政法基礎理論 講師 大橋 洋一

授業科目の内容:

行政法とはどのような科目なのか, 民法とはどこが異なるのか, そうした特質を反映してどのような法理が形成されてきたのか, を説明します。続いて, 市民の地位を高めるための具体的な仕組みについて, 解説します。特に, 行政手続, 情報公開を丁寧に扱います。本講義では, 行政法総論と呼ばれる分野の基礎部分が対象となります。

テキスト:

大橋洋一「行政法 現代行政過程論」(有斐閣, 2009 年 4 月刊行予定)  
教科書の刊行は, 4 月より若干遅れ, 開講時には間に合わないかもしれません。

その場合には, 刊行までの間, 詳細なレジュメを配布します。

参考書:

大橋洋一・斎藤誠・山本隆司「行政法判例集 総論・組織法 第 2 版」(有斐閣, 2006 年)

行政法 B【2006 年度以前入学者】【E 系列】(秋学期)

行政法総論【2007 年度以降入学者】【基幹】(秋学期)

行政の行為形式論 講師 大橋 洋一

授業科目の内容:

行政が市民に対してどのような活動を行ってくるのか, 代表的な活動類型を分析したいと思います。これは, 行政の行為形式と呼ばれるものです。六法に出ている行政法規には, しばしば用いられているものです。

皆さんが英文法を勉強してから英語の本の読解に臨んだのと同様に、これから行政法規を一人で読み解けるように、現行法の基礎にある文法事項を丁寧に解説したいと思います。

テキスト：

大橋洋一「行政法 現代行政過程論」(有斐閣, 2009年4月刊行予定) 教科書の刊行は、4月より若干遅れるかもしれません。

参考書：

大橋洋一・斎藤誠・山本隆司「行政法判例集 総論・組織法 第2版」(有斐閣, 2006年)

行政法 A【2006年度以前入学者】【E系列】(春学期)

行政救済法 【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)

行政争訟法 准教授 青木 淳一

授業科目の内容：

国や地方公共団体が当事者として登場する法律問題を考察の対象とするのが、行政法である。私たちの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。大学入学時に提出する住民票は市町村が管理しているし、自動車を運転するには各都道府県の公安委員会が発行する免許が必要であるし、通学に利用する鉄道の運賃は国(国土交通大臣)の認可を受けたものである。

行政法は「行政組織法」、「行政作用法」、「行政救済法」の三本柱をもって体系を構成している。このうち「行政救済法」は、行政活動によって権利を侵害され、財産的損害を被った国民に対し、事後的な救済を図るためにある。本講義はこうした「行政救済法」の中でも、とりわけ「行政不服審査法」(違法・不当な行政活動を排除するよう、行政機関に求める)と「行政事件訴訟法」(違法な行政活動を排除するよう、裁判所に求める)を中心に扱う(これらをあわせて、講学上「行政争訟法」と呼ぶことが多い)。

テキスト：

稲葉馨/人見剛/村上裕章/前田雅子『行政法』(有斐閣: Legal Quest シリーズ)

櫻井敬子/橋本博之『行政法』(弘文堂)

小早川光郎/宇賀克也/交告尚史=編『行政判例百選』(有斐閣)

平成21年版『六法』(出版社は問わない)

注意 いわゆる「教科書」として、またはを薦めるが、開講時に行う文献案内を聞いてから各自が使いやすい「教科書」を入手されたい。いずれも、講義開始の時点で入手可能な最新版を用いる。

参考書：

学習上有益な教科書、体系書、判例集等については、開講時に文献案内を行う。

行政法 B【2006年度以前入学者】【E系列】(秋学期)

行政救済法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

国家補償法 准教授 青木 淳一

授業科目の内容：

国や地方公共団体が当事者として登場する法律問題を考察の対象とするのが、行政法である。私たちの日常生活を見渡せば、実に多種多様な行政活動が関わっていることが容易にわかるだろう。大学入学時に提出する住民票は市町村が管理しているし、自動車を運転するには各都道府県の公安委員会が発行する免許が必要であるし、通学に利用する鉄道の運賃は国(国土交通大臣)の認可を受けたものである。

行政法は「行政組織法」、「行政作用法」、「行政救済法」の三本柱をもって体系を構成している。このうち「行政救済法」は、行政活動によって権利を侵害され、財産的損害を被った国民に対し、事後的な救済を図るためにある。本講義はこうした「行政救済法」の中でも、とりわけ「国家賠償法」(違法な行政活動に起因する損害の賠償)と、公の営造物の設置・管理の瑕疵に起因する損害の賠償)と「損失補償」(行政活動により一部の国民が払った「特別の犠牲」に対する補償)を中心に扱う(これらをあわせて、講学上「国家補償法」と呼ぶことが多い)。

テキスト：

稲葉馨/人見剛/村上裕章/前田雅子『行政法』(有斐閣: Legal Quest シリーズ)

櫻井敬子/橋本博之『行政法』(弘文堂)

小早川光郎/宇賀克也/交告尚史=編『行政判例百選』(有斐閣)

平成21年版『六法』(出版社は問わない)

注意 いわゆる「教科書」として、またはを薦めるが、開講時に行う文献案内を聞いてから各自が使いやすい「教科書」を入手されたい。いずれも、講義開始の時点で入手可能な最新版を用いる。

参考書：

学習上有益な教科書、体系書、判例集等については、開講時に文献案内を行う。

行政法 A【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

行政組織法 【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

講師 田村 泰俊

授業科目の内容：

本講義では、行政法の中でも、広義の行政組織すなわち地方自治法、国の行政組織法、行政組織を担う公務員法及び行政組織としての訴訟対応を主にその対象とする。この分野は、法科大学院や公務員を志望する者には必須のものであるにもかかわらず、比較的、手薄になりやすい。そこで、行政法の基礎理論を含め、丁寧に進めて行くこととしたい。特に、地方自治法は最近も改正されており、独学では、その把握が困難であると思われるから、上記の進路を志望する者には履修をすすめてたい。

テキスト：

開講時に指示する

参考書：

・宇賀克也『行政法概説』(有斐閣)

・塩野 宏『行政法』(有斐閣)

行政法 B【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

行政組織法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 田村 泰俊

授業科目の内容：

本講義では、行政法の中でも、広義の行政組織地方自治法、国の行政組織法、行政組織を担う公務員法及び行政組織としての訴訟対応を主にその対象とする。この分野は、法科大学院や公務員を志望する者には必須のものであるにもかかわらず、比較的、手薄になりやすい。そこで、行政法の基礎理論を含め、丁寧に進めて行くこととしたい。特に、地方自治法は最近も改正されており、独学では、その把握が困難であると思われるから、上記の進路を志望する者には履修をすすめてたい。

テキスト：

開講時に指示する

参考書：

・宇賀克也『行政法概説』(有斐閣)

・塩野 宏『行政法』(有斐閣)

行政法 A【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

行政作用法各論 【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

行政作用法各論: 規制行政法 講師 磯部 哲

授業科目の内容：

行政は、市民の幸せや公共の福祉の実現を目的として、さまざまな手法で市民の生活に関わるが、その際、行政は、法のもとに、法の命ずるところに従い行動しなければならない。行政法は、行政活動に対する授權と統制の法であるといえる。もっとも、ここで「行政」という場合に、具体的にどのような活動内容をイメージすればよいであろうか。

行政法(行政法総論)及び行政法(行政救済法)の講義でも、判例などを通じて断片的に具体例を取り上げることはあるが、現実具体的に我が国で現在どのような行政活動が行われているのかを、体系的に把握することはなかなか困難である。そこで、本講義のねらいは、「行政法全体の鳥瞰図を描かない限り、行政法の研究・学習はうまくいかない」との思いから、「『行政作用法各論』の復権」を実現しようとするところにある(以上について参照、藤原淳一郎、法学研究79巻1号(2006年)35頁)。春学期には、行政作用法各論の位置づけ・概観ののちに、主として「規制行政」の領域について講義をする予定である。

基本的には講義形式で行うが、受講者の人数によっては、演習的な要素も加味できればと考えている。

テキスト：

指定しない。必要に応じ参考資料を配布する。六法は必携のこと。

参考書：

開講時のほか、各回のテーマに応じて適宜紹介する。

行政法 B【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

行政作用法各論 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

行政作用法各論: 給付行政法 講師 磯部 哲

授業科目の内容：

行政は、市民の幸せや公共の福祉の実現を目的として、さまざまな手法で市民の生活に関わるが、その際、行政は、法のもとに、法の命ずるところに従い行動しなければならない。行政法は、行政活動に対する授權と統制の法であるといえる。もっとも、ここで「行政」という場合に、具体的にどのような活動内容をイメージすればよいであろうか。

行政法(行政法総論)及び行政法(行政救済法)の講義でも、判例などを通じて断片的に具体例を取り上げることはあるが、現実具体的に我が国で現在どのような行政活動が行われているのかを、体系的に把握することはなかなか困難である。そこで、本講義のねらいは、「行政法全体の鳥瞰図を描かない限り、行政法の研究・学習はうまくいかない」との思いから、「『行政作用法各論』の復権」を実現しようとするところ

## 法律

にある（以上について参照、藤原淳一郎、法学研究 79 巻 1 号（2006 年）35 頁）。秋学期には、主として「給付行政」の領域について講義をする予定である。

基本的には講義形式で行うが、受講者の人数によっては、演習的な要素も加味できればと考えている

テキスト：

指定しない。必要に応じ参考資料を配布する。六法は必携のこと。

参考書：

開講時のほか、各回のテーマに応じて適宜紹介する。

---

行政法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(春学期)

行政法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

講師 竹之内 一 幸

授業科目の内容：

行政法理論を中心に、その理解を目的とします。

授業は、行政法の各テーマについての講義、判例研究、関連課題の検討から構成されます。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思えます。

テキスト：

宇賀克也編『ブリッジブック行政法』（信山社）

参考書：

行政判例百選 ・ （有斐閣）

---

行政法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(秋学期)

行政法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 竹之内 一 幸

授業科目の内容：

行政法理論を中心に、その理解を目的とします。

授業は、行政法の各テーマについての講義、判例研究、関連課題の検討から構成されます。

受講者数にもよりますが、演習ですから「参加型」の授業にしたいと思えます。

テキスト：

宇賀克也編『ブリッジブック行政法』（信山社）

参考書：

行政判例百選 ・ （有斐閣）

---

行政作用法各論 ・ 行政法 A・B に記載しています

---

行政救済法 ・ 行政法 A・B に記載しています

---

行政組織法 ・ 行政法 A・B に記載しています

---

行政法総論 ・ 行政法 A・B に記載しています

---

金融商品取引法【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

金融商品取引法【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 鳥山 恭 一

授業科目の内容：

金融商品取引法が定めている資本市場法制の全般について講義する予定です。

テキスト：

初回の授業において指示します。

参考書：

適宜授業中に指示します。

---

金融論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)

金融論 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

経済学部 教授 吉野 直行

授業科目の内容：

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融 第2版』有斐閣
  - ・吉野直行・藤田康範・土居文朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
  - ・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
  - ・吉野直行『信託・証券化ファイナンス』慶應義塾大学出版会
- その他の参考文献は、講義の中で説明する。

---

金融論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

金融論 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

経済学部 教授 塩澤 修平

授業科目の内容：

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概説する。

テキスト：

塩澤『現代金融論』創文社、2002 年

参考書：

適宜指示する。

---

経営学 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)

経営学 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

商学部 教授 三橋 平

授業科目の内容：

本講義の目的は、経営学の基礎に触れることで、企業や組織の仕組みや行動に関する理解を深めることにある。具体的には、(1) 企業活動や組織行動に関する概念や用語に関する理解を深めること、(2) 概念や用語に関連した背景となる理論について理解を深めること、(3) 概念や理論が実際の企業行動を理解、分析する際に、どの程度説明力を持つのかを議論すること、の3点である。本講義への取り組みを通じ、学生諸君が、新聞や経済・ビジネス雑誌が発信する情報などから、行間が読み、より洞察に富んだ、オリジナリティの高い分析が行えることができるよう講義を行っていきたい。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之/加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社、2003 年
  - ・坂下昭宣『経営学への招待』白桃書房、2007 年
- その他講義で随時指示する。

---

経営学 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

経営学 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

商学部 教授 渡部 直樹

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・A. ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999 年
- ・ダウマ=シュルター「組織の経済学入門」文眞堂、2007 年

---

経済原論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)

経済原論 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

経済学部 教授 中村 慎助

授業科目の内容：

春学期には主としてミクロ経済学の基礎理論とその応用について述べる。

1. 消費者の行動
2. 生産者の行動
3. 市場の均衡
4. 独占と寡占
5. 市場機構と経済の効率

---

経済原論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

経済原論 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

経済学部 教授 前多 康男

授業科目の内容：

秋学期には主としてマクロ経済学の基礎理論とその応用について述べる。

1. マクロ経済学とは
2. 国民経済計算
3. 財市場の均衡
4. 資産市場の均衡
5. IS=LM モデル
6. 国際マクロモデル

テキスト：

講義ノートを配付する。

経済政策 【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)	
経済政策 【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)	
政府が市場に介入する根拠は何か	講師 川野辺 裕幸

## 授業科目の内容:

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠:その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

授業計画を参照。

経済政策 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)	
経済政策 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)	
政府が市場に介入する根拠は何か	講師 川野辺 裕幸

## 授業科目の内容:

春学期開講の経済政策( )に続いて、経済政策の各論を講義する。今年度は福祉政策を中心に行う。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

授業計画を参照。

経済法 【2006年度以前入学者】【E系列】(春学期)	
経済法 【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)	
	教授 田村次朗

## 授業科目の内容:

経済法は、資本主義経済を支える経済憲法である独占禁止法を中心として構成されている。本講義では、経済法について、その理論的支柱である独占禁止法を中心に、法的論点について具体的事例を使い解説する。ただし、本講義では、経済法の理論的側面だけでなく、企業法務など実務において、実際に経済法がどのような機能を果たしているのか、実務特有の問題意識もあわせて解説する。

## テキスト:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』(弘文堂 2006)

## 参考書:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』(弘文堂 2006)

経済法 【2006年度以前入学者】【E系列】(秋学期)	
経済法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)	
	教授 田村次朗

## 授業科目の内容:

本講義は、経済法 においてとりあげた経済法に関する基本的な理解を前提として、資本主義経済体制を支える経済法に関する最新の論点を取り上げる。特に、経済法を理解するうえで重要となる関連分野とのインターフェースなどを重視し、多角的視点から、経済法が経済活動に与えている影響を整理する。たとえば、企業戦略と独占禁止法の関係、経済法分野において浸透しつつある「法と経済学」的な分析手法の現状とその限界、さらに、近年話題となっている企業倫理・企業の社会的責任との関係で重要となるコンプライアンス(法令遵守)などを取り上げる。

## テキスト:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』(弘文堂 2006)

## 参考書:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』(弘文堂 2006)

刑事政策 【2006年度以前入学者】【C系列】(春学期)	
刑事政策(刑事制裁論)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)	
刑事制裁論	教授 太田達也

## 授業科目の内容:

刑事制裁としての刑罰と処分の意義、要件、効果などについて概説する。刑事司法制度を刑事制裁の側面から正しく理解し、刑事司法の実務や政策立案に必要な基礎的思考・分析能力を養うことを目的とする。

## テキスト:

守山正=安部哲夫『ピギナーズ刑事政策』成文堂  
法務総合研究所『平成20年版犯罪白書』

## 参考書:

その他の参考資料は講義の内容に応じて紹介する。

刑事政策 【2006年度以前入学者】【C系列】(秋学期)	
刑事政策(犯罪者処遇論)【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)	
犯罪対策と犯罪者処遇の課題	講師 安部哲夫

## 授業科目の内容:

春学期の刑事立法・刑事制裁論・刑罰制度をめぐる諸問題について、秋学期には個々の犯罪対策および犯罪者処遇の現状と課題について検討します。施設内処遇を根拠づける「被収容者処遇法(2006年)」と、社会内処遇を基礎づける「更生保護法(2007年)」について学習するほか、それらの法律が整備されるに至ったこれまでの経緯をはじめ、今日の犯罪者処遇において問題とされる点をとりあげます。また、個々の犯罪者群に応じた犯罪対策を処遇面と合わせて論じます。具体的には性犯罪、高齢者犯罪、少年犯罪、精神障害犯罪、薬物乱用犯罪、暴力団犯罪、女子犯罪、来日外国人犯罪、交通犯罪などです。

## テキスト:

守山正=安部哲夫(編)『ピギナーズ刑事政策』成文堂,2008年

## 参考書:

法務総合研究所(編)『平成20年版犯罪白書』,2008年

刑事政策演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)	
刑事政策演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)	
犯罪対策と犯罪者処遇の課題	講師 安部哲夫

## 授業科目の内容:

この演習では、「犯罪対策と犯罪者処遇の課題」をテーマに、最近の犯罪動向を概観したのち、近時の新たな刑事立法の意義と問題点について検討します。さらに、行刑改革や更生保護改革がもたらした新たな犯罪者処遇法である「被収容者処遇法(2006年)」と「更生保護法(2007年)」の論点についても検討を進めるつもりです。受講生の数にもよりますが、半分ほどの授業日程では、私のほうで、問題状況の整理をし、個々の課題を論じることにはしますが、受講生によるレポートを中心に演習を進めることを考えています。予定される課題は次のとおりです。

1. 国際化の流れによる刑事立法政策と犯罪者処遇
2. 被害者に配慮した刑事立法政策と犯罪者処遇
3. 犯罪者の社会復帰を促す政策
4. 受刑者の人権に配慮した政策
5. 個別の犯罪対策(性犯罪、交通犯罪、薬物犯罪、組織犯罪、精神障害犯罪、外国人犯罪、少年犯罪、女子犯罪、高齢者犯罪、企業犯罪など)

## テキスト:

守山正=安部哲夫(編)『ピギナーズ刑事政策』成文堂,2008年  
上記テキストのほか、適宜授業資料プリントを配布します。

## 参考書:

法務総合研究所(編)『平成20年版犯罪白書』,2008年

刑事政策演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)	
刑事政策演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)	
わが国の少年司法制度の実際と課題	講師 伊藤直文

## 授業科目の内容:

犯罪・非行のない社会を目指すのが刑事政策の目標である。その意味でこの領域は、法学知識に留まらず、利用可能なあらゆる関係諸科学の知識や社会常識に至る広い視野から考えるべきものだろう。とりわけ近年では、司法の社会化の潮流の中で、刑事政策は、国家だけでなく、市民間の活動をも包含して考えなければならないものになりつつある。

担当者は、家裁調査官の経験をもつ臨床心理学専攻の教員であり、この授業でも受講者の法学的関心に応えることはできないが、上のような視点を加味しつつ、制度の各段階における運用の実際や課題について、家裁実務家、心理臨床家としての経験を踏まえながら、受講生とともに考えていきたい。

担当者の経験、知識の限界から、今回は少年司法制度のみ扱うことになるので、刑事政策全般については、参考書、他講義などで補って欲しい。

## テキスト:

テキストは特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布、紹介をする。

## 参考書:

- ・澤登俊雄「少年法入門 第4版」有斐閣ブックス
- ・前野育三他「刑事政策のすすめ(第2版)」法律文化社(2007)
- ・藤岡淳子編「犯罪・非行の心理学」有斐閣ブックス(2007)

刑事政策演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(春学期)  
 刑事政策演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 刑事政策におけるパラダイム変換を学ぶ  
 講師 諸 沢 英 道

授業科目の内容：

刑事政策は、今、大きく変わろうとしている。1955 年以来、世界の刑事政策を引っ張ってきた「犯罪防止および犯罪者の処遇に関する国連会議（通称、国連犯罪防止会議）」は、創設 50 周年に当たる 2005 年から「犯罪防止および刑事司法に関する国連会議」と名称を変えた。

それは、犯罪者の処遇における近代化、人道化、したがって、犯罪者の人権確立が最優先課題であった 20 世紀の刑事政策から、「社会の安全」「人々の安心」が最優先課題である 21 世紀の刑事政策への変換を意味している。つまり、捜査に始まり、刑事裁判、犯罪者の社会復帰に至る「刑事司法制度」に被害者や国民が参加し、国民の感覚に近づける制度への大改革である。

受講者のみなさんには、この講義を通して、刑事政策に求められている発想の転換、すなわち「パラダイムの変換」を学んでいただくと同時に、パラダイム変換の中核をなす「被害者の視点に立った刑事政策」についても理解を深めていただく。

日本における「被害者の視点の導入」は、欧米に 20 年以上も遅れただけでなく、この問題についての正しい理解をしている専門家は少ない。最近の 10 年間に被害者をめぐるさまざまな問題が起こっているが、その問題に対する専門家の指摘にも偏見に満ちたものが散見される。

この授業では「現場第一」という刑事政策の大原則にこだわり、理論と現実がいかに違っているかを理解してもらうことになる。また、国連犯罪防止会議での議論がわが国の刑事政策にも大きく影響を与えるようになったという現実も知ってもらうつもりである。刑事政策の最大のテーマである「安全」と「安心」をいかに実現するかを、受講者と共に考えていきたい。

テキスト：

諸澤英道著「新版被害者学入門」成文堂、2001 年

参考書：

諸澤英道著「被害者のための正義」成文堂、2003 年

刑事訴訟法 【2006 年度以前入学者】【C 系列】(春学期)  
 刑事訴訟法 【2007 年度以降入学者】【基幹】(春学期)  
 教授 安 富 潔

授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どのような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することといっでよいでしょう。そこで、個人の基本的な人権と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判もそうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を目指し、秩序と平穏を伴った社会を築いていくうえで、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えてみたいと思います。

講義では、捜査から弁論にいたるまで、その流れにしたがって、第一審の刑事手続きを概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

テキスト：

安富潔『刑事訴訟法講義』（慶應義塾大学出版会、2007 年）

参考書：

安富潔『演習講義・刑事訴訟法』（第二版）（法学書院）

刑事訴訟法 【2006 年度以前入学者】【C 系列】(秋学期)  
 刑事訴訟法 【2007 年度以降入学者】【基幹】(秋学期)  
 教授 安 富 潔

授業科目の内容：

刑事訴訟法は、刑法を具体的に実現する手続法です。つまり、抽象的に刑法に定められた犯罪と刑罰を、個々の事件に具体的にあてはめて、どのような犯罪事実が誰によって行われたかを明らかにし、その犯人に対して適切な刑罰を科す手続を定めた法律が刑事訴訟法というわけです。

今日の社会における刑事訴訟法で求められているのは、国家の権限行使が個人の自由を不当に侵害することのないように配慮することといっでよいでしょう。そこで、個人の基本的な人権と自由の保障を確保することが重要な意義を有することになります。刑事裁判もそうした理念のもとに運用されることが大切です。

自由で豊かな社会を目指し、秩序と平穏を伴った社会を築いていくうえで、ふさわしい刑事訴訟の理想を実現するために、どのような基本原理が妥当し、その原理にしたがって法的規律がなされるべきかを考えて

みたいと思います。

講義では、審判の対象、証拠、裁判について概説し、あわせて重要な論点について詳説し、実務的な話題を折り込んでみなさんが考える素材を提供したいと思います。

テキスト：

安富潔『刑事訴訟法講義』（慶應義塾大学出版会、2007 年）

参考書：

安富潔『演習講義・刑事訴訟法』（第二版）（法学書院）

刑事訴訟法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(春学期)  
 刑事訴訟法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 刑事手続の諸問題 准教授 亀 井 源太郎

授業科目の内容：

刑事手続一般に関する演習を行う。講義の具体的な進め方については、参加者の多寡等を考慮して決定する。

テキスト：

井上正仁『刑事訴訟法判例百選（第 8 版）』（2005 年、有斐閣）

参考書：

2005 年以降に刊行された『重要判例解説』（各年、有斐閣）を適宜参照すること。

刑事訴訟法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(秋学期)  
 刑事訴訟法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 刑事手続の諸問題 准教授 亀 井 源太郎

授業科目の内容：

刑事手続一般に関する演習を行う。講義の具体的な進め方については、参加者の多寡等を考慮して決定する。

テキスト：

井上正仁『刑事訴訟法判例百選（第 8 版）』（2005 年、有斐閣）

参考書：

2005 年以降に刊行された『重要判例解説』（各年、有斐閣）を適宜参照すること。

刑法 A【2006 年度以前入学者】【C 系列】(春学期)  
 刑法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 刑法の重要問題（総論） 講師 高 橋 則 夫

授業科目の内容：

刑法総論の重要論点および重要判例を検討する。

テキスト：

追って指示する。

参考書：

授業中指示する。

刑法 B【2006 年度以前入学者】【C 系列】(秋学期)  
 刑法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 刑法の重要問題（各論） 講師 高 橋 則 夫

授業科目の内容：

刑法各論の重要論点および重要判例を検討する。とくに財産犯を中心に扱う。

テキスト：

追って指示する。

参考書：

授業中指示する。

刑法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(春学期)  
 刑法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 刑法総論の諸問題 准教授 亀 井 源太郎

授業科目の内容：

刑法総論に関する演習を行う。講義の具体的な進め方については、参加者の多寡等を考慮して決定する。

テキスト：

山口厚『新判例から見た刑法（第 2 版）』（2008 年、有斐閣）

参考書：

特に指定しない。

刑法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(秋学期)  
 刑法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 刑法各論の諸問題 准教授 亀 井 源太郎

授業科目の内容：

刑法各論に関する演習を行う。講義の具体的な進め方については、参加者の多寡等を考慮して決定する。

テキスト：

山口厚『新判例から見た刑法（第 2 版）』（2008 年、有斐閣）

参考書：  
特に指定しない。

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
井田良『刑法総論の理論構造』を読む

専任講師 佐藤拓磨

授業科目の内容：

昨年度までは判例を素材にして演習を行っていたが、本年度は趣向を変え、一冊の本を履修者とともに読み解いていきたい。

毎週、レポーターに1章ないし2章分の内容の要約をしてもらい、それをともに全員で討論をするという形式をとる。

テキスト：

井田良『刑法総論の理論構造』(成文堂, 2005)

参考書：

井田良『講義刑法学 総論』(有斐閣, 2008)

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

専任講師 佐藤拓磨

授業科目の内容：

春学期に引き続き、指定したテキストを履修者とともに読み解いて行く。毎週、レポーターに1章ないし2章分の内容の要約をもらい、それをともに全員で討論をするという形式をとる。

テキスト：

井田良『刑法総論の理論構造』(成文堂, 2005)

参考書：

井田良『講義刑法学 総論』(有斐閣, 2008)

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
比較研究 刑法判例百選 [第5版] vs [第6版]

法務研究科 准教授 和田俊憲

授業科目の内容：

物の本質は、他の物との比較によって見えてくるものである。『刑法判例百選 総論・各論』の[第6版](2008年)を,[第5版](2003年)の同じ項目と比較しながら読み、5年の歳月が判例・学説に及ぼした影響の有無を確認しつつ、最新の判例理解の本質に迫る。

テキスト：

『刑法判例百選 総論・各論』[第5版](2003年), 同[第6版](2008年)

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
比較研究 刑法判例百選 [第5版] vs [第6版]

法務研究科 准教授 和田俊憲

授業科目の内容：

基本的に、春学期の演習と同一内容で行う。すなわち、『刑法判例百選 総論・各論』の[第6版](2008年)を,[第5版](2003年)の同じ項目と比較しながら読み、5年の歳月が判例・学説に及ぼした影響の有無を確認しつつ、最新の判例理解の本質に迫る。もっとも、諸般の状況変化に対応して、履修者と相談しつつ、内容を変更することがある。

テキスト：

『刑法判例百選 総論・各論』[第5版](2003年), 同[第6版](2008年)

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

講師 河村博

授業科目の内容：

刑事法についての総合的理解、判例の分析能力等の修得を目的としています。

そのため、最新の最高裁判例、過去の基本判例等を題材に、刑法を中心としつつ、手続法・特別法も含めた法領域についての講義・ディスカッションを行います。

テキスト：

最新判例等の写(授業中配布)

参考書：

ジュリスト別冊 刑法総論・各論, 刑事法判例百選(有斐閣), 条解刑法(弘文堂)

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 河村博

授業科目の内容：

刑事法についての総合的理解、判例の分析能力等の修得を目的としています。

そのため、最新の最高裁判例、過去の基本判例等を題材に、刑法を中心としつつ、手続法・特別法も含めた法領域についての講義・ディスカッションを行います。

テキスト：

最新判例等の写(授業中配布)

参考書：

ジュリスト別冊 刑法総論・各論, 刑事法判例百選(有斐閣), 条解刑法(弘文堂)

刑法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)(秋学期)  
刑法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)  
刑法理論と実務

講師 瀬戸毅

授業科目の内容：

刑法の基本的理論が、具体的事例を解決する上でどのような役割を果たしているかを理解し、実務に即した法的思考を涵養してもらうことを目的とする。そのため、あらかじめ具体的事例を提供し、その問題を解決するために検討すべき刑法理論を概観するとともに、当該論点に関する判例の動向にも留意しながら、法律の具体的事例への当てはめの過程を学んでもらい、かつ、その結論の妥当性についても議論する予定である。

また、検察実務及び法務行政に携わった経験を有する現職の検事として、実際の捜査・公判の在り方や法律実務家が行政の分野で果たす役割についても、適宜紹介したい。

テキスト：

なし

参考書：

なし

刑法演習(講師 高橋則夫) 刑法 A・Bに記載しています

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
憲法 教授 小林節

授業科目の内容：

日本国憲法を研究する。論点方式で、憲法の体系に従って、全員で討論を展開し、当該論点の理解を深める。また、学年の途中で憲法に関する重要な判決がくだされた場合には、その検討も行う。一年間で、日本国憲法に関する重要な論点を縦て網羅する予定である。なお、3年次の一月に卒業研究の指導を始める。卒業研究の課題と方法は各自の好みと必要に応じて選択する。

テキスト：

特になし。

参考書：

特に指定せず。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
基本的人権の諸問題 教授 小山剛

授業科目の内容：

3年次はレポーターによる報告形式により、基本的人権に関する重要論点について研究する。取り扱う論点は受講者と相談のうえで決定するが、本年度は、最高裁の判例法理についてその射程、意義および問題点を検討することに重点を置く。1つのテーマをレポーターによる重要判例についての報告および質疑応答、担当者による関連判例および学説についての解説、関連する具体的問題についてのディベート、という3つのユニットから掘り下げて考察することにより、真に活用しうる理解の涵養を教育目標とする。

テキスト：

・小山剛=駒村圭吾編『論点探求憲法』弘文堂, 2005年

・井上典之=小山剛=山元一編『憲法学説に聞く ロースクール憲法』日本評論社, 2004年

判例集として、憲法判例百選(第5版が刊行される予定である)または戸松秀典=初宿正典編『憲法判例』を用意すること。また、担当者が編集した判例演習教材として、法科大学院生向けであるが、棟居快行=工藤達朗=小山剛編集代表『プロセス演習憲法』(第三版が最新版)がある。

参考書：

開講に先立ちガイダンスをおこない、具体的に指示する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
日本憲法の理論的研究 法務研究科 教授 山元 一

授業科目の内容:

本研究会の目的は、日本憲法の判例と学説についてさまざまな観点から、理論的に考察することである。もちろんその目的のために外国憲法の研究を行うこともありうる。3年次生には、重要な憲法判例の学習や憲法学説の動向について、レポーターを定めて報告してもらい、それを通じて基礎知識を深めてもらい、4年次でのより専門的な研究のための土台をつくるのが目標である。観点としては、具体的に、法哲学的観点、政治学的観点、実定法学的観点、実務的観点などがある。

テキスト:  
追って指示する  
参考書:  
追って指示する

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
行政法研究 准教授 青木 淳 一

授業科目の内容:

行政法の領域で議論されるべき裁判例や時事問題を素材に、行政法の理論と実務を学ぶ。  
テキスト:  
いわゆる基本書その他の主要な文献のほか、資料調査方法について、開講時にガイダンスを行う。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
租税回避行為の研究 教授 吉村 典久

授業科目の内容:

租税法および国際租税法の基礎知識を修得し、国際的租税回避行為や米仏独における租税回避行為など重要な租税問題につき、十分に理解できる基礎学力を養成します。法律的会話をを行うことができるようになれば、本授業の目標は達成されたと認められます。  
テキスト:  
・金子宏『租税法』弘文堂  
・『実務税法六法(法令編)』新日本法規  
・岸田ほか『現代税法の基礎知識』ぎょうせい  
参考書:  
・『租税判例百選』有斐閣  
・金子宏ほか『ケースブック租税法』弘文堂  
・金子宏・清水敬次・宮谷俊胤『税法入門』有斐閣新書

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 西川 理恵子

授業科目の内容:

国際商取引に関する法律について、下のテキストを使い勉強する。国際取引法を理解するには、日本法だけでなく、相手国の法も理解しなければならない。そこで、日本の最も重要な取引相手国がアメリカであることもあり、また、アメリカがコモンロー国家であるので、アメリカ合衆国における関連法も、視野に入れる。カバーする予定の問題は、国際売買契約および、それに関連するさまざまな問題、紛争解決手段としての商事仲裁などを含む。この研究会の目的は、国際取引という場面では、法とは何か、そして、それがどのように働くかを理解することである。  
テキスト:  
Folsom, Gordon, Spangle "International Business Transaction"

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
ラテンアメリカ法・民法 准教授 前田 美千代

授業科目の内容:

本研究会は、ラテンアメリカ諸国の法研究に関心のある者のほか、民法・消費者法の学習・研究を行う意欲のある者、また、ラテンアメリカ地域に関心があり、歴史・言語・民族・社会・文化等にかかわる諸問題を法との関係を踏まえて学習・研究する意欲のある者の学習・研究をサポートし、共に学ぶことを目的とする。  
テキスト:  
開講時にリストを配布する。  
参考書:  
開講時に指示。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 大森 正仁

授業科目の内容:

国際法の基本的な理解とその具体的な場面への適用について研究することを目標とします。前者については個別の問題についてレポートの作成を、後者については4年生との模擬裁判を通じて行います。  
テキスト:  
・杉原高嶺他『現代国際法講義』(有斐閣, 第4版, 2007年)  
・広部・杉原編『解説条約集 2009年版』(三省堂, 2009年)  
参考書:  
・栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)  
・山本草二他『国際法判例百選』(有斐閣, 2001年)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 明石 欽司

授業科目の内容:

担当者が用意する幾つかの選択肢のなかから、参加者の希望と既習得語学等を考慮して、研究会の進め方を決定する。  
研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
専任講師 尹 仁河

授業科目の内容:

本研究会は国際法全般を対象としますが、中でも国際人権法および国際人道法に重点をおいて研究を行います。  
テキスト:  
・大森正仁編著『よくわかる国際法』(ミネルヴァ書房, 2008年)  
・広部和也・杉原高嶺編『解説条約集 2009年版』(三省堂, 2009年)  
参考書:  
・松井芳郎編『判例国際法』(東信堂, 第2版, 2006年)  
他、開講時に一覧を示します。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 安富 潔

授業科目の内容:

判例を素材にした争点の検討を中心とした刑事訴訟法の研究を行います。報告者の発表をもとに参加者全員によるディスカッション形式で進めていきます。  
問題解決能力の基本を養いたいと思います。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
刑事政策・被害者学・アジア法 教授 太田 達也

授業科目の内容:

本研究会は、刑事政策と被害者学について扱う。刑事司法制度、犯罪者処遇制度、犯罪予防論、被害者学に関する重要な問題について受講生に順番に報告してもらい、担当者を受講生全員で議論を行う。3年次には刑事政策の基本的な事項について正しく理解するとともに、刑事政策の問題に対する考察能力を深めることが課題である。また、犯罪者処遇の実務を知るため、夏期休暇中に合宿を兼ねた刑務所や少年院の見学を予定しているほか、学期中にも日帰りの関連施設の見学を実施したいと考えている。また、アジア法に関心のある受講生についても適宜指導を行うので、学習の成果を研究会の時間に報告してもらい、さらに関心があれば、卒業論文のテーマとすることも認める。  
テキスト:  
特に使用しない。  
参考書:  
犯罪白書の最新版を使用する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
准教授 オステン, フィリップ

授業科目の内容:

本研究会は、現在の国際刑事法およびその成立過程を主な対象とする。また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。  
テキスト:  
必要に応じて資料プリントを配布することにするが、毎回、六法および国際条約集(松井芳郎[編]『ベーシック条約集』[2008年版]東信堂(2008年)を推奨する)を持参されたい。

## 参考書：

- ・小長谷和高『国際刑事裁判序説〔第2版〕』尚学社（2007年）
  - ・安藤泰子『国際刑事裁判所の理念』成文堂（2002年）
  - ・東澤靖『国際刑事裁判所 法と実務』明石書店（2007年）
  - ・森下忠『新しい国際刑法』信山社（2002年）
  - ・村瀬信也＝洪恵子〔編〕『国際刑事裁判所』東信堂（2008年）
  - ・フィリップ・オステン「国際刑事裁判所の『位置づけ方』 国内法整備と刑事法の課題」国際人権19号（2008年）51頁以下
  - ・同「国際刑法における『中核犯罪』の保護法益の意義 ICC 規程批准のための日本の法整備と刑事実体法規定の欠如がもたらすものを素材として」慶應義塾大学法学部〔編〕『慶應の法律学 刑事法 慶應義塾創立150年記念法学部論文集』慶應義塾大学出版会（2008年）所収217頁以下
  - ・同「刑法の国際化に関する 考察 ドイツと日本における国際刑法の継受を素材に」法学研究79巻6号（2006年）51頁以下
  - ・同「国際刑事裁判所規程と国内立法 ドイツ『国際刑法典』草案を素材として」ジュリスト1207号（2001年）126頁以下
  - ・高山佳奈子「国際刑事裁判権」法学論叢154巻（2003年）1号1頁以下・2号22頁以下
  - ・Cassese, Antonio, International Criminal Law, 2<sup>nd</sup> edition (Oxford UP), 2008
  - ・Werle, Gerhard, Principles of International Criminal Law (Asser Press), 2005
- その他、随時指示する

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
刑法・刑事訴訟法の諸問題 准教授 亀井 源太郎

## 授業科目の内容：

判例や近年の重要な文献を素材とし、刑法・刑事訴訟法に関する研究を行う。

具体的な進め方は参加者の多寡等を勘案して決定するが、双方向ないし多方向での議論を実践したいと考えている。

## テキスト：

適宜指示する。

## 参考書：

適宜指示する。

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
専任講師 佐藤 拓磨

## 授業科目の内容：

本年度は、刑法各論の諸論点につき、深く掘り下げて検討を加えて行く。毎週、レポーターが教科書の指定された箇所についてのまとめと、課題に対する私見を報告し、その後全員で討論するという形を採る。

## テキスト：

中森喜彦・塩見淳編『ケースブック刑法2』（有斐閣、2006）

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
刑事法ゼミナール 法務研究科 教授 伊東 研祐

## 授業科目の内容：

現代社会状況の中で明らかになって来る刑事実体法、刑事手続法、刑事政策に関わる諸々の問題につき、その適正な解決を図るべく、自ら考える為の視座の形成を目的とします。当然ながら、問題を発見し、解析し、解決の為に調査する等々の能力の養成も行います。参加者の主体的な取り組みを前提とした、小人数のゼミです。

## テキスト：

指定しない。

## 参考書：

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
国際金融法務 法理論と法実務の架橋 法と経済の交錯  
教授 斎藤 和夫

## 授業科目の内容：

国際金融取引 法理論と法実務 を、「担保法」や「金融法」の視点から、考察します。

## テキスト：

特に指定しません。

## 参考書：

随時、指示します。

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
ゼミナール（民法財産法） 教授 池田 真朗

## 授業科目の内容：

民法財産法の事例問題を扱う。（問題は下記問題集からゼミ生が選択する）一週おきに4000字のレポート提出を課す。

レポートのない週は、ディベートの週として、全員に実質的な発言をすることを義務付ける。

夏合宿では、大きなテーマで学習し、夏合宿レポート（1万字）を課し、優秀作を法律学研究（学生論文集）に推薦する。

12月には恒例の早稲田大学鎌田薫ゼミとの合同ゼミを行う予定である（2006年度の出題講師は大村敦志東京大学教授、2007年度の出題講師は沖野眞一橋大学教授、昨年度は松岡久和京都大学教授）

## テキスト：

問題集として『スリーステップ民法ゼミナール』（一粒社、絶版）を使用。

## 参考書：

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社、2006年）、同『スタートライン債権法（第4版）』（日本評論社、2005年）の二冊は、ゼミ開始前に読了のこと。

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
家族法研究 教授 犬伏 由子

## 授業科目の内容：

家族法（民法 親族・相続編）を対象とします。具体的なテーマについては、受講生と相談の上決定しますが、家族法の諸論点を、学説・判例を踏えて検討すること、および、現代家族が抱える諸課題について立法論も含めて検討する予定です。

## 参考書：

「家族法判例百選（第7版）」有斐閣

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
国際私法研究 教授 北澤 安紀

## 授業科目の内容：

事例問題を素材に、国際私法および国際民事手続法上の基本問題について研究する。担当者が予め配布した課題について、参加者全員で議論を行うことで、国際私法および国際民事手続法の基本的な考え方について理解し、論理的思考能力および問題解決能力を養うことを目的とする。参加者には定期的にレポートの提出を課す予定である。

## テキスト：

特に指定しない。

## 参考書：

開講時に指示する。

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
民法（財産法）の総合的研究 教授 武川 幸嗣

## 授業科目の内容：

財産法分野に関する応用事例の演習を通して、基本的理解の深化ならびに応用的思考力の涵養を図ることを目的とする。具体的な進め方としては、班分けした上で、担当者が予め配布する課題（事例が中心）につき事前に各班で検討を行い（したがって自主的にサブゼミを開いてもらう）、本ゼミの際にその成果を班ごとにレポーターを立てて報告し、さらに全体で討議をしてもらう予定である。演習課題の対象範囲は年間を通して財産法全般にわたるよう、ゼミを進行していきたい。

このほか、夏期合宿を行い、集中的にまとまった課題研究を行う予定である。

## テキスト：

とくに共通のテキストは指定しないが、基本書レベルのものは開講時までに各自が通読していることを前提としてゼミを進行する。課題ごとの参考文献については必要に応じて逐次指示する。

## 参考書：

同上。

研究会（3年）【2006年度以前入学者】【F系列】（通年）4単位  
研究会（3年）【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）（秋学期）各2単位  
准教授 君嶋 祐子

## 授業科目の内容：

判例を中心に、特許法の基本的問題点について研究する。特許法の基本的問題点について、研究、議論することで、知的財産法の基本的な考え方について理解し、自分なりの意見を発言できるようにすることを目標とする。

## 法律

研究会では、予め与えられた課題について積極的に発言することを求められる。

次年度の研究会(4年)では、知的財産法の分野から各自テーマを選んで、卒論を作成する予定である。

テキスト:

別冊ジュリスト 170号・特許判例百選 [第3版] (2004)

各自、特許法の条文全文を持参のこと。

参考書:

初回に指示する。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法財産法研究 准教授 水津 太郎

---

授業科目の内容:

民法財産法の基本問題を、具体的な事例を素材として、参加者全員で自由に議論します。基本的知識の確認はもちろんですが、主眼はむしろ、各人が自由な発想で法的にものを考え、他者に対して適切に表現する力を身に付けることにあります。法的な思考と論理をとおして、問題を発見し、解決する能力を涵養することを目的とします。

参考書:

必要に応じて、随時指示します。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法財産法の総合的研究 法務研究科 教授 片山 直也

---

授業科目の内容:

春学期は、6つのサイクルに分け、各サイクルごとに1つのテーマを設定し、事例問題研究、討論研究(ディベート)および判例研究を組み合わせた双方向の多角的な演習を行い、論理的思考能力、問題解決能力の育成をめざす。

秋学期は、受講生が各自の研究テーマを選択し、近接するテーマごとにいくつかのグループを組み、各グループの構成員を中心に、裁判例や代表的な論文の分析研究を行い、4年次のリサーチペーパー、卒業論文の作成に備える。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

各テーマごとに、ゼミに先立って、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
法務研究科 教授 北居 功

---

授業科目の内容:

民法財産法について、主要なテーマを具体例を素材にしつつ扱いながら、参加者の議論を通じて、理解を深めることを目指している。従って、議論を深めるうえでも、各参加者には、事前の十分な予習を求めるとなる。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法理論の基礎から応用へ 法務研究科 教授 松尾 弘

---

授業科目の内容:

- (1)民法全般にわたり、理論と実務の双方の観点から解釈論を深める。同時に、法改正や裁判例の動向、法解釈方法論、比較法、法形成(法継受)の歴史にも注意を払っていききたい。
- (2)国家の「良い統治」を目指した法制度改革、その一環としての発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学(Law and Development)の理論と実践を分析する。

ゼミでは(1)を主眼とし、(2)はメンバーの希望や関心にに応じて取り上げる。具体的には、つぎのような活動を予定している。民法全般にわたり、主要問題に関する判例、学説を的確に整理し、自説を形成する(レポーター制)と並行しながら、法解釈方法論を検討する。最新の裁判例の中から重要なものを抽出し、内容や意義を検討する(担当者[松尾]と共同)。民法関連の法改正の内容を検討する(解説書を用いる)。諸外国の民法の概要、その形成プロセス、法継受などを通じた相互作用について学習する(担当者と共同)。開発法学の動向、法整備支援の状況を検討する(最初は担当者と希望者)。ゼミ誌を発行する(担当者と共同)。

テキスト:

に関して

・山野目章夫=野澤正充編『ケースではじめる民法(補正版)』(弘文堂, 2005)

・松尾弘『民法の体系 市民法の基礎(第4版)』(慶應義塾大学出版会, 2005)

に関して

・五十嵐清『法学入門(新版)』(悠々社, 2002)  
・ヤン・シュレーダー/石部雅亮編訳『トピック・類推・衡平 法解釈方法論史の基本概念』(信山社, 2000)

に関して

・オッコー・ペーレンツ=河上正二『歴史の中の民法 ローマ法との対話』(日本評論社, 2001)

に関して

・松尾弘「開発法学への招待(1)~(24・完)法学セミナー 622号(2006)~645号(2008)」

参考書:

授業中に随時紹介する。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
法務研究科 教授 金山 直樹

---

授業科目の内容:

民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってもらいたいと思います。そのため、議論を最大限に重視する方針です。

テキスト:

通常は、以下の二つを交互に用いています。

1. 民法の事例問題(テキストとして、民法総合・事例演習(有斐閣)を使用) ...どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。
2. 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。

夏期合宿は民法総則を集中的に勉強する予定です。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法(財産法)研究 法務研究科 教授 平野 裕之

---

授業科目の内容:

民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究をする。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものにしたいたいと思っている。内容としては、年2回の討論会を行い、資料を調べ研究し報告を準備しまた報告をする能力、また、質疑応答をするディベート能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会を前期6月末、後期12月中旬に行いたい。夏合宿も早慶合同で行う。また、12月の早慶合同討論会の後には、同じく早慶合同のOB会を行い、OBとの交流も深めてもらう。

日ごろの授業内容をもう一度確認すると、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えているが、ロースクールの現状では議論をのんびりする時間はないので、むしろこちらの授業の方が時間を浪費はするが、ロースクール的である。毎回1~2問、場合によっては3問の問題を、報告者を決めることなく全員が予習をしてきて、質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。また、全員が緊張して授業に挑むように、授業の最後に、報告者を指名し授業のまとめと自分の見解を発表してもらい、それに対する質疑応答を通して更に授業の理解を深めていく。

このように、厳しくも楽しい授業、そして、毎回授業が終わるごとに実力がついたと実感できるような授業にしたいと考えている。また、授業は3・4年合同で行い、2時間半程度を考えている。

テキスト:

使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。

参考書:

特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてくること。

---

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
事例に学ぶ民法 法務研究科 教授 鹿野 菜穂子

---

授業科目の内容:

この授業は、民法の財産法に関する裁判例や設例の検討を通して、民法の重要事項を確認するとともに、応用力を養うことを目的とします。

前期は、主に最高裁の判例を取り上げ、後期は、設例の検討を行う予定です。参加者を3つ又は4つのグループに分け、それぞれのグループに、毎回異なる役割を分担してもらいます。

テキスト:

特に指定しません(授業中に適宜文献を指摘します)

参考書:

民法判例百選 (必携)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法研究 教授 宮島 司

授業科目の内容:

商法に関する具体的事例の検討を行う。それにより、法的問題点の考え方、解決方法を見出すようになれば幸いである。

テキスト:

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書:

会社法概説(第三版補正第二版),弘文堂  
新会社法エッセンス(第二版),弘文堂

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 山本 爲三郎

授業科目の内容:

会社法の実例研究および商事法(主として、会社法、商法総則、商行為法、有価証券法)に関する最新の判例研究を行う予定です。問題点の把握・検討は、リポーターの発表(当該レポートの提出義務があります)を中心に進められます。また、早稲田大学企業法研究会とのディベートを毎年行っています。

研究会員各自が研究者として自覚を持ちゼミに参加することにより、1年後には、卒業論文作成の基礎となる法的思考能力の深化を確認できるでしょう。

テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方(第7版)』(八千代出版,2008年)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
会社法ゼミナール 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

会社法の内容と特色を、毎週課題を検討・討議してゆくことで理解を深める。また、研究をすすめるうえで不可欠な資料検索・レポート作成・報告の方法などもあわせて指導する。

テキスト:

最初の授業で指示する。

参考書:

最初の授業で指示する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法(手形・小切手法) 教授 島原 宏明

授業科目の内容:

手形・小切手法のケース・スタディーを行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、私法の本質的な要素をとらえるためには絶好の素材だともいえる。すなわち、手形・小切手法を通して民法(財産法)を理解することが、このゼミの一つの目標である。ただし、とりあえず現時点では民法、商法についての知識を要求しない(ヤル気があれば、それで十分である)。

なお、合宿、コンパ、ソフトボール等の活動も積極的に行っていくつもりである。

テキスト:

使用しない。

参考書:

開講時に指示する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法 教授 高田 晴仁

授業科目の内容:

実質的意義の商法のうち会社法および手形法を中心に扱う。

具体的事例または判例を採り上げて解釈論を研究する。

テキスト:

授業中に指示する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法 准教授 杉田 貴洋

授業科目の内容:

商事法分野のうち会社法を主に扱う。課題について、報告を担当する者が発表し、さらに全員で検討するかたちで進める。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法・国際取引法・法交渉 法務研究科 教授 山手 正史

授業科目の内容:

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を磨くとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法(国際取引法を含む)に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関することであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。国際取引法と法交渉についての学習は、主として、毎年秋に行われるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション(<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>, 法学教室 2004年3月号参照)への参加を通して行う。

テキスト:

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選』(有斐閣)および同『会社法判例百選』(有斐閣)は用意しておくこと。

参考書:

授業中に随時指示する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
金融商品取引法についての研究 教授 並木 和夫

授業科目の内容:

金融商品取引法について研究します。

テキスト:

弘文堂 解説 金融商品取引法(第3版)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 三木 浩一

授業科目の内容:

民事訴訟法判決手続について、通年のゼミナール形式で演習を行う。授業のスタイルとしては、担当者が作成した事例問題を課題として事前に与えておき、授業当日はこれを素材としてソクラティック・メソッドを用いて議論を行う。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

最初の授業の日に口頭で指定する。

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
経済法(独占禁止法)・国際経済法(GATT/WTO) 教授 田村 次朗

授業科目の内容:

企業間の競争を通じて、低廉・良質な財・サービスが消費者に提供されることは、資本主義メカニズムの根幹であるが、競争は時として、独占企業や寡占によって滅殺される。このような弊害を是正し、競争を維持・促進する法制度が独占禁止法(競争法)である。競争法では、独占やカルテル、イノベーションの促進と知的財産権、規制緩和問題(情報通信・電力・ガス事業)などを取り扱う。また、国内市場を規律する競争法の検討とともに、国際貿易を規律する法制度である国際経済法を検討する。国際経済法では、主としてWTO(世界貿易機関)における紛争解決事例の検討を通じて、セーフガード、アンチ・ダンピング、国際的環境問題を検討する予定である。

テキスト:

・根岸 哲・舟田正之『独占禁止法概説(第2版)』(有斐閣,2003)  
・田村次朗『WTOガイドブック』(弘文堂,2001)  
・厚谷襄児・稗俊俊文(編)『独禁法審決・判例百選(第6版)』(有斐閣,2002)

参考書:

・村上政博『独占禁止法の日米比較』(弘文堂,1992)  
・松下満雄『経済法概説』(東京大学出版会,1995)  
・松下満雄『国際経済法 国際通商・投資の規制(第3版)』(有斐閣,2001)など

# 法律

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
労働法・社会保障法 教授 内藤 恵

## 授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例および理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生の希望がある場合には、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。

4年生は、前期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。後期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受け議論をし、後期の卒論作成の参考にします。

## テキスト:

特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

ただし最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』および、各々の判例百選および六法は持参すること。

## 参考書:

### 〔労働法〕

- ・神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2009年春出版予定)
- ・西村健一郎・安枝英『労働法(第10版)』(有斐閣ブリマシリーズ、2009)
- ・菅野和夫『労働法(第8版)』(弘文堂、2008)

### 〔社会保障法〕

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣、2003)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
霞 信彦 教授

## 授業科目の内容:

明治初期の刑事法や刑事裁判に関する理解を深めるために、史料や著作の輪読をおこない、必要に応じてレポートの提出や口頭発表を求める。

## テキスト:

霞信彦『矩を踰えて』(慶應義塾大学出版会)

## 参考書:

霞・漆原・浜野『日本法制史 史料集』(慶應義塾大学出版会)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
岩谷 十郎 教授

## 授業科目の内容:

日本法の「近代」がどのように展開したのか、法制度・法意識・法文化の観点から、様々な文献を通じて議論する。

## テキスト:

未定(参考書から1冊選ぶこともある)

## 参考書:

- ・大木雅夫『日本人の法観念』(東大出版会)
- ・村上淳一『法の歴史』(同前)
- ・田中成明『転換期の日本法』(岩波書店)
- ・小林直樹『法の人間学的考察』(同前)他
- ・竹下賢他編『改訂版 マルチ・リーガル・カルチャー』(晃洋書房)

研究会(3年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(3年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
西 洋 法 制 史 専 任 講 師 藪 本 将 典

## 授業科目の内容:

ひろく、ヨーロッパの法と法文化に対する歴史的な理解を深めることを目的とします。

3年次では、ヨーロッパ法文化の底流をなす「普通法 jus commune」「中世ローマ法学」についての基礎知識を共有すべく、M. Bellomo, *The Common Legal Past of Europe 1000-1800*, translated by L. G. Cocharne, The Catholic University of America Press, 1995. を購読します。

## テキスト:

M. Bellomo, *The Common Legal Past of Europe 1000-1800*, translated by L. G. Cocharne, The Catholic University of America Press, 1995.

## 参考書:

P. スタイン/屋敷二郎 監訳『ローマ法とヨーロッパ』ミネルヴァ書房、2003年

勝田有恒・森征一・山内進 編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房、2004年

勝田有恒・山内進 編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち グラーティアヌスからカール・シュミットまで』ミネルヴァ書房、2008年

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
憲 法 教 授 小 林 節

## 授業科目の内容:

3年次の一月に選択した各自の課題と方法に従って、卒業研究の指導を続行する。必要に応じて中間報告を求める。4年生は、時間の許す限り、3年生の研究会にも出席すること。

## テキスト:

特になし。

## 参考書:

特に指定せず。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教 授 小 山 剛

## 授業科目の内容:

〔春学期〕統治の基本問題について演習をおこなう。今年度は、司法権の概念、法律と命令、条例の関係などを中心に扱う。

〔秋学期〕各自の選択したテーマにしたがって卒業論文またはリサーチ・ペーパーを執筆する。

## テキスト:

とくになし

## 参考書:

適宜指示する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
行 政 法 研 究 ・ 卒 業 研 究 准 教 授 青 木 淳 一

## 授業科目の内容:

研究会活動の集大成として、卒業論文を作成する。

## テキスト:

卒業論文の作成を念頭に置いた資料調査方法等について、開講時にガイダンスを行う。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
租 税 回 避 行 為 の 研 究 教 授 吉 村 典 久

## 授業科目の内容:

2年間の研究会活動の集大成として、卒業論文を作成します。今年度は、各人の卒業論文についての報告を中心とします。

## テキスト:

- ・金子宏『租税法』弘文堂
- ・『実務税法六法(法令編)』新日本法規
- ・岸田ほか『現代税法の基礎知識』ぎょうせい

## 参考書:

- ・『租税判例百選』有斐閣
- ・金子宏ほか『ケースブック租税法』弘文堂

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教 授 西 川 理 恵 子

## 授業科目の内容:

前年度のトピックに関する勉強の継続と、各自、卒論を自分の選んだテーマで書く。

## テキスト:

Folsom, Gordon Spangle "International Business, Transaction"

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)(秋学期)  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
ラテンアメリカ法・民法 准教授 前田美千代

授業科目の内容:

本研究会は、ラテンアメリカ諸国の法研究に関心のある者のほか、民法・消費者法の学習・研究を行う意欲のある者、また、ラテンアメリカ地域に関心があり、歴史・言語・民族・社会・文化等にかかわる諸問題を法との関係を踏まえて学習・研究する意欲のある者の学習・研究をサポートし、共に学ぶことを目的とする。

具体的な成果として、卒業論文一本を作成する。

テキスト:

開講時にリストを配布する。

参考書:

開講時に指示。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 大森正仁

授業科目の内容:

3年次に獲得した国際法の知識の事例への適用として、模擬裁判を行います。同時に大学での学習の集大成としての卒業論文の作成に取り組みます。

テキスト:

・杉原高嶺他『現代国際法講義』(有斐閣,第4版,2007年)

・広部・杉原編『解説条約集2009年版』(三省堂,2009年)

参考書:

・栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会,1999年)

・山本草二他『国際法判例百選』(有斐閣,2001年)

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 明石欽司

授業科目の内容:

卒業論文作成

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
専任講師 尹仁河

授業科目の内容:

研究会(3年)における国際法の学習を基礎として、各自がテーマを選び卒業論文を作成します。

テキスト:

・大森正仁編著『よくわかる国際法』(ミネルヴァ書房,2008年)

・広部和也・杉原高嶺編『解説条約集2009年版』(三省堂,2009年)

参考書:

・松井芳郎編『判例国際法』(東信堂,第2版,2006年)

他、開講時に一覧を示します。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 安富潔

授業科目の内容:

総合的な事例の検討を中心として刑事訴訟法の研究を行います。問題解決能力の練成をめざします。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
刑事政策・被害者学・アジア法 教授 太田達也

授業科目の内容:

4年次は、3年次の刑事政策・被害者学に関する基礎的な学習を踏まえ、各自の卒業論文の作成が中心課題となる。まず、前期は刑事政策および被害者の新しい動向に関する文献講読を行い、それぞれの問題について討議を行う。後期は、卒業論文の中間報告を中心にゼミを進める。

テキスト:

講義の時に資料を配付する。

参考書:

犯罪白書の最新版を使用する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
准教授 オステン、フィリップ

授業科目の内容:

前年度のトピック(国際刑事法)に関する研究の継続と、ゼミ生の希望に応じて、刑法総論の主要論点等を班形式で取り上げ、全員で討論を行う予定である。

なお、卒業論文の作成を希望する学生に対しては、その指導を行う。

また、個々の研究テーマに応じて、外国文献の講読等も予定している。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
専任講師 佐藤拓磨

授業科目の内容:

卒業論文作成に向けた指導が中心となる。

テキスト:

指定しない。

参考書:

卒論のテーマに応じ、個別に文献等を指示する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
刑事法ゼミナール 法務研究科 教授 伊東研祐

授業科目の内容:

3年の研究会で形成されたはずの自ら考える為の視座に基づき、各人の選んだ研究テーマを深く掘り下げ、ユニークな見解を纏めることを目的とします。3年生を含めた小社会集団における共生・共働の修得をも目指した小人数のゼミです。

テキスト:

指定しない。

参考書:

参加者の研究の必要に応じ、随時指示します。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
卒論研究,進路を考える(就職観) 教授 斎藤和夫

授業科目の内容:

卒論作成の作業を進めます。三年次の限テーマ(国際金融法務)と限テーマ(担保法)との、いずれかを選択して、卒論テーマを選択してください。大学院法学研究科(研究大学院)への進学希望者については、個別の研究指導(論文指導を含む)をおこないます。同時併行して、進路ガイダンス(木・限)も試みます。

テキスト:

特に指定しません。「判例研究(評釈)」や「重要論文」を精読することが肝要です。

参考書:

各テーマについての参考文献等については、個別に対応します。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
ゼミナール(民法財産法) 教授 池田真朗

授業科目の内容:

卒業論文の中間報告を行う。

3年ゼミの最終回に提出した中間報告テーマに従って、順次行う。テーマ提出の際に卒論提出延期願を提出した、司法試験や公務員試験の受験者については、各人の選択したテーマに従い、後期に順次報告することとする。

テキスト:

なし。各自が資料収集をして報告すること。

参考書:

なし。なお、卒論執筆作業の前提として、担当者の著作中の入門書等は、卒論テーマにかかわらず、すべて再読のこと。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
家族法研究 教授 犬伏由子

授業科目の内容:

家族法(民法 親族・相続編)を対象とします。三年次に引き続き、家族法の諸課題について研究を深め、各自テーマを選抜し、卒業論文の作成を行うこととなります。

参考書:

「家族法判例百選(第7版)」有斐閣

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
国際私法研究 教授 北澤安紀

授業科目の内容：  
卒業論文の作成を行う。  
参考書：  
開講時に指示する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
財産法の応用的展開 教授 武川幸嗣

授業科目の内容：  
ゼミ生の将来の進路ないし希望に応じて適宜調整するつもりであるが、基本的には、3年次の課題演習を継続しつつ、これと並行ないし前後して、各自が自ら設定したテーマ研究につき、中間報告・討論を行うことを予定している。最終的には、卒業論文または課題研究としてまとめて提出してもらう。  
テキスト：  
特に指定しない。課題に応じて適宜指示する。  
参考書：  
同上。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
准教授 君嶋祐子

授業科目の内容：  
知的財産法の分野から各自テーマを選んで、卒業論文を作成する。  
テキスト：  
各自、テーマに応じて用意する。  
参考書：  
同上。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法財産法研究 准教授 水津太郎

授業科目の内容：  
卒業論文の作成を行います。その際には、たとえわずかであっても、民法学の発展に寄与しうる、新たな・面白い知見をもたらすことを課題とします。なお、任意ですが、研究会(3年)の共同研究にも参加することを希望します。  
参考書：  
必要に応じて、随時指示します。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法財産法の発展的研究 法務研究科 教授 片山直也

授業科目の内容：  
研究会(3年)春学期において養われた論理的思考能力および問題解決能力を基礎に、同・秋学期において育まれた興味関心をさらに発展させ、リサーチペーパーまたは卒業論文の作成を行う(グループでの執筆も可能)。  
春学期、秋学期にそれぞれ各人の研究の進捗状況について中間報告を行うとともに、秋学期は各自の研究テーマに近接する3年生のグループ研究を指導する。  
テキスト：  
特に指定しない。  
参考書：  
各人のテーマごとに、メディアセンターで判例、雑誌論文などの資料を収集し、分析検討を行う。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
法務研究科 教授 北居功

授業科目の内容：  
本年は卒業論文の作成を行う。その内容等については、研究会の学生との話し合いで決定する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法理論の応用と基本の再確認

法務研究科 教授 松尾弘

授業科目の内容：  
(1)3年次における活動を踏まえ、民法解釈論の応用問題を分析し、自分自身の考察を深め、レポートないし卒業論文を作成する。  
(2)応用問題の一環として、政府のガバナンス向上のための法制度改革、発展途上国への法整備支援などを対象とする、開発法学(Law and Development)に関わる諸問題の中から、自らの興味に従ってテーマを選定して研究を進め、レポートないし卒業論文を作成する。  
各人の興味に従い、前期(1)または(2)のうちから何れか一方を選択し、文献収集、分析、中間報告を行ったうえで、成果物を作成する。  
春学期は、とを中心とし、個別指導を行う。  
秋学期は、とを中心とし、報告と議論を行う。  
テキスト：  
各人の興味と必要に応じて文献の紹介、検索・分析のアドバイス等を行う。とくに決まったテキスト、その他の文献は用いない。  
参考書：  
授業中に随時紹介する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
法務研究科 教授 金山直樹

授業科目の内容：  
民法は、大教室の講義だけでは自分のものとして「体得」することは困難です。本ゼミでは、この困難さを克服することを目標とし、民法上の様々な問題について具体的なケースを手がかりに議論をすることによって、民法学習の困難さを軽快に乗り越えることをめざします。互いに本音で論じ合うことによって、不明点を明確にするとともに、自ら考え理解することの楽しさを味わってもらいたいと思います。そのため、議論を最大限に重視する方針です。  
テキスト：  
通常は、以下の二つを交互に用いています。  
1. 民法の事例問題(テキストとして、民法総合・事例演習(有斐閣)を使用)…どの問題を選ぶかは、受講生が自主的かつ自由に決定するものとします。  
2. 最新判例を検討します。主に最高裁の判決を扱いますが、下級審の判決を取り上げることもあります。検討すべき判例は教員が指定します。  
夏期合宿は民法総則を集中的に勉強する予定です。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民法(財産法)研究 法務研究科 教授 平野裕之

授業科目の内容：  
民法財産法の問題を、事例問題を用いて研究する。法科大学院への進学希望者にとっては、ロースクールのプレ授業のようなものになりたいと思っている。内容としては、年2回の討論会を行い、資料を調べ研究し報告を準備した報告をする能力、また、質疑応答をするディベート能力を磨いてもらう。予定としては、非常勤をしている早稲田大学の私のゼミとの合同討論会を前期6月末、後期12月中旬に行いたい。夏合宿も早慶合同で行う。また、12月の早慶合同討論会の後には、同じく早慶合同のOB会を行い、OBとの交流も深めてもらう。  
日ごろの授業内容をもう一度確認すると、ロースクールで行われているソクラテスメソッドの入門版のようなものを考えているが、ロースクールの現状では議論をのんびりする時間はないので、むしろこちらの授業の方が時間を浪費はするが、ロースクール的である。毎回1~2問、場合によっては3問の問題を、報告者を決めることなく全員が予習をしてきて、質疑応答の形で進め、学生同士での議論も行えるようにしたいと思っている。また、全員が緊張して授業に挑むように、授業の最後に、報告者を指名し授業のまとめと自分の見解を発表してもらい、それに対する質疑応答を通して更に授業の理解を深めていく。  
このように、厳しくも楽しい授業、そして、毎回授業が終わるごとに実力がついたらと実感できるような授業にしたいと考えている。また、授業は3・4年合同で行い、2時間半程度を考えている。  
テキスト：  
使用しない。ただし、問題をコピーして最初の時期に配布する。  
参考書：  
特に指定しない。各自の教科書などで必ず予習をしてくること。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
現代民法学の諸問題 法務研究科 教授 鹿野 菜穂子

授業科目の内容:

卒論の執筆に向けて、各自のテーマを選択してもらい、そのテーマについての検討を行う。テーマ選択の範囲は、民法の全領域(特別法を含む)とし、それ以上特に限定しない。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

追って連絡

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法(会社法)ゼミナール 教授 加藤 修

授業科目の内容:

学術論文とは何なのかを指導し、その後、卒業論文執筆のための指導を行う。どのようにして問題意識を明確にして、論文の題目にするかがまず指導される。その後、関係参考文献と資料の探知方法、問題意識の再構成、関係参考文献と資料の批判的解析方法とその方法に基づく実行と新展開への指導がなされる。参加者全員が各自で、必ずどこかで商法と接点を有する法律問題あるいは商法の問題そのものにおいて題目を設定し、複数回の中間報告を行い卒業論文を完成する。中間報告は充分な準備をかさね、事前にレジュメを参加者全員に配布し、学会における学術発表と同じ形式でなされる。合格率の極端に低い国家試験に挑戦しようとする参加者については、卒業論文作成についての時間と労力の配分について、相談に応じます。相談に応じるだけの経験と秘訣は持ち合わせております。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法研究 教授 宮島 司

授業科目の内容:

春学期は3年と共に商法に関する具体的事例の検討を行い、秋学期は卒業論の中間報告。

テキスト:

研究会であるので、テーマに応じてその都度。

参考書:

会社法概説(第三版補正第二版), 弘文堂  
新会社法エッセンス(第二版), 弘文堂

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 山本 爲三郎

授業科目の内容:

卒業論文を作成します。テーマは商事法の中から自由選択。会社法、有価証券法に限らず保険法、海商法や金融商品取引法でも可。4万字以上を目標に頑張ってください。

テキスト:

山本爲三郎『会社法の考え方(第7版)』(八千代出版, 2008年)

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
会社法ゼミナール 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容:

三年に学習した会社法の知識を基にして、さらに高度な内容の習得を目指す。初めて取り組む卒業論文のテーマの選択から完成までの全ての過程で、指導をおこなっていく。

テキスト:

特になし。

参考書:

特になし。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法(手形・小切手法) 教授 島原 宏明

授業科目の内容:

前半では手形・小切手法の判例研究を行い、後半では卒業論文の中間

発表を行う。

テキスト:

使用しない。

参考書:

開講時に指示する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 高田 晴仁

授業科目の内容:

3年次より引き続き判例研究を行う。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
商法・国際取引法・法交渉 法務研究科 教授 山手 正史

授業科目の内容:

法解釈学の学習を通じて論理的・原則的思考力を練磨するとともに、法規制の政策論的含意把握を通して社会科学的分析能力の向上を目指す。題材としては、商法総則、会社法、商行為法(国際取引法を含む)に関する判決を取りあげる。ただし、受講生各自の研究の展開によって、保険法、海商法、手形法等に関する判決を取りあげてもよい。要するに、商法に関することであれば「何でもあり」ということである。

報告・討論方式で行う。毎回ひとつの判決を取りあげる。取りあげる判決は、報告者が自ら決定する。報告者は、遅くとも報告の1週間前までに、レジュメを受講生全員に配布しなければならない。報告者以外の受講生も、全員、発言義務を負う。

国際取引法と法交渉についての学習は、主として、毎年秋に行われるインターカレッジ・ネゴシエーション・コンペティション(<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/inc/index.html>, 法学教室2004年3月号参照)への参加を通して行う。

テキスト:

報告者が作成したレジュメに基づいて授業を進めるが、別冊ジュリスト『商法(総則・商行為)判例百選』(有斐閣)および同『会社法判例百選』(有斐閣)は用意しておくこと。

参考書:

授業中に随時指示する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
金融商品取引法についての研究 教授 並木 和夫

授業科目の内容:

金融商品取引法について卒論を書いてもらいます。

テキスト:

弘文堂 解説 金融商品取引法(第3版)

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
民事訴訟法 教授 坂原 正夫

授業科目の内容:

民事訴訟法に関する卒業論文を完成させることができるようにします。卒業論文を執筆するためには、履修者は民事訴訟法に関する問題の中から任意に卒業論文のテーマを選ぶ必要があります。次に履修者はそのテーマに関して事例問題を作成し、問題と解答を授業中に報告しなければなりません。報告内容についての履修者全員の検討と担当者の講評を参考にすることによって、卒業論文の内容が深まるように指導します。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

論文執筆に関する一般的な参考書については、研究会(3年)の最後の授業で配布した「4年生の研究会要領」に記載されていますので、それを参照してください。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
教授 三木 浩一

授業科目の内容:

民事訴訟法判決手続に関するテーマを各人が選択して卒業論文の作成を行う。夏に中間報告会を行う。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

特に指定しない。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
経済法(独占禁止法)・国際経済法(GATT/WTO)

教授 田村 次郎

授業科目の内容:

研究会(3年)の学習内容をふまえて、各自、経済法・国際経済法に関する卒業論文を作成することが基本となる。授業では卒論指導のほか、私のもう1つの専門分野である交渉学を学習する。交渉学は、講義を通じて学ぶものではなく、ロール・プレイを通じて体験的に学習するものである。具体的には、ロール・プレイを学生諸君に体験してもらい、その後のフィードバックを通じて、交渉学の基礎概念やテクニックを学んでもらう。なお、日本の法学教育における交渉学は、いまだ馴染みの浅い領域であるので、学生諸君には、単に交渉学を学ぶという姿勢にとどまらず、交渉学を私と共に作り上げるような積極的な姿勢で参加してほしい。

テキスト:  
授業のなかで適宜指示・配布する

参考書:  
授業のなかで適宜指示・配布する。

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
労働法・社会保障法 教授 内藤 恵

授業科目の内容:

当ゼミナールでは、3・4年生一緒に2コマ(3時間)通して、研究会を行います。3年生は特に、学部における内藤担当の労働法および社会保障法の講義を履修し、それと相互補完的に下記のテーマに関する裁判例および理論研究を行います。毎週1つのテーマにつき2名のリポーターをたて、その報告をきいて、全員参加のディスカッションを進めます。

同時に3年生の希望がある場合には、夏休みから11月にかけて学生論文集『法律学研究』に掲載する論文を全員で執筆します。テーマは3年生が自ら選びます。

4年生は、前期は就職活動が終了するまでゼミのリポーターからは外れますが、各々の就職が決まり次第各自ゼミに復帰し、3年生のリポートに対してディスカッションに参加し、同時に卒業論文の作成を進めます。後期になると、リポーターは出来る限り3&4年生のペアで行い、それぞれの視点を生かした形で研究を進めます。

9月中旬には、ゼミ合宿を行います。その席上、4年生は卒業論文の中間報告をし、他の4年生あるいは3年生からの質問を受けて議論をし、後期の卒論作成の参考にします。

テキスト:  
特に指定せず、各テーマに関する参考文献等をそれぞれのテーマに応じて指示します。

ただし最低でも、労働法あるいは社会保障法のそれぞれのテーマに応じて、下記から菅野和夫『労働法』あるいは西村健一郎『社会保障法』および、各々の判例百選および六法は持参すること。

参考書:  
〔労働法〕

- ・神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社, 2009年春出版予定)
- ・西村健一郎・安枝英『労働法(第10版)』(有斐閣プリマシリーズ, 2009)
- ・菅野和夫『労働法(第8版)』(弘文堂, 2008)

〔社会保障法〕

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)

研究会(4年)【2006年度以前入学者】【F系列】(通年)4単位  
研究会(4年)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)各2単位  
日本近代期の法の歴史・法文化 教授 岩谷 十郎

授業科目の内容:

3年次の課題を継続する。最終目標を卒業論文作成に置く。

参考書:  
未定

憲法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)(秋学期)  
憲法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)  
憲法の動態の考察と法制度設計の理論・技法

客員教授 川崎 政司

授業科目の内容:

本講義においては、最近の立法、判例、政治課題、事件等を題材に、最新の憲法問題について考察を加え、法制度設計まで念頭に置きつつ、その法的な解決のあり方等について検討を行うことにより、憲法の動態と、法政策ないし法制度設計の理論・技法について学んでもらうとともに、それらを通じ、実践的かつ創造的な法的思考能力・問題解決能力の養成といったことにも取り組んでいきたい。なお、あわせて、法実現の

重要な作用となっている「立法」の意義、現状、あり方等についても言及し、学生諸君にとってあまりなじみのない立法に関する理解・知識を深めてもらうようにしたい。

テキスト:  
授業のつどレジュメ・資料を配付する。

参考書:  
特に指定はしないが、適宜、参考文献等を紹介する。

憲法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
憲法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

講師 高畑 英一郎

授業科目の内容:

これまで皆さんが学んできた憲法について、論点を限定してより深く勉強していきたいと思います。若干専門的な知識が必要になるでしょうが、テキストの理解を通じて、憲法学の奥行きを感じとって下さい。

講義の進め方について、毎回受講者の1人が担当部分をまとめて発表します。別の受講者が対応する判例の解説をします。他の受講者は、その発表に対して、これまで学んできた憲法の知識から質問することが求められます。場合によっては代表的な学説との比較をしてもらいます。議論が錯綜した場合、講師が整理します。

テキスト:  
憲法の争点(4版)有斐閣  
憲法判例百選(5版)有斐閣

憲法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
憲法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 高畑 英一郎

授業科目の内容:

これまで皆さんが学んできた憲法について、論点を限定してより深く勉強していきたいと思います。若干専門的な知識が必要になるでしょうが、テキストの理解を通じて、憲法学の奥行きを感じとって下さい。

講義の進め方について、毎回受講者の1人が担当部分をまとめて発表します。別の受講者が対応する判例の解説をします。他の受講者は、その発表に対して、これまで学んできた憲法の知識から質問することが求められます。場合によっては代表的な学説との比較をしてもらいます。議論が錯綜した場合、講師が整理します。

テキスト:  
憲法の争点(4版)有斐閣  
憲法判例百選(5版)有斐閣

憲法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)(秋学期)  
憲法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)

憲法を身近に考えよう 講師 向井 久了

授業科目の内容:

「クローン人間の開発を目的とした研究」など現実に生じる様々な憲法問題を生きた素材としてアップ・ツー・デートにとりあげ、憲法の論理とその動態を検討したいと考えています。

憲法を主権者として主体的に考えるよすがとなれば、と念じております。

テキスト:  
本年度は、テキストはとくに指定しません。

参考書:  
・高橋・長谷部・石川編「憲法判例百選」〔第5版〕有斐閣 2007年  
・向井久了「やさしい憲法(第3版)」法学書院 2005年

憲法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)(秋学期)  
憲法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)

アメリカの連邦制度、及び、人権問題日米比較  
講師 山岡 永知

授業科目の内容:

憲法演習の授業はアメリカ合衆国憲法を中心に講義し、アメリカ合衆国最高裁判所の憲法判例を研究しながら、日本国憲法や判例と比較し、憲法解釈に関する知識を深める。春学期は主に統治構造について講義する。秋学期は「人権」について講義する。

テキスト:  
別冊ジュリスト No.139「英米判例百選」(有斐閣)

参考書:  
・「アメリカ法 総論」山岡著(敬文堂)  
・対訳「アメリカ合衆国憲法」北脇・山岡共訳(国際書院)

国際海洋法 海洋法 に記載しています

国際環境法【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

講師 小山佳枝

授業科目の内容:

18世紀後半の産業革命以降、科学技術の目覚ましい発達によって人間の活動量と活動範囲は大きく変化してきており、その結果として、環境問題は、地球温暖化、大気汚染、砂漠化、海洋汚染、森林破壊、動植物の絶滅など、現在では危機的な状況にあるといわれている。他方で、そうした状況に立ち向かうべく、新しい法制度や枠組み作りのために多くの努力が払われている。この科目では、地球環境の保護・保全、また環境汚染の防止へ向けた国際法上の制度について理解を深めることを目的とする。

環境の汚染は、一国の領域内のみとどまるものではない。地球環境の保護のためには、複数の諸国が協力をし、歩調を合わせる事が重要となる。ここでは、環境法を地球規模の観点から捉えられるようになることを目指す。1992年に国連で採択された「環境と開発に関するリオ宣言」を契機として、1990年代以降に多数採択された環境保護諸条約を通して、現代の国際環境法の特色を細解き、各条約体制とそれを支える国際機関の役割について考える。

テキスト:

特に指定しない。

国際経済法【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

国際経済法【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

教授 田村次朗

授業科目の内容:

世界貿易機関(WTO)を中心とする国際経済法について、その基本的な法構造および、セーフガードおよびアンチダンピングなど主要規制の概要を取り上げる。特にWTOにおけるパネル・上級委員会が取り上げる各種通商問題に関する紛争処理について、その具体的な事例を取り上げ、WTO協定の解釈・運用の実際について、解説する。また、通商法は、各国の通商政策とも密接に関連していることから、最近、話題となっている二国間での自由貿易協定や、サービス貿易、知的財産権を巡る通商問題、さらに食品の安全性や環境問題といった通商政策の新しい展開とそれに対する法的規制のあり方を分析する。

テキスト:

・田村次朗『WTOガイドブック 改訂版』(弘文堂 2006)

・小寺彰・中川淳司編『基本経済条約集』(有斐閣 2002)

参考書:

UFJ総合研究所新戦略部通商政策ユニット編『WTO入門』(2004 日本評論社)

国際刑事法【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

国際刑事法【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

准教授 オステン、フィリップ

授業科目の内容:

本授業では、現在の国際刑事法に関する基本的な知識および国際刑事法特有の方法論・思考方法を習得し、(刑事)法の国際化を意識した法学教育の観点から必要ないし有益な知見を獲得することを目的とする。

第一の目標は、国際刑法の歴史的展開を分析することにより、国際刑法の法理・諸概念の形成過程について正確な知識を得ることであり、第二の目標は、今日における国際刑事司法の主要問題点、殊に日本が2007年に加盟した国際刑事裁判所(ICC)の理論と実践について、これからの展望を見据えながら、基本的知識を習得することである。

テキスト:

講義資料プリントを適宜配布するほか、その他各ユニットに対応した日本語(希望に応じて英語も)の文献・資料等に基づいて授業を行う。なお、六法および条約集(松井芳郎(編)『ベーシック条約集[2008年版]』東信堂(2008年)を推奨する)を毎回持参されたい。

参考書:

参考書として、小長谷和高『国際刑事裁判序説[第2版]』尚学社(2007年)、安藤泰子『国際刑事裁判所の理念』成文堂(2002年)、東澤靖『国際刑事裁判所 法と実務』明石書店(2007年)、森下忠『新しい国際刑法』信山社(2002年)、村瀬信也=洪恵子(編)『国際刑事裁判所』東信堂(2008年)、Cassese, Antonio, International Criminal Law, 2nd edition (Oxford UP), 2008; Werle, Gerhard, Principles of International Criminal Law (Asser Press), 2005 などがある。

その他、随時指示する。

国際私法【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

国際私法【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)

国際取引と国際私法

教授 北澤安紀

授業科目の内容:

近年我々の生活環境が国際化するのに伴い、国境を越えた取引や家族関係の形成等に関する法律問題が多発するようになった。このような現状に鑑み、本講義では、今日国境を越えて生ずる私人間の法律関係を規律している国際私法についての体系的な講義を行う。

国際私法は、私法的な法律関係をその規律の対象としているという点で、民法・商法と似通った側面をもつが、他方で、私法的な法律関係のうちとくに渉外的な(外国的な)要素がある法律関係(例えば、国際契約、国際結婚等)を規律するという点で、民法・商法とはまた異なった処理が必要とされる法分野である。例えば、日本の企業が米国の企業を被告としてわが国の裁判所に契約の債務不履行にもとづく損害賠償請求の訴えを提起した場合や、フランス人妻が日本人夫を被告としてわが国の裁判所に離婚の訴えを提起した場合、日本の裁判所はいかなる法律を適用して当該事案を処理するべきなのか。この事案には訴訟が行われた地である日本の民法の規定が当然に適用されるのか、あるいは、外国の法律の規定が適用されるのかが問題となる。

本講義が対象とする広義の国際私法には、渉外的法律関係を規律するための基準となる法(準拠法)を各国法の中から選択・指定するという役割を担うことで渉外的な法律関係を実体的に規律している狭義の国際私法と渉外民事事件の手続法的な処理に関わる国際民事訴訟法の双方が含まれる。

春学期は、まず、渉外的私法的法律関係を実体法上いかに規律すべきかという観点から、国際私法の基本的な概念ならびに国際私法における準拠法決定のプロセスについて説明する(国際私法総論)その上で、わが国の国際私法の主要な成文法源たる「法の適用に関する通則法」の諸規定の解釈・適用上の問題点について検討するが(国際私法各論)、春学期は特に、国際契約法、国際物権法等の財産関係の問題を中心に講義を行う予定である。

テキスト:

開講時に指示する。各自、六法を持参すること。

参考書:

開講時に指示する。

国際私法【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

国際私法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

家族生活と国際私法

教授 北澤安紀

授業科目の内容:

近年我々の生活環境が国際化するのに伴い、国境を越えた取引や家族関係の形成等に関する法律問題が多発するようになった。このような現状に鑑み、本講義では、今日国境を越えて生ずる私人間の法律関係を規律している国際私法についての体系的な講義を行う。

国際私法は、私法的な法律関係をその規律の対象としているという点で、民法・商法と似通った側面をもつが、他方で、私法的な法律関係のうちとくに渉外的な(外国的な)要素がある法律関係(例えば、国際契約、国際結婚等)を規律するという点で、民法・商法とはまた異なった処理が必要とされる法分野である。例えば、日本の企業が米国の企業を被告としてわが国の裁判所に契約の債務不履行にもとづく損害賠償請求の訴えを提起した場合や、フランス人妻が日本人夫を被告としてわが国の裁判所に離婚の訴えを提起した場合、日本の裁判所はいかなる法律を適用して当該事案を処理するべきなのか。この事案には訴訟が行われた地である日本の民法の規定が当然に適用されるのか、あるいは、外国の法律の規定が適用されるのかが問題となる。

本講義が対象とする広義の国際私法には、渉外的法律関係を規律するための基準となる法(準拠法)を各国法の中から選択・指定するという役割を担うことで渉外的な法律関係を実体的に規律している狭義の国際私法と渉外民事事件の手続法的な処理に関わる国際民事訴訟法の双方が含まれる。

秋学期は、春学期に引き続き、わが国の国際私法の主要な成文法源たる「法の適用に関する通則法」の諸規定の解釈・適用上の問題点について検討する(国際私法各論)。具体的には、国際婚姻法、国際親子法、国際相続法等の身分関係の問題を中心に講義を行う予定である。

テキスト:

開講時に指示する。各自、六法を持参すること。

参考書:

開講時に指示する。

国際私法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

国際私法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

外国的な要素を含む私法関係の処理 講師 山田恒久

授業科目の内容:

「渉外的な私法関係に適用すべき法を指定する規則」を定める国際私法の現状と、その問題点を、演習形式を通じて検証することを目的と

## 法律

しています。渉外的な私法関係を扱うという科目の特性から、国際私法の講義を既に受講していることは勿論のこと、民法、商法、および、民事訴訟法についても受講済みか、または、並行して受講していることが必要です。

テキスト：

テキストは指定しません。使いやすいものを選んで購入してください。

参考書：

- ・櫻田・道垣内編「国際私法判例百選」(別冊ジュリスト)有斐閣
- ・道垣内正人「国際私法入門」[第6版] (有斐閣双書)有斐閣
- ・櫻田嘉章「国際私法」[第4版] (Sシリーズ)有斐閣

---

国際私法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
国際私法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
外国的な要素を含む私法関係の処理 講師 山田 恒久

---

授業科目の内容：

「渉外的な私法関係に適用するべき法を指定する規則」を定める国際私法の現状と、その問題点とを、演習形式を通じて検証することを目的としています。渉外的な私法関係を扱うという科目の特性から、国際私法の講義を既に受講していることは勿論のこと、民法、商法、および、民事訴訟法についても受講済みか、または、並行して受講していることが必要です。

テキスト：

テキストは指定しません。使いやすいものを選んで購入してください。

参考書：

- ・櫻田・道垣内編「国際私法判例百選」(別冊ジュリスト)有斐閣
- ・道垣内正人「国際私法入門」[第6版] (有斐閣双書)有斐閣
- ・櫻田嘉章「国際私法」[第4版] (Sシリーズ)有斐閣

---

国際租税法 【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
国際租税法 【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
講師 赤松 晃

---

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的商業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏まえて経営判断がなされています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。

春学期では、日本企業の対外進出(アウトバウンド)に係る国際租税法を研究します。法人税法の仕組み、外国税額控除、タックス・ヘイブン対策税制、移転価格課税、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的二重課税の排除のための制度とその運用の実際についての理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

- ・赤松晃「国際課税の基本的な仕組み」金子宏編『租税法の基本問題』(有斐閣, 2007年)所収
- ・増井良啓・宮崎裕子『国際租税法』(東京大学出版会, 2008年)

参考書：

1. 国際課税について
- ・水野忠恒『国際課税の制度と理論 国際租税法の基礎的考察』(有斐閣, 2000年)
- ・水野忠恒編著『国際課税の理論と課題』(税務経理協会, 2訂版, 2005年)
- ・赤松晃『国際課税の実務と理論 グローバル・エコノミーと租税法』(税務研究会出版局, 2007年)
2. 国際課税を含む租税法一般について
- ・水野忠恒『租税法』(有斐閣, 3版, 2007年)
- ・金子宏『租税法』(弘文堂, 13版, 2008年)
3. 入門書として
- ・税務大学校講本『所得税法』『法人税法』<http://www.ntc.nta.go.jp/kouhon/index.html>
- ・三木義一・前田謙二『よくわかる国際租税法入門』(有斐閣, 2008年)

---

国際租税法 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)  
国際租税法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
講師 赤松 晃

---

授業科目の内容：

経済のグローバル化は、国際租税に関する基本的理解を抜きにしてビジネスプランを語れない状況をもたらしています。すなわち国際的商業活動の経営判断に当たっては租税コストの予見可能性は極めて重要です。したがって現実のビジネスでは、租税法の適用を踏まえて経営判断がな

されています。このように国際租税法は、今や国際ビジネスパーソン必修の知識となっています。

本講義は国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎します。したがって、租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的に講義に参加できるように新聞等で報道された具体的事例を素材として行います。

秋学期では、外国企業・ファンドの対内進出(インバウンド)に係る国際租税法を研究します。法人税法の仕組み、所得税の源泉徴収の仕組み、ソース・ルール、恒久的施設(PE: Permanent Establishment)、租税条約の概要、国内租税法と租税条約の適用関係、税務調査の実際、国際的二重課税の排除のための制度とその運用の実際についての理解を得ることにより、国際租税法についての基本的な力を身につけることを目的としています。

テキスト：

- ・赤松晃「国際課税の基本的な仕組み」金子宏編『租税法の基本問題』(有斐閣, 2007年)所収
- ・増井良啓・宮崎裕子『国際租税法』(東京大学出版会, 2008年)

参考書：

1. 国際課税について
- ・水野忠恒『国際課税の制度と理論 国際租税法の基礎的考察』(有斐閣, 2000年)
- ・水野忠恒編著『国際課税の理論と課題』(税務経理協会, 2訂版, 2005年)
- ・赤松晃『国際課税の実務と理論 グローバル・エコノミーと租税法』(税務研究会出版局, 2007年)
2. 国際課税を含む租税法一般について
- ・水野忠恒『租税法』(有斐閣, 3版, 2007年)
- ・金子宏『租税法』(弘文堂, 13版, 2008年)
3. 入門書として
- ・税務大学校講本『所得税法』『法人税法』<http://www.ntc.nta.go.jp/kouhon/index.html>
- ・三木義一・前田謙二『よくわかる国際租税法入門』(有斐閣, 2008年)

---

国際取引法【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)  
教授 西川 理恵子

---

授業科目の内容：

国境を越える関係の中でも、商取引関係が我々の生活に与える影響は大きい。本講では活発化する商事の国際活動に焦点をあて、人、物、金銭の動きをめぐる法律問題を概観する予定である。

テキスト：

開講時に指定。

参考書：

開講時に指定。

---

国際武力紛争法【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
国際武力紛争法【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
人道原則によって武力紛争を規制する国際法  
専任講師 尹 仁 河

---

授業科目の内容：

法は武力紛争をどう規制しているのでしょうか。本講義は人道原則によって武力紛争を規制する国際法規範の理解を目的とします。古くは戦争法(Law of War)、1945年国連憲章で戦争が違法化されてからは武力紛争法(Law of Armed Conflicts)と呼ばれ、近年は国際人道法(International Humanitarian Law)として発展している分野です。1949年ジュネーブ諸条約および1977年第一追加議定書(国際的武力紛争に適用)・第二追加議定書(非国際的武力紛争に適用)を中心に、条約の成立過程や規定内容を学んだ上で、世界で生じている問題にどう適用されるか検証します。関連する国際裁判所の判決、国連各機関の文書、赤十字国際委員会の文書、各国の国内法や判決も合わせて検討します。

テキスト：

大森正仁編著『よくわかる国際法』(ミネルヴァ書房, 2008年)  
毎回講義資料プリントがあり、keio.jpからダウンロードできます。

参考書：

- ・広部和也・杉原高嶺 編『解説条約集 2009年版』(三省堂, 2009年)
- ・Jean-Marie Henckaerts & Louise Doswald-Beck (International Committee of the Red Cross), Customary International Humanitarian Law (Cambridge University Press, 2005)
- ・村瀬信也・真山全 編『武力紛争の国際法』(東信堂, 2004年)
- ・藤田久一『国際人道法』(有信堂, 新版再増補, 2003年)
- ・大森正仁『国際法II』(慶應義塾大学出版会, 1999年)
- その他、開講時に一覧を示します。

---

国際法 A【2006年度以前入学者】【A系列】(春学期)  
国際法 【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)  
国際社会における法秩序の考察 教授 明石 欽司

---

テキスト：

特に指定しませんが、次の概説書を推薦します。栗林忠男『現代国際法』(慶應義塾大学出版会, 1999年)

## 参考書：

奥脇直也（編集代表）『国際条約集』（2009年版）（有斐閣，2009年）

国際法 B【2006年度以前入学者】【A系列】（秋学期）

国際法 【2007年度以降入学者】【展開】（秋学期）

国際社会における法秩序の考察 教授 明石 欽司

## テキスト：

特に指定しませんが、次の概説書を推薦します。栗林忠男『現代国際法』（慶應義塾大学出版会，1999年）

## 参考書：

奥脇直也（編集代表）『国際条約集』（2009年版）（有斐閣，2009年）

国際法演習【2006年度以前入学者】【F系列】（春学期）

国際法演習【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）

国際法の理論と実践：国際秩序はどのように形成されるのか

講師 石垣 友明

## 授業科目の内容：

世界各地で戦争は今日も起こり、貿易や領土をめぐる紛争は絶えません。一見すると、国際社会はルールではなく力が支配すると感じるかもしれません。しかし、現実には戦争を終え、平和をもたらすのは条約であり、貿易に秩序をもたらす、環境問題を解決するルールが国際法です。各国の首脳、大使、外交官をはじめ、ネゴシエーターは常に、国際社会のルールを意識しています。

この講義は、国際社会に通用する人材に必要な知識とノウハウを身につけることを目的とします。これからの社会では、外交官でなくても、外国の人との交流や折衝は必ず経験することであり、そのノウハウを知っているかどうかは、交渉の結果に大きな違いをもたらします。

講義においては、国際法の勉強を通じ、国際社会に通用する人材に必要な知識を身につけることとなります。受講者の皆さんには、具体的な課題につきプレゼンテーションや実践的な交渉に参加してもらいます（現実のケースをもとにした事例をチームに分かれて交渉します）。同時に、英語による基本的な表現能力も身につけられるように配慮します。また、ゲストスピーカーも参加してもらいます。

講師は15年の実務経験を有する若手の現役外交官です。海外及び外務本省での勤務を通じて得た経験を踏まえ、臨場感にあふれた、インターラクティブな（双方向・実践型）の講義を行います。

## テキスト：

受講する皆さんは、必ず（1）国際法に関する基本的な教科書、（2）条約集及び判例集、（3）交渉・交渉術に関する本、（4）プレゼンテーションに関する本などを事前に購入してください。書名は指定しませんので、自分にとって読みやすい、使いやすい本を選んでください。講義に使用する資料はその都度配布し、指定する図書がある場合は事前にお伝えします。

## 参考書：

以下のような本を参考にテキストを選んでください。あくまでも一例です。必ず読み比べた上で選んでください。

## （1）国際法：

中谷和弘ほか「国際法」（有斐閣アルマ，2006年）、松井芳郎ほか「国際法（第5版）」（有斐閣Sシリーズ，2007年）など。自分にとってわかりやすく、使いやすいものを選んでください。

## （2）条約集、判例集（それぞれ1冊ずつ購入してください）：

大沼保昭／編集代表「国際条約集 2008年版」（有斐閣，2008年）  
 広部和也・杉原高嶺／編修代表「解説条約集 2008」（三省堂，2008年）  
 松井芳郎／編集代表「ベーシック条約集 2006」（東信堂，2008年）  
 いずれか1冊

松井芳郎／編集代表「判例国際法（第2版）」（東信堂，2006年）  
 ：必ず購入して下さい

## （3）交渉・交渉術に関する本（他の本でも結構です）：

フィッシャーほか「新版 ハーバード流交渉術」（阪急コミュニケーションズ，2001年）  
 ユーリー「決定版 ハーバード流 “NO”と言わせない交渉術」（知的生き方文庫，1995年）  
 佐久間賢「交渉力入門（第3版）」（日経文庫，2008年）

## （4）プレゼンテーションに関する本（以下はあくまでも一例です）：

西等「プレゼンの達人になる技術」（中経出版，2003年）  
 八幡紘史「プレゼンの技術」（PHP研究所，2004年）

## （5）英文レポートの書き方についての本（他の本でも結構です）：

上村妙子、大井恭子「英語論文・レポートの書き方」（研究社，2004年）

国際法演習【2006年度以前入学者】【F系列】（秋学期）

国際法演習【2007年度以降入学者】【展開】（秋学期）

国際法の理論と実践：国家の行動を決定するものは何か

講師 石垣 友明

## 授業科目の内容：

国際情勢を理解する上では、政治、経済に加え、国際社会の背骨ともいえる国際法に関する知識が不可欠です。なぜアメリカはイラク戦争に

際して安保理決議の採択を求めたのか、なぜ地球温暖化防止のルール作りにはインドや中国が消極的なのか、海外での援助はどのように行われ、北朝鮮の核開発に関する六者会合はなぜ北京で開催されるのか、これらには全て国際法に基づく理由があります。政治学、経済学、あるいは国際法だけの視点で世界を理解することは一面的であり、世界をよりよく理解するためには、複合的な視点が必要です。この講義のねらいは、バランスのある視点を身につけることです。

この講義は、国際社会に通用する人材に必要な知識とノウハウを身につけることを目的とします。異なる文化や言語の人といかにしてコミュニケーションをはかり、自分の考えを相手に伝え、目的を達成するかについて、実践的な知識を身につけることが目標です。講義では、国際社会の基本的なルールである「国際法」の基本的な枠組みを勉強します。受講者の皆さんには、具体的な課題につきプレゼンテーションや実践的な交渉に参加してもらいます（現実のケースをもとにした事例をチームに分かれて交渉します）。同時に、英語による基本的な表現能力も身につけられるような講義も行います。

講師は15年の実務経験を有する若手の現役外交官です。海外及び外務本省での勤務を通じて得た経験を踏まえ、できるだけ臨場感にあふれた、インターラクティブな（双方向・実践型）の講義を行います。また、各分野で活躍するゲストスピーカー（外国人）の参加を得て、ディスカッションなども行います。前期の授業を受講していなくても、国際法の授業を履修していない人でも、全く問題なく勉強できるように配慮します。

受講する皆さんは、必ず（1）国際法に関する基本的な教科書、（2）条約集及び判例集、（3）交渉・交渉術に関する本、（4）プレゼンテーションに関する本を事前に購入してください。書名は指定しませんので、自分にとって読みやすい、使いやすい本を選んでください。講義に使用する資料はその都度配布し、指定する図書がある場合は事前にお伝えします。

以下のような本を参考にテキストを選んでください。あくまでも一例です。必ず読み比べた上で選んでください。

## （1）国際法：

中谷和弘ほか「国際法」（有斐閣アルマ，2006年）、松井芳郎ほか「国際法（第5版）」（有斐閣Sシリーズ，2007年）など。自分にとってわかりやすく、使いやすいものを選んでください。

## （2）条約集、判例集（それぞれ1冊ずつ購入してください）：

大沼保昭／編集代表「国際条約集 2008年版」（有斐閣，2008年）  
 広部和也・杉原高嶺／編修代表「解説条約集 2008」（三省堂，2008年）  
 松井芳郎／編集代表「ベーシック条約集 2006」（東信堂，2008年）  
 いずれか1冊

松井芳郎／編集代表「判例国際法（第2版）」（東信堂，2006年）  
 ：必ず購入して下さい

## （3）交渉・交渉術に関する本（他の本でも結構です）：

フィッシャーほか「新版 ハーバード流交渉術」（阪急コミュニケーションズ，2001年）  
 ユーリー「決定版 ハーバード流 “NO”と言わせない交渉術」（知的生き方文庫，1995年）  
 佐久間賢「交渉力入門（第3版）」（日経文庫，2008年）

## （4）プレゼンテーションに関する本（以下はあくまでも一例です）：

西等「プレゼンの達人になる技術」（中経出版，2003年）  
 八幡紘史「プレゼンの技術」（PHP研究所，2004年）

## （5）英文レポートの書き方についての本（他の本でも結構です）：

上村妙子、大井恭子「英語論文・レポートの書き方」（研究社，2004年）

国際法演習【2006年度以前入学者】【F系列】（春学期）

国際法演習【2007年度以降入学者】【展開】（春学期）

EUと国際法

講師 高橋 甫

## 授業科目の内容：

EU 拡大と深化が国際社会に与えている影響を直視し、国際法を新たな視点から理解

## テキスト：

なし

## 参考書：

- ・栗林忠男「現代国際法」慶應義塾大学出版，2005
- ・Klaus-Dieter Borchardt「The ABC of Community Law」The European Commission，1999 ([http://ec.europa.eu/publications/booklets/eu\\_documentation/02/txt\\_en.pdf](http://ec.europa.eu/publications/booklets/eu_documentation/02/txt_en.pdf))
- ・山根裕子「新版 EU/EC 法」有信堂，1995
- ・石川明・櫻井雅夫編「EUの法的課題」慶應義塾大学出版，2001年
- ・中村民雄、須網隆夫編著「EU法基本判例集」日本評論社，2007年
- ・田中俊郎、小久保康之、鶴岡路入編「EUの国際政治・域内政治秩序と対外関係の動態」慶應義塾大学出版，2007
- ・庄司克宏「EU法 基礎編」岩波書店，2007年
- ・庄司克宏「EU法 政策編」岩波書店，2007年
- ・植田隆子「EUスタディーズ1 対外関係」勁草書房，2007年

## 法律

- 衆議院憲法調査会「衆議院 EU 憲法及びスウェーデン・フィンランド憲法調査議員団報告書」,平成 16 年 12 月(リザーブブックとして 3 部を 9 月 30 日まで旧図書館 3 階に配架)

---

国際法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】(春学期)  
国際法演習【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
国際経済関係と国際法 講師 間 宮 勇

---

### 授業科目の内容:

国際経済関係から生じる問題を国際法の視点から検討する。  
1995 年に WTO が設立されて以降、国際経済分野における法的規制が飛躍的に拡大している。WTO は、モノの貿易のみならず、サービス貿易の自由化、知的財産権の保護を規定し、現在では、競争ルールや投資、社会条項などの規制も視野に入れて検討が進められている。このゼミでは、WTO 協定を中心として、国際経済関係における法的規制の現状を理解することを目的とする。

はじめの数回の授業で、国際法ならびに国際経済法の基本的な原則や概念について講義をし、その後、各自が選択した国際経済問題について研究報告をして、それをもとに討議をする。

テキスト:  
中川他『国際経済法』(有斐閣 2003 年)

参考書:  
国際経済条約集:小寺・中川編『基本経済条約集』(有斐閣 2002 年)  
もしくは小原喜雄ほか編『国際経済条約・法令集 第 2 版』(東信堂 2002 年)  
小寺編『転換期の WTO』(2003 年 東洋経済新報社)  
荒木・川瀬編『WTO 体制下のセーフガード』(2004 年 東洋経済新報社)  
その他、授業の際に指示する。

---

財政論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
財政論 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
市場の失敗と政府の役割 講師 畑 農 鋭 矢

---

### 授業科目の内容:

財政の存在意義や政府の経済政策の帰結について、俗説に惑わされず、経済学的に理解できる見識を養う。具体的には、経済における政府部門の役割に関して財政学や公共経済学の理論を学習し、市場の役割と市場の失敗、政府の役割と政府の失敗について学習する。また、現実データの概観を通じて、財政の歴史や様々な政策の意義、また現代財政が直面する諸問題について理解を深める。

テキスト:  
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣,2008 年。  
講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

参考書:  
小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社,2002 年。  
井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社,2005 年。  
井堀利宏『財政学 第 3 版』新世社,2006 年。  
アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策 政府の責任と限界』勁草書房,2006 年。

---

財政論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)  
財政論 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
財政各論(租税と公共支出) 講師 畑 農 鋭 矢

---

### 授業科目の内容:

財政学や公共経済学の理論を基礎として、租税の役割や経済効果、公共支出の機能や現代的課題、財政赤字・政府債務の経済効果について個別具体的に学ぶ。また、現実データの概観を通じて、租税と公共支出の歴史的意義や経済的帰結、また現代において直面する諸問題について理解を深める。

テキスト:  
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣,2008 年。  
講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

参考書:  
小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社,2002 年。  
井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社,2005 年。  
井堀利宏『財政学 第 3 版』新世社,2006 年。  
アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策 政府の責任と限界』勁草書房,2006 年。

---

裁判法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
裁判法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
わが国の裁判所と法律家と裁判手続  
法務研究科 教授 三 上 威 彦

---

### 授業科目の内容:

本講義は、紛争解決手段の中心的役割を担っている裁判につき、裁

判はどのような組織によってなされるのか(裁判所制度)、裁判はどのような人々によって運営されているのか(法律家)、裁判はどのようなルールに基づいて行われるのか(裁判手続)といった 3 つの柱を中心にして講義を進める。それによって、受講生に、わが国の裁判制度ないし紛争解決制度について具体的なイメージをもってもらうことを目的とする。講義に当たっては、それぞれの現状を説明するのはもちろん、それぞれが直面している課題その克服のための努力についても話をしたいと考えている。

なお本講義は 1 年で完結することを予定しているため、裁判法 ・ を共に履修することが望ましい。

テキスト:  
とくに指定せず、詳しい講義レジュメを配布して講義を行なう。

参考書:  
講義の進行に伴い、兼子一・竹下守夫(著)『裁判法〔第 4 版 2 刷(補訂)〕』(有斐閣)、市川正人・酒巻匡・山本和彦(著)『現代の裁判〔第 3 版〕』有斐閣アルマ(有斐閣)、および小島武司(編)『ブリッジブック裁判法』(信山社)等を適宜参照されたい。  
詳しい文献紹介は第 1 回目の講義の中で行う。

---

裁判法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)  
わが国の裁判所と法律家と裁判手続  
法務研究科 教授 三 上 威 彦

---

### 授業科目の内容:

本講義は、紛争解決手段の中心的役割を担っている裁判につき、裁判はどのような組織によってなされるのか(裁判所制度)、裁判はどのような人々によって運営されているのか(法律家)、裁判はどのようなルールに基づいて行われるのか(裁判手続)といった 3 つの柱を中心にして講義を進める。それによって、受講生に、わが国の裁判制度ないし紛争解決制度について具体的なイメージをもってもらうことを目的とする。講義に当たっては、それぞれの現状を説明するのはもちろん、それぞれが直面している課題その克服のための努力についても話をしたいと考えている。

なお本講義は、春学期に続いて「第 7 章 民事裁判」から始める。

テキスト:  
とくに指定せず、詳しい講義レジュメを配布して講義を行なう。

参考書:  
講義の進行に伴い、兼子一・竹下守夫(著)『裁判法〔第 4 版 2 刷(補訂)〕』(有斐閣)、市川正人・酒巻匡・山本和彦(著)『現代の裁判〔第 3 版〕』有斐閣アルマ(有斐閣)、および小島武司(編)『ブリッジブック裁判法』(信山社)等を適宜参照されたい。詳しい文献紹介は第 1 回目の講義の中で行う。

---

資産税法【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)  
資産税法【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
教授 吉 村 典 久

---

### 授業科目の内容:

本授業では、相続税と贈与税を説明する。相続税は、相続財産の取得に対して課される税であり、贈与税は、贈与により取得した財産について課される税である。両者は、どちらも相続税法という一つの法律によって規律されており、密接に関連している。世界的な傾向としては、相続税は廃止される方向にあるといえるが、日本で相続税は確固とした地位を確立しており、廃止の兆候すら見受けられない。世界の相続税・贈与税のシステムの中で、日本の相続税・贈与税の特徴を明らかにしていきたい。

なお、時間的余裕があれば、資産税に含まれる固定資産税についても講義しようと考えている。

テキスト:  
教科書 岸田ほか『現代税法の基礎知識』(ぎょうせい)、または、金子宏『租税法』(弘文堂) いずれも最新版  
必携 『判例六法 Professional (平成 21 年版)』(有斐閣)  
講義レジュメ keio.jp で随時に提供

参考書:  
金子宏編『租税判例百選(第四版)』(有斐閣)

---

社会学 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
社会学 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
教授 霜 野 寿 亮

---

### 授業科目の内容:

権力の特性を理解したうえで、権力構造の集中について理論的に考察していきます。

テキスト:

なし

参考書:  
なし

社会学 【2006 年度以前入学者】【系列外】( 秋学期 )  
社会学 【2007 年度以降入学者】【展開】( 秋学期 )

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力概念を精査することで、権力と社会の関係について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

社会法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】( 春学期 )

社会法演習【2007 年度以降入学者】【展開】( 春学期 )

ジェンダーからみた労働法 講師 神尾真知子

授業科目の内容：

社会的文化的に作られた性差、すなわちジェンダーという視点で、労働法を見直します。法規定や判例の中にどのようにジェンダーが潜んでいるのかを明らかにします。憲法 14 条、女性差別撤廃条約、女性労働の歴史、労基法の女性保護規定、労基法 4 条を取り上げます。

女性労働の歴史を学ぶために、女性と仕事の未来館を見学します。

テキスト：

- ・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待(新版)』有斐閣
- ・講義時の配布資料

参考書：

講義時に適宜紹介する。

社会法演習【2006 年度以前入学者】【F 系列】( 秋学期 )

社会法演習【2007 年度以降入学者】【展開】( 秋学期 )

ジェンダーからみた労働法 講師 神尾真知子

授業科目の内容：

社会的文化的に作られた性差、すなわちジェンダーという視点で、労働法を見直します。法規定や判例の中にどのようにジェンダーが潜んでいるのかを明らかにします。均等法、育児・介護休業法を取り上げます。

テキスト：

- ・山下・戒能・神尾・植野『法女性学への招待(新版)』有斐閣
- ・講義時の配布資料

参考書：

講義時に適宜紹介する。

社会保障法 【2006 年度以前入学者】【系列外】( 春学期 )

社会保障法 【2007 年度以降入学者】【展開】( 春学期 )

社会的リスクを回避する為の生活扶助、社会保険、社会福祉諸法と政策を学ぶ 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

社会保障法とは、社会法の範疇において個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く、また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられますが、広い分野の法的問題を研究対象としています。

そこで当講義では、まず社会保障法総論をお話し、生活扶助法を取り上げ、次に多くのサラリーマンがその人生の中で様々に関わる社会保険(雇用保険、労働災害補償保険、年金保険、医療保険、介護保険)を中心に講義します。

秋学期最後に講義回数がとれるならば、社会福祉領域から、児童福祉もしくは高齢者福祉について取り上げます。秋学期の最後の講義では、地方分権という流れの中で、地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくる予定です。

なお、労働法と社会保障法は相互補完的領域ですので、内藤担当の労働法(E)(基幹)(展開)を既に履修したか、履修中である方が理解しやすいと考えます。

テキスト：

テキストは指定せず、毎回 Web に講義のレジュメをアップロードします。さらに改正が頻繁に行われる領域なので、講義毎に必要な資料のコピーを配布します。講義プリントの URL は初回講義の中でお話しします。なお講義には、六法と下記の参考文献を必ず携行してください。

- ・岩村・菊池・編、『目で見える社会保障教材〔第四版〕』(有斐閣, 2008)

参考書：

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣, 2006)

社会保障法 【2006 年度以前入学者】【系列外】( 秋学期 )

社会保障法 【2007 年度以降入学者】【展開】( 秋学期 )

社会的リスクを回避する為の生活扶助、社会保険、社会福祉諸法と政策を学ぶ 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

社会保障法とは、社会法の範疇において個人の幸福追求権をどのように実現するかを考える領域です。対象範囲がきわめて広く、また「社会保障」という概念自体が定説を持ちません。大別すれば社会保険と社会福祉の二つの領域に分けられますが、広い分野の法的問題を研究対象としています。

そこで当講義では、春学期にお話した社会保障総論・生活扶助法・年金保険等に続き、医療保険、介護保険を中心に講義します。

秋学期最後に講義回数とれるならば、社会福祉領域から、児童福祉もしくは高齢者福祉について取り上げます。秋学期の最後の講義では、地方分権という流れの中で、地方公共団体の役割と財政の問題に触れて全体を締めくくる予定です。

なお、労働法と社会保障法は相互補完的領域ですので、内藤担当の労働法(E)(基幹)(展開)を既に履修したか、履修中である方が理解しやすいと考えます。

テキスト：

テキストは指定せず、毎回 Web に講義のレジュメをアップロードします。さらに改正が頻繁に行われる領域なので、講義毎に必要な資料のコピーを配布します。講義プリントの URL は春学期・第一回講義の際にお話しします。なお講義には、六法と下記の参考文献を必ず携行してください。

- ・岩村・菊池・編、『目で見える社会保障教材〔第四版〕』(有斐閣, 2008)

参考書：

- ・西村健一郎『社会保障法』(有斐閣, 2003)
- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣, 2006)

商法 A 【2006 年度以前入学者】【D 系列】( 春学期 )

会社法 【2007 年度以降入学者】【基幹】( 春学期 )

教授 宮島 司

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義を行う。2005 年成立、2006 年より施行されている新会社法が対象である。従来の会社法とは形式も実質も大きく異なるものであり、その解説、解釈論的検討、立法論的検討を行う。

テキスト：

宮島司『新会社法エッセンス(第三版)』(2008 年) 弘文堂

参考書：

必要であればその都度指示する。

商法 B 【2006 年度以前入学者】【D 系列】( 春学期 )

会社法 【2007 年度以降入学者】【基幹】( 春学期 )

会社法 教授 宮島 司

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義を行う。2005 年に成立し、2006 年より施行されている新会社法が対象である。従来の会社法とは形式も実質も大きく異なるものであり、その解説と解釈論的な検討を行う。

テキスト：

宮島司『新会社法エッセンス(第三版)』(2006 年) 弘文堂

参考書：

必要があれば、その都度指示する。

商法 A・商法 B 【2006 年度以前入学者】【D 系列】( 春学期 )

会社法・会社法 【2007 年度以降入学者】【基幹】( 春学期 )

会社法 教授 山本 爲三郎

授業科目の内容：

会社法に関する一般講義。全体を通して少なくとも卒業論文程度の水単での講義にしたいと思えます。対象とするのは、会社法総論、会社法ガバナンス(株式会社の機関)、会社法ファイナンス基礎(株式)です。

テキスト：

山本爲三郎『会社法の考え方 第 7 版』(八千代出版, 2008 年)

商法 A 【2006 年度以前入学者】【D 系列】( 秋学期 )

有価証券法 【2007 年度以降入学者】【基幹】( 秋学期 )

手形法・小切手法(有価証券法理) 教授 加藤 修

授業科目の内容：

手形法・小切手法の講義は、一般的には、手形法・小切手法総論(Allgemeiner Teil)と手形法・小切手法各論(Besonderer Teil)の二部門により構成される。

## 法律

総論においては、手形・小切手の意義、手形・小切手の経済的機能、有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、手形行為（手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性）、手形理論（契約説・単独行為説・二段階説）、手形行為と法律行為の一般原則、手形能力、手形上の意思表示、他人による手形行為（手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造）、手形と実質関係（手形予約・対価関係・手形の書換）の諸項目が講義される。

各論においては、振出（振出の性質・手形要件・白地手形）、裏書（譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書）、引受、保証、支払、手形・小切手の権利の消滅（時効・利得償還請求権）の各項目が講義される。

本講義においては、手形（約束手形・為替手形）と小切手の意義につき説明した後に、手形（約束手形・為替手形）と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形（約束手形・為替手形）と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形（約束手形・為替手形）と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債券、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券などにも有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理することが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

電子記録債権法が制定され、金銭債権について指名債権とも手形債権とも異なる新類型の債権が作りだされた。この新類型の債権は、電脳空間において手形債権と同様な機能を発揮し得るので、これに関しても言及される。

商法・有価証券法では、上記総論と上記各論が1限と2限の集中で講義されます。商法 A・有価証券法 は、建前としては、上記総論を対象として、1限に集中されるが、上記総論と上記各論は、車の両輪に相当するので、商法 A・有価証券法 履修者は、上記各論を対象とする2限にある商法 B・有価証券法 もあわせて履修してください。つまり、1限と2限、すなわち、商法 A・有価証券法 と商法 B・有価証券法 が一体化して、手形法・小切手法が講義されます。

テキスト：

宮島司「やさしい手形法・小切手法」(第2版)法学書院(2006年(平成18年))

参考書：

倉澤康一郎「手形判例の基礎 リーディングケースによる手形法入門」日本評論社(1990年(平成2年初版))

---

商法 B【2006年度以前入学者】【D系列】(秋学期)  
有価証券法 【2007年度以降入学者】【基幹】(秋学期)  
手形法・小切手法(有価証券法理) 教授 加藤 修

---

授業科目の内容：

手形法・小切手法の講義は、一般的に、手形法・小切手法総論(Allgemeiner Teil)と手形法・小切手法各論(Besonderer Teil)の二部門により構成される。

総論においては、手形・小切手の意義、手形・小切手の経済的機能、有価証券としての手形・小切手と有価証券の意義、手形行為（手形行為の意義・手形行為の解釈・手形行為の独立性）、手形理論（契約説・単独行為説・二段階説）、手形行為と法律行為の一般原則、手形能力、手形上の意思表示、他人による手形行為（手形行為の代理・手形の偽造・手形の変造）、手形と実質関係（手形予約・対価関係・手形の書換）の諸項目が講義される。

各論においては、振出（振出の性質・手形要件・白地手形）、裏書（譲渡裏書・譲渡裏書の効力・善意取得・特殊の裏書）、引受、保証、支払、手形・小切手の権利の消滅（時効・利得償還請求権）の各項目が講義される。

本講義においては、手形（約束手形・為替手形）と小切手の意義につき説明した後に、手形（約束手形・為替手形）と小切手がどのようにして成立し、どのようにしてその役割をはたして、結末をむかえるかということが説明される。手形（約束手形・為替手形）と小切手が、それぞれの満期において支払われれば、手形関係者は満足を得て、円満のうちに法律関係終了ということになるけれども、もし満期において支払がなされなければ、手形法・小切手法において対処方法が規定されているので、その点についても説明される。

本講義は、手形法と小切手法をその対象としているけれども、最終的には、有価証券法理の理解を目的とする。手形（約束手形・為替手形）と小切手は、典型的な有価証券である。そのほかにも、株券、債券、貨物引換証、船荷証券、倉庫証券などにも有価証券とされている。現在の国民経済において、資金・資本の調達、それらの流動化、資金・資本の払

戻あるいは支払につき、有価証券という道具を利用して処理をすることが大々的に行われている。その意味において、現在の市場経済資本主義は、有価証券資本主義ともいわれている。本講義において、手形法と小切手法の基本法理を理解することにより、市場経済資本主義の基本の一つを構成する有価証券法理の根本を理解することが期待される。

電子記録債権法が制定され、金銭債権について指名債権とも手形債権とも異なる新類型の債権が作りだされた。この新類型の債権は、電脳空間において手形債権と同様な機能を発揮し得るので、これに関しても言及される。

商法・有価証券法では、上記総論と上記各論が1限と2限の集中で講義されます。商法 B・有価証券法 は、建前としては、上記各論を対象として、2限に集中されるが、上記総論と上記各論は、車の両輪に相当するので、商法 B・有価証券法 履修者は、上記総論を対象とする1限にある商法 A・有価証券法 もあわせて履修してください。つまり、1限と2限、すなわち、商法 A・有価証券法 と商法 B・有価証券法 が一体化して、手形法・小切手法が講義されます。

テキスト：

宮島司「やさしい手形法・小切手法」(第2版)法学書院(2006年(平成18年))

参考書：

倉澤康一郎「手形判例の基礎 リーディングケースによる手形法入門」日本評論社(1990年(平成2年初版))

---

商法 A【2006年度以前入学者】【D系列】(秋学期)  
有価証券法 【2007年度以降入学者】【基幹】(秋学期)  
手形法・小切手法講義 教授 鈴木 千佳子

---

授業科目の内容：

(当該科目は形式上有価証券法・、商法 A・ Bとなっているが、この授業は2コマ続きで行われる。シラバスでは、秋学期の講義前半部分(手形法各論中心)と後半部分(手形法総論中心)を分けて記載するが、実際には、1時間目と2時間目に異なった内容を講義するのではない。)

手形法・小切手法について講義する。手形・小切手は実際には学生諸君にはなじみの薄いものであるかもしれないが、商法としての重要な考え方がそこには詰まっており、商法では会社法と並んで学習しなければならない重要な分野とされてきた。また、手形法・小切手法は理論がしっかりしており、基本的なことさえしっかり理解していれば、細かい点に迷わされることはないと思う。

講義はまず、手形小切手の概要を説明した後、約束手形を前提にしながらか各論から説明し、後半で重要な論点が多い総論の講義に入る。そして、最後に、為替手形・小切手の特別な問題について言及する。

テキスト：

テキストは使用しない。

その代わりに、授業でプリントを配布することもある。

参考書：

倉澤康一郎『手形判例の基礎』日本評論社(1990年)  
宮島司『やさしい手形法・小切手法(第二版)』法学書院(2003年)

---

商法 B【2006年度以前入学者】【D系列】(秋学期)  
有価証券法 【2007年度以降入学者】【基幹】(秋学期)  
手形法・小切手法講義 教授 鈴木 千佳子

---

授業科目の内容：

(当該科目は形式上有価証券法・、商法 A・ Bとなっているが、この授業は2コマ続きで行われる。シラバスでは、秋学期の講義前半部分(手形法各論中心)と後半部分(手形法総論中心)を分けて記載するが、実際には、1時間目と2時間目に異なった内容を講義するのではない。)

授業内容に関しては、商法 A(有価証券法)の該当部分を参照のこと。

テキスト：

テキストは使用しない。

その代わりに、授業でプリントを配布することもある。

参考書：

商法 A(有価証券法)のシラバス参照。

---

商法 A【2006年度以前入学者】【D系列】(春学期)  
企業法総論【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
教授 高田 晴仁

---

授業科目の内容：

商法総則について基本的な制度および解釈論について講義を行う。

参考書：

近藤光男・商法総則・商行為法(第5版)(有斐閣、2006年)

---

商法 B【2006年度以前入学者】【D系列】(秋学期)  
企業取引法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
教授 高田 晴仁

---

授業科目の内容：

商行為法について基本的な制度および解釈論について講義を行う。

参考書：

商法 A・企業法総論と同じ

商法 A【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

保険法【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

教授 島原 宏 明

授業科目の内容：

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあっては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題されるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くと、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかになされるべきであらうか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

倉沢康一郎『保険法通論』新青出版

商法 B【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

保険法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

教授 島原 宏 明

授業科目の内容：

一般に、人の経済生活に関する法律制度は、経済制度を形成・維持するための手段たる形式であるから、経済制度と法形式が内容上異なるということは考えにくい。ところが、保険制度にあっては、経済制度としては保険団体を要素とするものでありながら、法律制度としては保険契約の当事者間の契約のみが問題されるというように、同一の取引について、経済制度と法律制度とでとらえる側面がまったく異なるという特殊性がみられる。こうした特殊性を念頭に置くと、個々の被保険者と保険者との間の権利・義務がいかなる内容をもつことになるのであろうか。さらにまた、保険制度の発展・変革は、保険者と保険契約者との対等性を喪失させるが、その復権がいかになされるべきであらうか。こうしたことを意識しながら、保険法に関する一般講義を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

倉沢康一郎『保険法通論』新青出版

商法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

商法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

講師 高場 大 介

授業科目の内容：

商法総則・商行為法・会社法(設立・株式)を範囲とします。民法・特別法との関係を意識しつつ、判例を中心に、講義・演習をすすります。

商法の実務での運用、訴訟での適用等を視野に入れた授業内容としたく思います。

テキスト：

「商法(総則・商行為)判例百選(第4版)」及び「会社法判例百選」(いずれも有斐閣)

参考書：

特に指定はしません。

商法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

商法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 高場 大 介

授業科目の内容：

会社法の後半部分(株主総会・取締役会・役員関係・計算書類・定款変更・解散・社債・組織変更)を範囲とします。

民法・特別法との関係を意識しつつ、判例を中心に、講義・演習をすすります。

商法の実務での運用、訴訟での適用等を視野に入れた授業内容としたく思います。

テキスト：

「会社法判例百選」(有斐閣)

参考書：

特に指定はしません。

所得税法 租税法 に記載しています

政策と法【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

政策と法【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

政策の形成、執行、評価およびこれらの統制に関する法制度と実態  
講師 有川 博

授業科目の内容：

国および地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正に遂行され、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロールが法制度として用意されているか(そして、それが近年どのようなスタイルに変容しているか)を学ぶとともに、主として政策形成過程における失敗事例を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶ。

テキスト：

拙著『公共政策と講義概要( )』

参考書：

講義の中で紹介します。

政策と法【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

政策と法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

政策の形成、執行、評価およびこれらの統制に関する法制度と実態  
講師 有川 博

授業科目の内容：

国および地方公共団体における政策の立案・形成、執行、その評価、そして次の政策形成へのフィードバックへと至る、いわゆる政策過程全体を視野に入れながら、その中で行政が適正に遂行され、効果的・効率的に行政目的を実現できるようにするために、どのようなコントロールが法制度として用意されているか(そして、それが近年どのようなスタイルに変容しているか)を学ぶとともに、主として政策執行及び政策評価過程における失敗事例を検証しながら、それら法制度の実態についてもあわせて学ぶ。

テキスト：

拙著『公共政策と法 講義概要( )』

参考書：

講義の中で紹介します。

政治学【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

政治学【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

講師 谷口 尚子

授業科目の内容：

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。春学期は特に、民主政治の主役たる「有権者」(つまり我々)に焦点をあて、その心理・行動、選挙過程、マスメディアの影響、集団・文化等を掘り下げます。専門的な学術理論、実証研究と併せ、時事問題も取り扱います。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きる上での「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

参考書：

- 『制度改革以降の日本型民主主義』(2008)小林良彰(木鐸社)
- 『現代日本の投票行動』(2005)谷口尚子(慶應義塾大学出版会)
- 『政治学』(2003)久米郁男他(有斐閣)

その他、授業中に指示します。

政治学【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

政治学【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

講師 谷口 尚子

授業科目の内容：

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。秋学期は特に、現代民主政治のしくみ、日本政治のしくみに焦点をあて、様々な政治制度・機関・過程(政策決定過程・立法過程、官僚制、中央・地方政府関係等)を解説します。専門的な学術理論、実証研究と併せ、時事問題も取り扱います。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きる上での「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

参考書：

春学期と同じ

租税法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
 所得税法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 教授 吉村 典久

授業科目の内容：

所得税は、租税の中でも最も基幹とされる税目であり、研究の蓄積も一番多い科目です。したがって、租税法の基礎理論をマスターするには最も適切な科目であり、他の税目への導入科目としても最適です。また、サラリーマンについては源泉徴収と年末調整、個人事業で行う者については確定申告、高額所得者にとっては配当所得と利子所得についての特例措置、低額所得者にとっては各種の所得控除や課税最低限、というような様々な面で我々の生活に密接に関連している税目でもあります。特に、今後、少子高齢化社会の到来による社会保障費支出の増大や財政再建のため、所得税の増税も密かに計画されていることに鑑みれば、これから大学を卒業して、社会人となる皆さんにとって所得税の意義はますます高まるであろうことが予想されます。この所得税の法理論を勉強することによって、今後の日本の税制のあり方を皆さんとともに考えていきます。

テキスト：

教科書 岸田ほか『現代税法の基礎知識』(ぎょうせい)、または、金子宏『租税法』(弘文堂) いずれも最新版  
 『判例六法 Professional (平成 21 年版)』(有斐閣)  
 必携 keio.jp で随時に提供  
 講義レジュメ

参考書：

金子宏編『租税判例百選 (第四版)』(有斐閣)

租税法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)  
 企業税法 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 法人税法と消費税法の基本構造 講師 岩崎 政明

授業科目の内容：

企業活動に関連の深い租税(法人税と消費税)について講義する。法律の講義なので、特に企業会計に関する知識の有無を問わない。

テキスト：

水野忠恒『租税法』(第 3 版, 有斐閣, 2007 年)

参考書：

特になし。

租税法総論 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
 租税法総論 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 租税法の基礎(租税手続法を含む) 講師 岩崎 政明

授業科目の内容：

租税法の入門科目として、租税法規全体に通用する共通原則(租税法主義・租税公平主義・租税法の解釈適用の特色)、租税の申告・納税の方法(租税手続法)および租税過誤のは正方法(租税争訟法)について講義する。他の租税法関連科目の前提となる科目である。

テキスト：

水野忠恒『租税法』(第 3 版, 有斐閣, 2007 年)

参考書：

岩崎政明『ハイポセティカル・スタディ租税法』(第 2 版, 弘文堂, 2007 年)

団体法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)  
 団体法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 「自然人以外の権利主体である法人その他の団体に関する法制度について」 講師 阿久沢 利明

授業科目の内容：

人の人たるゆえんは、団体に統合することにあると言われるように、個人の限界を意識して、人と人が重合して大きな力を発揮する団体の存在が歴史を支えてきたことも事実である。われわれは、自然人個人に対してもう一方の権利主体である法人を中心とした団体について、その存在の意義と内容および使命・課題を十分理解しておく必要があるであろう。

なお、民法が改正され、遅くとも平成 20 年から、非営利法人ないし公益法人は、主として特別法(「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律」など)の定めによることになったので、これを中心にして講述したい。

テキスト：

開講時に明らかにしたい。

担保法 ・担保法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)(秋学期)  
 担保法 ・担保法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)(秋学期)  
 (共同担当)教授 斎藤 和夫  
 基本・応用・発展 (共同担当)講師 花房 博文

授業科目の内容：

本講義は、債権回収のための物権として規定された、民法第 2 編第 7 章「留置権」から第 10 章「抵当権」の典型担保権、および特別法上の抵当権、

非典型担保権を対象とする。各制度が制定された沿革や社会的背景を考察するとともに、特に金融破綻の状況下での債権回収の強化の要請を受けた、平成 15 年、担保・執行法改正の意義と現状を検討するものである。判例等の事例を材料に、法律上の争点と課題に即して、また民事執行・保全手続との関係が明確になるよう、解説に努めたいと考える。

テキスト：

斎藤和夫『レーアブーフ民法 (担保物権法)』中央経済社, 07 年 1 月  
 参考書：

・高木多喜男『担保物権法 (第 4 版)』有斐閣 ¥4,095  
 ・星野英一他編『民法判例百選 (第 5 版新法対応補正版)』¥2,095  
 ・中野貞一郎編著『民事執行・保全法概説 (第 3 版)』有斐閣 ¥2,205

知的財産法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)

知的財産法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

准教授 君嶋 祐子

授業科目の内容：

知的財産法とはどのような法分野かということを紹介したうえで、代表的な創作保護法である特許法について、概要を講義する。

知的財産法は、無体物の財産的利用を中心に定めた法の総称である。有体物についての物権法のように、無体物を一定の範囲で排他的に利用できる権利の変動について定めた法や、不法行為法の特別法として位置づけられる不正競争法のうち、無体物の利用に関する行為類型について定めた法を含めて呼ぶことが多い。

また、知的財産法の分野では、特許権のように、出願・審査等の手続を経て、登録によって権利が発生するものがあり、立法により詳細な手続が定められている。

さらに、発生した知的財産権の客体は無体物なので、権利の客体の解釈や、その権利を侵害する行為かどうかの解釈、損害額の算定には、有体物に対する権利侵害と比べて労力を要することが多い。

そのため、「知的財産法」の一言でカバーされる法分野は、客体の種類の多様さと解釈の難しさという点で、また、法令が財産法、手続法全般にわたる規定を設けているという点で、広分野にわたる。

本講義では、まず、そのような法分野全体を紹介したうえで、技術的思想である発明を保護対象とし、詳細な出願・審査・審判手続を設けている特許法について、概要を講義する。

テキスト：

テキストは指定しないが、各自、初回授業で指定する法令の条文全文を持参すること。

参考書：

初回に指示する。

知的財産法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

知的財産法 【2007 年度以降入学者】【展開】(秋学期)

准教授 君嶋 祐子

授業科目の内容：

知的財産法とはどのような法分野かということを紹介した上、代表的な創作保護法である著作権法について、概要を講義する。

知的財産法は、無体物の財産的利用を中心に定めた法の総称である。有体物についての物件法のように、無体物を一定の範囲で排他的に利用できる権利の変動について定めた法や、不法行為法の特別法として位置づけられる不正競争法のうち、無体物の利用に関する行為類型について定めた法を含めて呼ぶことが多い。

また、知的財産法の分野では、特許権のように、出願・審査等の手続を経て、登録によって権利が発生するものがあり、立法により詳細な手続が定められている。

さらに、発生した知的財産権の客体は無体物なので、権利の客体の解釈や、その権利を侵害する行為かどうかの解釈、損害額の算定には、有体物に対する権利侵害とは比べて労力を要することが多い。

そのため、「知的財産法」の一言でカバーされる法分野は、客体の種類の多様さと解釈の難しさという点で、また、法令が財産法、手続法全般にわたる規定を設けているという点で、広分野にわたる。

本講義では、まず、そのような法分野全体を紹介したうえで、創作的表現を保護し、格別の手続を要することなく創作行為によって発生する著作権法について、概要を講義する。

テキスト：

テキストは指定しないが、各自、初回授業で指定する法令の条文全文を持参すること。

参考書：

初回に指示する。

破産法 【2006 年度以前入学者】【系列外】(春学期)

倒産法 【2007 年度以降入学者】【展開】(春学期)

破産法・民事再生法を中心とした倒産法の基礎理論の理解

法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容：

ある企業ないし個人が倒産した場合、絶対的に不足する債務者の財産

をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象を、可能な限り平和的に解決するためには、関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に、もし可能ならば、債務者の経済的な再出発をも可能にするような法制度が是非とも必要になる。本授業では、このような倒産法制の基礎理論を講義する。

授業では、会社更生法や民事再生法などが国における現行の倒産法制度にも若干言及するが、破産法を中心に講義をすることになる。なぜならば、破産法は、わが国倒産法制度の中でもっとも基本的なものであり、各倒産法制は、多かれ少なかれ、破産法の基礎概念の上に構築されているといっても過言ではない。よって、わが国の倒産法制度を理解するためには、破産法の基礎概念の理解が不可欠であり、逆に言えば、破産法が理解できれば、他の倒産法制度の理解も格段に容易になると考えられるからである。

講義にあたっては、初学者を対象に、破産手続の基本的な流れを十分に理解してもらうために、基本的な事項を中心として手続の初めから終わりまでまんべんなく触れるつもりである。

春学期では、第1章から第8章までを講義する。

テキスト：

テキストは用いず、詳細な講義レジュメを配布するが、サブテキストとして、青山善充＝伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選〔第四版〕』有斐閣を適宜使用するので、受講生は用意しておくこと。なお、詳しい文献紹介は最初の授業の時に進行。

参考書：

- ・伊藤眞『破産法・民事再生法』有斐閣
- ・中島弘雅『体系倒産法』(中央経済社)
- ・山本和彦『倒産処理法入門(第3版)』有斐閣
- ・加藤哲夫『破産法〔第四版 補正版〕』弘文堂

破産法 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

倒産法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

破産法・民事再生法を中心とした倒産法の基礎理論の理解

法務研究科 教授 三上 威彦

授業科目の内容：

ある企業ないし個人が倒産した場合、絶対的に不足する債務者の財産をめぐって債権者の利害は鋭く対立する。この倒産という現象を、可能な限り平和的に解決するためには、関係人の利害を調整しつつこれら債権者の公平な満足を図ると共に、もし可能ならば、債務者の経済的な再出発をも可能にするような法制度が是非とも必要になる。本授業では、このような倒産法制の基礎理論を講義する。

授業は、春学期に続いて、「第9章 法人の役員の責任の追及等」の講義から始める。

テキスト：

テキストは用いず、講義レジュメを配布するが、サブテキストとして、青山善充＝伊藤眞＝松下淳一編『倒産判例百選〔第四版〕』有斐閣を適宜使用する。なお、詳しい文献紹介は最初の授業の時に進行。

参考書：

- ・伊藤眞『破産法・民事再生法』有斐閣
- ・中島弘雅『体系倒産法』(中央経済社)
- ・山本和彦『倒産処理法入門(第3版)』有斐閣
- ・加藤哲夫『破産法〔第四版 補正版〕』弘文堂

破産法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

倒産法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

民法の盲点と破産法入門 法務研究科 教授 中島 弘雅

授業科目の内容：

学生諸君からよく民法は難しいという声を聞きますが、民法でよくわからなかった論点も、倒産という究極の場面を念頭に置くと、民法の規定がどのように作用するのかがよくわかります。本演習は、倒産法の観点から民法の規定する諸制度を眺め直すことを通じて、民法と倒産法(さらには民事手続法)についての理解を深めてもらうことを目的としています。

テキスト：

小林秀之『新破産から民法が見える』日本評論社 2800円

参考書：

中島弘雅『体系倒産法』中央経済社 4600円

破産法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

倒産法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

民法の盲点と倒産法入門 法務研究科 教授 中島 弘雅

授業科目の内容：

学生諸君からよく民法は難しいという声を聞きますが、民法でよくわからなかった論点も、倒産という究極の場面を念頭に置くと、民法の規定がどのように作用するのかがよくわかります。本演習は、倒産法の観点から民法の規定する諸制度を眺め直すことを通じて、民法と倒産法(さらには民事手続法)についての理解を深めてもらうことを目的としています。

テキスト：

小林秀之『新破産から民法が見える』日本評論社 2800円

山本和彦『倒産処理法入門〔第3版〕』有斐閣 2205円

参考書：

中島弘雅『体系倒産法』中央経済社 4600円

松下淳一『民事再生法入門』有斐閣 2100円

被害者学 【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

被害者学(基礎理論)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

被害者学基礎理論 教授 太田 達也

授業科目の内容：

被害者学は第二次世界大戦前後に提起された新しい学問分野であるが、歴史的には、犯罪の発生過程における犯罪者と被害者の関係や犯罪被害の受けやすさ(被害受容性)といった被害者化の過程に関する研究に始まり、1960年代以降は、犯罪被害者に対する国家補償制度、1970年代以降は被害者に対する危機介入などの直接支援、更に1980年代以降は、被害者の権利や刑事手続における被害者の地位に関する研究へと発展してきている。また、犯罪者が被害者やコミュニティに与えた「損害」の内容を犯罪者自身に正しく認識させ、その「回復」に向けた適切で可能な限りの努力を営ませることによって犯罪という「紛争」の真の「解決」ないし「終結」を目指すことを司法の基本理念とする修復的司法の理念に基づく様々な制度が世界各地で導入されるに至り、被害者の立場にも大きな影響を与えると同時に、被害者支援の見地からあるべき姿の模索が続けられている。

我が国でも、遅ればせながら、1980年に犯罪被害者等給付金支給法(2001年の改正で法律の名称が改正されている)が制定され、公的な財源による犯罪被害者への給付金制度が創設され、その後の空白期間を経て、1996年に警察庁が被害者対策要綱を制定してからは、犯罪被害者に対する保護や支援の制度が実務レベルで改善されるとともに、刑事訴訟法一部改正、いわゆる犯罪被害者保護法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止法、ストーカー行為規制法、少年法一部改正などの立法も実現している。

被害者学・被害者学(春学期)では、被害者学の創設期に提唱された基礎的な理論とその後の被害者関連の理論を紹介したうえで、各種犯罪被害の状況や対策について概説する。

テキスト：

特に指定しないが、下記の参考書を参考にされたい。

参考書：

講義毎に適宜紹介するが、概ね、以下のものが参考になる。

- ・内閣府『平成20年版犯罪白書』(2008)
- ・諸澤英道『新版被害者学入門』(2001年、成文堂)
- ・小西聖子『犯罪被害者の心の傷』(1996年、白水社)
- ・全国被害者支援ネットワーク編『犯罪被害者支援必携』東京法令(2008)
- ・宮澤浩一＝國松孝次監修『講座被害者支援』全5巻(2000年、成文堂)
- ・松尾浩也編著『逐条解説・犯罪被害者保護二法』ジュリストブック(2001年、有斐閣)

さらに、日本被害者学会の学会誌『被害者学研究』に多くの論文が掲載されている。

被害者学 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

被害者学(犯罪被害者支援論)【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

被害者のための正義はどう実現して来たか

講師 諸 沢 英 道

授業科目の内容：

刑事政策は、今、大きく変わろうとしている。1955年以来、世界の刑事政策を引っ張ってきた「犯罪防止および犯罪者の処遇に関する国連会議(通称、国連犯罪防止会議)」は、創設50周年に当たる2005年から「犯罪防止および刑事司法に関する国連会議」と名称を変えた。

この講義を通して、刑事政策に求められている発想の転換、すなわち「パラダイムの変換」を学んでいただくと同時に、パラダイム変換の中核をなす「被害者の視点に立った刑事政策」についても理解を深めていただく。

日本における「被害者の視点の導入」は、欧米に20年以上も遅れただけでなく、この問題についての正しい理解をしている専門家は少ない。最近の10年間に被害者をめぐるさまざまな問題が起こっているが、その問題に対する専門家の指摘にも偏見に満ちたものが散見される。

被害者対策の面で諸外国に大きく遅れをとった日本ではあるが、2000年に、いわゆる「犯罪被害者保護法」が制定され、2005年12月には「犯罪被害者等基本法」が成立した。また、刑法の中の業務上過失致死傷罪に関連して危険運転致死傷罪(刑208条の2)が新設され、ストーカー行為等規制法、児童虐待防止法、配偶者暴力防止保護法(DV法)が制定され、また、刑事訴訟法、検察審査法、少年法、犯罪被害者等給付金支給法も一部改正された。

被害者に対する人々の関心が高まり、法整備も順調に進んできているように見えるが、これらの法律では、被害者は「配慮」される対象であって、権利性は認められていなかった。それが、2005年4月の犯罪被害者等基本法の施行により大きく方向転換することになった。基本法は、安全で安心して暮らせる社会を実現する国の責務を明記し、犯罪被害者等には「個人の尊厳が重んじられ、その尊厳にふさわしい処遇を保障される権利」があることを謳っている。

2009年5月の裁判員制度の導入に先立って、2008年12月には被害者

## 法律

の刑事裁判への参加や損害賠償命令も施行されることになった。また、被害者は少年審判を傍聴できるようにもなった。このように目まぐるしく変わる刑事政策であるが、できるだけ最新の情報を利用して受講者にわが国の刑事政策のあり方を考えてもらおうつもりである。

テキスト：

諸澤英道著「新版被害者学入門」成文堂、2001年  
諸澤英道著「被害者のための正義」成文堂、2003年

参考書：

適宜指摘する。

---

比較競争法【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

比較競争法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

教授 田村 次朗

授業科目の内容：

比較競争法では、企業法務でますます重要性を増している競争法の国際比較を取り上げる。特に、各国の競争法の根底に流れる基本的な分析枠組みを事例を分析しながら丁寧に分析し、その上で、マイクロソフト事件や国際的な合併案件の審査など最新のトピックの中になる重要な論点を抽出する。次に、グローバルなビジネス展開と競争法との関係さらに、規制当局と企業との関係についてより深く考えるため、競争法の応用領域である「経済政策」の現実の運用について、電力・ガスの自由化、情報通信産業の将来とIT技術、さらに経済政策における競争のとらえ方について検討する。

テキスト：

滝川敏明『日米EUの独禁法と競争政策 グローバル経済下の企業競争ルール』(青林書院 2006)ただしテキストについては、今後変更の可能性があるので、開講時の指示に従うこと。

参考書：

柳川隆・川濱昇『競争の戦略と政策』(有斐閣 2006)

---

法医学 ・法医学 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

法医学・法医学 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

犯罪・事故の実態、解明と予防を目指して

医学部 教授 藤田 眞幸

授業科目の内容：

日常診療の中で、医師は患者を治療するために診断を行っていますが、法医学者が行う診断は、紛争の解決を目的とするものです。例えば、交通事故で2台の車が関与したような場合、外傷がどちらの車によるものかということは、治療上は、どうでもよいことですが、紛争という点からは、最も重要になってきます。講義では、犯罪や事故、突然死などについて、臨床医学的な視点だけでなく、このような法医学的な視点から解説していきます。また、皆さんからは、法学部生でなければ気づかないような疑問点や問題点について積極的に意見を述べていただき、皆さんともに法医学の世界を広げていきたいと思っています。

テキスト：

必要に応じてプリントを配布する予定。

・臨床法医学テキスト(中外医学社)

---

法思想史【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

西洋法思想の発展およびアジアにおける近代法思想の受容

講師 國分典子

授業科目の内容：

「法思想」の概念定義にはさまざまな考え方がありますが、ここでは近代的な法制度の背景にある西洋思想を主たる対象とし、西洋思想の発展過程の中で、法についての考え方がどのように現れ、変化してきたかを国家思想・社会思想と関連させつつ、検討していきます。また、日本を含めたアジア地域でこうした西洋の法思想がどのように受容されたかも考察する予定です。

テキスト：

授業内容のレジュメをプリントして、そのつど配布します。

参考書：

田中成明他『法思想史』(有斐閣Sシリーズ)

---

法思想史 【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

近代国家成立に至る法思想

講師 國分典子

授業科目の内容：

「法思想史」は、「法」「思想」「史」の三つの要素をもつために、ともすれば「法学」から逸脱した感も与える幅広い学問領域です。しかし、一方で、「思想的」「史的」考察の基礎づけなくして「法」は語れません。ここでは、西洋思想の発展過程の中で、法についての考え方がどのように現れてきたかを国家思想・社会思想と関連させつつ、検討していきます。時代的には古代から近代国家成立の頃までを対象とします。

テキスト：

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

参考書：

田中成明他『法思想史』(有斐閣Sシリーズ)

---

法思想史 【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

近代における法思想と法学の発展 講師 國分典子

授業科目の内容：

近代における法思想の発展を中心にみてゆきます。今日、「近代法思想」と呼ばれているものは、西洋近代の中で成立・発展してきました。しかし、西洋においても、各国それぞれの土壌でつちかわれた法思想は異なった特徴をもって発展し、また、それに連れて法学のあり方にも違いが見られます。こうした西洋諸国の法思想および法学の展開、さらにそれらを受容して生まれるアジアの近代法思想を主に採り上げ、相互比較しつつ、検討します。

テキスト：

授業内容のレジュメをプリントしてそのつど、配布します。

参考書：

田中成明他『法思想史』(有斐閣Sシリーズ)

---

法思想史演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

法思想史演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

近代の法思想と国家形成 講師 國分典子

授業科目の内容：

近代国家形成の過程で現われた法思想の内容とその史的立場を検討します。西洋近代の国家および法を念頭におくとともに、その影響を受けた北東アジアの近代化も射程に入れて、考えてゆきます。

テキスト：

毎回、翌週分のテキストを提示ないし配布します。

---

法思想史演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

法思想史演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

法・国家・正義に関わる諸問題の検討

講師 國分典子

授業科目の内容：

法・正義・国家といった概念に関わる諸問題について書かれた論文や、入手しやすい文庫本等に収められた代表的な法思想家の著作を読んで、討論を行います。少人数の授業ですので、扱う文献および授業の進め方については初回に参加者の希望を聞き、できるだけ受講者の興味に沿った内容したいと思います。

テキスト：

初回に受講者と話し合っ採り上げる文献を決定します。

---

法制史 (西洋)【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

法制史 (西洋)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

古代ローマ法から近世までのヨーロッパ法史

講師 村上 裕

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の共通基盤ともいべきローマ法を軸に、中世から近世末にかけてのヨーロッパ法史を概観することを主たる内容とします。

まずは、共和政時代からユスティニアヌス法典の成立に至る経過を辿りながら、ローマ法の特徴を明らかにし、続いて、中世ヨーロッパにおけるローマ法の再生といわれる現象、すなわちローマ法が中世の学問の枠組みのなかで研究対象として、また実務のなかに取り込まれ、さらにローマ法がヨーロッパにおける共通基盤となる過程を検討していきます。最後に、ルネサンス・人文主義の思潮のなかで非ローマ法的要素(国家ないし地域に固有な法)が学問・実務において見直される契機と、それが近代法形成に向けての幕開けとなることを示して本講義を締めくくことにします。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを所定の箇所からダウンロードして利用してもらいます。

(URL、パスワードなどは第1回授業時に指示します。)

参考書：

勝田ノ森ノ山内編著『概説西洋法制史』(ミネルヴァ書房)

---

法制史 (日本)【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

法制史 (日本)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

明治時代以降の日本法の近代化過程を論点的に考察する

教授 岩谷 十郎

授業科目の内容：

まず講義前半部分では、法の歴史を問う現代的な視点を明らかにするために、現代に生ずる様々な訴訟事件を法的に解決するにあたって、優れた歴史解釈的なセンスが要求された問題を取り上げ、それらを通して、法史の上で現在と過去をつなぐ論点を確認する。さらに、析出された具

体的な論点を歴史に問う手段として、とくに訴訟関係資料を中心とした資料論を提示し、近代日本法の歴史を学ぶ基本的な道具立てを紹介する。

後半では、近代日本法を形成する主要法典の編纂過程を概観する。諸法典が制定されてゆく経過を、我が国の近代法の描く国家と法のグランドデザインの形成過程としてとらえつつ、講義を進めていきたい。

また、これまで「日本人の法意識」が具体的に論じられる素材として、日本人の訴訟忌避行動についての分析が、現在、様々な角度から法社会学的に進められている。本講義では、歴史学的視点からこの問題を吟味するために、我が国の近世における民事訴訟システムのあり方と近代期のそれとの比較を行い、両者間の連続と断絶とを見極め、「日本人の法意識」を形成する歴史的な要因を考えてみることも行いたい。

なお本講義は、秋学期に開講される「法制史演習」(出口担当)に内容的に接続するものである。双方の履修が望ましいことを付記しておく。

テキスト：

特に指定はしない。

参考書：

- ・川口由彦著『日本近代法制史 新法学ライブラリ 29』(新世社・1998年)
- ・山中永之佑編『新・日本近代法論』(法律文化社・2002年)
- ・同編『日本近代法案内』(法律文化社・2003年)
- ・同著『民事裁判の法史学』(法律文化社・2005年)

法制史 (日本)【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

法制史 (日本)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

日本中世武家法 講師 漆原 徹

授業科目の内容：

鎌倉幕府法を通じて中世武家社会における諸相を理解することを目的として、その基本法典である関東御成敗式目を講読する。関連する追加法や裁判状なども必要に応じて適宜プリントを配布して解説する予定。

テキスト：

霞信彦・漆原徹・浜野潔編『日本法制史 史料集』(慶應義塾大学出版会、2003年)

参考書：

『中世政治社会思想上』(日本思想体系 21, 岩波書店)

法制史 (日本)【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

法制史 (日本)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

教授 霞 信彦

授業科目の内容：

法律学という学問に取り組み、これから長い期間にわたり法との関わりをもつであろう学生諸君にとって、『歴史』のあなたにあるわが国の法の変遷を承知することは、法に対する知見を広げ、現行法理解に向けて豊かな基礎力を涵養するために、有効な手段のひとつであると考えられる。そこで本講義では、近世の日本法の一つ端について述べることを予定している。まず初めに、約260年の長きにわたり徳川幕府により統治された江戸時代について概観しつつ、同時代の「法」の全体的な構造について述べてみたいと思う。そうして得られた基礎知識を前提に、初代家康以来時代とともに変わりゆく、幕府と大名との支配関係を詳らかにする「武家諸法度」の内容にふれるつもりである。さらに、幕府が直接支配する地域におこった「公事方御定書」の編纂・性格・具体的内容を明らかにしたい。さらには、TV・映画・演劇で日本人の血をわかせる時代劇の世界へも目を向け、当時の刑事罰や警察活動(いわゆる「捕物」の世界である)、あわせて刑事裁判の史実現実に迫りたいと考えている。

テキスト：

霞・漆原・浜野『日本法制史史料集』(慶應義塾大学出版会)

参考書：

講義において必要に応じて指摘する

法制史演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

法制史演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

西洋法制史 専任講師 藪 本 将 典

授業科目の内容：

ひろくヨーロッパ法の源流をたどることを目的として、J. H. Merryman, *The Civil Law Tradition: An Introduction to the Legal Systems of Western Europe and Latin America*, 2nd edition, Stanford University Press, 1985. を購読します。本書は、主として英米法圏の学生のために書かれた教科書として定評があり、したがって英米法との比較により、多角的かつ客観的にヨーロッパの法と法文化について理解を深めることが可能です。

当演習では、レポーター制により各回のトピックについて報告を行い、その後の自由な意見交換を通じて、より深い知識の共有をはかっていきたいと考えています。(なお、報告の分担等の細かい点については、初回に履修者と相談の上で決定します。)

テキスト：

J. H. Merryman, *The Civil Law Tradition: An Introduction to the Legal Systems of Western Europe and Latin America*, 2nd edition, Stanford University Press, 1985.

参考書：

勝田有恒・森征一・山内進 編著『概説 西洋法制史』ミネルヴァ書房、2004年

法制史演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

法制史演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

中世武家法 講師 漆原 徹

授業科目の内容：

鎌倉・室町幕府法および追加法を通じて、中世の法と制度の理解を深めることを目的とする。幕府の全国支配の中心的機能を担った守護を中心に、幕府・守護・御家人(国人)三者の関係を示す史料を講読していく予定。

テキスト：

霞信彦・漆原徹・浜野潔編『日本法制史 史料集』(慶應義塾大学出版会、2003年)

参考書：

- ・百瀬今朝雄・佐藤進一編『中世法制史料集』第一巻～三巻(岩波書店)
- ・『中世政治思想上』(日本思想体系 21, 岩波書店)

法制史演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

法制史演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

大正・昭和戦前期および占領期の法制史・法思想 講師 出口 雄一

授業科目の内容：

明治時代に始まる我が国の法制の近代史は、大正期・昭和期(特に戦前期)においてどのような展開があったのであろうか。通常「近代法体制の再編期」とも称される上記の期間は、大正デモクラシーの政治状況下にあったが、同時に西洋法の影響下にあった日本法がその「固有」の姿を求め、様々な法制改革が試みられた時期でもあった。また総力体制下の戦時状況に臨み我が国の法制はどのような時代的変容を余儀なくされたのか。そしてGHQによる占領改革は日本法の近代史においていかなる意義があったのか。

本演習では、以下に記す授業計画・方法に従って、上記の諸問題を半期にわたって受講者諸君と共に考えていくことにしたい。

テキスト：

予め授業担当者の方で、テキストとする論説などをコピーしそれを受講者に実費で購入して頂く予定である。

参考書：

適宜授業内で紹介していく。

法と経済【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

法と経済【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

准教授 石 岡 克 俊

授業科目の内容：

かつて、慶應義塾における経済法の講義は総論と各論の二部より構成され、前者においては経済法の一般理論が、後者においては独占禁止法を中心とした実定経済法の解釈論が、それぞれ講じられていた。しかし、近時の実定経済法 とりわけ独占禁止法 の理論の進展、判・審決の集積、ガイドライン行政の定着などを受け、経済法の講義は実定経済法の中心である独占禁止法の説明に多くの時間を費やさざるを得なくなった。このため、慶應義塾において伝統的に行われてきた経済法総論の内容が十分に論じられることがないまま、経済法=独占禁止法という枠組みの中で講義が展開され、総論的内容はおろそかにされてきた。このような状況に対処すべく、設置されたのが本科目「法と経済」である。したがって、本講義では、まず経済法の一般理論を、その発生・成立の経緯から戦前戦後にわたる学説の展開に至るまでを、伝統的かつオーソドックスな手法で解説を試み、経済法理論の現段階を明らかにしていく。わが国は、戦後、経済制度の大きな転換を経験しつつも、現在までに大きな経済的成功をわがものとしてきた。この経済的発展には、数多くの実定経済法とそれに基づく具体的な経済政策とが深く関わってきたといえる。しかしながら、これらの実定経済法の統一的ないし体系的把握は、現在に至るまで必ずしも充分になされてきたとは言い難い。わが国における経済法の理解には、市場や経済に対し、国・公権力が、法を媒介として、どのように介入・関与しているのかをつぶさに検証していく必要がある。本講義では、現代における市場経済体制を前提とし、経済法の一般理論構築を念頭に、実定経済法の統一的・体系的把握を試みていく。

テキスト：

講義全体をカバーする適当な教科書はないため、特に指定しない。本講義の構想と併せて簡単な文献紹介は講義初回に行う。講義資料プリントは毎時間配布します。

参考書：

テキスト同様、特に指定しないが、内容との関係で有意義と認められるものについては、講義中にその都度紹介する。また、経済法の一般理論論についての参考文献については若干古いものをあわせいくつか指摘しておくことにする。

日本経済法学会編『経済法講座 1 経済法の理論と展開』(三省堂・2002

## 法律

年) / 正田彬『経済法講義』(日本評論社・1999年) / 正田彬ほか『現代経済法講座第1巻現代経済社会と法』(三省堂・1990年) / 丹宗暁信 = 伊従寛『経済法総論』(青林書院・1999年) / 丹宗暁信 = 厚谷襄兒編『現代経済法入門』(法律文化社・1981年) / 金澤良雄『経済法』(有斐閣・新版・1980年) / 峯村光郎『経済法の基本問題』(慶應通信・1959年)

---

法理学 【2006年度以前入学者】【A系列】(春学期)  
法理学【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
(法理学)現代正義論の諸問題(1)  
(法理学)現代正義論の諸問題 講師 石山文彦

---

### 授業科目の内容:

法理学として論じられるテーマは多岐にわたる(その概要については授業の冒頭で簡単に触れる)が、授業では主題を正義論に絞ることにする。正義論は、法の目的あるいは法の目指すべき理念・理想を追究するものであり、法理学の基本問題として最も古くから論じられてきた。授業では、特に現代の正義論のテーマとして、どのような正義原理が個人の自由をよりよく保障するのか、福祉国家的再配分と自由は両立するのか、またそもそも、はたして、またなぜ個人の自由が尊重されねばならないのか、などの問いを取り上げ、それらに対して、功利主義、平等主義的自由主義、自由尊重主義、共同体主義およびフェミニズムから出された回答を紹介するほか、近年活発になりつつある多文化主義の主張を紹介する。さらに、これらの主張の長短について、簡潔に検討する。

### テキスト:

指定しない。

### 参考書:

講義全般に関わるものを以下に掲げる。詳細は、授業中に指示する。  
長谷川晃・角田猛之(編著)『ブリッジブック法哲学』(信山社, 2004)  
平井亮輔(編著)『正義』(嵯峨野書院, 2004)  
川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社, 1985)  
W・キムリッカ『現代政治理論』(日本経済評論社, 2002)

---

法理学 【2006年度以前入学者】【A系列】(春学期)  
現代正義論の諸問題(2) 講師 石山文彦

---

### 授業科目の内容:

法理学に引き続き、現代正義論の諸潮流のなかから、功利主義、平等主義的自由主義、自由尊重主義、共同体主義、フェミニズムおよび多文化主義の主張を取り上げ、より詳細に、それらを紹介するとともに、それらの長短の分析を行う。

### テキスト:

指定しない。

### 参考書:

講義全般に関わるものを以下に掲げる。詳細は、授業中に指示する。  
長谷川晃・角田猛之(編著)『ブリッジブック法哲学』(信山社, 2004)  
平井亮輔(編著)『正義』(嵯峨野書院, 2004)  
川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社, 1985)  
W・キムリッカ『現代政治理論』(日本経済評論社, 2002)

---

保険法 ・ 商法 A・Bに記載しています

---

---

民事訴訟法 A【2006年度以前入学者】【D系列】(春学期)

民事訴訟法 【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)

判決手続法の基礎理論と第一審訴訟手続

教授 坂原正夫

---

### 授業科目の内容:

民事訴訟制度は民事紛争の正しい解決(法的な解決)を目的とし、それによって個人の権利を保護するとともに、社会の法秩序の維持に努めています。講義では、民事訴訟法がそのためにどのような配慮をしているかを明らかにするとともに、その合理性・妥当性を実体法秩序の構造と関連させながら、検討してみようと思います。具体的には、訴えの提起から判決の確定に至る、いわゆる判決手続法の基本構造や基本原理に関する基礎理論と第一審訴訟手続を中心に講義をします。

これ以外の民事訴訟法の重要なテーマとしては、複雑訴訟と上訴手続・再審手続がありますが、これらは民事訴訟法で講義する予定ですので、民事訴訟法(旧A)と(旧B)では扱いません。なお複雑訴訟とは、訴訟の対象である請求が複数である訴訟や、当事者が多数である多数当事者訴訟のことです。上訴手続とは下級審の裁判を検討する上級審の裁判手続のことです。控訴・上告・抗告の3つの手続があります。再審手続とは確定した裁判の可否を検討する手続です。

このようなことから民事訴訟法(旧A)と(旧B)は、1人の原告が1人の被告に対して1つの紛争対象に関して訴えを提起した場合に、どのような問題を考えていかなければならないのか、その後の手続がどのように展開していくのかといったことを中心に講義をします。(旧A)と(旧B)の区別は、授業計画の欄に書きました。

### テキスト:

池田辰夫編『新現代民事訴訟法入門』(法律文化社, 2005年)を使用します。

### 参考書:

最近では民事訴訟法を含めて重要な法律が毎年改正されています。参考書を利用する場合は、改正法を織り込んだものを利用してください。しかし、それはそうでない参考書や論文は価値がなくなったということではありません。改正に関係ない箇所や理論的な問題については十分利用できるからです。したがって、最近刊行されたものでない本や論文を利用する際は、当該事項が改正法に関係しているか否かを調べる必要があります。以下の文献は平成20年12月1日現在の状況です。

民事訴訟法の一般的な参考書(編著者の五十音順)

伊藤真『民事訴訟法〔第3版3訂版〕』(有斐閣, 2008年)

上田徹一郎『民事訴訟法〔第5版〕』(法学書院, 2007年)

梅本吉彦『民事訴訟法〔第3版〕』(信山社, 2006年)

新堂幸司『新民事訴訟法〔第4版〕』(弘文堂, 2008年)

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 上』(有斐閣, 2005年)

高橋宏志『重点講義 民事訴訟法 下〔補訂版〕』(有斐閣, 2006年)

中野貞一郎ほか編『新民事訴訟法講義〔第2版補訂2版〕』(有斐閣, 2008年)

松本博之 = 上野泰男『民事訴訟法〔第5版〕』(弘文堂, 2008年)

民事訴訟法の判例を知るための参考書

伊藤真ほか編『民事訴訟法判例百選〔第3版〕』( = 別冊ジュリスト 169号, 有斐閣, 2003年)

民事訴訟法の論点を整理するための参考書

青山善充ほか編『民事訴訟法の争点〔第3版〕』(有斐閣, 1998年)

2009年の春に第4版が刊行予定

民事訴訟法に関する辞典

林屋礼二ほか編『民事訴訟法辞典』(信山社, 2000年)

---

民事訴訟法 B【2006年度以前入学者】【D系列】(秋学期)

民事訴訟法 【2007年度以降入学者】【基幹】(秋学期)

判決手続法の基礎理論と第一審訴訟手続

教授 坂原正夫

---

### 授業科目の内容:

民事訴訟法(旧A)の4を参照してください。

### テキスト:

民事訴訟法(旧A)の5を参照してください。

### 参考書:

民事訴訟法(旧A)の6を参照してください。

---

民事訴訟法 A【2006年度以前入学者】【系列外】(春学期)

民事訴訟法 【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)

民事訴訟法のうちの判決手続に関する講義科目

教授 三木浩一

---

### 授業科目の内容:

民事訴訟法について、判決、和解、複雑訴訟などの部分を取り上げ、民事訴訟の基本原則と基礎的な知識の習得を目標とする。

### テキスト:

特に指定しない。

### 参考書:

・伊藤真『民事訴訟法〔第3版3訂版〕』(有斐閣)

・新堂幸司『新民事訴訟法〔第4版〕』(弘文堂)

・民事訴訟法判例百選〔第3版〕(有斐閣)

---

民事訴訟法 B【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

民事執行法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

民事訴訟法のうちの上訴手続および民事執行法に関する講義科目

教授 三木浩一

---

### 授業科目の内容:

広義の民事訴訟手続のうち、第1審判決以降に登場する手続段階を取り上げる。具体的には、控訴や上告などの上訴手続、確定判決の実現手段としての強制執行、強制執行と並ぶ民事執行手続である担保権実行などについて学ぶ。

### テキスト:

特に指定しない。

### 参考書:

・伊藤真『民事訴訟法〔第3版3訂版〕』(有斐閣)

・新堂幸司『新民事訴訟法〔第4版〕』(弘文堂)

・民事執行・保全法概説〔第3版〕(有斐閣)

・民事訴訟法判例百選〔第3版〕(有斐閣)

・民事執行・保全判例百選(有斐閣)

民事訴訟法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

民事訴訟法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

具体的設例を通じて民事訴訟法の理解を深める

講師 栗田 陸雄

授業科目の内容:

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト:

講義資料プリントを配布する。

参考書:

民事訴訟法判例百選 (新法対応版), 民事訴訟法判例百選(第3版)および民事訴訟法に関する体系書

民事訴訟法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

民事訴訟法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

具体的設例を通じて民事訴訟法の理解を深める

講師 栗田 陸雄

授業科目の内容:

民事訴訟法の分野における判例および設例を素材に、具体的事例における理論的な問題点の解明を試みる。

テキスト:

講義資料プリントを配布する。

参考書:

民事訴訟法判例百選 (新法対応版), 民事訴訟法判例百選(第3版)および民事訴訟法に関する体系書

民法 A【2006年度以前入学者】【B系列】(春学期)

民法(債権総論)【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)

債権総論(前半)

教授 池田 真朗

授業科目の内容:

民法債権総論の分野の前半を講義する。

内容は、1. 債権の目的、2. 債権の効力、3. 責任財産の保全である。

後期の民法 B, 民法(債権総論)との時間配分の関係で、4. 多数当事者の債権関係の最初の部分まで講述する予定である。

民法財産法の総仕上げとして、民法, 民法(総論)から民法, 民法(債権各論)までの内容にも言及する。

法律を「紛争解決の手段」として把握し、単に知識として理解するだけでなく「使いこなせる」レベルに至れるようにすること、またそのための学習はどういうものであるかを了解させること、が講義の狙いである。

テキスト:

池田真朗『新標準講義 民法債権総論』慶應義塾大学出版会、2009年4月出版予定

参考書:

・池田真朗『スタートライン債権法』(第4版)日本評論社、2005年  
 ・奥田昌道=安永正昭=池田真朗編『判例講義民法 債権』悠々社、2004年  
 ・野村豊弘=池田真朗他『民法 債権総論』(第3版)有斐閣Sシリーズ、2005年  
 ・奥田昌道=池田真朗=潮見佳男編『民法4 債権総論』悠々社、2007年  
 ・池田真朗編著『民法 Visual Materials』有斐閣、2008年

民法 B【2006年度以前入学者】【B系列】(秋学期)

民法(債権総論)【2007年度以降入学者】【基幹】(秋学期)

債権総論(後半)

教授 池田 真朗

授業科目の内容:

民法債権総論の分野の後半を講義する。

内容は、1. 多数当事者の債権関係、2. 債権の譲渡、3. 債権の消滅である。

前期の民法 A, 民法(債権総論)との時間配分の関係で、1. 多数当事者の債権関係の最初の部分は前期の民法 A, 民法(債権総論)で講述する。したがって、民法はAもBも、民法(債権総論)はもともに履修することが望ましい。

民法財産法の総仕上げとして、民法, 民法(総論)から民法, 民法(債権各論)までの内容にも言及するのは、民法 A と同様である。

法律を「紛争解決の手段」として把握し、単に知識として理解するだけでなく「使いこなせる」レベルに至れるようにすること、またそのための学習はどういうものであるかを了解させること、が講義の狙いである。

テキスト:

池田真朗『新標準講義 民法債権総論』慶應義塾大学出版会、2009年4月出版予定

参考書:

・池田真朗『スタートライン債権法』(第4版)日本評論社、2005年  
 ・奥田昌道=安永正昭=池田真朗編『判例講義民法 債権』悠々社、2004年

・野村豊弘=池田真朗他『民法 債権総論』(第3版)有斐閣Sシリーズ、2005年

・奥田昌道=池田真朗=潮見佳男編『民法4 債権総論』悠々社、2007年

・池田真朗編著『民法 Visual Materials』有斐閣、2008年

民法 A【2006年度以前入学者】【B系列】(春学期)

民法(家族法)【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

家族法

教授 犬伏 由子

授業科目の内容:

民法(親族編)を対象とします。この部分は家族法と呼ばれていますが、家族に関しては、意識や行動、価値観の大きな変化が見られます。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、家族法の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

テキスト:

授業開始時に指示する

参考書:

水野紀子他編『家族法判例百選(7版)』有斐閣

民法 B【2006年度以前入学者】【B系列】(秋学期)

民法(家族法)【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

相続法

教授 犬伏 由子

授業科目の内容:

民法(相続編)を対象とします。この部分は民法・親族編とともに家族法と呼ばれています。人の死により、生前その者に属した権利・義務は、日本においては、家族を中心とした承継のルールに従うこととなります。講義では、現代社会における家族の変化も踏えて、相続の基本的枠組や諸課題について、考察して行きます。

テキスト:

講義開始時に指示する

参考書:

水野紀子他編『家族法判例百選(7版)』有斐閣

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)

民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)

民法の体系・基礎理論

講師 金井 高志

授業科目の内容:

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の成立から効果帰属要件に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次および2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

テキスト:

・後藤巻則『契約法講義[第2版]』(弘文堂・2007年)(但し、各自の持っている民法総則及び債権総論のテキストでもかまいません。)

・西村克己『ロジカル・シンキングが身につく入門テキスト』(中経出版・2003年)

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書:

参考文献などは適宜指示します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)

民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)

民法の体系・基礎理論とその応用

講師 金井 高志

授業科目の内容:

1. 民法の体系・基礎理論

最も重要な契約である売買契約や賃貸借契約につき、契約の効力要件から契約の終了に至るまでの時系列にそって論点・争点の検討を行うことにより、民法典の編別の体系とは別に典型的な契約類型を基にした体系・基礎理論の説明・演習を行います。また、その体系・基礎理論の中で、1年次および2年次などで学習した様々な民法の論点の位置付けの検討を行い、また、様々な論点につき、考え方の論理のパターンで分類を行います。

2. 民法の体系・基礎理論の応用

現在の情報化社会で重要となっている知的財産権のライセンス(使用許諾)契約やコンピュータ・インターネットを利用した取引において、民法の体系・基礎理論がどのように応用・修正されているかの検討・演習を行います。

テキスト:

・後藤巻則『契約法講義[第2版]』(弘文堂・2007年)(但し、各自の持っている物権法及び債権総論・各論のテキストでもかまいません。)

・金井高志『民法でみる知的財産法』(日本評論社・2008年)

講義の際に、講義資料プリントを配布します。

参考書:

参考文献などは適宜指示します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 債権法における理論と実務の架橋 講師 小林哲也

授業科目の内容:

民法の債権法のうち典型契約の事案をもとに、事実関係を抽出し、事実関係に対応した法的論理構成を身に付け、知識としての民法を「使える」民法とすることを目的とします。典型契約の事案については、各要件事実を中心に、民法総則から債権総論までの基礎的知識を随時確認していきます。さらに実学としての民法を身に付けるために法的文書の作成方法を学び、基礎的契約書の作成を行います。

授業の進め方については、講義と問答形式を併用し、また秋学期においては事案の聞き取りや受講生同士のディベート等により面接交渉技法やプレゼンテーション技法も学んでいただきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。必要な資料は、講義の際に配布します。

参考書:

必要な参考書は、講義の都度、適宜指示します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 債権法における理論と実務の架橋 講師 小林哲也

授業科目の内容:

民法の債権法のうち典型契約および不法行為の事案をもとに、事実関係を抽出し、事実関係に対応した法的論理構成を身に付け、知識としての民法を「使える」民法とすることを目的とします。事案については、各要件事実を中心に、民法総則から債権総論までの基礎的知識を随時確認していきます。さらに実学としての民法を身に付けるために法的文書の作成方法を学び、基礎的契約書および基礎的示談書の作成を行います。

授業の進め方については、講義と問答形式を併用し、また秋学期においては事案の聞き取りや受講生同士のディベート等により面接交渉技法やプレゼンテーション技法も学んでいただきたいと思います。

テキスト:

特に指定しません。必要な資料は、講義の際に配布します。

参考書:

必要な参考書は、講義の都度、適宜指示します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 民法の体系的理解と具体的な事案への適用 講師 菅野智巳

授業科目の内容:

判例の事案などを素材に、具体的な事例において、民法の各条文がどのように解釈され適用されていくのか検討していくなかで、民法の基本的な体系・構造とその考え方を理解することを目標とします。

今回は売買・賃貸借などの典型契約の事例を題材にします。講義・議論・判例研究等を行うことにより、法律的なものの考え方、民法的な思考法を身に付け、あわせて財産法分野の基礎的知識の習得を目指します。民事訴訟実務の視点からの事例分析(いわゆる要件事実論に基づく事例分析)及び民法の基本構造の検討もしていきたいと考えています。

法律実務に関する話題も適宜提供していき、現に機能している法現象の一端に触れてもらえればと考えています。

できるだけ受講生が積極的に参加して議論する場を設けたいと考えています。その際、いわゆる正解を求めるのではなく、具体的な紛争事案について、問題の所在を正しく認識して、各自の法的判断を条文の解釈として明らかにすることができるようになることと及びその意義を理解することを目的とします。

テキスト:

六法  
 民法判例百選  
 民法判例百選

参考書:

基本的な参考書等は第一回の講義の際に紹介します。  
 テーマ毎の参考文献は適宜講義の中で紹介します。  
 受講に際して読んでおくべき文献は適宜指示します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 民法の体系的理解と具体的な事案への適用 講師 菅野智巳

授業科目の内容:

判例の事案などを素材に、具体的な事例において、民法の各条文がどのように解釈され適用されていくのか検討していくなかで、民法の基本的な体系・構造とその考え方を理解することを目標とします。

秋期は前期に引き続き典型契約の事例のほか、不法行為ないしは担保

に関する事例を題材として取り上げたいと考えています。講義・議論・判例研究等を行うことにより、法律的なものの考え方、民法的な思考法を身に付け、あわせて財産法分野の基礎的知識の習得を目指すことは春期と同様です。民事訴訟実務の視点からの事例分析(いわゆる要件事実論に基づく事例分析)にも春期よりも比重をかけていきます。

法律実務に関する話題も適宜提供していき、現に機能している法現象の一端に触れてもらえればと考えています。秋期はいわゆる債権総論や担保法にかかる分野についてもより詳しくお話をしていきたいと考えています。現に機能している法現象の一端に触れてもらえればと考えています。

できるだけ受講生が積極的に参加して議論する場を設けたいと考えています。その際、いわゆる正解を求めるのではなく、具体的な紛争事案について、問題の所在を正しく認識して、各自の法的判断を条文の解釈として明らかにすることができるようになることと及びその意義を理解することを目的とします。

テキスト:

六法  
 民法判例百選  
 民法判例百選

参考書:

基本的な参考書等は第一回の講義の際に紹介します。  
 テーマ毎の参考文献は適宜講義の中で紹介します。  
 受講に際して読んでおくべき文献は適宜指示します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 契約法を中心とする債権法の基礎的理解を深める 講師 菅原万里子

授業科目の内容:

現代取引社会において、債権法がどのような意味づけを有しているのか、どのように機能しているのか、という視点から、債権法の基礎・実務と理論の交錯点を探求していくことを考えています。具体的には契約総論・契約各論を中心に、まず、理論面につき、概括し、典型契約を中心に実際に実務で用いられることのある契約書を題材に、理論と実務の接点につき解説していききたいと思います。

又、必要に応じて重要判例の分析等も行ってみようと思います。

テキスト:

特に指定はしませんが、六法は必ず持参下さい。

参考書:

適宜、授業中に紹介します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
 契約法を中心とする債権法の基礎的理解を深める 講師 菅原万里子

授業科目の内容:

春学期に引き続き、民法の理論と実務の交錯点と探究する予定です。特に春学期で基礎的理解を深めた上で秋学期においては、判例理論を中心とした事例検討に力点を置きたいと考えています。

テキスト:

特に指定はしませんが、六法は必ず持参下さい。  
 判例百選も用意いただいた方がよいと思います。

参考書:

適宜、授業中に紹介します。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(春学期)  
 民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(春学期)  
 金融取引と債権法・担保法(基礎編) 講師 吉峯亮子

授業科目の内容:

国際金融実務に従事する実務家の立場から、金融実務において基本となるローン取引及びこれに付随する担保取引につき、後期で学習するストラクチャード・ファイナンス取引の基礎となる債権法・担保法上の論点を学習する。春学期が基礎となり、秋学期がその応用となるため、通年の履修が望ましい。債権法については、契約関係の発生から消滅までという実際の取引における時系列に沿った形で、担保法については各担保の種類ごとにそれぞれに関する代表的な論点につき、判例の事案を元に学習する。各論点ごとに代表的な判例の事案の分析や学説の状況を掘り下げるほか、実務において取引のストラクチャーや契約書でどのような手当・工夫がされているかなど実務上の取扱についても適宜学習することとする。改正の議論にも必要に応じて適宜触れる予定である。

進め方については履修人数に応じて検討することとする。

テキスト:

講義資料プリントを配布する。

参考書:

参考書は、講義の都度適宜紹介する。

民法演習【2006年度以前入学者】【F系列】(秋学期)  
民法演習【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
金融取引と債権法・担保法(応用編) 講師 吉 峯 亮 子

授業科目の内容:

春学期において習得した基礎的な知識を元に(従って、春学期を履修していない学生については、民法の体系的な学習を一通り終了していることが望ましい。)、金融実務において実際に行われている取引・その時々において注目を集めている取引のストラクチャーや、問題点を学習する。商法、信託法、金融商品取引法、倒産法など民法以外の金融実務上の重要な法律についてもその概要や論点を適宜学習することとする。

進め方については履修人数に応じて検討することとする。

テキスト:

講義資料プリントを配布する。

参考書:

参考書は、講義の都度適宜紹介する。

労働法 【2006年度以前入学者】【E系列】(春学期)  
労働法 【2007年度以降入学者】【基幹】(春学期)  
雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する  
教授 内 藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法(使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域)、そして集団的労使関係法(憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域)に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2009年春出版予定)を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話します。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選(第7版)(有斐閣2002)

参考書:

初心者向けの参考書として、

西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)

西村健一郎・安枝英『労働法(第10版)』(有斐閣プリマシリーズ、2009)

大部の概説書に、

菅野和夫『労働法(第8版)』(弘文堂、2008)

労働法 【2006年度以前入学者】【E系列】(秋学期)  
労働法 【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する  
教授 内 藤 恵

授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法(使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域)、そして集団的労使関係法(憲法28条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域)に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2009年春出版予定)を使用する予定です。

その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話します。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選(第7版)(有斐閣2002)

参考書:

初心者向けの参考書として、

・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)

・西村健一郎・安枝英『労働法(第10版)』(有斐閣プリマシリーズ、2009)

大部の概説書に、

・菅野和夫『労働法(第8版)』(弘文堂、2008)

ローマ法【2006年度以前入学者】【系列外】(秋学期)

ローマ法【2007年度以降入学者】【展開】(秋学期)  
中世におけるローマ法の展開 教授 森 征 一

授業科目の内容:

法制史は、法を学ぶ者が身につけるべき基礎教養科目であり、当然に憲法、民法、刑法、訴訟法等の実定法科目と有機的に連結して、法学教育の一端を担うものです。本講義では、現在ヨーロッパ共通法として形成されつつある EU(欧州連合)法を視野に入れながら、古代ローマ法と近代ヨーロッパ法の橋渡しをした中世ローマ普通法(ius commune)について法文化の視点から解き明かして見たいと考えています。

テキスト:

テキストは使いません。講義の都度、内容に即した資料(プリント)を教材として配布します。

参考書:

K. W. ネル/村上訳『ヨーロッパ法史入門』(東京大学出版会 1999年)、P. スタイン著/屋敷監訳『ローマ法とヨーロッパ』(ミネルヴァ書房、2003年)、勝田・森・山内編著『概説 西洋法制史』(ミネルヴァ書房、2004年)、勝田・山内編著『近世・近代ヨーロッパの法学者たち』(ミネルヴァ書房、2008年)

有価証券法 ・ 商法 A・B に記載しています

## 〔系列科目〕

## 〔文献講読〕

文献講読 (独)(春学期)

政治学文献をドイツ語で読めるようになろう

教授 萩原能久

授業科目の内容:

この授業では、ドイツ語で書かれた社会科学の専門書を正確に読みこなす能力の育成と同時に、書かれている内容に関しても積極的な討論を行います。履修者は少数でしょうから、基本的には開講時に相談して、受講者の関心にできるだけそった使用テキストを決めたいと思いますが、基本的に、政治学の理論的問題、ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの政治・社会情勢の問題を扱うつもりです。

政治思想に関心のある受講者が多い場合には、特定の思想家の著作を読むこともあります。

テキスト:

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書:

辞書(電子辞書でも結構ですが、収録語数、文例の多いものでないと役に立ちません)は必ず携行してください。

文献講読 (独)(秋学期)

准教授 田上雅徳

授業科目の内容:

ドイツ語で著された政治史・政治思想史の研究書を講読します。

テキスト:

講読を予定している文献は、以下のものです。

Rudolf Weber-Fas; Über die Staatsgewalt, Von Platons Idealstaat bis zur Europäischen Union (München, 2000).

文献講読 (仏)(春学期)

フランス語で政治思想に関する文献を読む

准教授(有期) 片山杜秀

授業科目の内容:

広義の政治思想ないし政治思想史に関するフランス語の文献を読みます。具体的に何を読むかは、1回目の時間に履修希望の皆さんと相談して決めたいと思います。進め方としては、毎回、適当な分量を割り振って担当者に訳してきてもらい、その訳文を確かめてゆくというかたちを考えています。

文献講読 (仏)(秋学期)

フランスの政治、政治文化、政治哲学 教授 堤林 剣

授業科目の内容:

フランス語の政治思想の文献を輪読しながら、フランスの政治、政治文化、政治哲学について考える。

テキスト:

履修者と相談して決める。

文献講読 (中)(春学期)

教授 安田 淳

授業科目の内容:

中国の政治・社会等に関する中国語文献を講読することにより、現代中国の歴史や現状を理解し問題意識を高めることを目的とする。

テキスト:

教材は授業中にプリントとして配布する。

文献講読 (中)(秋学期)

教授 安田 淳

授業科目の内容:

文献講読 (中)(春学期)に同じ。

文献講読 (西)(春学期)

教授 大久保 教宏

授業科目の内容:

スペイン語の文章を読む際の難しさどこにあるのだろうか。1,2年生のときには、点過去と線過去の違いや、接続法の用法に大いに悩まされたかもしれない。だが、それらは、実は読解の際には必ずしも難しくない。というのは、少々乱暴かもしれないが、点過去と線過去、接続法と直説法を区別せずに読んで、それほど支障はないからだ。実際、英語はこれらをあまり区別していない。では、スペイン語文の難しさはどこにあるかということ、英語や日本語の文には見られないような一文の長さにあ

る。節や句を幾重にも後ろにつなげたり、やたら挿入句を挟み込むのが、美しいスペイン語文であると考えられているようなのだ。一つの文が9行、10行と続くことは珍しくない。一段落が一文であったりもする。だから、スペイン語の読解力向上には、長い文を節や句に区切って読むテクニクを身につける必要がある。スペイン語文を区切る目印になるのは、節であれば接続詞(cuando, aunque, que, porqueなど)や関係詞(que, lo que, quien, donde, comoなど)、句であれば前置詞(a, de, en, por, paraなど)や過去分詞(dado, hechoなど)である。このうち、接続詞と前置詞の前が切れ目になることは、英語からの応用で比較的わかりやすいのであるが、関係詞と過去分詞は、初級文法では軽く流される割に、用法は英語より多彩で、実際のスペイン語文で頻出する。関係詞と過去分詞が、スペイン語文の読解を難しくしている最大の要因ともいえるので、それらをマスターすることが重要なポイントである。

これらの目印を頼りに文を区切ったあとは、それぞれの節や句の間の修飾・被修飾の関係を見極めなければならない。これまで何年か文献講読を担当してきた経験からすると、よく読める学生はこの修飾・被修飾の関係の見極めができており、読めない学生はそれができない。しかし、スペイン語は変なところで親切な言語で、関係詞や過去分詞に性数があるので、それらが文のどの部分を修飾しているのかがある程度わかる仕組みになっている。英語や日本語だと、性数で修飾・被修飾の関係を明らかにすることができないので、長い文にすると、わけのわからない文になってしまう恐れがある。逆にスペイン語文は、長くなっても文意がブレにくい。慣れてしまえば、日本語なんかよりずっと論理的に筋道立てて読むことができる。よって、スペイン語の文章をすらすら読むためには、文の区切り方や、修飾・被修飾関係の見極め方を習得する必要がある。この授業では、その練習を行う。

用いるテキストは、スペイン人が書いた中米6か国(グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、パナマ)の旅行記で、最初に訪れたグアテマラ編を2年間読んで、まだ終わらない。そのグアテマラ編の途中から読み始めることになる。スペイン語を学んだ諸君には、是非スペイン語圏の国をいくつも訪れてもらいたいが、おそらく多くの方が、まずはスペイン、メキシコを訪れるであろう。3か国目として、グアテマラはお勧めだ。アルゼンチンほど遠くなく、ペルーほど治安が悪くなく、マヤ遺跡、民族衣装を着飾った先住民の村、スペイン人が建てたコロニアル風の町、美しい火山や湖など、小さい割に見所は非常に多い。私もグアテマラが好きで、もう10回くらい行っている。しかし、大学生たるもの、単に観光旅行して喜んでいるのでは能がない。その国の歴史、社会、文化についても学んでほしい。この旅行記は歴史の話や政治の話、人々の生活の様子等々がうまく盛り込まれたなかなかの名著である。事実、この本は「2005年偉大な旅行者に与える賞」を受賞している(どういう賞だかよくわからないが)。

テキスト:

Rosa Regás, Pedro Molina Temboury, *Volcanes dormidos: Un viaje por Centroamérica*, Madrid, Ediciones B, 2005.

コピーを配布する。

履修者へのコメント:

しっかり予習をしてくること。与えられたスペイン語文の構造をあらかじめじっくり考えておかなければ、この授業に出る意味はない。

文献講読 (西)(秋学期)

教授 大久保 教宏

授業科目の内容:

春学期の続き。

文献講読 (露)・文献講読 (露)(春学期)(秋学期)

アネクドートでロシアの裏面を読む 教授 山田 恒

授業科目の内容:

今年度はアネクドートを読む。アネクドートとは笑話と訳すことも出来るが、実際には、鋭い風刺を必ず含んでいる。ことに政治的な発言が制約されていたソヴェートでは、権力批判が笑いととも密かに語られていた。しかし、現代ロシアでも非常に多くのアネクドートが語られ、たくましいロシア民衆の権力を嘲笑する力が窺える。表面上のロシアに関する情報とは異なり、裏面からロシア事情を知るには最適の教材であろう。多くのアネクドートのサイトから個々のアネクドートを選び、講読する。

時間的に可能ならば、そして希望者がいるならネットの記事も講読したい。

テキスト:

コピーを配布する。

参考書:

特になし。

## 〔政治思想論〕

## 近代政治思想史（春学期）

コンテキストを重視する思想史研究の方法と主題

教授 堤 林 剣

## 授業科目の内容：

はじめに準備作業として政治思想史研究の方法をめぐる論争を紹介し、諸説の交通整理を試みる。本論では一定の方法論的自覚のもとに、マキアヴェリ、ホッブス、ロック、ルソー、シエース、コンスタンの政治思想とその歴史的意義について論じる。その際、「歴史のアンビヴァレンス」という視座から、テキスト（理論）とコンテキスト（言語慣習・歴史的文脈）との影響関係に着目する。

## テキスト：

特に指定しません。

## 参考書：

授業中に適宜紹介します。

## 近代政治思想史（秋学期）

代表制の危機

教授 堤 林 剣

## 授業科目の内容：

「代表制の危機」というテーマに即して近代政治思想の歴史的意義について検討する。その際、主としてイギリスとフランスの政治思想に着目する。前期の授業とある程度連続しているため、近代政治思想史とあわせて履修してほしい。

## テキスト：

特に指定しません。

## 参考書：

授業中に適宜紹介します。

## 現代政治思想（春学期）

全体主義とモダニズム 日本の戦間期から戦時期を中心に

准教授(有期) 片 山 杜 秀

## 授業科目の内容：

1920年代から1940年代の日本では、言うまでもなく様々な思想が輻輳し錯綜し、かなりの混乱が示され、その混乱はけっきょくあまり解決されることなく、敗戦に至りました。それらのもろもろの限界もしくは可能性を検討してみたいと思います。

具体的には、術語としては、ファシズム、共産主義、モダニズム、国家社会主義、日本主義、アジア主義、無の思想、ブロック経済、体制翼賛思想、大東亜共栄圏など、個人名としては北一輝、大川周明、原理日本社、石原莞爾、保田與重郎、西田幾多郎、高坂正顕、高山岩男、三木清、戸坂潤、福本和夫などから、なるだけ多くを取り上げたいと考えています。

## 参考書：

片山杜秀「近代日本の右翼思想」講談社 2007年

## 現代政治思想（秋学期）

モダニズムと全体主義

教授 蔭 山 宏

## 授業科目の内容：

モダニズムと全体主義の間をテーマとする。

モダニズムと全体主義が、共通の社会的、精神的状況から生れてきたという観点に立って講義をする。そうした状況の原型はヨーロッパ20世紀初頭に生まれたが、その原型は形を変えて今日も存在する。ヨーロッパを中心とするが、比較思想的に日本の場合もとりあげる。

## テキスト：

特に用いない。

## 参考書：

その都度指示する。

## 政治哲学（春学期）

政治的なものの概念

教授 萩 原 能 久

## 授業科目の内容：

この講義では、政治哲学、および政治学方法論上の基礎概念、基本問題についての理解を深めることを目標におきます。しかし最終的には、様々なアプローチや思想についての「知識」を得ることが目的ではなく、私としては受講者の皆さんが、政治的現実を批判的に、かつ「他人の指導がなくても自分自身の悟性を敢えて使用しようとする決意と勇氣」(カント)をもって考えることができるようになることを望んでいます。

## テキスト：

特に用いません。

## 参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

## 政治哲学（秋学期）

政治の暴力と戦争廃絶のために

教授 萩 原 能 久

## 授業科目の内容：

この講義では、政治の暴力という問題を、ポストモダンと呼びならわされている現代世界とその政治状況との関連から思想的に理解することを目指します。政治哲学とセットでの履修は望ましいですが、その履修が前提条件ではありません。

## テキスト：

特に用いません。

## 参考書：

逐一、講義のなかで示していきます。

## 政治理論史（春学期）

講師 犬 塚 元

## 授業科目の内容：

この授業は、政治理論の通史を扱うものであり、他大学では、政治学史や政治思想史と呼ばれることもある授業内容である。このが扱うのは、古代ギリシアからおおよそ16世紀に至るまでの、ヨーロッパ政治理論史である。テキストそのもの（実際には日本語訳の一部が掲載されたプリント）を通じた理解をめざすこと、政治理論の受容・継承関係を重視すること、この二点がこの講義の特色である。

## 参考書：

佐々木毅・鷲見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』北樹出版、1995

## 政治理論史（秋学期）

講師 犬 塚 元

## 授業科目の内容：

この授業は、政治理論の通史を扱うものであり、他大学では、政治学史や政治思想史と呼ばれることもある授業内容である。このが扱うのは、16世紀以降の、ヨーロッパ・アメリカ政治理論史である。テキストそのもの（実際には日本語訳の一部が掲載されたプリント）を通じた理解をめざすこと、政治理論の受容・継承関係を重視すること、この二点がこの講義の特色である。

## 参考書：

佐々木毅・鷲見誠一・杉田敦『西洋政治思想史』北樹出版、1995

## 中世政治思想（春学期）

「政治と宗教の相剋」という視点から 准教授 田 上 雅 徳

## 授業科目の内容：

西欧中世をキリスト教世界として位置づけたうえで、そこでの政治思想的な問題群が、宗教との折衝の中で練り上げられていく流れをお話したいと思います。

## テキスト：

鷲見誠一著『ヨーロッパ文化の原型』（南窓社）

## 参考書：

授業の中で随時紹介していきますが、さしあたって、宮田光雄著『宮田光雄集 国家と宗教』（岩波書店）、福田歓一著『政治学史』（東京大学出版会）をあけておきます。

## 東洋政治思想史（春学期）

講師 平 野 聡

## 授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上最大の版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した諸経緯を、個々の段階における統治思想に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的内実は極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

春学期は、儒学思想的伝統社会が内陸アジア文化および西洋と接触する過程でどのように変容するかを扱う。

## 参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史17）講談社2007年。

ほか講義中に紹介する。

東洋政治思想史（秋学期） 講師 平野 聡

授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上最大の版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した歴史的諸経緯を、個々の段階における論理に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的実態は極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

秋学期は、近代西洋的な国際秩序が導入された結果生まれた近代東アジア社会の思想的葛藤を扱う。

参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史17）講談社2007年。  
ほか講義中に紹介する。

日本政治思想史（春学期） 准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

幕末から明治期にかけて政治思想について、幕末の討幕運動や明治期の自由民権運動、土族反乱といった、現実政治に強い影響を与えた政治運動と関連する思想に焦点を当てて検討を行う。とりわけ、幕末期においては尊王・攘夷思想の形成と展開、明治以降では、福澤諭吉をはじめとする啓蒙思想家の思想、自由民権運動と土族反乱にかかわる思想に焦点を当て、明治後期の政治思想などについても視野に入れる。

参考文献や講義の進行予定については、初回の講義で説明する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

寺崎修編『近代日本の政治』（法律文化社、2006年）  
小川原正道『西南戦争 西郷隆盛と日本最後の内戦』（中央公論新社、2007年）

日本政治思想史（秋学期） 准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

福澤諭吉の政治思想について、主に明治前期に焦点を当てて検討を加える。とりわけ、土族反乱や自由民権運動が高揚・発展する時期に福澤が展開した政治思想に着目し、その特徴や内容について検討するとともに、その政治思想に投げかけられた現実政治からの評価・視線についても考察したい。

テキスト：

『福澤諭吉著作集』第7巻（慶應義塾大学出版会、2003年）  
『福澤諭吉著作集』第9巻（慶應義塾大学出版会、2002年）

参考書：

適宜紹介する。

現代政治思想特殊研究（秋学期） 教授 蔭山 宏

授業科目の内容：

現代的大都市の社会史及び思想の研究。演習形式でおこなう。  
大都市は我々にどのような精神的状況を課することになるのか？  
代表的文献を精読する。  
ヨーロッパの主要都市を念頭において検討する。

## 〔政治・社会論〕

アメリカの司法と政治（春学期） 講師 小谷 順子  
アメリカ社会と訴訟

授業科目の内容：

アメリカの司法制度の概要を確認した上で、政治との関係における司法の役割、社会に対する司法の影響力、社会のなかの司法の位置づけといった観点から「アメリカの司法と政治」に関する諸テーマを取り上げた講義を行なう。具体的には、人種別学制度を違憲と判断したブラウン判決（連邦）、2000年の大統領選挙をめぐるBush対Gore判決（連邦）、同性婚の可否をめぐる諸判決（州）などを題材にしつつ、それらの背景に存するアメリカ特有の法制度・法意識・法文化・社会事情等を探り、司法と政治のあり方についての考察を行う。

テキスト：

大沢秀介著『アメリカの司法と政治講義ノート』（成文堂）

参考書：

必要に応じて随時紹介する。

行政学特論（春学期） 講師 佐々木 信夫  
都市行政論

授業科目の内容：

行政学特論では、身近な政府、自治体の活動について考察してみたい。とりわけ都市自治体を中心に、そこで展開される公共政策や行政経営について制度面、経営面、政策面からアプローチし、新しい都市行政論の可能性を探りたい。公共政策は、個人や企業では解決できない「公共問題」に対し、主に国や自治体が行う政策活動（公共サービスの立案、実施、評価）を指すが、学問としての「公共政策論」や「自治行政論」は発展途上にあり、経済学的なアプローチ、政治学的なアプローチ、総合政策的アプローチなど様々な試みが行われている。従って講義内容も学者の数ほど違う。これが都市行政論となると、産業や人口、経済のほか様々な活動資源が集中、集積する都市活動のメカニズムを解明し、都市自治体の果たす役割や課題を抉り出す必要があるため、一般的な地方自治論とは異なるアプローチが必要となる。

例えば、千代田区の夜間人口4万人を基礎に区議会ができていますが、昼間人口の120万人は様々な税を負担し12時間以上区域を使いながら、議会に代表を送ることもなく、まちづくりへの発言の場もない。地方都市の議会ならともかく、「大都市の議会」の仕組みはこれでよいのか。また都道府県といっても、人口60万～1200万人と極端に差がある。そこで期待される自治体行政は同じはずがない。道州制についても賛成、反対それぞれ論拠は大都市と地方都市では違う。大都市では大都市圏の過密問題が解決するかどうか判断材料になるが、地方都市では過疎問題や産業空洞化問題が解決するかどうか判断材料になる。

といった具合に、同じ制度を使うこと自体にも持つ意味が違っている。本講義では制度があっても機能していない面、制度はなくても機能している面、法律はあっても時代遅れな面など、実態と制度、理論と実際のズレも指摘しながら都市の行政活動について考察してみたい。未完の都市行政論を一緒に考えてみよう。

テキスト：

佐々木信夫『現代日本の地方自治』（学陽書房、2009年）  
ほか、必要に応じてレジュメ、資料なども配布する。

参考書：

佐々木信夫『東京都政』（岩波新書、2003年）  
同『自治体をどう変えるか』（ちくま新書、2006年）

行政学特論（秋学期） 講師 佐々木 信夫  
行政過程論

授業科目の内容：

行政学特論では、国、地方など公共政策の中心をなす行政活動について分析的に論じてみたい。一般に行政学は官僚制や行政組織、公務員、行政管理、行政統制、行政責任といったアメリカ行政学の体系に沿った講義の組み立てが多いが、こうしたアプローチは総論的な行政活動の理解には役立つが、行政活動の実際、行政活動を掘り下げて理解することにはあまり役立っていないと思う。もとより、通年4単位の講義時間数ではそこまで掘り下げる時間的余裕がないというのが実際であろう。そこで本講義では、それを補う意味で、基本的に総論的な行政学講義を受講したことがあるという前提に立って、行政活動の実際についてみたい。「行政過程論」と称しているが、講義は抽象的ではなく、具体的に行政活動をタテ、ヨコに分析しながら、実際の行政活動の成り立ちに接近してみたい。行政活動を性質別に類型化し、それが実際どう展開されているか、そこにどのような矛盾と課題が潜んでいるか、理論的に説明されていることと実際に行われていることに乖離はないかどうかを考察する。

行政活動は法律や規則を使いながら、財政資金を投入し公共問題を解決しようという活動だといえよう。

## 政治

その際、立法過程はどうなっているか、官僚の裁量はどの程度あるか、資金はどう配られ使われているか、治安維持や規制行政、サービス提供、公共施設の建設・維持管理、コミュニティやボランティア、さらに住民の参画、情報公開、監視統制の方法はどうなっているかなど、いずれも一般国民が知るべきテーマであるにも関わらず、実際知らされていないのが行政過程ではないか。最近公務員の不祥事が多く、公共事業に絡む連続知事逮捕事件、防衛省次官絡みの不正入札問題、社保庁の杜撰な年金管理、農水省の不適切な事故米処理、さらに府県の補助金流用問題など行政不信を煽る問題が頻発している。事実の解明も十分できないまま、時間の経過とともに忘れ去ることも多いが、しかしモグラたたきのようにまた頭を出してくる。

R. マートンという学者は、これらが生まれてくる要因を官僚の「訓練された無能力」現象と説明しているが、しからばどうすればそうした現象が発生しなくなるのか、この点は説明していない。国民の一番知りたい点はじつはそこにある。この点、これまでの行政改革手法は限界があるともいえる。行政の機械的効率論ばかり説いても、訓練された無能力現象は消えない。どうしたよいか。一足飛びに「官僚制解体論」が言われるが、現代国家に官僚制は不可欠ではないか。むしろ必要なのは官僚制治療論ではないか。こうした生きた問題も素材にしなが、日本の行政活動の実際と改革方向について受講生と共に考えてみたい。

テキスト：

佐々木信夫『現代行政学』（学陽書房、2000年）  
ほか、必要に応じてレジュメ、資料なども配布する。

参考書：

佐々木信夫『都庁 もうひとつの政府』（岩波新書、1991年）  
同『自治体をどう変えるか』（ちくま新書、2006年）

---

### 現代政治理論（春学期）

現代の民主主義理論 教授 河野 武 司

授業科目の内容：

本講義では現代の政治理論の中でも特に、機能不全が叫ばれているデモクラシーに関する様々な理論について紹介し、検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

白鳥令他編『現代世界の民主主義理論』新評論、1984年。  
その他、授業中に適宜紹介します。

---

### 現代政治理論（秋学期）

政治過程における集団・組織 教授 河野 武 司

授業科目の内容：

政治過程において利益団体に代表されるいわゆる中間集団の役割には、非常に大きなものがあります。組織化された集団に触れずに政治過程を語ることはできません。そこで本講義では、現代政治理論の中でも、政治過程における利益団体の役割や、その組織化、さらには組織における政策決定の問題に関する様々な理論を取り上げて、検討します。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・白鳥令他編『政策決定の理論』東海大学出版会、1990年。  
・森脇俊雅『集団・組織』東京大学出版会、2000年。  
・河野武司・岩崎正洋編『利益誘導政治 国際比較とメカニズム』芦書房、2004年。  
その他、授業中に適宜紹介します。

---

### 公共経済論（春学期）

政府の役割とは何か 教授 麻生 良 文

授業科目の内容：

政府の役割はどうあるべきかについて講義する。経済学的には、政府活動の根拠は「市場の失敗」に求められるが、市場の失敗とは何かを明らかにし、その対処方法を講義する。講義内容は以下のとおり。

1. 市場の失敗と政府の役割
2. 市場の失敗各論 (1) 公共財, (2) 外部性, (3) 自然独占, (4) 情報上の失敗
3. 応用 (1) 国と地方の役割分担, (2) 財政投融资制度

テキスト：

麻生良文『公共経済学』有斐閣 1998年

参考書：

スティグリッツ『公共経済学(上)』東洋経済新報社  
ミクロ経済学については次のページを参照のこと  
<http://www.law.keio.ac.jp/~aso/kougi2.html>

---

### 公共経済論（秋学期）

租税と公債の効果 教授 麻生 良 文

授業科目の内容：

租税が経済活動に与える影響、望ましい税制、財政政策の効果、公債の効果について講義を行う。

主な内容は以下のとおり。

1. 租税の理論入門 (1) 租税原則, (2) 課税ベースの選択
2. 個別物品税の帰着
3. 所得税が支出税か (1) 労働所得税の効果, (2) 資本所得税の効果, (3) 課税の長期的効果
4. 財政政策の効果 (1) 乗数モデル, (2) 減税の効果 リカードの等価定理
5. 公債の負担

テキスト：

麻生良文『公共経済学』有斐閣 1998年

参考書：

・スティグリッツ『公共経済学(下)』東洋経済新報社  
・Rosen, Harvey. Public Finance, Irwin  
・マンキュー『マクロ経済学』東洋経済新報社  
・ミクロ経済学、マクロ経済学については次のページを参照のこと  
<http://www.law.keio.ac.jp/~aso/kougi2.html>

---

### 国際コミュニケーション論（春学期）

国際報道の現状とニュースの流れの構造

講師 内藤 耕

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくに 2003年では、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史的変遷から始めて、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

・特に指定しません。  
・講義資料プリントはURL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayasu/>からダウンロードできます。

参考書：

授業時に適宜指示します。

---

### 国際コミュニケーション論（秋学期）

メディアのグローバリゼーションと文化摩擦

講師 内藤 耕

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Iを受講している必要はありません。

テキスト：

・特に指定しません。  
・講義資料プリントはURL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayasu/>からダウンロードできます。

参考書：

授業時に適宜指示します。

---

### 社会調査論（春学期）

社会学的調査におけるブルーラルな視点と研究実践

講師 大矢根 淳

授業科目の内容：

昨今、社会調査への関心が高まってきている。それは一つには、調査と称するモノの氾濫を批判的にとらえることから、また、関連資格が創設されたことから等々、様々な理由に寄るところであろう。

この授業では、従来、社会学領域において概説されてきた社会調査論を批判的に検討しながら、社会の実相を把握する現場の取り組みを様々な紹介していきたい。

これまで長い間、量的調査 vs 質的調査の論争が重ねられてきた。この授業では、それらの手法それぞれをひととおり概説して理解した上で、それらを有機的に組み合わせて社会の実相を把握する調査現場の取り組みを紹介する。

その際、「研究のための調査」は厳しく批判される。調査対象への還元のプロセスを重視し、研究者と調査対象者の関係性、調査の社会的影響を深く考えていきたいと思う。

テキスト：

・大矢根淳他編『災害社会学入門』弘文堂、2007

上記文献に加えて、講義では適宜、プリントを配布し、また、ビデオ等を視聴します。

参考書：

・石川淳志他編『見えないものを見る力』八千代出版、1998

・栗田宣義編『メソッド/社会学』川島書店、1996

その他、毎回の授業で、関連する文献等を板書します。

#### 社会調査論（秋学期）

社会学的調査におけるブルーラルな視点と研究実践

講師 大矢根 淳

授業科目の内容：

「社会調査論」（春学期）において、社会調査の概要が論じられた。この授業では、それらを踏まえ、社会調査の具体的事例をいくつか紹介して批判的に検討し、それらによって明らかにされてきたことから（社会調査の「見えないものを見る力」）のみならず、（結果的に）見落とされてきてしまったことがらをあらためて批判的に検討してみたい。

テキスト：

・大矢根淳他編『復興コミュニティ論入門』弘文堂、2007

講義では適宜、プリントを配布し、また、ビデオ等を視聴します。

参考書：

・藤田弘夫・浦野正樹編『都市社会とリスク』東信堂、2005

その他、毎回の授業で、関連する文献等を板書します。

#### 社会変動論（春学期）

多民族・多文化社会化と多文化主義・多文化共生の最前線

准教授 塩原良和

授業科目の内容：

グローバル化にともない増大する、国境を越えた人や文化の移動は、既存の国民国家統合のあり方を動揺させています。またグローバルな市場経済の拡大・深化のなかで、社会的連帯の揺らぎとマイノリティに対する社会的排除の拡大が多く、国家において問題視されるようになっていきます。「多文化主義（多文化共生）」は、こうした課題に対処するために展開されてきた理念・政策です。しかし近年、多文化主義（多文化共生）の理論的・実践的な限界が指摘されるようになっていきます。

グローバル化による労働・経済・文化・社会の変容が急激に進行する現在、多文化主義（多文化共生）にはどのような可能性と限界があるのでしょうか。この授業では、教員による講義と学生どうしのグループワークを通じてこうした問いに向きあい、教員と学生が協働して答えを見つけたことを目指します。

テキスト：

講義中に随時提示します。

参考書：

講義中に随時提示します。

#### 政治権力論（春学期）

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力の特性を理解したうえで、権力構造の集中について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

#### 政治権力論（秋学期）

教授 霜野寿亮

授業科目の内容：

権力概念を精査することで、権力と社会の関係について理論的に考察していきます。

テキスト：

なし

参考書：

なし

#### 地方自治論（春学期）

市民社会と地方自治

教授 片山善博

授業科目の内容：

教育や福祉など国民にとって重要な役割を果たしている自治体は、相次ぐ不祥事や財政破綻などで現在その力量を問われている。自治体は果たして地方分権を担う主体になりうるか。自治体が提供する行政サービスに対する住民の満足度は高いか。透明性や説明責任など自治体の質を担保すべき議会や監査制度は十分機能しているか。地方財政は持続可能か、などである。この講義では、わが国の地方自治制度を詳述するとともに、それが機能不全を起こしている部分があるとなればその原因を探り、あわせて今後の地方自治制度改革の方向をも見通すこととしたい。

テキスト：

特に指定しない。講義資料はプリントを配布したい。

参考書：

拙著『市民社会と地方自治』（慶應義塾大学出版会、2007年）など

#### 地方自治論（秋学期）

自治体財政と民主主義

教授 片山善博

授業科目の内容：

春学期の講義を踏まえ、秋学期では主として地方税制や地方財政の仕組みを取り上げたい。特に、それらの制度を理解することを主眼とするが、あわせて、税制や財政の仕組みと運用の中に、実は地方自治や民主主義を具現化する重要な要素が内在していることと、その要素が様々な要因により潜在化させられている実態をも摘示したい。また、夕張市に代表される自治体の財政破綻や財政危機の原因を探り、今後の財政運営を持続可能にする方途についても講義を通じて示したい。

テキスト：

特に指定しない。講義資料はプリントを配布したい。

参考書：

拙著『市民社会と地方自治』（慶應義塾大学出版会、2007年）など

#### マス・コミュニケーション発達史（春学期）

歴史（過去）との対話

講師 大井真二

授業科目の内容：

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書：

・大井真二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）

・大井真二責任編集『メディアの変貌と未来』（八千代出版社）

#### マス・コミュニケーション発達史（秋学期）

歴史（過去）との対話

講師 大井真二

授業科目の内容：

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書：

・大井真二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（世界思想社）

・大井真二責任編集『メディアの変貌と未来』（八千代出版社）

#### マス・コミュニケーション論（春学期）

マス・コミュニケーションと政治

教授 大石裕

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究（第2版）』慶應義塾大学出版会

## 政治

参考書：

- ・マッコムズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

---

マス・コミュニケーション論 (秋学期)  
ジャーナリズムとメディア言説 教授 大石 裕

---

授業科目の内容：

(1) ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、(2) 言説分析によるニュース分析、(3) メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
- ・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

---

メディア社会論 (春学期)  
情報グローバル化と文化変容 講師 遠藤 薫

---

授業科目の内容：

メディアとは人間/社会にとって何であるのか、という根元的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫『グローバル化と文化変容』世界思想社、2007年
- ・遠藤薫『ネットメディアと コミュニティ 形成』東京電機大学出版局、2008年

参考書：

- ・遠藤薫『間メディア社会と 世論 形成』東京電機大学出版局、2007年
- ・遠藤薫『インターネットと 世論 形成』東京電機大学出版局、2004年
- ・遠藤薫『電子社会論』実教出版、2000年

---

社会変動論特殊研究 (春学期)  
グローバル化と多文化交差社会の文化・社会変動  
教授 関根 政 美

---

授業科目の内容：

本授業では、履修者の自発的な調査報告とそれらを土台に討論を行う演習授業を実施したい。履修者の数にもよるが、毎回2、3名の報告者による競争的報告を行ってもらい、それらを土台に討論をしてゆきたい。また、必要に応じて本授業のテーマに沿ってビデオを見て討論したいと思っている。

授業のテーマは以下の通り。現代世界はグローバル化(国際化)の影響を経験し大きな文化・社会変動を経験している。「グローバル化」は、近年日本でも盛んに使われるようになった言葉だが、グローバル化そのものは多様な現象であり、一筋縄ではその実態をつかむことが難しい。本授業では、人口移動のグローバル化だけではなく様々なグローバル化に注目し、国民国家への文化・社会・政治的影響について議論しながら授業を進めたい。授業担当者は、オーストラリア研究を生業としているが、本授業では必ずしもオーストラリアに関する文献を使用するわけではない。その場合でもオーストラリアに関する深い知識を必要とはしないはずである。

テキスト：

未定(最新の著作・論文を利用したいので……)である。授業開始前に掲示する予定であるが、最初の授業で輪読書について提示・解説する。

参考書：

関根政美『多文化主義社会の到来』(朝日新聞社、2000年)。カースルズ/ミラー(関根・関根訳)『国際移民の時代』(名古屋大学出版会、1996年)、D・ヒーター(田中・関根訳)『市民権とは何か』(岩波書店、2003年)。関根政美・塩原良和編著『多文化交差社会の政治社会秩序形成』(慶應義塾大学出版会、2008年)

---

社会変動論特殊研究 (秋学期)  
多民族・多文化社会としての日本 実践の場からの視点  
准教授 塩 原 良 和

---

授業科目の内容：

グローバル化にともない増大する越境する人や文化の移動によって、日本社会におけるニューカマー外国人住民はますます増加しています。それと同時に、戦前から日本に住み続けてきた在日コリアンの人々や、アイヌ民族をはじめとする先住民族の存在や主張も改めて注目されています。また「多民族・多文化社会としての日本」で生きるこうした人々

が抱えるさまざまな課題に取り組むために、市民社会において多くの支援者・当事者が活動を展開しています。

この授業では、文献の輪読のほか、市民社会で活動するさまざまな実践者や当事者をゲストに招き、また大学外でのフィールドワークや活動体験などをつうじて、より良い「多文化共生」を目指す実践の現状をより具体的に学ぶことを目指します。

テキスト：

講義中に随時提示します。

参考書：

講義中に随時提示します。

## 〔日本政治論〕

---

近世日本政治史 (春学期)  
関係意識から近世政治史を読みかえる(1)  
講師 若尾 政 希

---

授業科目の内容：

私は、領主層・家臣・民、三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、17世紀の通史『日本の歴史 16 天下泰平』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考察してみたい(講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくるのが前提となります)。

テキスト：

横田冬彦著『日本の歴史 16 天下泰平』講談社、2002年

参考書：

若尾政希『「太平記読み」の時代 近世政治思想史の構想』平凡社選書、1999年、その他

---

近世日本政治史 (秋学期)  
関係意識から近世政治史を読みかえる(2)  
講師 若尾 政 希

---

授業科目の内容：

私は、領主層・家臣・民、三者の関係意識の歴史を踏まえた近世政治史を書きたいと思っている。本講義では、18世紀の通史『享保改革と社会変容』を読みながら、新たな近世政治史の可能性について考察してみたい(講義形式で授業をしますが、各自テキストを読んでくるのが前提となります)。

テキスト：

大石学編『日本の時代史 16 享保改革と社会変容』吉川弘文館、2003年

参考書：

講義中に適宜紹介します。

---

近代日本政治史 (春学期) 教授 玉 井 清

---

授業科目の内容：

本授業は、日本政治史研究の現状と課題について、戦後のGHQによる占領統治下、我が国の中で醸成された歴史観に注目しながら考察を加える予定である。主たるテーマは、戦後の歴史観の特徴と問題点ではあるが、当然のことながら、かかる歴史観は、明治から昭和戦前までの政治、軍事、社会、文化に関するものである。さらに、取り上げる資料としては、文字情報だけでなく映像等の歴史資料としての可能性を探求し積極的に利用する予定である。

---

近代日本政治史 (秋学期) 教授 玉 井 清

---

授業科目の内容：

近代日本における立憲政治導入の意義を、伊藤博文を中心に推進された明治憲法制定の過程と、当時のわが国を取り巻く国際環境との連関から明らかにする。また、このように明治に導入された立憲政治は、その後の日本の政治にいかなる道筋を作っていくことになるのか、立憲政友会の成立、原敬内閣の誕生、昭和の二大政党政治に注目しながら話を進める予定である。

他方、立憲政治の導入過程で看取できる近代日本の西洋に対する二律背反の感情に注目し、時代が下る中で、それらの感情がいかなる変容をみせたかについても考察を加えるつもりである。

---

近代日本政党史 (秋学期)  
昭和戦前期における政党政治の衰退 講師 奥 健太郎

---

授業科目の内容：

昭和戦前期は政党にとっても激動の時代でした。大正末期から昭和初期(大正13年~昭和7年)にかけて政党内閣の時代を迎えたのですが、5・15事件を機に政権から転落、そのまま政党内閣は復活することなく、昭和15年政党は全て解散し、大政翼賛会の成立へと至ります。こうし

た時代を振り返る時、多くの人は次のような疑問を抱くのではないでしょう。

- ・ 政党内閣の時代はなぜ長続きしなかったのか？
- ・ 政党はなぜ政権に返り咲くことができなかったのか？
- ・ なぜ政党は消滅してしまったのか？
- ・ 太平洋戦争中、旧政党政治家はどのような活動をしていたのか？

この授業では、昭和戦前期における政党の動向を振り返りながら、こうした疑問を解き明かしていきたいと思います。また、最新の研究成果を踏まえながら、この時期の選挙運動の実態、集票構造等についても、あわせて解説していきたいと思います。

テキスト：

なし

参考書：

- ・ 北岡伸一『日本の近代 政党から軍部へ』（中央公論新社、1999年）
- ・ 古川隆久『戦時議会』（吉川弘文館、2001年）
- ・ 大塚唯男伝記編纂会編『大塚唯男 論文編』（桜田会、1996年）
- ・ 伊藤隆『近衛新体制』（中央公論社、1983年）
- ・ 奥健太郎『昭和戦前期立憲政友会の研究』（慶應義塾大学出版会、2004年）

#### 現代日本行政論（春学期）

日本の行政組織の課題は何か

講師 三田 妃路佳

授業科目の内容：

この講義では、行政学で扱う主要トピックを取り上げ、日本の行政の特徴について説明します。行政は、行政活動に関する透明性を確保し、市民に対して説明責任を果たすことが求められています。また、行政は市民を行政サービスの受け手として捉えるのではなく、市民を行政運営における協働関係のパートナーとして捉え、関係を築いて行くことが期待されています。講義では、こうした前提の下で、具体的な事例を取り上げ、行政資料や映像資料の使用しながら、現代日本の行政の現実と課題について見て行きます。特に、春学期は、日本の行政の仕組みに焦点を当て、政治と行政の関係、中央・地方関係、行政組織の意思決定、公務員制度について説明します。さらに、地方分権改革、公務員制度改革等行政改革の歴史とその課題について解説して行きます。

テキスト：

今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・前田成東『ホーンブック 基礎行政学』北樹出版、2006年。

参考書：

- ・ 西尾勝『行政学（新版）』有斐閣、2001年、村松岐夫『行政学教科書（第二版）』有斐閣、2001年、今村都南雄・武藤博己・真山達志・武智秀之『ホーンブック行政学』北樹出版、1999年、村松岐夫『日本の行政』中公新書、1994年。

#### 現代日本行政論（秋学期）

行政に対する民主的統制はどうなっているか。

講師 三田 妃路佳

授業科目の内容：

この講義では、行政学で扱う主要トピックを取り上げ、日本の行政の特徴について説明します。行政は、行政活動に関する透明性を確保し、市民に対して説明責任を果たすことが求められています。また、行政は市民を行政サービスの受け手として捉えるのではなく、市民を行政運営における協働関係のパートナーとして考え、関係を築いて行くことが期待されています。講義では、こうした前提のもとで、具体的な事例を取り上げ、行政資料や映像資料の使用しながら、現代日本の行政の現実と課題について見て行きます。特に、秋学期は政策過程を中心に扱います。行政活動は市民や利益団体にどのように影響し、市民や利益団体はどのような形で行政活動に参加することが可能であるのかについて説明して行きます。

テキスト：

授業時に指示します。

参考書：

授業時に指示します。

#### 現代日本政治論（春学期）

講師 谷口 尚子

授業科目の内容：

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。春学期は特に、民主政治の主役たる「有権者」（つまり我々）に焦点をあて、その心理・行動、選挙過程、マスメディアの影響、集団・文化等を掘り下げます。専門的な学術理論、実証研究と併せ、時事問題も取り扱います。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きる上での「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

参考書：

- ・ 『制度改革以降の日本型民主主義』（2008）小林良彰（木鐸社）
- ・ 『現代日本の投票行動』（2005）谷口尚子（慶應義塾大学出版会）
- ・ 『政治学』（2003）久米郁男 他（有斐閣）

その他、授業中に指示します。

#### 現代日本政治論（秋学期）

講師 谷口 尚子

授業科目の内容：

現代政治学で扱う主要トピックを取り上げながら、日本政治の特徴を解説します。秋学期は特に、現代民主政治のしくみ、日本政治のしくみに焦点をあて、様々な政治制度・機関・過程（政策決定過程・立法過程、官僚制、中央・地方政府関係等）を解説します。専門的な学術理論、実証研究と併せ、時事問題も取り扱います。履修者の皆さんが、学生として政治学を学ぶ上で必要な「知識」、就職活動等で必要とされる「常識」、市民として生きる上での「智恵」を獲得する一助となれば幸いです。

参考書：

春学期と同じ

#### 古代日本政治史（秋学期）

講師 加藤 順一

授業科目の内容：

奈良時代（8世紀）から平安時代中期（10世紀）に至る政治史を、次の観点から講述する。

1. 天皇の政治権力
2. 貴族政権と律令官僚制の運用
3. 地方行政の展開
4. 律令国家の外交的枠組み

参考書：

- ・ 宮地正人他編『国家史（新体系日本史）』（山川出版社）
- ・ 大津透他『法社会史（新体系日本史）』（山川出版社）
- ・ 佐藤信他『日本の古代』（放送大学教育振興会）

#### 戦後日本政治史（春学期）

敗戦からの復興と高度経済成長

講師 佐藤 晋

授業科目の内容：

本講義では、従来しばしば見られたような「戦後史＝内閣史」という整理ではなく、国際環境の変容と、国民世論および各利益集団の動向に規定された歴史としての戦後日本政治史の構築を試みます。取り扱う時期は、1945（昭和20）年の太平洋戦争終戦時から、東京オリンピックが開催された1964（昭和39）年までの約20年間です。

本講義を通じて、履修者が、多角的かつバランスよく戦後日本政治をとらえることができるようになります。

また、戦後日本の進路をめぐる、実現には至らなかったさまざまな構想を取り上げることで、戦後政治上の指導者が実際にとった選択の是非を、受講者自身が評価することができるようになることを目指します。

テキスト：

特に指定しません。毎回、講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・ 講義の中で逐次紹介します。まずは、石川真澄『戦後政治史』（岩波新書、2004年）、渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』（中央公論社、1995年）、北岡伸一『自民党』（読売新聞社、1995年）をお勧めします。

#### 戦後日本政治史（秋学期）

グローバル化していく世界の中の日本

講師 佐藤 晋

授業科目の内容：

本講義では、従来しばしば見られたような「戦後史＝内閣史」という整理ではなく、国際環境の変容と、国民世論および各利益集団の動向に規定された歴史としての戦後日本政治史の構築を試みます。取り扱う時期は、日本が世界の経済大国の仲間入りを果たしつつあった1965（昭和40）年から、政界再編が一段落した1996（平成8）年までの約30年間です。

本講義を通じて、履修者が、多角的かつバランスよく戦後日本政治をとらえることができるようになります。

また、戦後日本の進路をめぐる、実現には至らなかったさまざまな構想を取り上げることで、戦後政治上の指導者が実際にとった選択の是非を、受講者自身が評価することができるようになることを目指します。

テキスト：

特に指定しません。毎回、講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・ 講義の中で逐次紹介します。まずは、石川真澄『戦後政治史』（岩波新書、2004年）、渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』（中央公論社、1995年）、北岡伸一『自民党』（読売新聞社、1995年）をお勧めします。

#### 中世日本政治史（春学期）

中世に「政治」はあったか

講師 新田 一郎

授業科目の内容：

中世日本に「政治」は存在したのか。存在したとすればそれはどのようなものであったか。存在しなかったとすればそれはなぜか。「政治」の存否を分かち、あるいは「政治」の様態を規定するのは、どのような条件なのか。本講義は、こうした問題に接近するための第一歩として、「政

## 政治

治」の舞台を構成する「国家」について考えることからスタートする。また、そのことと不可分に問題として、日本史上に「中世」という時代を指すことの意味について論じ、以て「中世日本の政治」について考える材料を提供する。受講者多数の場合は通常の講義形式をとるが、少数であればインタラクティブな方法を用いるかもしれない。

テキスト：

新田一郎『中世に国家はあったか』(山川出版社 2004年)

参考書：

さしあたり『石井進著作集 6 中世社会論の地平』(岩波書店 2005年) 他は講義中に適宜指示する。

中世日本政治史 (秋学期)  
中世における「政治」の条件

講師 新田 一郎

授業科目の内容：

春学期「中世日本政治史」の内容をうけて、中世日本における「政治」を条件づけた要素およびその推移について、主として中世後期、14・15世紀に重点をおいて論ずる。とりわけ、この時代に「権力」がどのように作動していたのか、という問題に焦点を据え、種々の社会関係がいかにして「構造」化されていたか(あるいはされていなかったのか)、「構造」化に関わる諸条件の布置とその推移について、見てゆくことにする。「中世日本政治史」同様、受講者多数の場合は通常の講義形式をとるが、少数であればインタラクティブな方法を用いるかもしれない。

テキスト：

宮地正人他編『新体系日本史1 国家史』(山川出版社 2006年)のうち、新田一郎「建武政権と室町幕府体制」

参考書：

講義中適宜指示する

日本外交史 (春学期)

教授 添谷 芳秀

授業科目の内容：

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日的問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト：

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』(ちくま新書, 2005年)

参考書：

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。概説としてはとりあえず以下を参照のこと。

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣, 2006年)[新版]

日本行政史 (春学期)

太政官制から内閣制度へ

講師 進 邦 徹 夫

授業科目の内容：

明治国家成立期は、「官」と「民」の対立図式を強調することが多いのですが、実際には多様な権力主体が政権の主導権を争う状況として理解することで、より立体的に捉えることが可能となります。「官」とひとくちにしても、藩閥対立のみならず、政策をめぐる対立や天皇親政や立憲制導入をめぐる思想的対立など、さまざまな対立軸が存在します。このように錯綜する対立軸の中で、明治国家はどのような制度設計が志向されたのでしょうか。

政治主導の政策決定を目指し、内閣の機能強化が行われたものの、政策決定の主導権はいまだに官僚の掌中にあるといわれます。本講義では、内閣制度導入にいたる明治国家成立期の行政改革の史的展開を追うことによって、わが国の内閣制度への理解を深めるとともに、現行の内閣制度の抱える問題点を検討してみたいと考えています。

テキスト：

講義中に指示します。

また、講義資料等は以下の URL からダウンロードできます。

[http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/general\\_policy/shimpou/](http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/general_policy/shimpou/)

参考書：

・笠原英彦『日本行政史序説』芦書房 1998年

・笠原英彦・桑原英明編著『日本行政の歴史と理論』 2004年

日本行政史 (秋学期)

明治国家の地方制度

講師 進 邦 徹 夫

授業科目の内容：

2000年に地方分権一括法が施行され、機関委任事務が法定受託事務に改められるなど、地方分権への動きが加速されました。いっぽうで、地方財政三位一体の改革は、地方への税源移譲が進まないという、昨今の経済状況の悪化から税収不足となり、地方財政はますます厳しい状況に置かれています。

第二次世界大戦後の制度改革により、地方制度は大きく転換したと言われますが、制度面と実態では大きな乖離があるのが実情です。制度的には、明治国家の地方制度と大きく異なる制度が構築されていますが、実態はどうでしょうか。本講義では、明治国家の地方行政の史的展開を追うことによって、わが国の地方行政を規定した主体的条件を考察していきたいと考えています。

テキスト：

講義中に指示します。

また、講義資料等は以下のURLからダウンロードできます。

[http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/general\\_policy/shimpou/](http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/general_policy/shimpou/)

参考書：

・笠原英彦『日本行政史序説』芦書房 1998年

・笠原英彦・桑原英明編著『日本行政の歴史と理論』 2004年

日本政治運動史 (春学期)

近代日本政治史上の慶應義塾

福澤研究センター 専任講師 都 倉 武 之

授業科目の内容：

本講義では、日本近代史上の政治運動として「慶應義塾」を見直すことを試みます。とかく閉鎖的、自己満足的に語られるきらいのある慶應義塾の歴史ですが、一方で、政治史上の重要な事件や事象、人物との交錯の中で、無視できない多くの役割を担いました。ある側面において、その歩みは近代日本そのものを投影するものであったということも出来ます。本講義を通して、私学としての義塾が何をなし、何をなしえなかったのか、そこから何を学びうるかについて検討してみたいと思います。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

・『福沢諭吉全集』全22冊, 岩波書店, 1969~1971年

・『慶應義塾百年史』全6冊, 1958~1969年

・『慶應義塾史事典』慶應義塾大学出版会, 2008年

日本政治思想史 (春学期)

幕末・明治の政治思想

准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

幕末から明治期にかけて政治思想について、幕末の討幕運動や明治期の自由民権運動、土族反乱といった、現実政治に強い影響を与えた政治運動と関連する思想に焦点を当てて検討を行う。とりわけ、幕末期においては尊王・攘夷思想の形成と展開、明治以降では、福沢諭吉をはじめとする啓蒙思想家の思想、自由民権運動と土族反乱にかかわる思想に焦点を当て、明治後期の政治思想などについても視野に入れる。

参考文献や講義の進行予定については、初回の講義で説明する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

・寺崎修編『近代日本の政治』(法律文化社, 2006年)

・小川原正道『西南戦争 西郷隆盛と日本最後の内戦』(中央公論新社, 2007年)

日本政治思想史 (秋学期)

福澤諭吉の政治思想

准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

福澤諭吉の政治思想について、主に明治前期に焦点を当てて検討を加える。とりわけ、土族反乱や自由民権運動が高揚・発展する時期に福澤が展開した政治思想に着目し、その特徴や内容について検討するとともに、その政治思想に投げかけられた現実政治からの評価・視線についても考察したい。

テキスト：

・『福澤諭吉著作集』第7巻(慶應義塾大学出版会, 2003年)

・『福澤諭吉著作集』第9巻(慶應義塾大学出版会, 2002年)

参考書：

適宜紹介する。

マス・コミュニケーション発達史 (春学期)

歴史(過去)との対話

講師 大 井 眞 二

授業科目の内容：

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム

2. 近代都市空間とメディア

3. 政治とジャーナリズム

4. 言論出版の自由

5. ジャーナリズムの機能

6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

## 参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
- ・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

## マス・コミュニケーション発達史 (秋学期)

歴史(過去)との対話

講師 大井 眞 二

## 授業科目の内容：

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

## テキスト：

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

## 参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』(世界思想社)
- ・大井眞二責任編集『メディアの変貌と未来』(八千代出版社)

## マス・コミュニケーション論 (春学期)

マス・コミュニケーションと政治

教授 大石 裕

## 授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

## テキスト：

大石裕『コミュニケーション研究(第2版)』慶應義塾大学出版会

## 参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

## マス・コミュニケーション論 (秋学期)

ジャーナリズムとメディア言説

教授 大石 裕

## 授業科目の内容：

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

## テキスト：

- ・大石裕『ジャーナリズムとメディア言説』勁草書房
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社

## 参考書：

- ・大石裕ほか『現代ニュース論』有斐閣
- ・大石裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石裕・山本信人編『メディア・ナショナリズムのゆくえ』朝日新聞社
- ・大石裕編『ジャーナリズムと権力』世界思想社
- ・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』藤原書店

## 立法過程論 (春学期)

議会と政策

講師 熊谷 得 志

## 授業科目の内容：

この講義では、日本の国会における立法手続きに焦点を当て、我が国の議会制度の特徴や立法過程にかかる制度、仕組みについての解説を行うとともに、国会運営、委員会審査等の事例を紹介しながら、立法過程における行動規範を解明してゆくこととします。また、英国、米国との制度の比較を試みながら、日本の国会における立法行動の特徴を解き明かしてゆきます。

更に、後半の講義では、国政調査、立法スタッフ、経済政策と国会、議会と情報についての制度解説や事例分析を試みることににより、国会における行政統制機能及び政策形成へのかかわりなど立法機能以外の国会の機能や開かれた国会に向けての情報公開のあり方についての課題を検証してゆくこととします。

## テキスト：

特に指定しません。必要に応じ講義資料プリントを配布します。

## 参考書：

授業で随時紹介します。

## 立法過程論 (秋学期)

外交・安全保障政策にかかる国会の役割

講師 前田 光 政

## 授業科目の内容：

この講義では、国会における外交・安全保障論議を冷戦終結後に起きた主要な事件や成立した主要な法律を中心に解説し、日本の外交政策、安全保障政策の策定・実施過程における国会の係わりについて具体的事例を示しつつ受講者の理解を促します。その上で、日本外交が直面する課題や独立国家として必要な安全保障法制のあるべき姿について論じ、時代に即した国益をどのように考えるべきなのかについて議論を深め、受講者が的確に分析・考察ができることを目標とします。

## テキスト：

必要に応じ講義資料プリントを配布します。

## 参考書：

森本敏編著「国民として知っておきたい日本の安全保障問題」(海竜社, 2007年12月)

## 近代日本政治史特殊研究 (春学期)

教授 玉井 清

## 授業科目の内容：

ナチス・ヒットラーの抬頭を同時代の日本人はどのように捉えていたのだろうか。昭和戦前期日本人の対独感を下記のテキストを土台にして考察してみたい。同時代の種々のメディア上に表出されたナチス・ドイツ像やヒットラーに対するイメージの内実と変容が議論される予定である。

## テキスト：

岩村正史『戦前日本人の対独意識』(慶應義塾大学出版会)

## 近代日本政治史特殊研究 (秋学期)

教授 玉井 清

## 授業科目の内容：

戦時下日本人の生活と国民意識の実態を解き明かすため、下記の研究書を輪読し討論する予定である。本書が考察の対象としている『写真週報』は、日中戦争勃発の約半年後から敗戦直前まで、政府が啓蒙宣伝のため発行し続けた週刊グラフ誌である。国民の生活を躍動的に映し出す写真や、国民の考えや意識を反映させた挿絵や風刺漫画等も多数掲載した『写真週報』の分析を通じ、文字情報以外の資料が政治史研究にどの程度まで利用されるのか、その可能性についても討論してみたい。

## テキスト：

玉井清編『戦時下日本の国民意識 『写真週報』とその時代』(慶應義塾大学出版会)

## 〔地域研究論〕

## アフリカ社会論 (春学期)

アフリカの音楽性と黒人音楽の歴史 講師 鈴木 裕 之

## 授業科目の内容：

本講義の目的は、音楽を通してアフリカを理解することである。アフリカは無文字社会であるがゆえに、豊かな音の文化を発達させてきた。儀礼を彩る歌、メッセージを伝える太鼓、歴史を伝承する語り部などが過去から現在に至るまでアフリカ社会の中に息づいている。また現代の都市社会においても、ポップスというかたちでさまざまな音楽が発達している。伝統からポップスにいたるまで、アフリカにおいてもっとも重要な役割を果たしている音楽の諸相を紹介する。

アフリカの音楽性はアフリカ大陸の中に留まるものではない。奴隷貿易を通して新大陸に渡ったアフリカ人達は、アメリカ世界の各地でさまざまな音楽を誕生させていった。本講義ではアメリカ合衆国の例をとりあげ、そこでどのような黒人音楽が形成され発展していったのかについて概観する。さらにアメリカ黒人音楽の強い影響のもと、英米の白人がロックをつくりあげたプロセスについても言及し、アフリカ音楽が歴史的にグローバルな展開を見せる中で、我々の音楽文化にも直接的・間接的に関わっていることを示す。

経済的には完全に立ち遅れ、政治的には混乱の極みにあるアフリカであるが、20世紀以降における音楽の歴史において最大の貢献を果たしてきた。「音楽」を通してアフリカを眺めた時、そこに見えるのは救うべき哀れな姿でも、忌み嫌うべき無秩序でもない。そこには他者に多くを与え、これからも与えつづけるであろうアフリカの姿が見えてくるだろう。

## テキスト：

特になし。

## 参考書：

特になし。

アフリカ社会論（秋学期）  
アフリカ音楽の世界的展開（レゲエとラップ）

講師 鈴木裕之

授業科目の内容：

本講義では、アフリカ音楽の世界的展開を理解するために、20世紀後半に誕生し、急激に世界に広がったレゲエとラップをとりあげる。

ジャマイカで生まれたレゲエは、アフリカ帰還を唱える宗教・文化運動であるラスタファリ運動におおきな影響を受けた。ジャマイカ黒人奴隷の子孫とアフリカとの関係、ラスタファリ運動の形成・発展、レゲエ誕生のプロセスを紹介し、カリブ海で誕生した音楽が示す強いアフリカ性を指摘する。

レゲエの影響を受けて、ニューヨークのストリートで生まれたのがラップである。ニューヨークのストリートでは70年代にヒップ・ホップと呼ばれるストリート文化が誕生するが、ラップはその重要な要素であった。ラップの形成過程を見ることで、そこにいかにアフリカ音楽の特徴が反映されているかが理解されるであろう。

レゲエとラップの普及は世界の若者文化におおきなインパクトを与えたが、アフリカもその例外ではない。両音楽はアフリカ都市部の若者ととらえ、アフリカ産のレゲエ・ラップが量産されている。本講義の最後では、コート・ジヴォワールの大都市アビジャンのストリート音楽をとりあげ、レゲエ・ラップの音楽およびそれまつわるサブ・カルチャーがアフリカのストリート文化に影響を与えている様を紹介する。

アフリカを出た奴隷の子孫たちがつくりあげた音楽が、マス・メディアによってふたたびアフリカに帰ってゆく。これは歴史のイタズラか、あるいは必然か…

テキスト：

特になし。

参考書：

エレン・リー『ルーツ・オヴ・レゲエ：最初のラスタ、レナード・ハウエルの生涯』（音楽之友社）

鈴木裕之『ストリートの歌：現代アフリカの若者文化』（世界思想社）

アメリカ政治史（春学期）

近代アメリカ政治史 建国～19世紀末）准教授 岡山 裕

授業科目の内容：

アメリカ合衆国（以下アメリカ）については、自由や平等といった理念重視の国、生まれは貧しくても努力すれば成功できるアメリカン・ドリーム、政府に頼らぬ自助努力を重視する国、根深い人種差別が残る国、女性の社会進出が進んだ国、等々、様々なイメージが流布しています。こうした「レッテル」はある程度アメリカの実像をある程度反映してはいるでしょうが、完全に正しいともいえないでしょう。この授業では、18世紀後半の建国からアメリカが大国としてのプレゼンスを確立する20世紀初頭までを対象に、アメリカで 대중に基盤を持つ民主主義がどのように発達し、そのなかで今日にも残る政治的特徴が生み出されていったのかを、テーマ毎に検討することになっています。それによって、受講者が安易な「レッテル貼り」を超え、ニュアンスあるアメリカ（政治）の理解を得られるようにするのが、この授業の目的です。

テキスト：

とくに指定しません。毎回レジュメを配布します。

参考書：

講義全体に関係するものとして、とりあえず以下を薦めます。その他は授業時に随時紹介します。

久保文明他『北アメリカ』第二版（自由国民社、2005年）

紀平英作編『アメリカ史』（山川出版社、1999年）

イスラーム社会論（春学期）

イスラーム復興と近代 講師 堀井聡江

授業科目の内容：

とくに1970年代から注目を集めるようになったイスラーム的な政治・社会運動は、突発的な現象ではなく、その歴史的な背景の考察を抜きにしては正しく理解することはできない。本講義では、植民地化とともに始まるイスラーム世界の近代に対する様々な反応としての「イスラーム復興」の概念を用い、19世紀から第二次大戦までを中心に、イスラームの政治化とその方向性について概観する。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

初回にリストを配布する。

イスラーム社会論（秋学期）

イスラーム復興と現代 講師 堀井聡江

授業科目の内容：

第二次大戦後の東西冷戦から今日の「対テロ戦争」まで、中東をめぐる国際秩序の変化は、イスラームが良くも悪しくもこれらの秩序に挑戦

する原理として、しかし矛盾をはらみつつ援用される契機となった。本講義では「イスラーム復興」の観点から、以上の点を1950年代以降の主要な事例を通じて考察する。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

初回にリストを配布する。

開発援助政策論（春学期）

簡単な経済学の観点から開発援助を考える。

講師 朽木昭文

授業科目の内容：

(1) 概要：本講義では、地域経済振興のための援助政策について考える。そのなかでアジア各国、特に中国経済の動向を説明し、開発戦略を明らかにする。その際に「政府の役割」がなんであるかを検討する。地域経済を議論する際に政府の役割を「キー・コンセプト」として議論することで受講生が、論理的な思考をし、応用できるようになることを目指す。

政府の役割を最小限にするという構造調整政策といった世界銀行の考え方も説明し、政府の役割が明確であった戦後の日本の産業政策を対照的に説明する。アジアの高度経済成長の模範生といわれるマレーシアやタイの経済成長パターンを中間的形態として明らかにする。更に、産業クラスター政策に関する最新情報を紹介する。以上の説明により、経済では、「自由主義と政府介入」との両極端の考え方があることを理解することを目指す。

「経済学」の基礎的理解は、貧困削減を議論する上で不可欠である。経済学の初歩の基本的な部分をわかりやすく説明したい。そのうえで最小限必要な初歩的な数学を誰でもわかるような説明を試みる。貧困削減を議論する上で必要な経済理論を図表などにより示す。開発経済学の基礎の導入部分を学ぶことにより、理論を基礎としたうえで、アジア、アフリカ、南米の開発戦略を分析する。アジア、アフリカ、南米の今後の援助政策を議論したい。援助政策における日本の役割を議論したい。

(2) 目的：本講義は、以上の～を理解することを目指す。

(3) 手法：本講義は、講義、質疑応答を組み合わせながら、開発援助を議論する場合に必要な基礎をまず勉強する。1歩1歩進めるので授業にかならず参加できること。その基礎を勉強する際に援助の現場の話をし、創造性を養いたい。

テキスト：

朽木昭文『アジア産業クラスター論』書籍工房早山、2007年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

・朽木昭文『貧困削減と世界銀行』ジェトロ・アジア経済研究所、2004年。  
・後藤一美・大野景・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社、2005年。  
・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣、2003年。  
・渡辺利夫・三浦有史『ODA（政府開発援助） 日本に何ができるか』中公新書、2003年。

開発援助政策論（秋学期）

講師 後藤一美

授業科目の内容：

(1) 世界がもし100人の村だったら、世界の富の90%をたった20人が握っている。公的援助をはるかにこえるお金が化粧品に消費されている。その一方で、15人が飢えて苦しんでいる。明日の世代を育てる教育にむけられるお金の10倍もお金が武器売りに使われている。この結果、16人は字を読むことさえままならない。3秒に子どもがひとり死んでゆく。こうした世界の現実をすこしでも良い方向にむけるためのさまざまな取り組みが地球規模で展開されている。

(2) 「国際協力 (International Cooperation)」とは、複数のアクター（主権国家、国際機関、民間企業、市民社会）がある共通の目的に関する合意形式を図るために、あるいは合意された共通の目的実現のために、国境を越えて、個と全体の利益を調整しながら、持てる「力」(構想力・交渉力・実行力)をお互いに出し合う政治的プロセスを指す。現代の国際協力の政策群は、「一層の繁栄」「世界の安定」「心の安寧」という3つの大きな問題群からなる包括的・重層的・横断的な総合政策体系として理解される。

(3) 他方、現実の国際政治の場で展開される国際協力の実態としては、新構想の推進過程や政策形成の水面下で、新たなリーダーシップや秩序形成をめぐる熾烈な駆け引きが行われる。国際協力の世界とは、一見きれいな事のように見えて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。その意味において、国際協力とは、国際政治社会における人間の本能としてのエゴイズムとヒューマニズムが複雑に絡み合う政治的営みでもある。

(4) 本講義は、「地球規模問題群 (Global Issues)」のうち特に「国際開発 (International Development)」に対する実践的問題解決アプローチ (とりわけ「日本の国際開発協力」) について、問題別、アクター別、手

法別視点から、現代の国際開発協力の現状と課題を考察することによって、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材を育成することを目的とする。

(5) 手法：本講義は、ビデオ（日本語・英語）、講義（PPT 使用）、質疑応答の3点セットを組み合せながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。（実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして数回招待することも予定したい。）

テキスト：

後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社、2005年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版、国際開発ジャーナル社、2004年。
- ・荒木光弥、『1970年代途上国援助 歴史の証言』『1980年代途上国援助 歴史の証言』『1990年代途上国援助 歴史の証言』国際開発ジャーナル社、1997年&2005年。
- ・足立文彦『人間開発報告を読む』古今書院、2006年。
- ・入江昭（著）・篠原初枝（訳）『グローバル・コミュニケーション 国連機関・NGOがつくる世界』早稲田大学出版部、2006年。
- ・功刀達朗・毛利勝彦（編著）『国際NGOが世界を変える 地球市民社会の黎明』東信堂、2006年。
- ・地球市民社会の研究プロジェクト（編）『地球市民社会の研究』中央大学出版部、2006年。
- ・小浜裕久『日本の国際貢献』勁草書房、2005年。
- ・白井早由里『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣、2005年。
- ・城山英明『国際開発援助行政』東京大学出版会、2007年。
- ・Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Earthscan, 2004. (マイケル・エドワーズ(著), CSO ネットワーク(企画・監修), 杉原ひろみ・畑島宏之・鈴木恵子・粒良麻知子(訳)『フューチャー・ポジティブ 開発援助の大転換』日本評論社、2006年。)

#### 現代アフリカ論（秋学期）

教授 井上一明

授業科目の内容：

1. 独立後のアフリカ諸国の特徴（60年代後半から現在まで）
  - 1) 政治過程の問題
    - (1) 政党制と政党の機能の変化
    - (2) 官僚制（官僚制の機能不全）
  - 2) 政治体制の問題
    - (1) 権威主義体制；権力の個人への集中
    - (2) 軍部政権とシヴィリアン・コントロール
2. 民主化以降（90年代以降）のアフリカ
  - 1) 民主化および民主主義の定着
  - 2) 時間があれば、ethnic groupの問題、宗教の問題、環境問題

#### 現代アメリカ論（秋学期）

争点と政策からみるアメリカ政治 准教授 岡山 裕

授業科目の内容：

「所変われば品変わる」と言いますが、ある問題が政治においてどのように取り上げられるか、またそもそもどういった問題が政治争点化するかは、社会によって異なります。また同様に、同じ社会の内部であっても、争点によってそれがどのような形で政治化する（しない）かは異なってきます。このコースでは、現代のアメリカで重要とされるいくつかの争点がどのような政治を生み出しているのかを、政策過程を軸に検討します。その際、アメリカと他の地域の違い（比較）や、アメリカにおける争点間の違いにもなるべく目配りしたいと考えています。

テキスト：

とくに指定しません。

参考書：

講義全体に関係するものとして、とりあえず以下を薦めます。その他は授業時に随時紹介します。

久保文明編『アメリカの政治』（弘文堂、2005年）

久保文明他『北アメリカ』第二版（自由国民社、2005年）

#### 現代オーストラリア論（秋学期）

オセアニアとオーストラリア 教授 関根政美

授業科目の内容：

本授業担当者は、従来、現代オーストラリア論においては、白豪主義国家オーストラリアがアジア・太平洋国家/多文化主義社会オーストラリアへと変貌していく文化・社会変動に焦点を当てて講義するとともに、多文化主義の可能性と課題について論じてきたが、本年は、講義対象を広くしてオセアニア全体に焦点を当ててみたい。授業は、(1) オセアニア

の歴史的発展（民族移動から植民地化・脱植民地化・自立化と社会不安）、(2) オーストラリアのアジア・太平洋国家化の軌跡と将来への課題を中心に講義する予定である。

テキスト：

黒柳米司・広瀬潮子・関根政美著『東南・南アジア/オセアニア ニュースを現代史から理解する（国際情勢ベーシックシリーズ）』（自由国民社、2001年3月）、関根政美『多文化主義社会の到来』（朝日新聞社、2004年刊）

参考書：

『オーストラリア入門』、東京大学出版会刊。竹田いさみ2000年『オーストラリア物語』中央公論社。

#### 現代韓国朝鮮論（秋学期）

朝鮮半島の戦後政治

教授 小此木 政夫

授業科目の内容：

- ・朝鮮半島は35年間に及ぶ植民地支配の後、第2次大戦の結果、日本の支配から解放された。しかし、解放は朝鮮の即時独立を意味しなかった。それどころか、独立への熱望と「冷戦」と呼ばれた米ソ対立が、二つの国家を誕生させ、さらに3年間に及ぶ国際内戦（朝鮮戦争）への道を準備したのである。これが分断体制の成立と固定化である。
- ・朝鮮休戦（1953）後も、冷戦の全期間を通じて、南北二つの朝鮮の間で激しい体制競争、すなわち双方の国家の命運を賭ける権力闘争（生存競争）が継続した。その過程で、韓国は学生革命やクーデタを経験したが、朴正熙、全斗煥将軍の軍事体制下で輸出指向型の経済開発に成功した。他方、北朝鮮は重工業優先の大衆動員型経済建設を採用し、ソ連、中国から独立して、反米南朝鮮革命を模索した。
- ・しかし、冷戦が西側の勝利のうちに終結する頃までに、二つの体制の競争にはほぼ決着がついた。韓国では重化学工業化に続いて民主化が達成され、1988年にはソウル・オリンピックが開催された。他方、ベルリンの壁が崩壊する頃、北朝鮮は韓国との経済建設競争に敗北した。二重の敗北し、核兵器開発に自らの体制の「生き残り」を賭けざるを得なくなったのである。

テキスト：

とくに使用しない。重要文献は授業中に紹介する。

参考書：

- ・『もっと知りたい韓国(2)』（伊藤亜人編、弘文堂、1997）
- ・森山茂徳『韓国現代政治』（東京大学出版会、1998）
- ・『市場・国家・国際体制』（小此木政夫・文正仁共編、慶應義塾大学出版会、2001）
- ・『危機の朝鮮半島』（小此木政夫編、2006）
- ・『現代東アジアの政治』（山田辰雄・小此木政夫編、放送大学教材、2008）
- ・『南北首脳会談への道』（林東源、岩波書店、2008）

#### 現代韓国朝鮮論（秋学期）

専任講師 西野 純也

授業科目の内容：

日本と朝鮮半島との関係について、戦後日韓関係を中心に講義します。従来の日韓関係研究は、国交正常化過程（日韓基本条約締結交渉）に焦点が当てられてきましたが、本講義では戦後日韓関係が両国の国内政治や国際環境の影響を受けつつどのように展開してきたのかを重点的に考察していきます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- 李庭植『戦後日韓関係史』中央公論社、1989年。
- 金東祚『韓日の和解』サイマル出版会、1993年。
- 小此木政夫編『ポスト冷戦の朝鮮半島』日本国際問題研究所、1994年。
- 高崎宗司『検証 日韓会談』岩波新書、1996年。
- 李東元『韓日条約締結秘話』PHP研究所、1997年。
- ヴィクター・D・チャ『米日韓 反目を超えた提携』有斐閣、2003年。
- 太田修『日韓交渉 請求権問題の研究』クレイン、2003年。
- 吉澤文寿『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐって』クレイン 2005年。
- 鎌木昌之他編『朝鮮半島と国際政治』慶應義塾大学出版会、2005年。
- 小此木政夫・張達重編『戦後日韓関係の展開』慶應義塾大学出版会、2005年。
- 金慶珠・李元徳編『日韓の共通認識』東海大学出版会、2007年。
- 小此木政夫・西野純也編『韓国における市民意識の動態』慶應義塾大学出版会、2008年。

#### 現代台湾論（春学期）

歴史・政治・経済・国際関係

講師 松田 康博

授業科目の内容：

現代台湾を、歴史、政治、経済、国際関係など様々な側面から論じる。台湾問題の複雑さを理解すると同時に、台湾を媒介として現代の国際関係を理解することを目的とする。中国大陸の東南、北東アジアの西南、東南アジアの北東に位置し、多くの「外来勢力」の歴史によって彩られ

## 政治

台湾は、自ずと独特の重層的な社会を作り上げた。台湾を理解するには、台湾そのものに対する深い洞察が必要であると同時に、台湾を包摂する多重的な地域の文脈をふまえないならぬのである。特に 1990 年代以降、民主化をはじめとする台湾内部の変化とその国際的地位の変化には刮目すべき点が多い。この結果、台湾は学問的研究の対象としてのみならず、この地域で活動するあらゆる実業家にとって無視することのできない重要な地域となった。講義では、現地でしか得られない情報や感覚を紹介すると共に、どのようにしてそれらを学問的に理解し、説明するかを追求したい。受講者からの活発な質問を歓迎する。

テキスト：

- ・若林正文『台湾』、ちくま新書、2001 年。
- ・毎回プリントを配布する。

現代中国論（春学期） 中華人民共和国政治史	教授 国分良成
--------------------------	---------

授業科目の内容：

中華人民共和国の政治史を時代順にあとづけるが、視点は現在に置く。

参考書：

- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書、1999 年
- ・天児慧『中華人民共和国史』岩波新書、2004 年
- ・国分良成編『中国の統治能力』慶應義塾大学出版会、2006 年

現代中国論（秋学期） 中国の国際関係	教授 国分良成
-----------------------	---------

授業科目の内容：

中国をめぐる国際関係を様々な角度から具体的に分析する。

参考書：

- ・国分良成『アジア時代の検証 中国の視点から』朝日選書、1996 年
- ・国分良成『中華人民共和国』ちくま新書、1999 年
- ・国分良成編『中国の統治能力』慶應義塾大学出版会、2006 年

現代中東論（春学期） 中東の政治経済学	教授 富田 広 士
------------------------	-----------

授業科目の内容：

次の講義項目を予定している。

### 第 1 章 人口問題

1. 中東の人口統計
2. 急速な人口増加の経済的效果
3. 政治的效果
4. 政治的效果

### 第 2 章 開発と国家（時代背景）

1. 「第三世界」の誕生と経済開発への着手
2. 開発経済学の起源
3. 開発経済学の展開（1960 年代以降）

### 第 3 章 中東における政府主導の工業化

1. 政府の経済介入
2. 構造的変革の諸原則
3. ケマル・アタチュルク政権下のトルコの経済建設
4. 政府主導型工業化政策の波及
5. 政府（国家）資本主義の発生

### 第 4 章 政府・公共部門主導性の継続

1. 肥大した公共部門の既得権益
2. 先進国や国際援助機関の支持
3. 民間部門の共生関係
4. 国家歳入の収入源

### 第 5 章 経済自由化政策

1. 経済自由化の国内・国外要因
2. 中東諸国における自由化政策の事例

### 第 6 章 市場経済化の模索 構造調整政策

1. IMF・世界銀行の構造調整政策（理論的側面）
2. 構造調整政策の実施過程

### 第 7 章 都市化

1. 農村から都市への急速な人口移動
2. 都市化の経済的側面
3. 都市の政治と政治的暴力

### 第 8 章 農業と食糧問題

### 第 9 章 経済開発と国際関係

テキスト：

学期初めに、資料・統計・参考文献等の講義教材を、生協で販売する。

参考書：

学期中、三田図書館リザーブ・ブックとして閲覧可。（旧館 3 階）

現代ラテン・アメリカ論（秋学期）	准教授 出 岡 直 也
------------------	-------------

授業科目の内容：

近年のラテン・アメリカ政治を概観し、特に、左派政権、社会運動、フェアトレードの試みなど、不平等・貧困の縮小を試みる政治の諸相について考察する。

テキスト：

全体を通してのテキストはありません。各部分で、参考書を（重要度を示しつつ）紹介します。

現代ロシア論（秋学期） ロシアの政治	教授 横手 慎 二
-----------------------	-----------

授業科目の内容：

ロシアの政治は我々が身近に知る日本の政治と大きく異なる。たとえば、ロシアの最高権力者が社会に対してもつ影響力は伝統的にきわめて大きい。その反面、最高権力者として君臨していた者が革命やクー・デタによって権力の座から引きずり降ろされた例も少なくない。被統治者は概して最高権力者に従順であるか、あるいは政治に無関心であるように見えるが、けっしてすべてを許しているわけではない。1917 年以降、最高権力者の子供が最高権力者になった例は一度もないばかりか、社会的経済的有力者や著名人の子孫が最高権力者に上り詰めた事例も存在しない。したがって、最高権力者は常に一代でその地位に着くだけの能力と幸運の持ち主であるが、その地位を保つために社会にその実力を示すことが普段に求められてきた。この講義では、こうしたロシア政治の伝統的特徴（日本の政治との違い）を確認しつつ、1980 年代半ばに始まった大規模な変革の意味とその行方を考察する。この講義は、政治学の研究では比較することが常に求められているが、固有の要素を無視した比較は生産的な議論を生み出さないという地域研究の観点からなされる。

テキスト：

横手慎二『現代ロシア政治入門』（慶應義塾大学出版会）

授業内容を補足するプリントを配布する予定である

参考書：

- ・横手慎二・上野俊彦編『ロシアの市民意識と政治』（慶應義塾大学出版会）
- ・アーチャー・ブラウン『ゴルバチョフ・ファクター』（藤原書店）
- ・クライスティヤ・フリーランド『世紀の売却』（新評論）

西洋法制史（春学期） 古代ローマ法から近世までのヨーロッパ法史	講師 村 上 裕
------------------------------------	----------

授業科目の内容：

ヨーロッパ法の共通基盤ともいべきローマ法を軸に、中世から近世末にかけてのヨーロッパ法史を概観することを主たる内容とします。

まずは、共和政時代からユスティニアヌス法典の成立に至る経過を辿りながら、ローマ法の特徴を明らかにし、続いて、中世ヨーロッパにおけるローマ法の再生といわれる現象、すなわちローマ法が中世の学問の枠組みのなかで研究対象として、また実務のなかに取り込まれ、さらにローマ法がヨーロッパにおける共通基盤となる過程を検討していきます。最後に、ルネサンス・人文主義の思潮のなかで非ローマ法的要素（国家ないし地域に固有な法）が学問・実務において見直される契機と、それが近代法形成に向けての幕開けとなることを示して本講義を締めくくりにします。

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを所定の箇所からダウンロードして利用してもらいます。

（URL、パスワードなどは第 1 回授業時に指示します。）

参考書：

勝田 / 森 / 山内編著『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房）

中国政治史（秋学期）	教授 高 橋 伸 夫
------------	------------

授業科目の内容：

主としてアヘン戦争から辛亥革命にいたる中国の近代政治史について語る。最近、政治史はすっかり影が薄くなってしまった。たしかに、過去を「上から」ではなく「下から」、つまり権力の作用とその諸結果からではなく、民衆の経験や視点から復元してみようとする近年の社会史の試みは重要であり、次々と注目すべき成果が生み出されている。そうした「新しい歴史学」に馴染んだ者にとっては、この講義はいささか古めかしく映るかもしれない。しかし、そうはいつでも、権力が歴史において果たす役割の重要性は、いかなる社会史家でも否定できないだろう。この講義で学ぶことのできる政治史の基本的知識なしに社会史家のいう「全体をみる眼」を養うことはできない。政治史と社会史はライバルであると同時にパートナーであるべきなのである。社会史の成果については、折を見て言及することになる。

テキスト：

特に指定しない。

## 中国政治史（春学期）

中国革命史 1921年～1949年を中心として

教授 高橋伸夫

## 授業科目の内容：

中国革命の研究者たちは、これまで革命家の夢、期待、計画、政策、戦略については十分に語ってきた。だが、奇妙なことに、革命の現実についてはあまり多くを語っては来なかった。そして、彼らの研究は次のような暗黙の前提に基づいていた。(1) 党組織は、指導者が交替するたびごとに新しい色に染め上げられ、一枚岩となって新指導部のイニシアティブに従った。(2) 革命の主力となった労働者と農民は、共産党による労働条件の改善と土地改革を歓迎し、共産党の政策を積極的に受容した。こうして固く組み上げられた党組織が、労働者・農民の圧倒的支持のもとで革命運動を勝利に導き、中国を封建主義と帝国主義のくびきから解放するというストーリーが語られてきた。本当だろうか。革命家の言説と革命の現実が混同されていないだろうか。

この講義では、これまでの見解を整理しつつ、近年公表された新しい資料に基づき、中国革命史に関する従来の言説のいくつかの重要な部分に、挑戦を試みようと思う。

## テキスト：

高橋伸夫『党と農民 中国農民革命の再検討』研文出版、2006年、3,800円、ISBN4-87636-267-X-C-3022

## 東洋政治思想史（春学期）

講師 平野 聡

## 授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上の最大版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した諸経緯を、個々の段階における統治思想に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的内実には極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

春学期は、儒学思想的伝統社会が内陸アジア文化および西洋と接触する過程でどのように変容するかを扱う。

## 参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史17）講談社2007年。ほか講義中に紹介する。

## 東洋政治思想史（秋学期）

講師 平野 聡

## 授業科目の内容：

中華人民共和国は急速な経済発展を通じて名実ともに世界の大国としての存在感を強めようとしている。しかし、不均等な発展による深刻な国内経済格差や、政治体制に起因する様々な問題、それに周辺諸国・地域との複雑な関係を抱えている。このような中国という国家が現在その支配の正統性の拠り所としているのは、前近代の帝国である清が形成した「中国史上の最大版図」と中国ナショナリズムを正しく継承する存在であるという意識である。そこで、中国という国家の将来、そして東アジアの将来を考えようとするならば、中国ナショナリズムの形成に関連した歴史的諸経緯を、個々の段階における論理に即して把握することが重要である。

いっぽう、ひとくちに東アジアと言っても、主に儒学思想がもたらした正負の問題ゆえに、その歴史的内実には極めて複雑であり、特に「中国史」からみて「周辺」とされる朝鮮・日本・琉球・ベトナム・内陸アジアの自意識の形成において深刻な影響がみられる。果たして「東アジア」の共同性を構想するならば、それはどのような歴史・文化的経験を踏まえたものとして考えられるのだろうか？

本講義ではこうした問題意識に照らして、東アジアの地域政治史と政治思想史の相互連関を探ってゆきたい。

秋学期は、近代西洋的な国際秩序が導入された結果生まれた近代東アジア社会の思想的葛藤を扱う。

## 参考書：

拙著『大清帝国と中華の混迷』（興亡の世界史17）講談社2007年。ほか講義中に紹介する。

## 現代アフリカ論特殊研究（春学期）

発展途上国の政治と開発

教授 井上 一 明

## 授業科目の内容：

発展途上国（第三世界）における政治体制と開発の問題を分析する際に有効なさまざまな理論・分析枠組みに関する基礎的な文献を輪読する。前半は政治体制論、そして後半は開発関係である。

## テキスト：

なし

## 参考書：

なし

## 現代韓国朝鮮論特殊研究（春学期）

朝鮮半島をめぐる国際政治

専任講師 西野 純也

## 授業科目の内容：

本特殊研究では、朝鮮半島をめぐる国際政治に関する文献の講読を通じて、現代韓国朝鮮政治および国際政治に関する基礎的知識を習得するとともに、論理的な思考能力を養うことを目指します。例えば、テレビや新聞では、北朝鮮核問題、拉致問題、歴史認識問題、竹島問題など、日本と朝鮮半島のあいだの「問題」が数多く登場しますが、それらの問題はいつ、どのようにして起こり、なぜ現在まで続いているのかといった歴史的経緯や原因は十分教えてはくれません。しかし、原因を知らないままでは、私たちはその問題にどのように対処したらいいのかわからず、的確な解決策（処方箋）を見つけることは出来ません。この授業によって、履修者の皆さんが現在起きている問題の背景や原因を学び、さらに処方箋を提示するための考え方を身につけられるようにしたいと思います。

## テキスト：

以下のものを予定していますが、履修者と相談して決めます。

ヴィクター・D・チャ（船橋洋一監訳／倉田秀也訳）『米日韓 反目を超えた提携』有斐閣、2003年。

ドン・オーバードーフ（菱木一美訳）『二つのコリア 国際政治の中の朝鮮半島』改訂最新版、共同通信社、2002年。

船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン』朝日新聞社、2006年。

## 参考書：

授業中にその都度提示します。

## 現代ラテン・アメリカ論特殊研究（秋学期）

ラテン・アメリカにおけるフェアトレード

准教授 出岡 直也

## 授業科目の内容：

ラテン・アメリカにおけるフェアトレードの事例を紹介・分析した文献を購読し、その実態・可能性・困難などについて議論する。主に日本語文献を用いるが、一部英語文献を用いる可能性もある。

## テキスト：

受講者の関心を聞いた上で教室にて指示する。

## 比較地域研究論特殊研究（秋学期）

実証政治学のリサーチデザイン

准教授 粕谷 祐子

## 授業科目の内容：

社会科学としての政治学の論文を書いてみたい、あるいは書き方を学びたい人のための演習形式の授業です。論文を書くということは、実際にやってみないとわからないことも沢山ありますが、書き方の作法を知っていることで効率的により質の高い論文の作成が可能になります。本授業では、(日本を含む)世界各国の国内政治や国際政治に関する、実証データを用いて分析した論文を書くにあたっての諸問題を検討します。実質的な理論（先行研究の検討など）や分析手法（統計手法やゲーム理論など）は本演習の検討対象外です。授業の前半7回では、リサーチデザインについての英語論文を精読します。この過程で各参加者に研究計画を作成してもらい（テーマは各自関心のある分野）、後半5回はその報告とクラスディスカッションにあてます。期末レポートとして、研究計画または論文（実質的なデータ分析を伴ったもの）を提出してもらいます。

## テキスト：

生協で購入できるパッケージを用意します。

## 参考書：

随時紹介します。

## 安全保障論（春学期）

現代の戦争と平和

教授 赤木 完 爾

## 授業科目の内容：

このコースでは、国家安全保障を中心に安全保障の様々な論点を検討する。主題は理論と歴史にまたがる。理論をめぐる論議はリアリズムの観点を中心とする。歴史的な論議は20世紀以降今日に至るの戦争と平和、ならびに戦略にかかわる。講義は外交史・軍事史を中心に一定の知

## 政治

識を前提としているので、受講を予定する者は下記の参考文献を利用して事前の読書に努力してほしい。

テキスト：

特に定めない

参考書：

- 赤木完爾『第二次世界大戦の政治と戦略』（慶應義塾大学出版会）
- 赤木完爾『朝鮮戦争』（慶應義塾大学出版会）
- 赤木完爾『ヴェトナム戦争の起源』（慶應義塾大学出版会）
- G. A. クレイグ, A. L. ジョージ『軍力と現代外交』（有斐閣）
- ウィリアムソン・マーレーほか編著『戦略の形成 支配者・国家・戦争』全2冊（中央公論新社）
- クラウゼヴィッツ『戦争論』（芙蓉書房出版）
- 松岡完『ベトナム戦争』（中公新書）
- ジェームズ・ジョル『第一次世界大戦の起原』（みすず書房）
- ハーバード核研究グループ『核兵器との共存』（TBS プリタニカ）
- ジョン・キーガン『戦争と人間の歴史』（刀水書房）
- マイケル・ウォルツァー『正しい戦争と不正な戦争』（風行社）
- マイケル・イグナティエフ『仁義なき戦場 民族紛争と現代人の倫理』（毎日新聞社）
- ジェームズ・アダムズ『21世紀の戦争』（日本経済新聞社）
- ウォルター・ラカー『大量破壊兵器を持った狂信者たち』（朝日新聞社）
- W. マクニール『戦争の世界史 技術と軍隊と社会』（刀水書房）
- ジョン・ルイス・ギャディス『歴史としての冷戦 力と平和の追求』（慶應義塾大学出版会）
- ジョン・ルイス・ギャディス『アメリカ外交の大戦略』（慶應義塾大学出版会）
- その他の参考文献は随時紹介する。

## 〔国際政治論〕

開発援助政策論（春学期）

簡単な経済学の観点から開発援助を考える。

講師 朽木 昭文

授業科目の内容：

(1) 概要：本講義では、地域経済振興のための援助政策について考える。そのなかでアジア各国、特に中国経済の動向を説明し、開発戦略を明らかにする。その際に「政府の役割」がなんであるかを検討する。地域経済を議論する際に政府の役割を「キー・コンセプト」として議論することで受講生が、論理的な思考をし、応用できるようになることを目指す。

政府の役割を最小限にするという構造調整政策といった世界銀行の考え方も説明し、政府の役割が明確であった戦後の日本の産業政策を対照的に説明する。アジアの高度経済成長の模範生といわれるマレーシアやタイの経済成長パターンを中間的形態として明らかにする。更に、産業クラスター政策に関する最新情報を紹介する。以上の説明により、経済では、「自由主義と政府介入」との両極端の考え方があることを理解することを目指す。

「経済学」の基礎的理解は、貧困削減を議論する上で不可欠である。経済学の初歩の基本的な部分をわかりやすく説明したい。そのうえで最小限必要な初歩的な数学を誰でもわかるような説明を試みる。貧困削減を議論する上で必要な経済理論を図表などにより示す。開発経済学の基礎の導入部分を学ぶことにより、理論を基礎としたうえで、アジア、アフリカ、南米の開発戦略を分析する。アジア、アフリカ、南米の今後の援助政策を議論したい。援助政策における日本の役割を議論したい。

(2) 目的：本講義は、以上の～を理解することを目指す。

(3) 手法：本講義は、講義、質疑応答を組み合わせながら、開発援助を議論する場合に必要な基礎をまず勉強する。1歩1歩進めるので授業にかならず参加できること。その基礎を勉強する際に援助の現場の話をし、創造性を養いたい。

テキスト：

朽木昭文『アジア産業クラスター論』書籍工房早山, 2007年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・朽木昭文『貧困削減と世界銀行』ジェトロ・アジア経済研究所, 2004年。
- ・後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社, 2005年。
- ・西垣昭・下村恭民・辻一人『開発援助の経済学 共生の世界と日本のODA』第3版 有斐閣, 2003年。
- ・渡辺利夫・三浦有史『ODA（政府開発援助） 日本に何ができるか』中公新書, 2003年。

開発援助政策論（秋学期）

講師 後藤 一美

授業科目の内容：

(1) 世界がもし100人の村だったら、世界の富の90%をたった20人が握っている。公的援助をはるかにこえるお金が化粧品に消費されている。その一方で、15人が飢えて苦しんでいる。明日の世代を育てる教育にむけられるお金の10倍のお金が武器売りに使われている。この結果、16人は字を読むことさえままならない。3秒に子どもがひとり死んでゆく。こうした世界の現実をすこしでも良い方向にむけるためのさまざまな取り組みが地球規模で展開されている。

(2) 「国際協力 (International Cooperation)」とは、複数のアクター（主権国家、国際機関、民間企業、市民社会）がある共通の目的に関する合意形成を図るために、あるいは合意された共通の目的実現のために、国境を越えて、個と全体の利益を調整しながら、持てる「力」（構想力・交渉力・実行力）をお互いに出し合う政治のプロセスを指す。現代の国際協力の政策群は、「一層の繁栄」「世界の安定」「心の安寧」という3つの大きな問題群からなる包括的・重層的・横断的な総合政策体系として理解される。

(3) 他方、現実の国際政治の場で展開される国際協力の実態としては、新構想の推進過程や政策形成の水面下で、新たなリーダーシップや秩序形成をめぐる熾烈な駆け引きが行われる。国際協力の世界とは、一見きれいなように見えて、その実、利害関係を有する多様なアクター間のダイナミックな緊張関係が渦巻く同床異夢の世界である。その意味において、国際協力とは、国際政治社会における人間の本能としてのエゴイズムとヒューマンイズムが複雑に絡み合う政治的営みでもある。

(4) 本講義は、「地球規模問題群 (Global Issues)」のうち特に「国際開発 (International Development)」に対する実践的問題解決アプローチ（とりわけ「日本の国際開発協力」）について、問題別・アクター別・手法別視点から、現代の国際開発協力の現状と課題を考察することによって、将来、地球共生社会の実現を目指して国際協力の世界で活躍する人材を育成することを目的とする。

(5) 手法：本講義は、ビデオ（日本語・英語）、講義（PPT使用）、質疑応答の3点セットを組み合わせながら、開発援助の臨場感を抱けるように工夫しているので、特段の予備知識は必要としない。また、講師による一方的講義スタイルではなく、受講者の参加型演習とプレゼンテーションを随所に設けることにより、受講者の表現能力の能力向上に力点を置いている。（実際に国際開発協力の現場で働いている方々を授業内ゲスト・スピーカーとして数回招待することも予定したい。）

テキスト：

後藤一美・大野泉・渡辺利夫（編著）『日本の国際開発協力』シリーズ国際開発：第4巻 日本評論社, 2005年。

講義資料・参考資料・参考文献リスト 授業のなかで配布。

参考書：

- ・後藤一美（監修）『国際協力用語集』第3版, 国際開発ジャーナル社, 2004年。
- ・荒木光弥, 『1970年代途上国援助 歴史の証言』『1980年代途上国援助 歴史の証言』『1990年代途上国援助 歴史の証言』国際開発ジャーナル社, 1997年&2005年。
- ・足立文彦『人間開発報告を読む』古今書院, 2006年。
- ・入江昭（著）・篠原初枝（訳）『グローバル・コミュニティ 国連機関・NGOがつくる世界』早稲田大学出版部, 2006年。
- ・功刀達朗・毛利勝彦（編著）『国際NGOが世界を変える 地球市民社会の黎明』東信堂, 2006年。
- ・地球市民社会の研究プロジェクト（編）『地球市民社会の研究』中央大学出版部, 2006年。
- ・小浜裕久『日本の国際貢献』勁草書房, 2005年。
- ・白井早由里『マクロ開発経済学 対外援助の新潮流』有斐閣, 2005年。
- ・城山英明『国際開発援助行政』東京大学出版会, 2007年。
- ・Michael Edwards, Future Positive: International Cooperation in the 21st Century, Earthscan, 2004. (マイケル・エドワーズ(著), CSO ネットワーク(企画・監修), 杉原ひろみ・畑島宏之・鈴木恵子・粒良麻知子(訳)『フューチャー・ポジティブ 開発援助の大転換』日本評論社, 2006年。)

現代韓国朝鮮論（秋学期）

朝鮮半島の戦後政治

教授 小此木 政夫

授業科目の内容：

朝鮮半島は35年間に及ぶ植民地支配の後、第2次大戦の結果、日本の支配から解放された。しかし、解放は朝鮮の即時独立を意味しなかった。それどころか、独立への熱望と「冷戦」と呼ばれた米ソ対立が、二つの国家を誕生させ、さらに3年間に及ぶ国際内戦（朝鮮戦争）への道を準備したのである。これが分断体制の成立と固定化である。

朝鮮休戦（1953）後も、冷戦の全期間を通じて、南北二つの朝鮮の間で激しい体制競争、すなわち双方の国家の命運を賭ける権力闘争（生存競争）が継続した。その過程で、韓国は学生革命やクーデタを経験したが、朴正熙、全斗煥將軍の軍事体制下で輸出指向型の経済開発に成功し

た。他方、北朝鮮は重工業優先の大衆動員型経済建設を採用し、ソ連、中国から独立して、反米南朝鮮革命を模索した。

しかし、冷戦が西側の勝利のうちに終結する頃までに、二つの体制の競争にはほぼ決着がついた。韓国では重化学工業化に続いて民主化が達成され、1988年にはソウル・オリンピックが開催された。他方、ベルリンの壁が崩壊する頃、北朝鮮は韓国との経済建設競争に敗北した。二重の敗北し、核兵器開発に自らの体制の「生き残り」を賭けざるを得なくなったのである。

テキスト：

とくに使用しない。重要文献は授業中に紹介する。

参考書：

- ・『もっと知りたい韓国(2)』(伊藤亜人編, 弘文堂, 1997)
- ・森山茂徳『韓国現代政治』(東京大学出版会, 1998)
- ・『市場・国家・国際体制』(小此木政夫・文正仁共編, 慶應義塾大学出版会, 2001)
- ・『危機の朝鮮半島』(小此木政夫編, 2006)
- ・『現代東アジアの政治』(山田辰雄・小此木政夫編, 放送大学教材, 2008)
- ・『南北首脳会談への道』(林東源, 岩波書店, 2008)

#### 現代韓国朝鮮論 (秋学期)

専任講師 西野純也

授業科目の内容：

日本と朝鮮半島との関係について、戦後日韓関係をを中心に講義します。従来の日韓関係研究は、国交正常化過程(日韓基本条約締結交渉)に焦点が当てられてきましたが、本講義では戦後日韓関係が両国の国内政治や国際環境の影響を受けつつどのように展開してきたのかを重点的に考察していきます。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・李庭植『戦後日韓関係史』中央公論社, 1989年。
- ・金東祚『韓日の和解』サイマル出版会, 1993年。
- ・小此木政夫編『ポスト冷戦の朝鮮半島』日本国際問題研究所, 1994年。
- ・高崎宗司『検証 日韓会談』岩波新書, 1996年。
- ・李東元『韓日条約締結秘話』PHP 研究所, 1997年。
- ・ヴィクター・D・チャ『米日韓 反目を超えた提携』有斐閣, 2003年。
- ・太田修『日韓交渉 請求権問題の研究』クレイン, 2003年。
- ・吉澤文寿『戦後日韓関係 国交正常化交渉をめぐる』クレイン, 2005年。
- ・鐸木昌之他編『朝鮮半島と国際政治』慶應義塾大学出版会, 2005年。
- ・小此木政夫・張達重編『戦後日韓関係の展開』慶應義塾大学出版会, 2005年。
- ・金慶珠・李元徳編『日韓の共通認識』東海大学出版会, 2007年。
- ・小此木政夫・西野純也編『韓国における市民意識の動態』慶應義塾大学出版会, 2008年。

#### 現代ヨーロッパの国際関係 (春学期)

EUの歴史 ジャン・モネ・チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容：

現代ヨーロッパの国際関係をEU(欧州連合)の歴史を通して説明する。

テキスト：

バンジャマン・アンジェル他著『ヨーロッパ統合』創元社, 2005年

参考書：

田中俊郎『EUの政治』岩波書店, 1998年他。初回に文献リストを配付。

#### 現代ヨーロッパの国際関係 (秋学期)

EUの機関と政策

ジャン・モネ・チェア 教授 田中俊郎

授業科目の内容：

現代ヨーロッパの国際関係で、EUの歴史を学んでいることを前提に、EUの政策決定過程、EUの諸機関と諸政策(域内、域外)について講義する予定。欧州委員会、理事会、欧州議会、欧州司法裁判所などの諸機関と構成国が繰りひろげる政治、さらには世界でその重要性を増しつつあるEUの対外関係の実態について紹介する。

参考書：

- ・田中俊郎『EUの政治』岩波書店, 1998年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EUと市民』慶應義塾大学出版会, 2005年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会, 2006年
- ・田中俊郎・小久保康之・鶴岡路人編『EUの国際政治』慶應義塾大学出版会, 2007年
- ・『日本EU学会年報』各号  
初回に文献リストを配付。

#### 現代ヨーロッパの国際関係 (春学期)

現代国際政治と、地域統合

講師 羽場久美子

授業科目の内容：

2008秋の金融恐慌以降、ポスト冷戦に匹敵するような大きな変化が起こりつつある。

ひとつは、冷戦終焉後20年間続いてきた、グローバル化とアメリカ中心のネオ・リベラリズム、ユニラテラリズムへの危惧と中断であり、その象徴的出来事が、世界恐慌と並行して起こった、アメリカ大統領選挙におけるオバマの勝利であろう。政権交代によって、180度の政策転換が行われるわけでないにせよ、アフリカ出自の父、フセインのミドルネームを持ち黒人の血を引くオバマが、多くのアメリカの底辺層の人々や若者の圧倒的支持を得て政権についた世界的な意味は大きい。

国際関係は、危機の時に、変化し、発展するとされる。

冷戦崩壊による自由主義とグローバリゼーション、民主化の流れの上に広がった、民族地域紛争、ナショナリズムの拡大、グローバル化と貧困の拡大は、世界的な金融危機をもたらし、ドルと友にユーロも大きく落ち込んだ。ここから、世界はどこに向かうのだろうか。

この授業では、ほぼ皆さんの誕生の時期に重なる1989年の冷戦の終焉という政治面での根底的変化とその後の20年、昨年2008年の経済面での根底的変化を踏まえつつ、現代の国際政治、国際関係をヨーロッパから、また地域統合から、分析を行いたい。

ヨーロッパは、冷戦終焉後、アメリカと共に、自由・民主主義・市場経済を体現しつつ、鉄のカーテン・ベルリンの壁崩壊後、10年にわたり、東方への経済、文化、価値、機構の拡大を、EUとNATOの協力関係によって、推進してきた。

そこに変化が現れたのは、同じく90年代に始まったバルカンの民族地域紛争に対する、1999年のNATOのコソヴォ空爆、および9.11のアメリカにおける同時多発テロ、さらに2003年のイラク戦争以降である。

京都議定書の拒否など、アメリカの環境問題も含むユニラテラリズム(単独行動主義)に対し、03年欧州の仏独はマルチラテラリズム(多国間協調主義)をかかげて、アメリカの国際規範・国際秩序に、再検討を促した。

しかしこれに対して、欧州のほとんどの国々、とりわけ新加盟候補国たる「新しいヨーロッパ」は、アメリカを支持して、欧州、そして世界は2分された。これに対しては、2008年秋の金融恐慌とアメリカの大統領選挙がこの対立に、一定の不可逆的方向性を提示し、世界は、グローバル化への一定の人為的規制とマルチラテラリズムの方向にゆっくりと歩を進めることになる。

また、2007年末のシロヴァキアへのユーロの拡大、さらに北欧諸国のユーロ圏への関心の高まりは、金融恐慌とグローバリゼーションが、統合をさらに加速させる役割を果たしていることを示した。

他方、グローバリゼーションと格差の拡大の結果、欧州では、この間内に向けては、拡大が必ずしも市民の利益として認識されていないことを明らかにしたため、市民を重視し市民の参加民主主義を実現しようと、「民主主義の赤字」にたいして、プランD(Democracy, Dialogue, Diversity: 民主主義, 対話, 多様性)が出され、「市民参加のヨーロッパ」と「グローバル化の中での社会的公正」、が謳われ始めている。

世界的規模で広がったナショナリズムは、民族対立と共に、移民排斥や農業問題での対立を顕在化させたが、これに対してもゆっくりと、和解、共存、市民・底辺層への社会政策が謳われつつある。

グローバリゼーションと競争・格差の広がりの中で、アジア地域でも「東アジア共同体」ないし東アジアの様々な地域統合の試みが始まっているとき、われわれは、欧州から何を学ぶことができるであろうか。

以上について、冷戦終焉20年の興行きの深さと、08年の転換と亀裂の大きさを共に感じつつ、現代国際政治を、ヨーロッパから、地域統合から、再検討したい。

テキスト：

- ・羽場久美子・小森田秋夫・田中素香編『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店, 2006.
  - ・羽場久美子『拡大ヨーロッパの挑戦 アメリカに並ぶ多元的パワーとなるか』中公新書, 2004.
  - ・羽場久美子『拡大EUの教訓と、東アジア共同体』『海外事情』2007.6.
  - ・羽場久美子『グローバリゼーションと欧州拡大』御茶ノ水書房, 2002.
- 参考書：
- ・講義用プリントは、授業の際に配布します。
  - ・田中俊郎・庄司克宏編『EU統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会, 2006。(羽場久美子「拡大EUと、ナショナリズム グローバル化と民主化の相克」)
  - ・山内進編『フロンティアのヨーロッパ』国際書院, 2008。(羽場久美子「拡大EUのフロンティア」)
  - ・Anthony Giddens, Europe in the Global Age, Polity Pr., 2006.
  - ・Old Europe, New Europe, Core Europe, Verso Books, 2005.
  - ・An East Asian Community and the United States, Center for Strategic and International Studies, Washington D.C., 2007.
  - ・The Idea of a United Europe, Macmillan Press, 2000.

## 現代ヨーロッパの国際関係 (秋学期)

北欧諸国の外交政策

講師 吉 武 信 彦

## 授業科目の内容:

本講義は、ヨーロッパの中でも特に北欧諸国(デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン)に注目し、その第二次世界大戦後の外交政策を国内環境と国際環境の両面から検討する。

第二次世界大戦後、北欧諸国は地域協力を発展させ、冷戦といわれる厳しい国際環境にもかかわらず地域の安定を確保すると同時に、国際社会においても活発な外交を展開してきた。人口の点では、北欧5カ国は合計してもわずか2400万人にしかならない小規模な国々であるが、国際関係においてなぜ大きな発言力、影響力を行使できるのであろうか。また、冷戦が終焉し、21世紀を迎えた現在、北欧諸国は外交上いかなる問題に直面しているのであろうか。

## テキスト:

拙著『日本人は北欧から何を学んだか 日本・北欧政治関係史入門』(新評論, 2003年)

## 参考書:

拙著『国民投票と欧州統合 デンマーク・EU関係史』(勁草書房, 2005年)

第2回目の講義で、詳細な参考文献リストを配布します。

## 国際コミュニケーション論 (春学期)

国際報道の現状とニュースの流れの構造

講師 内 藤 耕

## 授業科目の内容:

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくにここでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史的変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話ではありませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

## テキスト:

・特に指定しません。  
・講義資料プリントはURL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayasu/> からダウンロードできます。

## 参考書:

授業時に適宜指示します。

## 国際コミュニケーション論 (秋学期)

メディアのグローバル化と文化摩擦

講師 内 藤 耕

## 授業科目の内容:

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、を受講している必要はありません。

## テキスト:

・特に指定しません。  
・講義資料プリントはURL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayasu/> からダウンロードできます。

## 参考書:

授業時に適宜指示します。

## 国際政治経済論 (春学期)

国際政治経済論各論

教授 田 所 昌 幸

## 授業科目の内容:

国際政治経済論をうけて、国際政治経済問題の現代的諸問題について、試論的な議論を展開する。

## テキスト:

田所昌幸『国際政治経済学』(名古屋大学出版会, 2008年)

## 参考書:

授業中に随時指示する

## 国際政治理論 (春学期) / 国際政治理論 (秋学期)

教授 薬師寺 泰 蔵

## 授業科目の内容:

国際政治学は二つの大きなパラダイム(見方)があります。リアリズム(現実主義)とリベラリズム(自由主義)です。

リアリズムは、軍事的パワーをもっている大国が勢力を均衡しながら関係を持つという国際政治の見方(パラダイム)をさしています。つまり、国際政治を動かすのは「現実的(リアリスティック)には軍事力」という考えです。

一方、リベラリズムは、直訳すると自由主義ですが、経済的自由主義をベースに国家が政治経済的な相互依存関係のネットワークを作りながら動いているというパラダイムをさしています。

リアリズムとリベラリズムは国家の動きに着目した考えですが、実はもう一つのパラダイムがあります。国際政治を一つのシステムと見なし、その「構造」や「秩序」に着目したパラダイムです。それが覇権論や帝国論などです。

なぜ、国際政治学はいくつものパラダイムが併存しているのでしょうか。それは世界全体の中央政府が存在しないからです。言い換えれば世界はアナーキー(無政府)状態です。そのため中央政府が存在する国家と国家のネットワーク関係が紛争や戦争がない状態を保てるかに我々は着目し、どのようなネットワーク状態の場合世界は安定するかに知的努力を傾注するわけです。

このような国家と国家のネットワーク関係を国家や世界の経済を指すマクロ経済と呼ぶことを真似て「マクロ国際政治」と呼びましょう。春学期はこの「マクロ国際政治」を中心に講義します。

国際政治学は、国家と国家のネットワークだけで動いているわけではありません。アジアの金融危機や最近のサブプライムローン問題(米国の低所得者用住宅ローンの焦げ付きを発端に世界の金融機関が不良債権をかかえている問題)、世界的なエネルギー環境問題など、それぞれの国家の中にある企業や組織が「国家を超えてグローバルな世界で活動するために国際政治に大きな影響を与えるからです。私は、このような企業や組織を「SFS」(ステート・フラッグド・セクター 国家の旗を持ったサブナショナルなセクター)と称し、SFSをベースに国際政治を見る見方を「ミクロ国際政治」と呼んでいます。

ミクロ国際政治は、環境問題に関する国連環境会議やG8取り決め、京都議定書などすぐれた国際的な政策の取り決めで動いています。秋学期はこの「ミクロ国際政治」と中心に講義します。

## テキスト:

最初の講義のときに指示する。

## 参考書:

最初の講義のときに指示する。

春学期のみのテキスト P. R. ビオティ, M. V. カビ著『国際関係論』第2版

秋学期のみのテキスト 薬師寺泰蔵著『公共政策』

## 国際政治論 (春学期)

アジア太平洋の安全保障

講師 小笠原 高 雪

## 授業科目の内容:

現代の安全保障をアジア太平洋の事例を中心に検討する。はじめに安全保障の諸概念を概観したのち、米国・中国・日本などの安全保障政策、ASEANとARFに代表される地域協力、非伝統的安全保障や人間安全保障の展開などを、それぞれの歴史的背景を踏まえながら考察する。

## テキスト:

とくに指定しない。授業時間にプリントを配布する。

## 参考書:

広瀬佳一, 小笠原高雪, 上杉勇司(編)『ユーラシアの紛争と平和』, 明石書店, 2008年

## 西洋外交史 (秋学期)

講師 岩 間 陽 子

## 授業科目の内容:

第一次世界大戦から現在までの西洋外交史を振り返る。20世紀は米ソという二つの「極」が台頭し、それぞれの傘下に多くの諸国が分かれ、19世紀までのヨーロッパにおける主権国家間関係としての国際政治が、世界大に広がった世紀であった。この過程でソ連は産業社会から情報社会への転換に失敗し、共産主義は力を失って行ったが、他方で、70年代力を弱めたと思われたアメリカは、80年代から復活し、世紀の転換期にはアメリカ一極時代が21世紀となるのか、はたまた米中の2極になるのかと思われた。しかし、80年代から同時に進行したのは、主権国家体制の浸食であった。これはアクターの多様化、主権の相対化、はたまた破綻国家など、様々な形で現れている。9.11、そして金融危機を経て、今後どのような世界へ向かっているのかを最後に考察して終わりたい。

## テキスト:

開講時に指定

## 参考書:

講義の中で紹介

日本外交史 (春学期)

教授 添谷 芳秀

授業科目の内容:

戦後日本外交の変遷を講義する。重要事項を外交史の事例として理解することとあわせて、戦後日本外交の全体像を理解するための視角や枠組みを重視して講義する。とりわけ、選択の自由が根本的に締約されていた占領下での吉田茂の選択が、その後不完全なまま定着したことの意味を考えてみたい。それは、きわめて今日的問題でもあり、そのことを深くみつめ直さなければ、今後の日本外交の指針もみえてこないだろう。

テキスト:

添谷芳秀『日本の「ミドルパワー」外交』(ちくま新書, 2005年)

参考書:

参考文献を適宜講義のなかで紹介する。概説としてはとりあえず以下を参照のこと。

五百旗頭真編『戦後日本外交史』(有斐閣, 2006年)[新版]

安全保障論特殊研究 (秋学期)

大戦略の諸相

教授 赤木 完爾

授業科目の内容:

国家の安全保障の達成をめざす、大戦略に関する歴史的な経験をゼミ形式で議論していく。政策と戦略についての基本的な思考の枠組みを確認するため、Michael Howard 教授の論文(英文)を講読した後、テキストに取り扱われている事例を個別に検討していく。

テキスト:

ウィリアムソン・マーレー、マクレガー・ノックス、アルヴィン・バーンスタイン編著『戦略の形成 支配者・国家・戦争』全2冊, 石津朋之・永末聡監訳(中央公論新社, 2007年)

論文については開講時に配布する予定。

参考書:

必要に応じて随時、指示します。

現代韓国朝鮮論特殊研究 (春学期)

朝鮮半島をめぐる国際政治

専任講師 西野 純也

授業科目の内容:

本特殊研究では、朝鮮半島をめぐる国際政治に関する文献の講読を通じて、現代韓国朝鮮政治および国際政治に関する基礎的知識を習得するとともに、論理的な思考能力を養うことを目指します。例えば、テレビや新聞では、北朝鮮核問題、拉致問題、歴史認識問題、竹島問題など、日本と朝鮮半島のあいだの「問題」が数多く登場しますが、それらの問題はいつ、どのようにして起こり、なぜ現在まで続いているのかといった歴史的経緯や原因は十分教えてはくれません。しかし、原因を知らないままでは、私たちはその問題にどのように対処したらいいのか、的確な解決策(処方箋)を見つけることは出来ません。この授業によって、履修者の皆さんが現在起きている問題の背景や原因を学び、さらに処方箋を提示するための考え方を身につけられるようにしたいと思います。

テキスト:

以下のものを予定していますが、履修者と相談して決めます。

ヴィクター・D・チャ(船橋洋一監訳/倉田秀也訳)『米日韓 反目を超えた提携』有斐閣, 2003年。

ドン・オーバードファー(菱木一美訳)『二つのコリア 国際政治の中の朝鮮半島』改訂最新版, 共同通信社, 2002年。

船橋洋一『ザ・ペニンシュラ・クエスチョン』朝日新聞社, 2006年。

参考書:

授業中にその都度提示します。

国際政治理論特殊研究 (春学期)

教授 薬師寺 泰蔵

授業科目の内容:

- 1) 主要な国際関係論に関する文献を読む。
- 2) 国際関係論分析の手法について、演習をまじえて議論する。

テキスト:

その都度指定する。

参考書:

その都度指定する。

東アジアの国際関係特殊研究 (秋学期) 教授 添谷 芳秀

授業科目の内容:

This course is offered primarily as an introductory course for the "Three-Campus Comparative East Asian Studies Program," a collaborative program among the Underwood International College of Yonsei University, the Faculty of Social Sciences of the University of Hong Kong, and the International Center of Keio University.

The aim of the course is to give a general overview to the postwar history of international relations in East Asia as well as to more recent post-Cold War developments therein, including Japan's role and external rela-

tions in the region. It begins with an overview of the postwar evolution of East Asian politics and security, and proceeds to the discussions of U.S.-China-Japan relations after the Cold War, followed by the examination of the roles of the three countries represented by the three-campus program, i.e., China, Korea and Japan.

The course is thus divided into three parts. In **Part 1 and Part 2**, students are expected to read assigned articles for each week (30-50 pages in English) in order to familiarize themselves with the major issues and themes of postwar and post-Cold War international relations in East Asia. For these parts, **the enrolled students other than those in the three-campus program are required to present a list of questions for discussion based on the assigned readings, both in writing (one page) and orally (5 minutes), at least once during the course.**

Then, we will move on to **Part 3**, where **the students of the three-campus program will take the role of leading the discussions relevant to the roles of their respective countries in contemporary East Asia.**

テキスト:

A course syllabus, designating weekly assigned readings, will be distributed at the first class.

## 〔研究会(3年)〕

研究会(秋学期集中)

教授 蔭山 宏

授業科目の内容:

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決める。

研究会(春学期)(秋学期)

政治哲学,(現代)政治思想,政治学,平和学の研究

教授 萩原 能久

授業科目の内容:

4月に決定した研究会会員の希望にそって、中心的にテーマを設定し、そのテーマを扱った広範囲の重要文献を選定して輪読をすすめていきます。乱読はこうした分野に不可欠ですので、かなりの量の文献を読むこととなります。

上記の、いわゆる本ゼミと平行してサブゼミも行います。サブゼミでは1)本ゼミの理解の助けとなるような二次的研究文献の輪読,2)ディベート,3)研究会ホームページの作成,4)三田祭時に毎年刊行している論文集のための研究中間報告を行うこととなります。

テキスト:

開講時に履修者と相談して決めます。

参考書:

ゼミのなかで随時紹介していきます。

研究会(春学期)(秋学期)

教授 堤 林 剣

授業科目の内容:

政治思想の古典を輪読しながらディスカッションを行う。

研究会(春学期)(秋学期)

准教授 田上 雅徳

授業科目の内容:

おもに、西欧政治思想にかかわる諸問題を検討します。

テキスト:

履修者と相談の上、講読文献を決定します。

研究会(春学期)(秋学期)

日本国憲法とアメリカ憲法の比較検討 教授 大沢 秀介

授業科目の内容:

日本国憲法の基本理念を知るうえで重要なアメリカ憲法について、日本国憲法の現況を踏まえたうえでテーマを選択し研究を行う。

テキスト:

芦部信喜(高橋和之補訂)『憲法(第四版)』(岩波書店, 2007年), 棟居快行『憲法解釈演習』(信山社, 2004年), 棟居快行『憲法フィールドノート(第3版)』(日本評論社, 2006年), および英語文献

参考書:

大沢秀介『憲法入門(第3版)』(成文堂, 2003年)

研究会(春学期)(秋学期)

教授 小林 良彰

授業科目の内容:

あるべき政治の姿を念頭に置きながら、現代の政治過程の実態を調べ、自分が何に関心を持っているのかを、次第に自分自身で掘んで行くこと

## 政治

を目的とする。その上で、現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、研究成果は三田祭で発表する。

テキスト：

ジョン・ロールズ『正義論』

参考書：

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会（春学期）（秋学期）

「ガバナンスの行政学」の視点から現代日本行政システムを考察  
教授 大山 耕 輔

授業科目の内容：

伝統的な「国家中心の行政学」を批判的に検討するとともに、グローバル化のなかの「国から地方へ民間へ」という時代における「ガバナンスの行政学」の可能性と限界について考察します。またそのような視点から、現代日本行政システムを考察します。各自の卒論研究について、問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連のプロセスの導入部分を指導します。

テキスト：

最初のゼミの時間に指示します。

参考書：

担当者の考えを知るには、『日本の民主主義』『エネルギー・ガバナンスの行政学』（ともに慶大出版会）、『パブリック・ガバナンス』（日本経済評論社）『行政指導の政治経済学』（有斐閣）などが参考となります。その他「ゼミ紹介」や『法学部専任教員一覧』に掲載されている文献などが参考になります。

研究会（春学期）（秋学期）

教授 麻 生 良 文

授業科目の内容：

基礎的な教科書（財政学、公共経済学等）の輪読と、各自のテーマについて研究を行ってもらいます。研究テーマについては、財政全般、地方分権、高齢化、社会保障、環境問題等、幅広く扱います。

テキスト：

初回に指定する。

研究会（春学期）（秋学期）

現代の民主主義をいかに機能させるか 教授 河 野 武 司

授業科目の内容：

現代の民主主義は代議制という形態をとっています。しかし代議制民主主義は必ずしも最善の政治システムではありません。政治的無関心が蔓延する中、様々な危機にさらされている代議制民主主義の諸問題を明らかにしながら、直接民主制の可能性を視野に入れつつ、民主主義を維持、発展させる様々な要因や制度的方法について、研究会会員諸君とともに検討したいと考えています。

テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

参考書：

授業中に、適宜紹介します。

研究会（春学期）（秋学期）

現代自治体行政論 教授 片 山 善 博

授業科目の内容：

地域間格差の拡大、財政破綻、三位一体改革、大規模公共事業の中止、道州制導入論議など自治体行政をめぐる様々な問題や課題が発生しているが、これらに対するマスコミの報道や政府のアジェンダ設定あるいは自治体自身の対応には当を得ていないものが数多く見られる。授業では、自治体行政をめぐる日々生起する主要な事象について検討を加えることを通じて、問題発見と課題設定能力、関連情報収集力さらには問題解決能力を身につけることを主眼としたい。

テキスト：

テーマの設定に合わせて示す。

参考書：

田中成之『改革の技術』（岩波書店、2004年11月）、片山善博『市民社会と地方自治』（慶応大学出版会、2007年8月）など

その他、テーマに応じてそれぞれ示したい。

研究会（春学期）（秋学期）

脱工業化・グローバル化時代の国民国家の文化・社会変動  
先進諸国・日本／オーストラリアの国際社会学  
教授 関 根 政 美

授業科目の内容：

関根研究会の、学生諸君は2年間私を指導教授として研究活動を行うことになる。高校時代までは、先生の話聞いてノートを書き、覚え、試験でよい点をとるといった作業である「お勉強」が中心だったはずである。それは、社会にでてから日常・職業生活において困らないような知識・技能を学び、市民として恥ずかしくない生活を送れるようにするためであった。し

かし、大学では、自ら研究課題を設定し、そのテーマを中心に調査・資料収集、分析・報告・討論などを行うという「研究活動」を行い、社会に役立つ知識を生みだすことが大きな目的となる（利己主義から利他主義へ）。本研究会の主要テーマは、グローバルリゼーション・脱工業化、女性の社会進出、少子高齢化、人口減少の社会変動、人口移動のグローバル化と人種・民族・エスニシティ・ナショナリズム・多文化主義の「政治社会学」、現代オーストラリア研究に大きく分かれている。入会に当たりテーマの選択に注意してほしい。大学1年次より、研究会活動に慣れておく必要があるため「演習」などの授業に参加しておくことが望ましい。

テキスト：

研究会では、「自由研究」と称して、諸君の自主研究報告を中心とした演習セッション、輪読書を決めて報告・討論を行う特殊研究セッション、また、グループで研究報告を行う合同演習セッションも適宜行う。テキストはそのつど諸君の希望を入れて選択する。自由研究報告は、先行研究を踏まえて各自が収集した参考文献、調査報告を基礎に行う。必要ならば現地調査・インタビュー調査をすること。なお、授業では2、3名の報告者と司会者・討論者をあらかじめ決めて質疑・討論を中心に進めていく。報告担当者は3～4千字ほどの報告・コメントを作成する。活発な討論への参加が自らの成長の源になるのでその気で参加するように。

参考書：

研究会指導者の著書・論文は一応目を通しておくこと。『エスニシティの政治社会学』（名古屋大学出版会、1994年）『多文化主義社会の到来』（朝日新聞社、2000年）『マルチカルチュラル・オーストラリア』（成文堂、1989年）有末・霜野・関根編『社会学入門』（弘文堂、1996年）関根政美・山本信人編『海域アジア』（慶應義塾大学出版会、2004年）カースルズ／ミラー（関根・関根訳『国際移民の時代』（名古屋大学出版会、1996年）、D・ヒーター（田中・関根訳）『市民権とは何か』（岩波書店、2003年）、関根政美・塩原良和編著『多文化交差社会の政治社会秩序形成』（慶應義塾大学出版会、2008年）他に、ガッサン・ハージ（保苅・塩原訳『ホワイト・ネイション』（平凡社、2003年）など。

研究会（春学期）（秋学期）

教授 有 末 賢

授業科目の内容：

社会学の基礎的な概念、見方、分析方法などをまず習得してもらうために、文献を指定して毎週輪読することから始める。秋学期以降は、三田祭での研究発表も含めて、自主的な活動を尊重したいが、本ゼミにおいては、都市社会学を中心とした研究への導入を行いたいと考えている。

テキスト：

春学期は社会学の概論、秋学期については都市社会学、ジェンダー論などの専門書を読む予定である。

研究会（春学期）（秋学期）

メディアと政治社会について考える 教授 大 石 裕

授業科目の内容：

春学期は、マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、政治社会学に関する文献や論文を読み、それについて討議する。

秋学期は、それに卒業論文発表が加わる。

その他、宿舎4年生のゼミ、サブゼミへの参加を通して研究を進めていく。

研究会（春学期）（秋学期）

「グローバル社会学」への招待 准教授 塩 原 良 和

授業科目の内容：

この研究会では、「越境する人や文化による、国家・社会のあり方の変化」、「グローバルに拡大・深化する市場経済による、国家や社会、人間関係のあり方の変化」というふたつの観点から、現代世界における社会変動を学んでいきます。たとえば、移民・難民・外国人をめぐる諸問題、国民国家や地域社会の多民族・多文化化とそれに対する行政の対応、越境する個人のアイデンティティの変容、グローバル化と文化変容、新自由主義と福祉国家、現代先進諸国における貧困と社会的排除・・・といった問題に関心のある学生のみなさんの参加を希望しています。そして、断絶や排除を乗り越えた新しい共同性や連帯のあり方を、みなさんとともに模索していきたいと思えます。

テキスト：

講義中に随時提示します。

参考書：

講義中に随時提示します。

研究会（春学期）（秋学期）

教授 笠 原 英 彦

授業科目の内容：

基礎的文献を輪読し討論する。

引き続き共同研究を行う。

テキスト：

初回の授業で文献リストを配布する。

参考書：

授業時に適宜指定する。

研究会(春学期)(秋学期) 近代日本政治研究	教授 玉井 清
---------------------------	---------

授業科目の内容:

近代日本政治に関する基礎的研究書を読み解くとともに、資料収集から分析の方法を学びながら、各自卒論のテーマを設定することを旨とする。

研究会(春学期)(秋学期) 日本政治思想史・日本政治運動史	准教授 小川原 正道
----------------------------------	------------

授業科目の内容:

政治思想史・運動史に関する研究調査方法について学びながら、三田祭発表に向けた共同研究・論文作成を実施し、各自の卒論作成の準備を開始する。

テキスト:

適宜授業中に指示する。

参考書:

適宜授業中に指示する。

研究会(春学期)(秋学期) 中東地域研究のセミナー	教授 富田 広 士
------------------------------	-----------

授業科目の内容:

中東問題の文献を読みながら自分なりの問題を見つけ出し、分析し、論文にまとめる。

(1) 文献(日本語および英語)の内容報告、(2) 3 学年度末に提出する論文(12000 字程度)の作成を中心に進める。

テキスト:

授業時に指示する。

参考書:

授業時に指示する。

研究会(春学期)(秋学期) 現代中国政治・外交、東アジア研究	教授 国分 良 成
-----------------------------------	-----------

授業科目の内容:

春学期は基本篇として文献を毎週読み、秋学期は応用篇としてグループ研究を行う。

テキスト:

順次指定する。

研究会(秋学期集中) ロシアの政治と外交	教授 横手 慎 二
-------------------------	-----------

授業科目の内容:

ロシアを題材にして、ゼミナール形式で、現代の政治と外交を研究する。研究題目は参加者の問題関心によって決める。最近の例で言うと、スターリンについての集団的記憶の問題、ロシアの刑法改正問題、年金問題、農業問題、チェチェン問題、犯罪の問題、カスピ海の資源問題、中ロ両国の経済改革の比較、ロシアの安全保障政策、ユーゴスラヴィアの政治体制などである。こうした問題について、これまでなされてきた研究を読み、解釈やアプローチの違いを知ることが最初の課題である。各人の発表とそれをめぐる自由な議論を通じて、プレゼンテーションや意見交換(討議)の仕方を身につけることを目指す。

テキスト:

特別に利用しない。ただし夏休みの合宿では、必ず英語の本を読むことにしている。また、日頃、英語と日本語の新聞や雑誌を比較しながら読むことを求めている。ロシア語の読める人がいれば、ロシア語の新聞も読んで同様の報告を求める。ただしロシア語は必須ではない。現在では、インターネットの英語版を使うことでかなりの事実を追いかけることが可能だからである。

参考書:

3 年生の秋学期は、基本的な本を読むことにしている。これまでアリソン『決定の本質』、プレジンスキー『地政学で世界を読む』、船橋洋一編『同盟の比較研究』など、また各種の日本語のロシア論を取り上げた。

研究会(春学期)(秋学期)	教授 井上 一 明
---------------	-----------

授業科目の内容:

春学期は、政治体制および開発に関する基本的な英語文献を輪読する。

秋学期は、各自の卒業論文のテーマに関連した英語文献のプレゼンテーションをおこなう。

テキスト:

なし

参考書:

なし

研究会(春学期)(秋学期)	教授 高橋 伸 夫
---------------	-----------

授業科目の内容:

主として中国政治史の分野で研究を行うための基礎体力の養成を目的とする。古典的な中国社会論および比較政治学的観点から書かれた中国研究の文献のリーディング、およびそれに基づく討論が中心となる。

研究会(春学期)(秋学期)	准教授 出岡 直 也
---------------	------------

授業科目の内容:

ラテン・アメリカ諸国の政治を重要な文献(主に英語)の講読と参加者の研究報告などによって学びます。参加者は、4 年次の卒業論文の執筆まで、様々な義務を負うこととなります。

研究会(春学期)(秋学期) 途上国比較政治	准教授 粕谷 祐 子
--------------------------	------------

授業科目の内容:

「発展途上国」と括られる諸国の政治は非常に多様ではありますが、その一方で、先進国との対比ではこれらの国が共通してもつ政治的課題が存在します。本研究会ではそのような発展途上国地域に共通してみられる政治問題を、理論的観点から検討します。地域研究が得意とする、ある国・地域の固有性の探求や、開発問題、すなわち途上国の貧困をどう改善できるのか、という政治学の領域を超えた問題の検討は本研究会の主眼ではありません。

本研究会では、以下のような目的を受講生が達成することを期待しています。

- (1) 途上国政治研究において、なにが問題になっているのか、どのような理論(因果関係に関する知見)が蓄積されているのかを知り、途上国政治研究の全体像を把握する。
- (2) アカデミックな問いの立て方、議論のしかたを身につける。
- (3) 現実におこっている現象に対し、理論を応用して分析できるようになる(できれば自分で仮説・理論をつくれるようになる)。
- (4) 自分の興味のあるトピックについて独自に探求するスキルを身につける。
- (5) プレゼンテーションおよび論文を書くスキルを伸ばす。

以上の目的達成のため、春学期には、途上国諸国が抱える政治問題の理論的把握を目的とした、文献の輪読とディスカッションをおこないます。秋学期には、ゼミ生が各自選んだトピックに関する自主研究とその報告をおこないます。

テキスト:

生協購買部で教材コピーを購入してください。

参考書:

随時紹介します。

研究会(春学期)(秋学期) アメリカ合衆国政治研究	准教授 岡山 裕
------------------------------	----------

授業科目の内容:

アメリカの政治と政治学的な分析の基礎を身につけてもらうために、幅広い分野から基本的な文献(主に英語)を講読し、議論します。とくに今年には連邦議会や利益団体政治に関する文献を多く用いる予定です。また各学期を通じて、各自が関心を持った分野について小論をまとめてもらいます。秋学期については、次年度の卒業論文作成に向けて、まとまった研究計画を執筆してもらいます。

テキスト:

授業開始時に指定します。

参考書:

授業時に随時紹介します。

研究会(春学期)(秋学期)	教授 小此木 政 夫
---------------	------------

授業科目の内容:

春学期には、専門的な知識を吸収し、国際政治的なセンスを磨くために、必要と思われる文献を精力的に読破する。履修者は多くのアサインメントに耐えなければならない。その後、夏季休暇までに三田祭の発表テーマを決定し、共同研究に着手する。各自が分担し、共同論文を執筆しなければならない。意欲のある会員のみが参加を許される。詳しくは、研究会ホームページを参照すること。

<http://www.clb.law.mita.keio.ac.jp/okonogi/>

テキスト:

開講時に紹介する。

研究会（春学期）（秋学期）  
EUの政治 ジャン・モネ・チェア 教授 田 中 俊 郎

授業科目の内容：

ヨーロッパ連合（EU）に関する英文の文献を読みながら、卒業論文の準備をする。

テキスト：

Roy Ginsberg, Demystifying the European Union, Rowan and Littlefield, 2007.

参考書：

- ・田中俊郎『EUの政治』岩波書店，1998年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EUと市民』慶應義塾大学出版会，2005年
- ・田中俊郎・庄司克宏編『EU統合の軌跡とベクトル』慶應義塾大学出版会，2006年
- ・田中俊郎・小久保康之・鶴岡路人編『EUの国際政治』慶應義塾大学出版会，2007年

研究会（春学期）（秋学期） 教授 添 谷 芳 秀

授業科目の内容：

国際政治と日本外交の関連に着目し、戦後史を概観するとともに様々な分析枠組みを検討する。特殊（個別的事象）と普遍（一般的意義付け）の間を柔軟に往復する分析力と、具体的出来事の連なりを構造的に把握する能力を養いたい。

テキスト：

適宜指定する。

研究会（春学期）（秋学期）  
現代国際政治・安全保障研究 教授 赤 木 完 爾

授業科目の内容：

現代国際政治ならびに安全保障問題の重要な論点を理解するために、基本文献を輪読し、議論するとともに各自の研究発表などを行う。

テキスト：

研究会において使用する文献リストは開講後配付する。

参考書：

教育支援システムを利用するので、keio.jpのアカウントは使えるようにしておくこと。

研究会（春学期）（秋学期） 教授 田 所 昌 幸

授業科目の内容：

20世紀の国際政治史を概観するとともに、国際政治学のいくつかの古典の輪読を行う。

テキスト：

授業の進行に応じて指定する。

研究会（春学期集中） 教授 山 本 信 人

授業科目の内容：

ゼミ員個々人の関心のあるテーマに関する研究を深める作業をおこなう。自分の研究だけでなく、他者の研究を読む・聞くことにより、視野を広げること期待できる。同時に、定期的に共通読書をおこない、ものの考え方を学び、知識を共有することをめざす。

## 〔研究会(4年)〕

研究会（秋学期集中） 教授 蔭 山 宏

授業科目の内容：

社会科学の古典的書物を精読する。詳しくはゼミナリストと相談して決める。

研究会（春学期）（秋学期）  
政治哲学（現代）政治思想、政治学、平和学分野での卒業論文に向けて 教授 萩 原 能 久

授業科目の内容：

3年生、院生と合同の「本ゼミ」に参加することとは別に、4年生のみで、各人が自由に選んだテーマでの卒業論文の中間発表を行っていきます。

テキスト：

用いません。

参考書：

ゼミの中で随時紹介していきます。

研究会（春学期）（秋学期） 教授 堤 林 剣

授業科目の内容：

卒論中間報告を中心にディスカッションを行う。

研究会（春学期）（秋学期） 准教授 田 上 雅 徳

授業科目の内容：

卒業論文の作成を中心に進めます。

研究会（春学期）（秋学期）  
日本国憲法とアメリカ憲法の比較研究 教授 大 沢 秀 介

授業科目の内容：

各自が選択したテーマにしたがって、卒業論文作成にあたる。

テキスト：

特になし

参考書：

特になし

研究会（春学期）（秋学期） 教授 小 林 良 彰

授業科目の内容：

現代の政治過程の中から、各自の問題意識にしたがって研究を進め、現代の政治過程の分析を行う。研究成果は、最終的に各自の卒業論文として提出する。

テキスト：

統一したものは使用しない。

参考書：

各自の問題意識にしたがって、随時、使用します。

研究会（春学期）（秋学期）  
「ガバナンスの行政学」の視点から各自の卒論作成指導 教授 大 山 耕 輔

授業科目の内容：

「ガバナンスの行政学」の視点から、各自の卒論作成を指導します。問題発見と洗練化、仮説設定、データ収集、批判的考察、結論という一連の段階に応じて中間報告を求め、コメントします。最終的には、各自の卒論を集めて1冊の『8期生卒論集』として製本し研究室に「永久保存」します。また優秀な作品は、政ゼミ委員会編集の『政治学研究』に投稿できるよう指導します。

テキスト：

とくに指定しません。

参考書：

行政学のテキストに限らず、政策研究やガバナンス論についての本や論文、新聞・雑誌など各自の問題関心にしたがって良書と出会い、どんどん読み進めて欲しい。論文の考え方や書き方についての参考書も自分にあったものを選ぶとよい。ネット検索だけでは限界がある。また、政治学・行政学の方法論については、G・キング他『社会科学のリサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』（勤草書房，2004）、増山他『計量政治分析入門』（東大出版社，2004）等がある。

研究会（春学期）（秋学期） 教授 麻 生 良 文

授業科目の内容：

基礎的文献の輪読と各自の卒論テーマの選定（春学期）、各自の卒論について報告（秋学期）

研究会（春学期）（秋学期）  
現代の民主主義をいかに機能させるか 教授 河 野 武 司

授業科目の内容：

3年次の研究会で醸成した各自の現代民主主義に関する問題意識を前提に、卒論の作成を行います。

テキスト：

研究会会員と相談して決めます。

参考書：

授業中に、適宜紹介します。

研究会（春学期）（秋学期）  
現代自治体行政論 教授 片 山 善 博

授業科目の内容：

自治体行政は、教育、福祉、環境、土木、産業政策、農業など広範多岐に及んでいる。その中には、住民にとって大切な分野でありながら、これまで必ずしも光のあたっていないものも少なくない。その現状を把握し、これをどうすればバランスのとれた位置づけができるのか。また、

住民の代表である議会が本来住民の意向を行政に反映させなければならないのであるが、多くの自治体議会ではいまだに十分な機能を果たしていない。この現状を踏まえていかなる議会改革が必要か。これら地方自治にとって重要なテーマについて、関係する文献を講読するとともに、フィールドワークなどを通して理解することを主眼としたい。

テキスト：

テーマの設定に合わせて示す。

参考書：

- ・田中成之『改革の技術』（岩波書店，2004年11月）
  - ・片山善博『市民社会と地方自治』（慶應大学出版会，2007年8月）など
- その他、テーマに応じてそれぞれ示したい

研究会（春学期）（秋学期）  
社会学理論の考察 教授 霜野 寿亮

授業科目の内容：

各自の卒論作成に関して個別の指導を行う。

テキスト：

なし

参考書：

なし

研究会（春学期）（秋学期）  
脱工業化・グローバリゼーション時代の国民国家の文化・社会変動  
先進諸国・日本/オーストラリアの国際社会学  
教授 関根 政美

授業科目の内容：

3年生の間に「お勉強」から「研究活動」への気持ちの転換は終わった関根研究会4年生諸君の活動は、基本的には卒業論文作成のための研究活動が中心となる。3年春合宿で報告した1万字論文の内容を土台に研究活動を継続する。と同時に、4年生は春学期中の研究会の本ゼミセッションでは3年生の研究指導を行う。なお、春合宿以降に卒論テーマの変更をした場合は、その旨研究会指導教授に直ちに報告すること。報告に際してパワーポイント（配布資料準備）などの使用を推奨するが、その場合でも報告書3~4千字レポートは人数作成し配布する。春学期中就活に勤しむものが多いが、6月上旬までには授業に復帰することを原則とする。授業に一度も参加しないものは、4年生春学期の2単位は与えない。

テキスト：

3年との合同で行う研究会「本ゼミ」セッションでは、3年生が使用するテキスト・論文を利用する。なお、諸君より読みたい著書なり論文があれば申し出ること。

参考書：

各自が、図書館等で卒論作成に必要な参考文献を探して読んでおくこと。現代社会変動研究の研究会なので統計は最新のものを利用すること。インターネット検索で入手できないものは、図書館所蔵の雑誌論文等を検索すること。近年、「図書館」という言葉を知らない学生がいるらしい。図書館には本・雑誌・新聞など印刷「メディア」が置いてあることを忘れるな……。

研究会（春学期）（秋学期） 教授 有末 賢

授業科目の内容：

卒業論文の指導を行う。春学期には、各自の論文のテーマを確定し、文献・資料を読み、調査も行う。夏合宿以後は、中間報告をし、場合によっては個別指導も取り入れる。

研究会（春学期）（秋学期） 教授 大石 裕

授業科目の内容：

各人の卒業論文の発表を中心に授業を行う。

研究会（春学期）（秋学期）  
「グローバル社会学」からの視座 准教授 塩原 良和

授業科目の内容：

この研究会では、「越境する人や文化による、国家・社会のあり方の変化」、「グローバルに拡大・深化する市場経済による、国家や社会、人間関係のあり方の変化」というふたつの観点から、現代世界における社会変動を学んでいきます。たとえば・・・移民・難民・外国人をめぐる諸問題、国民国家や地域社会の多民族・多文化化とそれに対する行政の対応、越境する個人のアイデンティティの変容、グローバル化と文化変容、新自由主義と福祉国家、現代先進諸国における貧困と社会的排除・・・といった問題に関心のある学生のみ皆さんの参加を希望しています。そして、分断や排除を乗り越えた新しい共同性や連帯のあり方を、みなさんとともに模索していきたいと思っております。

テキスト：

講義中に随時提示します。

参考書：

講義中に随時提示します。

研究会（春学期）（秋学期）  
日本政治史および日本行政史 教授 笠原 英彦

授業科目の内容：

卒業論文の作成を指導する。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業時に適宜指示する。

研究会（春学期）（秋学期）  
近代日本政治研究 教授 玉井 清

授業科目の内容：

卒論完成に向け、各自のテーマに従い発表を行う。

研究会（春学期）（秋学期）  
日本政治思想史・日本政治運動史 准教授 小川原 正道

授業科目の内容：

卒業論文の作成に向けた報告・討議、個別指導を行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業中に適宜指示する。

研究会（春学期）（秋学期）  
中東地域研究のセミナー 教授 富田 広士

授業科目の内容：

中東問題に各自の関心と分析方法に基づいて取り組み、その中で自分なりの問題を見つけ出し、分析し、論文にまとめる。

(1) 文献（日本語および英語）の内容報告、(2) 卒論の作成を中心に進める。

テキスト：

授業時に指示する。

参考書：

授業時に指示する。

研究会（春学期）（秋学期）  
現代中国政治・外交、東アジア研究 教授 国分 良成

授業科目の内容：

卒業論文の中間報告を行う。

研究会（秋学期集中）  
ロシアの政治と外交 教授 横手 慎二

授業科目の内容：

卒業論文の作成を目指して、ゼミナール形式で授業を進める。プレゼンテーションやそれをめぐる議論での貢献度が重視される。論文は基本的に、4万字程度、脚注の付いたアカデミックなものとするを求めている。

研究会（春学期）（秋学期） 教授 井上 一明

授業科目の内容：

卒業論文の指導

研究会（春学期）（秋学期） 教授 高橋 伸夫

授業科目の内容：

参加者の研究報告とそれに基づく討論を通じて 卒業論文の完成をめざす。

研究会（春学期）（秋学期） 准教授 出岡 直也

授業科目の内容：

卒業論文の執筆に向けて、文献講読と研究報告を行います。

研究会（春学期）（秋学期）  
途上国比較政治 准教授 粕谷 祐子

授業科目の内容：

各自の卒業論文の作成に向けて、報告、討議、個別指導をおこないます。

参考書：

適宜紹介します。

研究会（春学期）（秋学期） アメリカ合衆国政治研究	准教授 岡 山 裕
------------------------------	-----------

授業科目の内容：

前年度に引き続き、アメリカ政治を扱った重要文献を講読して議論する以外に、卒業論文に向けた個人研究の発表と討論を行いたいと考えています。

テキスト：

授業開始時に指定します。

参考書：

随時紹介します。

研究会（春学期）（秋学期） EUの政治 ジャン・モネ・チェア	教授 田 中 俊 郎
-----------------------------------	------------

授業科目の内容：

卒業論文を作成する。

研究会（春学期）（秋学期）	教授 添 谷 芳 秀
---------------	------------

授業科目の内容：

卒業論文の研究および作成に関する指導を中心に行う。

研究会（春学期）（秋学期） 卒業論文指導	教授 赤 木 完 爾
-------------------------	------------

授業科目の内容：

卒業論文の完成に向けてゼミ生各自の卒業論文にかかわる研究報告とそれに対する指導を中心に進める。

研究会（春学期）（秋学期） 卒論指導	教授 田 所 昌 幸
-----------------------	------------

授業科目の内容：

共通テーマに基づき、学生の論文の報告とその指導を行なう。

研究会（春学期集中）	教授 山 本 信 人
------------	------------

授業科目の内容：

卒業論文の中間報告と卒業論文作成。

## 〔社会科学科目〕

## 〔選択 法学系列〕

民法 A（春学期） 家族法	教授 犬 伏 由 子
------------------	------------

授業科目の内容：

家族法と呼ばれている分野（民法 親族）を対象とします。現代において、家族に関する意識、行動、価値観が大きく変化したと言われていますが、講義では、現代家族のあり方を踏えて、家族法の基本的枠組、新たな問題等について考察します。

テキスト：

講義開始時に指示する

参考書：

水野紀子編「家族法判例百選（第7版）」有斐閣

民法 B（秋学期） 相続法	教授 犬 伏 由 子
------------------	------------

授業科目の内容：

家族法と呼ばれている分野の中で民法 相続編を対象とします。人の死により、生前その者に属した権利・義務は、日本においては、家族を中心とした承継のルールに従うこととなります。講義では、現代家族のあり方も踏えて、相続法の基本的枠組、新たな問題等について考察します。

テキスト：

講義開始時に指示する

参考書：

・水野紀子他編「家族法判例百選（第7版）」有斐閣

商法 A（春学期）	准教授 杉 田 貴 洋
-----------	-------------

授業科目の内容：

商法分野のうち、特に会社法に重点を置いて講義を行う。会社には、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の4種がある。こうした会社の種類を定め、あるいは会社に関わる人々の利益を調整する法律が会社法である。会社を含む企業（商人）をめぐる社会関係を規律する法律が商法である。企業を法の視点から眺めるのが商法・会社法という学問であると言ってもよからう。本講義は、商法・会社法の基本事項を整理しその考え方を理解することを目的とする。

テキスト：

山本爲三郎「会社法の考え方〈第7版〉」（八千代出版、平成20年）

参考書：

宮島司「新会社法エッセンス〈第3版〉」（弘文堂、平成20年）

商法 B（秋学期）	准教授 杉 田 貴 洋
-----------	-------------

授業科目の内容：

商法分野のうち、特に会社法に重点を置いて講義を行う。会社には、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の4種がある。こうした会社の種類を定め、あるいは会社に関わる人々の利益を調整する法律が会社法である。会社を含む企業（商人）をめぐる社会関係を規律する法律が商法である。企業を法の視点から眺めるのが商法・会社法という学問であると言ってもよからう。本講義は、商法・会社法の基本事項を整理しその考え方を理解することを目的とする。

テキスト：

山本爲三郎「会社法の考え方〈第7版〉」（八千代出版、平成20年）

参考書：

宮島司「新会社法エッセンス〈第3版〉」（弘文堂、平成20年）

商法 A（春学期） 手形・小切手法	教授 島 原 宏 明
----------------------	------------

授業科目の内容：

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。

具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

テキスト：

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版（¥2,500）

参考書：

開講時に指示する。

商法 B (秋学期) 手形・小切手法	教授 島原 宏 明
-----------------------	-----------

## 授業科目の内容:

商法の中に位置づけられるところの「手形・小切手法」について、体系的に解釈論の解説を行う。一見、手形・小切手法は応用的なジャンルの法律とみられがちであるが、これらは使用される社会が限定されているため、法律行為論の本質的な要素をとらえるには絶好の素材といえる。具体的には、主に約束手形を対象として講義を進めていく。

## テキスト:

島原宏明『手形法学への誘い』八千代出版(¥2,500)

## 参考書:

開講時に指示する。

労働法 (春学期) 雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する	教授 内藤 恵
--	---------

## 授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法〔使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集団的労使関係法(憲法 28 条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域)に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

## テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2009年春出版予定)を使用する予定です。その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣 2002)

## 参考書:

初心者向けの参考書として、  
・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)  
・西村健一郎・安枝英『労働法(第10版)』(有斐閣プリマシリーズ、2009)  
大部の概説書に、菅野和夫『労働法(第8版)』(弘文堂、2008)

労働法 (秋学期) 雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する	教授 内藤 恵
--	---------

## 授業科目の内容:

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法〔使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集団的労使関係法(憲法 28 条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域)に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

## テキスト:

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2009年春出版予定)を使用する予定です。その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕(有斐閣 2002)

## 参考書:

初心者向けの参考書として、  
・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)  
・西村健一郎・安枝英『労働法(第10版)』(有斐閣プリマシリーズ、2009)  
大部の概説書に、菅野和夫『労働法(第8版)』(弘文堂、2008)

経済法 (春学期)	教授 田村 次朗
-----------	----------

## 授業科目の内容:

経済法は、資本主義経済を支える経済憲法である独占禁止法を中心として構成されている。本講義では、経済法について、その理論的支柱である独占禁止法を中心に、法的論点について具体的事例を使い解説する。ただし、本講義では、経済法の理論的側面だけでなく、企業法務など実務において、実際に経済法がどのような機能を果たしているのか、実務特有の問題意識もあわせて解説する。

## テキスト:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』(弘文堂 2006)

## 参考書:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』(弘文堂 2006)

経済法 (秋学期)	教授 田村 次朗
-----------	----------

## 授業科目の内容:

本講義は、経済法 においてとりあげた経済法に関する基本的な理解を前提として、資本主義経済体制を支える経済法に関する最新の論点を取り上げる。特に、経済法を理解するうえで重要となる関連分野とのインターフェースなどを重視し、多角的視点から、経済法が経済活動に与えている影響を整理する。たとえば、企業戦略と独占禁止法の関係、経済法分野において浸透しつつある「法と経済学」的な分析手法の現状とその限界、さらに、近年話題となっている企業倫理・企業の社会的責任との関係で重要となるコンプライアンス(法令遵守)などを取り上げる。

## テキスト:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『独占禁止法 第二版』(弘文堂 2006)

## 参考書:

金井貴嗣・川濱昇・泉水文雄編『ケースブック独占禁止法』(弘文堂 2006)

## 〔選択必修 経済学・商学系列〕

経済政策 (春学期) 政府が市場に介入する根拠は何か	講師 川野辺 裕 幸
-------------------------------	------------

## 授業科目の内容:

先進資本主義国における経済は各個人や企業の市場における取引を中心として成り立っている。社会主義計画経済と市場経済の優劣は近年のソ連東欧圏の崩壊から明らかと思われる。しかしわが国をふくめて多くの先進資本主義国には巨大な政府部門があり、市場経済にさまざまな形で影響をあたえようとしている。経済政策をもっとも広い意味でとれば、この全体が経済政策である。本講義は、「市場経済に政府が経済政策という形で介入する根拠:その正当性と成果」の解明をテーマにする。講義はマクロ・ミクロ経済学の基礎知識を前提として進め、簡単な理論で現実をいかに説明し、政策論を展開できるかに主眼をおく。また、政府による政策決定と市場における決定の違いを明らかにするために、公共選択論による民主主義的な意思決定システムの特徴を講義する。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

授業計画を参照。

経済政策 (秋学期) 政府が市場に介入する根拠は何か	講師 川野辺 裕 幸
-------------------------------	------------

## 授業科目の内容:

春学期開講の経済政策( )に続いて、経済政策の各論を講義する。今年度は福祉政策を中心に行う。

## テキスト:

特に指定しない。

## 参考書:

授業計画を参照。

財政論 (春学期)	講師 畑 農 鋭 矢
市場の失敗と政府の役割	

## 授業科目の内容:

財政の存在意義や政府の経済政策の帰結について、俗説に惑わされず、経済学的に理解できる見識を養う。具体的には、経済における政府部門の役割に関して財政学や公共経済学の理論を学習し、市場の役割と市場の失敗、政府の役割と政府の失敗について学習する。また、現実データの概観を通じて、財政の歴史や様々な政策の意義、また現代財政が直面する諸問題について理解を深める。

## テキスト:

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年。  
講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

## 参考書:

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002年。  
井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社、2005年。  
井堀利宏『財政学 第3版』新世社、2006年。  
アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策 政府の責任と限界』勁草書房、2006年。

財政論 (秋学期)	講師 畑 農 鋭 矢
財政各論(租税と公共支出)	

## 授業科目の内容:

財政学や公共経済学の理論を基礎として、租税の役割や経済効果、公共支出の機能や現代的課題、財政赤字・政府債務の経済効果について個別具体的に学ぶ。また、現実データの概観を通じて、租税と公共支出の歴史的意義や経済的帰結、また現代において直面する諸問題について理解を深める。

## テキスト:

畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣、2008年。  
講義資料は <http://www22.ocn.ne.jp/~e-miles/> からダウンロードできます。

## 参考書:

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社、2002年。  
井堀利宏『ゼミナール公共経済学入門』日本経済新聞社、2005年。  
井堀利宏『財政学 第3版』新世社、2006年。  
アリエ・L・ヒルマン『入門財政・公共政策 政府の責任と限界』勁草書房、2006年。

国際経済論 (春学期)	経済学部 教授 竹 森 俊 平
-------------	-----------------

## 授業科目の内容:

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際経済論 (秋学期)	経済学部 教授 竹 森 俊 平
-------------	-----------------

## 授業科目の内容:

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際経済論 (春学期)	経済学部 教授 木 村 福 成
-------------	-----------------

## 授業科目の内容:

国際貿易論は、貿易パターンの決定要因を分析する国際分業論と政策や社会的厚生を議論する貿易政策論という2つの部分から成っているが、本講義では、最先端の理論・実証研究・政策研究の動向を踏まえつつ、両者の基礎を学ぶ。

- (a) 国際分業論
- (b) 貿易政策論

## テキスト:

木村福成『国際経済学入門』日本評論社、2000年

## 参考書:

第1回の講義の際に詳細を配布する。

国際経済論 (秋学期)	経済学部 教授 木 村 福 成
-------------	-----------------

## 授業科目の内容:

国際貿易論は、貿易パターンの決定要因を分析する国際分業論と政策や社会的厚生を議論する貿易政策論という2つの部分から成っているが、本講義では、最先端の理論・実証研究・政策研究の動向を踏まえつつ、両者の基礎を学ぶ。

- (a) 国際分業論
- (b) 貿易政策論

## テキスト:

木村福成『国際経済学入門』日本評論社、2000年

## 参考書:

第1回の講義の際に詳細を配布する。

国際経済論 (春学期) / 国際経済論 (秋学期)	商学部 教授 和 気 洋 子
---------------------------	----------------

## 授業科目の内容:

世界経済はいつも変動の中にある。それがどのような変動として実際に観測されるか、その変動要因が何であるか、その変動をどのように管理・統治できるか、その変動メカニズムをどのように理論化できるか、そして今後の世界経済をどのように展望できるかなど、知的関心は広くて深い。今21世紀を迎え、世界経済では、グローバリズムの功罪、WTOの役割、FTAの進展、EU通貨統合の進展、東アジア地域の変容、資源・エネルギー問題の深刻化、貧困問題・地球環境問題・安全・安心の暮らし・企業の社会的責任の視点など、新たな課題に向けて、新たな挑戦が始まっている。本講義では、世界経済論 / 世界経済論 を通じて、現代および将来の産業経済社会をめぐる諸課題の本質を探る手がかりを得るために、イギリス産業革命から現代社会に至る技術進歩と経済発展の歴史とそれに関わる諸理論を展望し、そのなかで貿易政策論・国際マクロ経済論・開発経済論・環境経済学などで得られる学説史的な知見がいかに援用できるかを実践的に論じる。

## 参考書:

- ・石井・清野・秋葉・須田・和気・ブラギンスキー共著『入門・国際経済学』有斐閣 2003年
- ・森田・天野編著『地球環境問題とグローバルコミュニティー』岩波書店 2002年
- ・松村・関下・藤原・田中『現代世界経済をとらえる』東洋経済新報社 2003年

国際経済論 (春学期) / 国際経済論 (秋学期)	商学部 教授 遠 藤 正 寛
---------------------------	----------------

## 授業科目の内容:

国際経済学(国際貿易・国際金融)の基礎を講義します。

## テキスト:

Paul. R. Krugman and Maurice Obstfeld, "International Economics: Theory and Policy, 8th Edition," Addison Wesley, 2008 (旧版で翻訳書有)

[ 選択 経済学・商学系列 ]

計量経済学 (春学期)	経済学部 准教授 田 中 辰 雄
-------------	------------------

## 授業科目の内容:

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎(不偏性・効率性、古典的仮定、 $t$  検定、 $F$  検定など)、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。成績は2回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する（最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかればよい）。

計量経済学（春学期） 経済学部 准教授 田中辰雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎（不偏性・効率性、古典的仮定、t値、F検定など）、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。成績は2回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくることを推奨する（最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかればよい）。

経済史（春学期） 経済学部 教授 杉山伸也

授業科目の内容：

本講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、自学自習を基本とするe-learningによる授業であり、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web上で配信される講義を、一定の期間内に曜日あるいは時間帯を問わずに自分のスケジュールにあわせて履修し、計3回の試験をすべて受験する必要がある。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会

経済史（春学期） 経済学部 教授 杉山伸也

授業科目の内容：

本講義では、17世紀の徳川幕府成立前後の時期から1970年代まで約400年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、自学自習を基本とするe-learningによる授業であり、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web上で配信される講義を、一定の期間内に曜日あるいは時間帯を問わずに自分のスケジュールにあわせて履修し、計3回の試験をすべて受験する必要がある。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会

経済史（春学期） 経済学部 教授 長谷川淳一

授業科目の内容：

近代以降のイギリスを、とくに都市に焦点を当て、日本との比較も念頭に入れて、検討する。具体的には、第二次世界大戦中に空襲を受けた戦災都市の復興を中心的な検討課題とする。

1. 産業革命と都市化
2. 都市史研究の概観
3. 戦後復興と福祉国家
4. 戦災復興研究の意義と課題
5. ランズベリーの戦災復興
6. コヴェントリーの戦災復興
7. ポーツマスの戦災復興
8. コンセンサス・ポリティックスについて
9. 豊かな時代の改革
10. 寛容社会論
11. 近年の都市再開発
12. 東京・大阪の戦災復興
13. 地方都市の戦災復興
14. 都市計画法の制定

テキスト：

ティラッソー・松村高夫・メイソン・長谷川淳一『戦災復興の日英比較』知泉書館、2006年

参考書：

適宜、紹介する。

経済史（春学期） 経済学部 教授 長谷川淳一

授業科目の内容：

近代以降のイギリスを、とくに都市に焦点を当て、日本との比較も念頭に入れて、検討する。具体的には、第二次世界大戦中に空襲を受けた戦災都市の復興を中心的な検討課題とする。

1. 産業革命と都市化
2. 都市史研究の概観
3. 戦後復興と福祉国家
4. 戦災復興研究の意義と課題
5. ランズベリーの戦災復興
6. コヴェントリーの戦災復興
7. ポーツマスの戦災復興
8. コンセンサス・ポリティックスについて
9. 豊かな時代の改革
10. 寛容社会論
11. 近年の都市再開発
12. 東京・大阪の戦災復興
13. 地方都市の戦災復興
14. 都市計画法の制定

テキスト：

ティラッソー・松村高夫・メイソン・長谷川淳一『戦災復興の日英比較』知泉書館、2006年

参考書：

適宜、紹介する。

金融論（春学期） 経済学部 教授 吉野直行

授業科目の内容：

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概観する。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融第2版』有斐閣
  - ・吉野直行・藤田康範・土居丈朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
  - ・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会
  - ・吉野直行『信託・証券化ファイナンス』慶應義塾大学出版会
- その他の参考文献は、講義の中で説明する。

金融論（秋学期） 経済学部 教授 塩澤修平

授業科目の内容：

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概観する。

テキスト：

塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書：

適宜指示する。

労働経済論（春学期） 経済学部 教授 赤林英夫

授業科目の内容：

労働経済論では、雇用、労働時間、賃金格差、昇進、などの、職業人生にとって重要な要素が市場でどのように決まるのか、これらに関わる政策にはどのような意義があるのか、経済理論と統計分析を利用して理解する。さらに、近年の労働経済学は、家庭や教育などを含め、およそ個人の一生に関わるすべてを包含する理論と実証分析を展開しつつある。その意味で、労働経済論を学ぶことは、容易にとらえることのできない「個人」を分析対象としながら、我々自身が日々何を求めて働き、生きていくのかを振り返るといふ、きわめてリアルな作業でもある。そのような視点から、本講義では、労働経済学の標準的な内容を概観し、経済理論と現実の労働市場、そして政策との関わりを考察する。

春学期では、労働者の主体的行動に重点を置きながら、賃金格差の決定要因について、その主たる要素を議論する。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

労働経済論（秋学期） 経済学部 教授 太田聡一

授業科目の内容：

春学期について標準的な労働経済学の内容を講義する。ここから議論のウエイトは、企業による労働需要、企業内労働市場の諸問題、失業

## 政治

問題などに移していく。

テキスト：

なし

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

---

社会保障論（春学期）／社会保障論（秋学期）

再分配政策の政治経済学 商学部 教授 権 丈 善 一

---

授業科目の内容：

オムニバス形式の寄附講座に出席しては、実業界をはじめとした人たちの話のノートをとるのに忙しく過ぎたりしている三田での生活の中、週にコマくらいこういう講義があってもいいのではないかというような授業を行う。

この国で生きていくために知っておくことは必須であるはずなのに、実はほとんどの人たちがなにも知らない社会保障、この国の進路を考えるうえで決定的に重要な役割をはたしているのに、そういうことさえ何も知らないでノホホンと生きている人たちからなる今の社会、大学、三田のキャンパス。そういう中、まじめにこの国の未来や公の出来事について深く考えてみるという、ビジネスなどとはほど遠く金銭的な御利益がいかにもなさそうなことを考えてもらう というのがこの講義の趣旨である。

今年は、いろいろとおもしろい映画やドキュメントのDVDが手に入りそうである。できる限り、講義の中でそうした映像を鑑賞し、金曜日の午前中、三田のキャンパスの一角で君たちに非日常を味わってもらおうと思う。

また、社会保障関連の文献を読んでもらっては、レポートを書いてもらう、そういう一昔も二昔も前であれば当たり前だったはずの学生生活を味わってもらいたい。

文献は、できるだけ、旧図書館リザーブブックコーナーに置いておく。暇があれば、趣のある赤煉瓦の旧図書館にこもり読書をする。そういう粋でレトロなライフスタイルも味わってもらおう。

講義といえば、時機にあった社会保障関連の題材を使っていろいろと話しているために、講義で話している内容は毎年大きく異なっている。よって、最近では、3年次に履修して単位を取得した4年生が飛び入りで講義に出席する傾向もでてきており、個人的には、この傾向を大いに歓迎している。昨年度履修した学生も、時間があれば顔を出すことをすすめたい。特に今年は、社会保障を中心として世の中が大きく動くことは確実である。その動きをほとんど実況中継的雑談で説明することになるだろう。

テキスト：

旧図書館リザーブブックコーナーに配置している

- ・権丈善一（2007）『医療政策は選挙で変える 再分配政策の政治経済学』
- ・権丈善一（2006）『医療年金問題の考え方 再分配政策の政治経済学』
- ・権丈善一（2005）[初版、2001]『再分配政策の政治経済学 日本の社会保障と医療』
- ・権丈善一（2004）『年金改革と積極的社会保障政策 再分配政策の政治経済学』

および、随時更新される下記ホームページに掲載される文章。

<http://kenjoh.com/>

参考書：

講義の中で適宜指示する。

---

経営学（春学期）

商学部 准教授 三 橋 平

---

授業科目の内容：

本講義の目的は、経営学の基礎に触れることで、企業や組織の仕組みや行動に関する理解を深めることにある。具体的には、(1) 企業活動や組織行動に関する概念や用語に関する理解を深めること、(2) 概念や用語に関連した背景となる理論について理解を深めること、(3) 概念や理論が実際の企業行動を理解、分析する際に、どの程度説明力を持つのかを議論すること、の3点である。本講義への取り組みを通じ、学生諸君が、新聞や経済・ビジネス雑誌が発信する情報などから、行間が読み、より洞察に富んだ、オリジナリティの高い分析が行えることができるよう講義を行っていきたい。

テキスト：

初回の講義で指示する。

参考書：

- ・伊丹敬之／加護野忠男『ゼミナール 経営学入門』日本経済新聞社、2003年
  - ・坂下昭宣『経営学への招待』白桃書房、2007年
- その他講義で随時指示する。

---

経営学（秋学期）

商学部 教授 渡 部 直 樹

---

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・A. ピコー他『新制度派経済学による組織入門』白桃書房、1999年
- ・ダウマ＝シュルター「組織の経済学入門」文真堂、2007年

---

会計学（春学期）／会計学（秋学期）

商学部 名誉教授 笠 井 昭 次

---

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探究する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』（慶應義塾大学出版会）

# 法律学科 設置 共通科目 政治学科

( 外国語科目, 人文科学科目, 自然科学科目, )  
数学・統計・情報処理科目

## 〔外国語科目〕

英語第 (a)(春学期)(秋学期)  
時事英語

教授 辻 幸夫

授業科目の内容:

今年度のこのクラスは時事英語に焦点を当てます。英字新聞や時事雑誌記事を読むような基礎的英語力を身につけられるように、特に語彙力の増強に気を配りたいと思います。

良いインプットに多く接すれば、アウトプットも良質になります。なるべく多くの記事に接することが大切ですが、効率的な学習が可能になるように、良いものが厳選された教科書を使い、要点を素早く的確に把握するような読み方を練習します。英英辞典のある人は持参してください。

テキスト:

教材については本要綱執筆時に未刊のため、初回授業前に掲示などでお知らせします。

英語第 (b)(春学期)(秋学期)  
時事英語

教授 辻 幸夫

授業科目の内容:

今年度のこのクラスは時事英語に焦点を当てます。英字新聞や時事雑誌記事を読むような基礎的英語力を身につけられるように、特に語彙力の増強に気を配りたいと思います。

良いインプットに多く接すれば、アウトプットも良質になります。なるべく多くの記事に接することが大切ですが、効率的な学習が可能になるように、良いものが厳選された教科書を使い、要点を素早く的確に把握するような読み方を練習します。英英辞典のある人は持参してください。同じ担当者の英語第 (a) を時間割の関係で履修できない学生のための時間枠にする予定です。

テキスト:

教材については本要綱執筆時に未刊のため、初回授業前に掲示などでお知らせします。

英語第 (春学期)(秋学期)  
ビジネスと英語

教授 小屋 逸樹

授業科目の内容:

ビジネスというコンテキストの中で英語がいかに使われているかを学習します。授業は、大きく二つの部分から構成されます。一つは、テキストを使って多国籍企業のビジネス・トランスアクションを追いながら、日本と欧米企業の商習慣の違いや、交渉での留意点、会社での人間関係といったテーマを議論する部分。もう一つは、多国籍企業が毎年出している企業年報(英語版)を用い、現実のビジネスの場ではどのような内容がどのような英語で表現され、企業は年報に何を載せているのかを見る部分。これら二つの部分を相補的に利用します。各学生は、教室の前に出て自分の担当部分に関して授業を行なわなければなりません。具体的な授業の進め方については、最初の授業時に説明します。

テキスト:

最初の授業で紹介します。

英語第 (春学期)(秋学期)  
原典で読むアメリカ

教授 鈴木 透

授業科目の内容:

この授業では、卒業研究でアメリカに関連するテーマを取り上げる予定の学生や、将来大学院に進学してアメリカをフィールドとした研究を行いたいと考えている学生を想定して、アメリカを研究対象とする人ならば必ず原典で読んでおくべき史料や重要な文献を分野横断的に網羅し、英語の読解力とアメリカ研究の両方の能力を充実させることを目的とします。授業の形式は、いわゆるスキル・オリエンテッドな狭義の語学の授業というよりは、史料/資料の内容や表現を分析し、その文献がそれ以前に書かれた文献とどのような関わりを持ち、どのような思考様式を体現しているのかを検討することに力点を置いた、原典購読的な発表形式の演習授業と考えてください。英文和訳をすることが目的ではな

く、どのように原典資料を読むか、その資料をどのように解釈・評価すべきかを考えるのが主眼です。

テキスト:

取り上げる文献は多岐にわたるので、プリントにして配布する予定です。

英語第 (春学期)(秋学期)  
アカデミック・ライティング

教授 太田 昭子

授業科目の内容:

〔春学期〕

Academic Writing: いわゆるスタンダードな five-paragraph essay の書き方を、段階的に学びます。英文の要約練習から始め、読んだ英文や時事問題に対してのコメント、更にエッセイ作成へと発展させていく予定です。ほぼ毎回アサインメントを提出していただきます。

〔秋学期〕

学期前半: Essay writing を oral level に発展させ、Debate を行ないます。学期後半: 各自がテーマを選び、長めの英文レポートを作成していただきます。希望者があれば、レポートの内容について、英語でプレゼンテーションや Discussion を行なうなどの機会を設けます。

テキスト:

特定の教科書は使用しません。随時プリントを配布します。

参考書:

英英辞書を必ず持ってきて下さい。

英語第 (a)(春学期)(秋学期)

会社で使う英語: コミュニケーション編

講師 日向 清人

授業科目の内容:

講師が担当した NHK ラジオ「ビジネス英会話」(2004 年前期)を拡充したコースです。「これさえ知っていればなんとかなる」レベルのビジネス英語が身につきます。英語で言う the nuts and bolts of business English がどのようなものであるかを知り、身につけることができるようになっていきます。出欠を兼ねたディクテーションで記憶への定着を図る一方、4 人ずつのグループになって毎回の基本用例を織り込んだ会話例を作ってもらった作業を通じて「英語を使って」みるスタイルの授業です。通年で約 300 の言い回しを見ていきます。受講後の到達レベルとしては、ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) での B2 レベル、ケンブリッジ英検の FCE、IELTS での 5.5-6.5 を念頭に置いています。

テキスト:

日向清人著「即戦力がつくビジネス英会話」DHC 刊

英語第 (b)(春学期)(秋学期)

会社で使う英語: ボキャブラリー編 講師 日向 清人

授業科目の内容:

英語でどんどん発信していくことが求められる時代です。こうしたなか契約を英語では agreement/contract というのだという程度の英語力では受信一方の世界から脱することができません。締結する、更新する、解除するといった言い方に対応する英語がぱっと出てくるくらいになって初めてツールとしての英語が身についていると言えるのです。そこで「この単語・言回しは普通どのように使われるのか」という問題意識に立って、208 の基本的なビジネス英単語の意味を理解し、使い方を心得しようというのが、このコースです。毎回、前回分の用例を穴埋め問題で復習する一方、4 人ずつのグループに分かれて基本用例を織り込んだ会話例を作ってもらいます。ただ「知る」のではなく、受講者自身が実際に「使ってみて」、感触を確かめてもらうためです。受講後の到達レベルとしては、ヨーロッパ共通参照枠 (CEFR) での B2 レベル、ケンブリッジ英検の FCE、IELTS での 5.5-6.5 を目指しています。

テキスト:

日向清人著「仕事の英語: この単語はこう使う」(桐原書店)

英語第 (春学期)(秋学期)

English through the Law 講師 デル・ベッキオ, アンソニー

授業科目の内容:

The focus of this course will be on the development of aural/oral communication skills through a variety of activities, including vocabulary development, group work, discussion activities, film analysis, and debate. In addition, students will take several short quizzes, complete motion picture analysis worksheets, and make a final presentation during each term. Higher level proficiency in English will be brought about through an advanced level course of instruction, with a specific focus on legal concepts and doctrines applicable both in the United States and Japan.

テキスト:

No text is required. The instructor will supply all necessary materials.

参考書:

English - Japanese dictionary ) preferably electronic.

## ドイツ語インテンシブ(春学期)(秋学期)

日独社会の比較をテーマに高度なドイツ語運用能力を養成する

教授 三瓶 慎一  
准教授 シャールト, ミヒヤエル  
講師 シュバング, クリスティアン

## 授業科目の内容:

三瓶, シャールト, シュバングの三者が協同して進める授業である。総合的なドイツ語能力を伸ばし、最終的には文法的により正確な表現、文体的により適切な表現を使えるようになること、そして内容のある議論を交わせるようになること、すなわちドイツ語によるパブリックスピーキングができるようになることが目標である。

シャールトの授業ではドイツ連邦共和国のアクチュアルな政治・社会に関するテーマを取り上げる。これに受講者各自がそれぞれ関心を持つ専門的な切り口から取り組んでもらう。特定のテーマに関する資料収集の能力、その批判的な検討と利用の能力などの養成も重要な課題である。最終的にはレポート執筆や口頭発表を通じて、ドイツ語で論理的に自分の意見を言語化し、これをわかりやすく他者に伝え、それについて他者と議論する能力を養成する。

三瓶とシュバングの授業では、日本事情、ドイツ事情双方を批判的に検討し、それをドイツ語によって表現する視座と能力を育てる。春学期は主として日本事情をドイツ語圏に紹介するという立場を扱い、秋学期はドイツ語圏事情を理解するという立場をとる。

以下に挙げるのはいずれも春学期の授業内容である。秋学期については、春学期中に受講者と協議して決める。

いずれの授業でも、受講者は自律的学習、協働作業、責任分担などを守ることが求められる。

なおこのコースの受講希望者は4月3日(金)に行われる選抜テストに合格して受講許可を得なければならない。

## 月4(三瓶慎一)

Gerhard Dambmann 著 „Gebrauchsanweisung für Japan“ を速読する。180 ページほどの本であるが春学期で読了する。シュバングの授業とタイアップし、議論のための材料提供をする。1回5ページ程度から始めてだんだん進度を上げ、最終的には1回に20ページ程度を読むようにする。段落構成を見抜くこと、読解に必要な文法的な知識を深めること、部分を取り上げて商品価値のある翻訳を作ること、日本事情紹介の語彙や表現をストックすることが目標である。その他、事実誤認、誇張、歪曲などがあれば、著者に直接ドイツ語で手紙を書いて指摘、反論しよう。水1・2(シャールト)

## Thema: „Demografische Veränderungen der deutschen Gesellschaft“

Ebenso wie Japan weist Deutschland seit mehreren Jahrzehnten eine sehr geringe Geburtenrate bei stetig anwachsender Lebenserwartung auf. Das wird die Gesellschaft künftig grundlegend verändern. Ein Prozess, der sich bereits heute in vielen Bereichen beobachten lässt, etwa in der Bildungspolitik, der Stadtplanung oder der Familienpolitik. Der Kurs geht den Ursachen und den Folgen dieser Entwicklung an konkreten Beispielen nach und stellt unterschiedliche Problemlösungsansätze zur Diskussion.

Über das Thema für das Herbstsemester entscheiden die Teilnehmenden gemeinsam.

Die Grundlage des Kurses bilden unterschiedliche Originaltexte (vor allem Zeitungsartikel, Auszüge aus der Fachliteratur, Reportagen, Statistiken etc.), die den ausgewogenen Gebrauch aller Sprachfertigkeiten erfordern bzw. ermöglichen. Das Kursprogramm versteht sich als ein Angebot, das erst durch die persönlichen Interessen der Teilnehmenden seine endgültige Gestalt gewinnt. Deren aktive und eigenverantwortliche Mitarbeit bei der Ausdifferenzierung der Themen und der Auswahl der Texte wird vorausgesetzt.

## 木2(シュバング)

Der Unterricht basiert in diesem Semester inhaltlich auf dem Buch „Gebrauchsanweisung für Japan“ von Gerhard Dambmann. Wie stellt ein deutscher Autor seinen Landsleuten Japan vor? Die Studierenden sollen durch den Vergleich ihrer persönlichen Erlebnisse und Erfahrungen mit den Aussagen des Autors dazu angeregt werden, das Thema „Japan“ von anderen Standpunkten aus kennen zu lernen und kritisch zu betrachten.

Neben diesen inhaltlichen Fragen steht die Verbesserung der mündlichen Ausdrucksfähigkeiten der Studierenden im Mittelpunkt der Kursarbeit. Die Teilnehmenden berichten jede Stunde in Kurzreferaten über das Gelesene. Jedem Kurzreferat ist eine deutsch-japanische Vokabelliste anzufügen. Da diese Wörter nicht nur im Lesetext, sondern auch in den Referaten und in den Unterrichtsgesprächen immer wieder auftauchen werden, sollte es den Studierenden im Laufe des Semesters möglich sein, ihren aktiven Wortschatz insbesondere für die Auseinandersetzung mit gesellschaftspolitischen Themen zu erweitern. Auf diese Weise soll die Fähigkeit weiterentwickelt werden, die eigenen Vorstellungen zu formulieren und zur Meinung anderer Stellung zu nehmen.

## テキスト:

Gerhard Dambmann: „Gebrauchsanweisung für Japan“ (Piper) [初講日に配布]

その他の資料は Moodle 上で配布する。

## 参考書:

独和大辞典 [コンパクト版](小学館)と Ulrich Apel「和独辞典」は必携のこと。

## ドイツ語第 (春学期)(秋学期)

時事ドイツ語: „Was ist los in Deutschland“ / „Und wie ist das in Japan?“

講師 シュミット, ウーテ

## 授業科目の内容:

今のドイツでは何が話題になっているのか? インターネット・新聞・雑誌の短い記事を活用して、最新のドイツの情報を紹介していきます。テーマは政治、経済、大学・学生、市民生活、環境などで、参加者の興味と希望に応じていくつかピックアップします。授業の狙いの第1は時事ドイツ語のテキストの講読になれることです。複雑な文法構造が含まれている上に、多くの時事ドイツ語の単語が辞書に載っておらず、今までのドイツ語の知識と想像力が試されます。第2はテキストについての自分の立場、意見を述べる練習をします。それに必要な表現は授業中に練習します。簡単なディスカッションも試みます。ドイツ人と知り合うと必ず Und wie ist das in Japan? 「日本ではどうですか」と聞かれます。その質問に備え、取り扱ったテーマについて、テキストで習った表現を活かして、日本の事情を説明する練習をします。

## ドイツ語第 (春学期)(秋学期)

ドイツ時事問題 講師 シュバング, クリスティアン

## 授業科目の内容:

個人課題: 春・秋学期のそれぞれ前半では、毎週数名の諸君に「個人課題」としてドイツ語で作文をし、単語リストも作成してもらいます。選んだ単語の複数形、過去分詞等を記し、テキストと単語を和訳し、それを授業の前にメールで提出、次の授業の冒頭で、担当者がこれを読み上げ、教員の指導と解説を受けます。

発表: 春学期の後半では各自がドイツ連邦州についての発表をし、秋学期の後半では2,3人で自由に選んだテーマによるグループ発表をしてもらいます。その際の注意は、1) 配布するハンドアウトのサイズはA4。2) a) OHP もしくは b) パワーポイントを使用すること、です。

ポイント: 毎週、学生の「個人課題」と発表に基づいて、自分に関心のあるテーマについてグループディスカッションをすることができます。

インターネット: 学習に役立つインターネットの使用方法をコンピュータールームで習得します。独和事典、自動翻訳ページ等も紹介します。

## テキスト:

この授業では教科書は使用せず、必要な資料を場合に応じて配布します。

## 参考書:

Paul Stocker: Wort für Wort: New Advanced German Vocabulary, London: Hodder Murray, 2006.

## ドイツ語第 (春学期)(秋学期)

ドイツ語でニュースを読む 講師 宮谷 尚実

## 授業科目の内容:

雑誌やインターネットの記事を中心に、ドイツ語のテキストを詳しく読んでいきます。必要に応じて、その他のドイツ語資料も扱います。テキストの概要をつかむ速読の技術、内容を正確に把握するための精読の技術、その2つの技術を身につける練習をします。最終的には、手応えのある長い報道記事を無理なく読めるようになること、個々のテーマについて自分なりの意見を持つことを目的とします。また、テキストを読んだ後には日本語でディスカッションも行います。昨今議論されている社会や政治をめぐる問題には普段から情報収集をしておいてください。活発なディスカッションを期待します。

現代における若者事情、家族のありかたをめぐる諸問題、教育問題、エネルギー問題、コンピュータ社会特有の問題など、独検の読解問題でも頻繁に取り上げられるアクチュアルなテーマを考えています。参加者諸君が自分で見つけてきた記事があれば、積極的に取り上げたいと思います。

## テキスト:

プリントを配布します。

## 参考書:

授業時に指示します。

## ドイツ語速習(初級)(a)(b)(春学期) 教授 岩下 真好

## 授業科目の内容:

火4・5(春学期)

内容的にも、また時間割上も連続した週2回の授業によって、春学期だ

けで、いちおうドイツ語の基礎文法をすべて学びます(すなわち発音から接続法まで)。初めてドイツ語を学ぶ人でも、秋学期には「ドイツ語速習(中級)」に進んで簡単な文章の読解やドイツ語によるコミュニケーションの基礎固めができるようになることが目標です。なお、進度によっては、接続法の詳細はドイツ語速習(中級)で学習することになります。  
テキスト：  
岩崎・平尾：初歩ドイツ文法(同学社)

ドイツ語速習(中級)(a)(b)(秋学期)  
「初級」落穂拾いから「中級」へ 専任講師 新谷 崇

授業科目の内容：  
春学期設置の「ドイツ語速習(初級)(a)(b)」を引き継ぎ、基礎文法を修了の上、必要に応じて反復もしつつ、辞書を使いこなして訳読する力を養う。音声にも目配りはするが、読解の訓練に重点を置く。  
テキスト：  
プリントを配付する予定。  
参考書：  
随時紹介する。

フランス語インテンシブ(春学期)(秋学期)  
准教授 宮下 理恵子  
専任講師 木 俣 章  
講師 酒井 智宏  
准教授 アンリ, ナタリー  
講師 日佐戸 ミッシェル  
講師 シュドル, フローレンス容子  
講師 ヴァリエヌ, コリンヌ  
講師 ミルティル, ジャック

「フランス語インテンシブ」の履修について  
・以下の8コマの授業のうち4つないし3つ(春・秋とも)を選択して履修すること。2つないし1つしか履修しない場合は「外国語科目選択」として認められず、自由科目となる。  
・第3学年で2つないし1つしか履修しない場合、第4学年であらためて4つないし3つ履修しないと「インテンシブ修了」と認められない。たとえば「第3学年で2つ、第4学年で2つ」では条件を満たすことができない。  
・推奨される授業の組合せは、ネイティブ講師の授業を3つないし2つおよび日本人講師の授業を1つ。  
・金曜3限のアンリ, ナタリー君担当の授業は主として既習インテンシブ・クラスの学生を対象とする上級クラス。  
・セット履修が難しい場合はフランス語担当の学習指導(今年度は笠井裕之)に相談すること。

[宮下 理恵子 フランス語読解と文法演習]  
授業科目の内容：  
日吉で2年間法学部インテンシブクラスを履修した学生を対象とする授業です。1, 2年次で学習したフランス語の力をさらに充実させて行くことを目的として授業を進めます。  
口頭表現は主としてフランス人担当者に任せることとして、この授業では様々な文体のフランス語テキストを出来るだけ正確に(誤読のないように)日本語に訳すことに力を入れる一方、フランス語の発想法に慣れ親しむことで改めて日本語を見直し日本語表現の彫琢にも気を使うようにしたいと考えています。  
また基本的な文法復習、特に多様な叙法と時制をもつフランス語の動詞の復習と演習にも力を入れます。検定試験にも対応できるように基本構文、重要表現の総ざらいのできる演習を随時入れます。長文、複文をきちんと分析できる力を養いましょう。  
扱うテキストは時事的論説、フランス文化論などを中心としますが一部文学作品を交えて表現の訓練に役立てたいと思います。  
テキスト：  
随時プリントを配布します。  
参考書：  
授業中に随時紹介します。

[木俣 章 多様なフランス語を通して見るフランス文化]  
授業科目の内容：  
商品の使用説明書から文学まで、多様なカテゴリーの文章を教材として、フランス語の表現法を学びます。  
テキスト：  
テキストは適宜配布します。受講生の興味に合ったテキストの持ち込みも歓迎します。  
参考書：  
仏仏ないしは仏和辞典は必携です。

[酒井 智宏 時事フランス語]  
授業科目の内容：  
この授業の目的は二つあります。

1. 時事フランス語入門  
最初は平易な新聞記事を読み、時事フランス語の文章に慣れることを目標とします。その後、本格的な新聞記事に挑戦します。  
2. 「読むための文法」の習得  
一般に外国語について次のように言われることがあります。(i) 外国語力の大半は語彙(単語・熟語)力で決まる。(ii) 単語・熟語の意味は辞書を引けば分かる。この二つの前提からは、次の結論が出てきます。(iii) 外国語の文章の大半は辞書さえあれば読める。ところが、(iii)は明らかに成り立ちません。これは前提(i-ii)の少なくとも一方が誤りであることを示しています。この授業では「辞書を引いても読めないのはなぜか」という問いを真剣に受け止め、時事フランス語を題材として、読解のために真に必要な能力とは何か、また、その習得には何が必要かを考えていきます。  
テキスト：  
プリントを配布します。  
参考書：  
授業中に指示します。なお、電子辞書でもよいので、辞書を必ず持参してください。

[アンリ, ナタリー Expression orale et écrite (niveau supérieur)]  
授業科目の内容：  
既習インテンシブ・クラスの学生を主な対象とする上級クラスです。授業の目的は二つあります。まず、聴き・話すことの訓練です。学生自身が選んださまざまなテーマについて発表しあい、討論したいと考えています。必要に応じて語彙を増やしながら、バランスのとれたコミュニケーション能力の養成をめざします。  
もう一つは、各自が一つのテーマについて調べ、文章にまとめます。春学期のテーマの範囲は「フランス社会と文化」で、成果はフランス語ニューズレター PLACE MITA に掲載します。秋学期のテーマの範囲は「ヨーロッパ」です。英語とドイツ語のクラスとともにヨーロッパ社会について共同研究を行います。それぞれのクラスが、イギリス、ドイツ、フランスの視点から調査し、最終的に各クラスの成果を総合して共同研究としてまとめます。特にフランス語での発表の仕方、書く能力の向上をめざします。

\* 法学部のフランス語ニューズレター LA PETITE FRANCE と PLACE MITA を読みましたか? このクラスでは、アンリ, ナタリーの人文科学研究会と連携して PLACE MITA の編集・執筆を行います。興味のある学生のみ皆さんの参加を期待します。  
テキスト：  
特に用いず、必要に応じてコピーを配布します。

[日佐戸 ミッシェル Discussion et rédaction (niveau moyen)]  
授業科目の内容：  
春学期のあいだは、比較的平易なレベルを保ちます。2-3週ごとにひとつのテーマを決めてディスカッションし、各自、教室でおこなった作業をフランス語のレポートにまとめます。提出されたレポートは後日、添削して返却します。ディスカッションの資料として、フランス人の日常生活や身近な問題をあつかった雑誌の記事を読み、日本の社会と比較します。  
秋学期は少しレベルを高めます。フランスの時事問題や社会問題をあつかった新聞雑誌の記事を用いて授業をすすめます。事前に記事を読んで、書かれている内容や各自の意見についてフランス語で述べるができるよう、十分に準備をした上で授業にのぞんでください。語句や表現の説明はフランス語でおこない、教室内の日本語の使用は最小限にとどめます。それぞれの記事についてディスカッションと解説をおこなったあとは、フランス語のレポートを作成し、「書く」能力を高めることもめざします。  
テキスト：  
特に使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

[シュドル, フローレンス容子 Communiquer en français (niveau moyen)]  
授業科目の内容：  
自由なテーマで、あるいは指定されたテーマで、フランス語で会話することを中心に授業を進めます。新聞、雑誌記事、TV ニュース、写真、映画などから、時事問題やアップ・トゥ・デートな題材を選んで教材に用います。生きたフランス語での読み書き、コミュニケーション能力、表現力の向上をはかることが目標です。  
テキスト：  
特に使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

[ヴァリエヌ, コリンヌ Compréhension orale (niveau moyen-supérieur)]  
授業科目の内容：  
授業の目的  
・これまでに学んだことを実践的な場面で応用すること。  
・テーマに応じた語彙力を養うこと。  
・聴き取りの力を養うこと。  
・ディスカッションして自分の意見を述べること。

共通科目講義要綱

## 共通

### 授業の流れ

- ・授業のはじめに、自分がいましていること、1 週間のあいだにしたこと、これからしようと思っていることなどについて、隣の席の人と話す時間を設けます。使えるフランス語を駆使して話すことで、既習事項を確認します。
  - 各回ごとにテーマが決まっています（ヴァカンス、教育、メディア、映画など）。まず、その日のテーマに使えるような語や表現を各自で考えます。それをクラス全体でまとめたあと、ルポルタージュのビデオを繰り返し見て、問いに答えます。
  - ・最後にルポルタージュの内容を文章で読み、問いの答を確認します。
  - ・教室での会話やディスカッションを有意義なものにするために、次のテーマについてあらかじめ準備しておいてください。
- テキスト：  
資料を教室で配布します。

〔ミルティル、ジャック Écrire en français (niveau moyen)〕

### 授業科目の内容：

- 文章を書くのに必要なスキル（語彙、構文、句読点の用法、文章の構成）を総合的に学びます。学期終了後には、各自の目的や関心に応じて学習内容をまとめた「Mon portfolio」（フランス語学習手帳）を完成させます。
- 皆さんの学習状況に応じて、随時、語彙や例文を増やし、関連するテーマを広げていきます。回を重ねるごとに前回より濃い内容を学習できるかどうかは、皆さん自身の努力にかかっています。
- テキスト：  
必要に応じてプリントを配布します。
- 参考書：  
プリントをまとめるのに適した B5 バインダーを初回に指定します。

---

フランス語第（春学期）(秋学期)  
フランス語会話（中級） 講師 シュドル、フローレンス容子

---

### 授業科目の内容：

- フランス語の基礎を学んだ人を対象に、フランス語会話の基本的な能力を高めることが本講義の目的です。
- 指定されたテーマでの会話を中心として授業を進めます。新聞、雑誌記事、写真、映画などの抜粋資料を教材として使用します。
- テキスト：  
特に使用しません。必要に応じてコピーを配布します。

---

フランス語第（春学期）(秋学期)  
読解と会話（中級） 講師 日佐戸 ミッシェル

---

### 授業科目の内容：

- 日常生活でよく用いられる短い会話や、やさしい新聞雑誌の記事を使って、実践的なフランス語の能力を養います。それと同時に、個人のものの方や振る舞い、社会問題、余暇の過ごし方など、フランス人の生活や文化に関するテーマも取りあげます。
- テキスト：  
Sylvie Poisson-Quinton et al., FESTIVAL 2 (CLE International)
- 参考書：  
上記テキストのほかに、必要に応じてプリントも配布します。

---

フランス語第（春学期）(秋学期) 講師 篠原 洋治

---

### 授業科目の内容：

- この授業では現代社会における権力をテーマに、フーコー、シェレル、ドゥルーズなど、フランスの現代思想家の著作の抜粋を読みたいと思っています。
- 導入として、リセ（フランスの高等学校）の哲学の教科書を読みます。授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をします。
- テキスト：  
コピーを配布します。
- 参考書：  
授業中に指示します。

---

中国語インテンシブ（春学期）(秋学期) 准教授 林 秀光

---

### 授業科目の内容：

- 前期は重要な文法事項の確認、ドリルを中心に授業を進めます。後期は中国語コラムの読解を中心に、書くと話す練習をします。
- また、中国語検定と HSK 受験者が受講生に多い場合、その対策になるような勉強もしていけたらと思っています。
- テキスト：  
とくにない。
- 参考書：  
授業で指示する。

---

中国語インテンシブ（春学期）(秋学期)  
中国語ニュースの聴き取り & 書き取りとシャドーイング  
講師 須山 哲治

---

### 授業科目の内容：

- 私の授業では、「リスニング（聴く）」に重点を置いて学習します。
- 諸君はおそらく、「中国語を話せるようになりたい」と思っていることでしょう。外国語を学習する者が会話能力を身につけたいという希望をもつのは、もっともなことです。しかし、最近の第二言語習得研究では、「話す」能力を向上させるためには、「聴く」能力のトレーニングを先行させたほうが効率がよいことがわかっています。更に、言語学習の四大要素である「読む・書く・聴く・話す」の中で、「聴く」能力が一番の基本となることもわかってきました。
- 以上の理由から、この授業では特に「聴く」力のトレーニングを行います。教材には、テレビやラジオのニュース（内容的には中国語検定の 2 級程度のもの）を用い、これらを「正確に聴く」力を養うことを目標とします。
- 具体的には、クローズテスト（書き取り）を行います。CD を聞いて内容を理解すればよしとするのではなく、聞いた内容（語彙）をその場で書き取ってもらいます。ただ聞くだけでなく、書き取ることによって、リスニング力向上に必要な不可欠な単語量と集中力を養成することができます。
- また、聞きとり練習だけでなく、発音の練習も重視します。これは、発音の力とリスニングの力が、極めて密接な関係にあることがわかってきているからです。
- そのために、通訳トレーニングメソッドの一つとして最近注目されている「シャドーイング」を導入します。「シャドーイング」の概要については第一回目の授業で説明しますが、簡単にいえば、「CD 等の音源から聞こえてくる外国語の音声を、ポーズをおくことなく反射的に、イントネーションやストレス（強弱）、リズムなども含めて再生すること」です。
- 一見単調に思われるかもしれませんが、正確かつ流暢な発音を身につけるためには、大変よい方法です。さらにシャドーイングによって、リスニング力のみならず、スピーキング力、リーディング力の向上も期待できることがわかっています。
- テキスト：  
毎回の授業でプリントを配布する予定です。
- 参考書：  
初回の授業で紹介する予定です。

---

中国語インテンシブ（春学期）(秋学期)  
中国語で日中文化を語る 講師 陳 淑梅

---

### 授業科目の内容：

- この授業は中国語の理解力、会話力を高めることを目的とする。授業方法は文字教材に触れる前にはまず文章を聞き、聞いた内容について会話を展開しつつ、文章の内容理解を深めていく。また、定期的にテーマを決めて、中国語でのディベートを練習する。
- テキスト：  
NHK 出版社『小点心』陳淑梅著
- 参考書：  
随時に紹介

---

スペイン語インテンシブ（春学期）(秋学期)  
講師 アルバレス・クレスポ、ヘスス・カルロス  
講師 伊 香 祝 子  
講師 杉 下 由紀子  
講師 松 浦 芳 枝  
講師 三 浦 麻衣子  
講師 柳 沼 孝一郎

---

- スペイン語インテンシブコースは、三田では週 6 コマ開講し、2 年間なるべく多くのコマを履修してください。三田のインテンシブコースは日吉で学んだ語学の基礎をいよいよよ生かす場です。ここでスペイン語学習を放棄してしまうのでは、日吉での苦勞が無駄になってしまいますので、是非スペイン語学習を継続してください。同一年度で週 3 コマ以上（組み合わせは自由です）履修すると選択外国語の単位として認められますが、2 コマ以下では自由科目の単位となり、卒業単位として認められませんので、3 コマ以上の履修を心がけてください。なお、同じ担当者の授業を 2 年間にわたって履修することは避けてください。「インテンシブコース修了証」や「外国語成績優秀者表彰」の認定を受けたい場合は、三田において相応のコマ数を履修する必要がありますので、注意してください。日吉でインテンシブコースを履修していない学生や他学部生も、三田のインテンシブコースを履修することができますが、初回の授業で各担当者に了解を得てください。

〔アルバレス・クレスボ, ヘスス・カルロス〕

授業科目の内容:

El objetivo fundamental de este curso consiste en afianzar la capacidad oral y conseguir un cierto nivel de fluidez en la conversación mediante la práctica diaria, discutiendo los temas que vayan avanzando en clase. Se repasarán conceptos, estructuras y vocabulario, y se pondrá énfasis en el conocimiento no sólo del idioma, sino también de la cultura española.

テキスト:

Fotocopias (プリント)

〔伊香 祝子 スペイン語文法を究める〕

授業科目の内容:

この授業では、昨年度インテンシブコース 2 年生で使用した教科書(三好準之助著『スペイン文法中級コース改訂版』白水社)の残った部分(11 課から 23 課まで)を進めていきます。教科書に掲載された例文の和訳や練習問題を通して、細かい文法知識の習得を目指します。スペイン語検定や DELE の受験対策としても十分効果があると思われます。教科書を持っていない人は、新規に購入してください。

〔杉下 由紀子 DELE・西検対策講座〕

授業科目の内容:

DELE (Diplomas de Español como Lengua Extranjera, 外国語としてのスペイン語検定試験)は、スペイン文部科学省が認定する資格で初級・中級・上級の 3 段階からなり、日本ではセルバンテス文化センターが年 2 回試験を実施しています。一方、西検(スペイン語技能検定)は 6 ~ 1 級まで、日本の文部科学省の後援を受け日本スペイン協会が年 2 回実施します。これらの資格は、スペイン語圏への留学、就職、海外派遣など、国内外でスペイン語能力を証明するものとなります。

この授業では、DELE 中級(通常の生活において問題なくコミュニケーションできるレベル)、西検 3 級(新聞などが理解でき一般ガイドに不自由しないレベル)合格を目指します。

前者の試験は、読解・文章表現、文法・語彙、聴解・口頭試験、後者は西文和訳、和文西訳と口頭試験からなり、やや性格が違いますが、いずれも各分野で 7 割以上が合格ラインで、読む・聞く・書く・話す総合能力が必要です。

そのため、授業では重要な文法・構文を確認しながら語彙力、読解力、表現力を養うことに力を入れ、歴史・政治・経済・環境・医療・文学・芸術など、幅広いテーマを扱います。毎回小テストを行い、時々会話練習を取り入れ、課題として 1 ~ 2 度作文を提出していただく予定です。

テキスト:

プリント配布

参考書:

Francisca Castro, *Uso de la gramática española*, Edelsa.

Pilar Alzugaray, María José Barrios y Carmen Hernández, *Preparación al diploma de español (nivel intermedio)*, Edelsa.

Teresa García y otros, *El cronómetro Manual de preparación del DELE nivel intermedio*, Edinumen.

日本スペイン協会『西検問題集』

立岩礼子/伊藤ゆかり『スペイン語技能検定合格への手引き 1 級・2 級・3 級対策問題集』南雲堂フェニックス

その他、初回の授業時に紹介。

〔松浦 芳枝 「スペイン語で」の表現力ステップアップ  
文章作成のキーを探る〕

授業科目の内容:

この授業では、スペイン語での文章作成をより自然にできることを主要目的とします。より良い文章を書くためには、これまで学んだ様々な事柄をきちんと理解し、それぞれの項目が有機的に連携し、また語彙も豊富であることが前提になります。そこで春学期では短文の作成を中心に、文法上要注意の項目を取り上げ、文法、語彙の用法の確認、ニュアンスの違いなどに目を向けていきます。また、より良い文章を書くための栄養源として、内容的にも興味を持ってそうな良い文章を紹介して、徹底的な音読を図ることもあろうでしょう。秋学期の後半では、それらの成果を踏まえて、手紙の文章を取り上げ、私的書簡と公式書簡とで形式、文体、語彙等の比較をします。その後応用のケースとして各人に文章を作成してもらうこともあるでしょう。実践として、E-mail を作成しスペイン語圏の人々と意見交換することもあるので、意欲的に取り組んでもらいたいと思います。

テキスト:

プリントの配布およびインターネットによる配信

〔三浦 麻衣子 スペイン語講読〕

授業科目の内容:

この授業は、新聞、雑誌その他、平易なスペイン語で書かれた文章の読解を通してスペイン語を読むことに慣れることを目的としています。年間を通して、様々な内容のテキストを多読していきます。また、テキストの読解を通して、スペイン語圏の国々の多様な社会的文化的背景につ

いても考察していきます。与えられたテーマに関して、毎学期複数回のレポートの提出が課されます。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

辞書は毎回必ず持参すること。

〔柳沼 孝一郎 スペイン語演習(接続法を中心に)/ラテンアメリカ  
世界を読む〕

授業科目の内容:

春学期:より高度なスペイン語運用能力を養うことを目的とします。直説法の時制および再帰動詞(seの用法)を復習し、直説法と接続法を比較検討しつつ接続法の用法を徹底的に演習します。

秋学期:平易なスペイン語で書かれた“Grandes figuras de América”(ラテンアメリカ人物探訪)を読みつつ、適宜ビデオを鑑賞しながらラテンアメリカの歴史・文化・社会を学びます。

テキスト:

春学期・秋学期ともにプリントを配布します。

参考書:

ラテンアメリカの地域文化研究のための図書文献を随時紹介します。

スペイン語第 (春学期)(秋学期) 講師 篠崎 英樹

授業科目の内容:

この授業では、スペイン語の読解力の向上を目指します。基本的には新聞、雑誌等の特定のテーマに関するテキストを使い、全体の内容を把握するための速読を行う(つまり概要の作成)一方、そのテキストの一部分を取り上げて精読します。その際、状況に応じて文法事項の確認を行うとともに、語彙力の強化もはかります。テーマは、受講者の関心に合わせますが、ときには、日本に関するもの等も取り上げます。

テキスト:

プリント配布

参考書:

授業中に指示

ロシア語インテンシブ(春学期)(秋学期)

講師 岩田 貴

講師 クロチコフ, ユーリー

講師 富田 マルガリータ

講師 守屋 愛

ロシア語インテンシブでは週四回の授業を有機的に関連させ、ロシア語の実力を向上させることが目的です。それゆえ、週四回の授業を受けることが望ましいと思いますが、三コマの受講も可能です。三年次からあるいは四年次からの受講も歓迎します。少人数のアットホームな雰囲気の中でロシア語の力をつけましょう。

〔岩田 貴〕

授業科目の内容:

習得した基礎文法の知識を実践で使えるまで深め、専門分野の文献や文学、インターネットで得た情報などを読む力をつけることを目指します。

ロシア語は文法体系がしっかりした言語です。ロシア語の文章を読むには文法の知識が欠かせません。まず、ロシア語を学ぶ日本人にとって難関となる名詞の格、動詞のアスペクト(完了体・不完了体)、副動詞、形動詞などの文法事項をさらに深く研究し、多くの練習問題をこなすことでマスターします。次に、テキストを文法的な観点から読み解き、文法の知識を実践で使えるまでに深めてゆきます。

講読用のテキストは受講者の希望に合わせてテーマを決めたいと思います。

テキスト:

文法の解説・練習問題は教師が作成し、プリントして配布します。

講読用のテキストもプリントして配布します。

参考書:

授業中に必要に応じて紹介します。

〔クロチコフ, ユーリー〕

授業科目の内容:

生きたロシア語を学ぶ。

1. 会話:講師と受講生、および受講生どうしの会話を通じて会話能力を高める。
2. リスニング:自然なテンポによるロシア語の話を聞きとる。
3. 作文:自分の考えを文章で表す。

テキスト:

.....  
.....,1993.

その他プリント配布。

## 共通

〔富田 マルガリータ 法学部学生のためのロシア語〕

授業科目の内容：

ロシア語インテンシブでは週四回の授業を有機的に関連させ、ロシア語の実力を向上させることが目的です。それゆえ、週四回の授業を受けることが望ましいと思いますが、三コマの受講も可能です。三年次からあるいは四年次からの受講も歓迎します。少人数のアットホームな雰囲気の中でロシア語の力をつけましょう。

富田マルガリータ講師の時間では、一年次と二年次で学んだ会話とコミュニケーション能力を伸ばし、また発音の矯正が中心となります。

ロシア文化のさまざまな側面に触れる会話力の向上とともに、法学部におけるロシア語ということ考慮し、国会や政府などロシア政治や法律に関連する語彙を増やすことももう一つの目標となります。秋学期ではロシア語のインターネットからのニュースなども使い、日常会話から、さらに高度な会話力をつけ、ロシア人と議論ができるレベルを目指します。

テキスト：

マルガリータ・ポリソヴナ・富田、山田徹也著「コミュニケーションロシア語（慶應義塾外国語学校 2008 年発行）、プリントを配布します。

参考書：

特にありませんが、和露辞典、露和辞典を必ず用意しておいてください。

〔守屋 愛 コミュニケーション・ロシア語〕

授業科目の内容：

ロシア語の全体的な特徴を語彙・文法・会話などの各方向から講義していきます。また、それと同時に、ロシアの文化や社会を取り上げたテキストを講読します。ビデオ教材も随時取り扱いつつ、さまざまな角度からロシア語へのアプローチを試みます。

テキスト：

“ ”  
(仮)

(注意：受講者のレベルに応じて変更することもあります)

講義資料プリントは授業で配布します。

参考書：

辞書を必ず使ってください。どちらかを持ちましょう。

岩波『ロシア語辞典』/ 研究社『露和辞典』

朝鮮語第 (春学期)(秋学期)

朝鮮語で話そう!

講師 韓 晶 恵

授業科目の内容：

会話力向上のための基本的な文型・語彙などを身につけることを本講義の目標とする。

・自由発表・聞き取りなどをもって授業時間中は会話練習を主な内容とする。

・学習者の朝鮮語での発言意欲を積極的に促進し、支援する。

・朝鮮語作文を通して基本的な文型・語彙などの練習を行なう。

・朝鮮・韓国の歴史や文化などの理解を助けるため映画などを鑑賞する。

テキスト：

特に指定しません。

講義資料プリントを配布します。

参考書：

著者：韓晶恵 & 朴三植「スマート・ハングル・ベーシック」白帝社 2005 年出版

著者：韓晶恵 & 朴三植「シンプル・ハングル・ダイアログ」白帝社 2006 年出版

著者：韓晶恵 & 朴三植「サブリ韓国語要点集」白帝社 2009 年出版

イタリア語第 (春学期)(秋学期)

イタリア語講読

講師 町 田 亘

授業科目の内容：

イタリア語文法の知識を深め、さらにイタリア社会の諸側面を知るために原書の講読を行う。

今日のイタリアを理解するために、外国人向けのテキスト、イタリアの新聞、雑誌等から記事・章節を抜粋し、講読する。

テキスト：

プリント

ポルトガル語第 (中級)(春学期)(秋学期)

ブラジルのことば

講師 日向敦子ノエミア

授業科目の内容：

〔春学期〕

初級より少し複雑な日常会話を劇化しながら、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(ジェスチャーやイントネーションなど)が同時に行われるような会話を目指します。会話のポルトガル語をより覚えやすくするため、会話と同じ内容のテキストの聞き取りも行います。

文法は、動詞の接続法と仮定文を主に学びます。

10分程度のインターバルを設け、ブラジル人と日本人のカルチャーシ

ョックの話をしなが、言葉と文化のリンケージを試みます。

〔秋学期〕

春学期と同じテキストの他にブラジルの総合雑誌「Veja」の、ポルトガル語が比較的簡単な記事を読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、文法問題もその都度指摘し、説明します。

テキスト：

日向ノエミア『ブラジル語でコミュニケーション』大学書林

(の後半にします)

二学期は、このテキストの他に雑誌のプリントも配布します。

参考書：

辞書は『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。あるいは、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になると思います。

ポルトガル語第 (上級)(春学期)(秋学期)

ブラジルのことば

講師 日向敦子ノエミア

授業科目の内容：

ブラジル人と日本人の間に生じるコミュニケーション・ギャップを扱ったテキストを読み、訳し、それについてディスカッションをします。ポルトガル語の読解力と会話力が同時につく授業を試みます。

このテキストは、ポルトガル語と日本語が見開きで対訳になっているので、入りやすいと思います。

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。また、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になります。

〔秋学期〕

ブラジルの総合雑誌「Veja」の時事文、法律、政治、経済欄の記事などを読み、訳し、それについてディスカッションをすることを予定に入れています。

ポルトガル語の読解力と会話力が同時に身につく授業を試みます。また、学期末に、ブラジル、あるいは、ブラジル人について考えたことを題材にした簡単な作文を提出してもらう予定です。

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)がよいでしょう。また、『ローマ字ポ和辞典』、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)も、例文が多いため、参考になります。

テキスト：

春学期のテキストは、『ことばを越えて』(世論時報社)にします。秋学期はプリントし、最初の授業で配ります。

参考書：

辞書は、『現代ポルトガル語辞典』(白水社)あるいは『ローマ字ポ和辞典』(柏書房)、『ローマ字和ポ辞典』(柏書房)が、参考になると思います。

## 〔人文科学科目〕

人文科学研究会 / 人文科学研究会 (春学期)(秋学期)

心とことばの認知科学

教授 辻 幸 夫

授業科目の内容：

本研究会では、ヒトの言語行動と心理過程について認知科学的観点から多角的に検討します。

私たち人間の言語はどのような構造と機能をもつのか、他者との言語的・非言語的コミュニケーションはどのように遂行されているのか、ヒトの認知能力や言語能力が統合的に宿る心とはどのようなものか、というような疑問が出発点になります。言語の生物的基盤、心理基盤、社会・文化的基盤や、実際の現象について認知科学的に探求します。

テキスト：

辻幸夫(編)『ことばの認知科学事典』大修館書店、2001年。その他は授業時に、随時、学生と相談して決定します。

参考書：

いろいろとあるため、担当者が関係したものやその他を便宜的に掲げておきます。トピック探索の参考にしてください。

辻幸夫(編)『認知言語学キーワード事典』研究社、2002年

辻幸夫(編)『認知言語学への招待』大修館書店、2003年

山鳥重・辻幸夫『心とことばの脳科学』大修館書店、2006年

辻幸夫(他訳)『ことばをつくる：言語習得の認知言語学的アプローチ』慶應義塾大学出版会、2008年

辻幸夫(他監訳)『比喩と認知：心とことばの認知科学』研究社、2008年

辻幸夫(他訳)『認知言語学のための14章』紀伊國屋書店、2008年

岡本真一郎『ことばの社会心理学(第3版)』ナカニシヤ出版、2006年

山本真理子(他編)『社会的認知ハンドブック』北大路書房、2001年

人文科学研究会 ・ /人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
イギリス地域文化(ビートルズとイギリス文化)

教授 武藤 浩史

授業科目の内容:

今年は20世紀後半のイギリス文化を、特にビートルズとプリティッシュ・ロックを中心に、勉強したいと思います。私は、文学・文化研究者なので、言葉や文化にこだわりますが、音楽的に研究したい人も歓迎します。ビートルズおよびそのメンバーの曲、活動の精査のみならず、関連文献を読むとともに、60年代のイギリス文化を概観した研究書を読んでゆくことで、地域文化について広い視野を獲得したいと思います。また、和書と洋書をつまみ合わせて使う予定です。

学期終盤には各人が決めたテーマで研究発表をしてもらいます。どんなテーマでも結構です。

夏休みなどに合宿をやって、学生間の交流をはかるとともに、リサーチ・発表の基本を会得してもらいます。

文献は、ビートルズ関連のもの他に、Dominic Sandbrook, *White Heat: A History of Britain in the Swinging Sixties* を輪読します。

テキスト:

初回授業時に指示します。

参考書:

武藤浩史他編『愛と戦いのイギリス文化史 1900 - 1950年』を読んでない人は読んでおいて下さい。

人文科学研究会 ・ /人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
イギリスの文化と社会 イギリスの教育・階級と社会

教授 太田 昭子

授業科目の内容:

2009年度はイギリス近代(主として19世紀~20世紀前半)におけるイギリスの教育・階級と社会を検討します。イギリスの社会構造の軌跡を、教育と階級という視点から少数人数演習形式で多角的に分析したいと考えています。2010年度はイギリス現代史を中心に同じテーマを扱う予定ですが、アイデンティティ、エスニシティなどの問題や他地域(ヨーロッパ、アメリカ、オセアニア、アジア、アフリカ)との関係性も積極的に議論されることになるでしょう。どちらの年度も歴史認識を踏まえた議論が重視されます。2年度にまたがる授業計画を立てていますが、単年度の履修も勿論可能です。

テキスト:

1. 春学期に扱う文献(テキスト)は、ガイダンス翌週の第1回目授業で配布する文献表の中から、履修者と話し合いつつ決定します。英語文献については、下記「授業科目の計画」の記載を参照して下さい。
2. 秋学期には特定の教科書は使用しない予定ですが、履修者の希望によっては変更される可能性があります。
3. 全員が読むべき共通テキストのうち、入手しにくい論文などは必要に応じプリントにして配布する予定です。

参考書:

参考文献表を随時配布します。

人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)

現代アメリカ研究: リベラリズムの再構築と市民運動

教授 鈴木 透

授業科目の内容:

現代アメリカ社会の主要な対立軸である、「80年代的ベクトル/保守派/一國行動主義」と「60年代的ベクトル/リベラル派/国際協調主義」の両陣営の動向について隔年で取り上げる。今年度は後者の順番にあたり、ポストネオコン時代を迎えつつあるアメリカにおいて、リベラリズムをめぐる議論が再び息を吹き返してきている点をふまえ、新たな変革に向けてリベラリズムの陣営はいかなる具体的なヴィジョンを提起すべきなのかに焦点を当てる。授業では、リベラリズムの退潮の原因は何だったのか、リベラリズムの再構築に活用できる資源は何か、リベラリズムの側から社会の変革を軌道に乗せるためにはどのような運動や媒体が有効か、の3点についても、当然のことながらあわせて考察する。

テキスト:

多岐に渡るので授業で指示する

参考書:

鈴木透 『実験国家アメリカの履歴書: 社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)

アメリカ文化研究: アメリカ文化研究の方法論的展開をめぐって

教授 鈴木 透

授業科目の内容:

アメリカ文化研究の方法や研究史の勉強と、特定のタイプのアメリカ論の分析を隔年で行う。今年度は前者の番で、最近のアメリカ文化研究

の新たな潮流、とりわけ、物質文化研究の成果を融合し、ポストナショナルの視野を備えた著作を取り上げ、今後のアメリカ研究が目指すべき方法や問題意識とは何かを考える。

テキスト:

取り上げる文献については、履修者の希望を聞いた上で最終決定する。

参考書:

鈴木透 『実験国家アメリカの履歴書: 社会・文化・歴史にみる統合と多元化の軌跡』(慶應義塾大学出版会, 2003)

人文科学研究会 ・ /人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
日本語はどのような言語か 教授 小屋 逸樹

授業科目の内容:

本研究では、日本語を題材に、その文法的・言語社会文化的な特徴を外国語と比較しながら考察します。ほとんどの学生の母語であるにもかかわらず、個別言語としての日本語の性格は、学校教育でもあまり取り上げられてはきませんでした。授業では国文法と称して動詞の活用形などが教えられる程度で、英語を学ぶほどには大きな関心が日本語には向けられなかったというのが実情です。しかし、人間の言語や文化を、自国のもの、あるいは他国のものとして学ぶ者にとっては、母語である日本語が類型論的にどのような言語であるのかを理解することは、全ての前提条件となるべき課題です。

他の言語と比べながら、なるべく客観的に日本語の特色を多角的に検証したいので、英語のみならず諸言語に興味をもっている学生の受講を希望します。学生の発表と全員の議論を中核とする少人数のゼミ形式をとりますので、受講希望者が多い場合は1回目の授業時に選抜します。受講希望者は必ず1回目の授業に参加してください。

テキスト:

最初の授業で紹介します。

人文科学研究会 ・ /人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
アメリカの人種とアイデンティティ 教授 奥田 暁代

授業科目の内容:

アメリカ研究(American Studies)の研究会です。おもに人種/エスニシティに関わる問題を取り上げています。アメリカの非白人に対する差別の歴史を振り返りながら、アメリカという国家のあり方について考察します。授業では、さまざまな文献を読むことから始めて、後半では履修者各自が決めたテーマで研究発表をします。そして、年度末に論文を作成します。

2008年度はとくにラティーノに注目しました。アフリカ系アメリカ人を抜いて「最大マイノリティ」となったラティーノが、アメリカ社会、文化、政治に与える影響は計り知れません。1980年代から言われてきたアメリカの「褐色化」が現実のものとなるのではと多くを不安にさせ、ラティーノ人口を、かつて黒人に対して行ったように、差別、排斥する風潮が見られます。現在のラティーノ問題と過去の黒人問題の共通点と比較する、ということもテーマに論文集をまとめました。

2009年度は、隣国との国でありながら、とくに人種やアイデンティティの問題に関しては異なる対応をしてきたカナダとアメリカ合衆国の比較、を研究会のテーマにする予定です。もちろん、人種/エスニシティに関わることであれば、ほかの研究テーマを選んで構いません。

人文科学研究会 ・ /人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
アメリカ文化研究: パフォーミング・アーツを中心に

教授 常山 菜穂子

授業科目の内容:

本研究では、植民地時代から21世紀までのアメリカの社会と文化をパフォーミング・アーツ(表象芸術)の視点から考察します。戯曲に限らずダンスのような身体表現やブロードウェイ・ミュージカル、大衆芸能も射程に、これらの表象が、いかに同時代の政治経済、国家国民、思想宗教の影響を意識的/無意識的に受けながら形成されているかを検討し、舞台上に反映された「アメリカ」の諸相を前景化していきます。その際には多様なアプローチ方法があります。たとえば、人種、ジェンダー・セクシュアリティ、階級格差、地域性(例:ブロードウェイの特色)、日本との比較(例:劇団四季や宝塚との相違)、音楽や映画との関連、エンターテインメント法といった論点も考えられるでしょう。私自身は主に初期の演劇文化を研究していますが、当研究会の履修者と共に、アメリカにおけるさまざまなパフォーマンス・シーンについて学びたいと思っています。

テキスト:

資料プリントを配布します。

人文科学研究会 ・ /人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
<映画史>とは何か? イギリス映画から世界へ

准教授 佐藤 元 状

授業科目の内容:

本研究では、イギリス映画の「知られざる」傑作群の視聴や議論を切り口として、<映画史>とは何かという哲学的な問いを考察します。春

## 共通

学期は、イギリス映画の古典的な作品を視聴し、英語および日本語の文献講読を交えながら、映画をアカデミックに批評するためのノウハウを蓄積します。秋学期は、イギリス映画の特性を「グローバルな」観点から相対的に把握するために、南北アメリカ、ヨーロッパ、中東、アジア、アフリカ、オセアニアの映画を幅広く視聴し、議論します。グローバル化の時代にふさわしいグローバルな知識と好奇心を養い、各自の関心をアカデミックな映画批評にまで高めることを最終的なゴールとします。

テキスト：

最初の授業時にお知らせします。

参考書：

授業中に紹介していきます。

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
芸術と文学・思想から見た近代  
および現代のドイツ語圏とヨーロッパ

教授 岩下 真好

授業科目の内容：

「ドイツ語圏およびヨーロッパの近・現代の芸術と文学・思想」という全体テーマで、まず最初は、受講者の関心に応じて、とりあえずの共通基本文献を選び、それを読み進めて討議を重ねてゆく。その後の具体的な内容は受講者の個別の問題意識に応じて設定し、講義、検証(写真、CDその他)、研究報告、討論などを折りまぜて進める。文学、音楽、造形芸術、建築、思想など、幅広い分野を適宜取り扱う。対象への受講者の積極的な関心を期待する。

参考書：

その都度指示する。

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
本を読む 教授 許 光 俊

授業科目の内容：

恋愛小説をいくつか。  
そうでない小説をいくつか。  
伝記をいくつか。  
哲学書をいくつか。  
それ以外の本もいくつか。  
詩をいくつか。

長い本もあれば、短いものもある。毎回読んでくるように。

ときどき映画を見るかもしれない。

ときどき何かを見に行くかもしれない。

テキスト：

最初の時間に指示する。本くらい買いなさい。1時間か2時間アルバイトすれば、買えるだろ？

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
現代ドイツ研究 教授 三瓶 慎一

授業科目の内容：

現代ドイツの政治・社会・言語・文化に関する種々の問題を扱う。参加者の関心に応じて、自力で資料を集め、Referatにまとめて発表し、全員で議論を重ねることによって、最終的には1つの論文に仕上げることが目標である。

これまで扱ってきたテーマには、東西ドイツ分断の経緯、東西ドイツ国境事情、ベルリンの壁の建設と崩壊、各政党の成立と政策、社会民主党の歴史、ヴィリー・ブランド、兵役義務、ドイツ語の人名、ドイツと日本の言語政策、戦後ドイツの知識人、ドイツの政治教育、68年運動と緑の党の誕生などがあつた。この他のテーマももちろん歓迎である。

参加者諸君と協議のうえ、合宿形式で発表・討論を行うこともある。

なおドイツ連邦共和国に関する問題を中心とするが、参加者の希望によっては、ドイツ語圏の他の国々についてのテーマを扱うことも妨げない。

テキスト：

追って指示する。

参考書：

追って指示する。

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
フランス語圏の文化と社会 教授 鷓崎 明彦

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式でフランス近現代の文化を考察します。フランス文化に対する知識・理解を深めるだけでなく、フランス文化と近代日本、逆に近代フランスと日本文化といった、文化の相互交流、異文化コミュニケーションも問題意識として持ちながら研究会を進めたいと考えています。

[春学期]テーマをひとつ設定し、講義、文献の講読、討論で授業を構成します。

2006年度は、万国博覧会、美術館・博物館、デパート、コンサート・ホールという近代西欧の装置・制度を、近代日本の形成と絡めながら考

察しました。2007年度は、19世紀後半にジャポニズムが産業と美術が交わる芸術(工芸)という領域においてフランス及び欧米に与えた影響と、そのジャポニズムの隆盛を見すえた明治日本の美術政策を研究しました。そして2009年度は、「美術館(博物館)の誕生 フランス革命と文化財保護」というテーマで、フランス革命期のいわゆる<<vandalisme>>(旧体制を象徴する文物の破壊)から文化財を保護すべくルーヴル美術館等が誕生し、国民の文化遺産<<patrimoine>>という観念が形成されていく過程を考察する予定ですが、合わせて明治維新の廃仏毀釈の危機的状況から生まれた日本の文化財保護行政についても検討できればと考えています。

[秋学期]学生諸君個々のテーマに基づいて研究発表をしてもらいますが、テーマは春学期の内容に即したもので、独自のテーマのどちらでも構いません。発表と討論を経ながらさらにテーマを掘り下げていってもらいます。

以上が授業展開のアウトラインですが、学生諸君の関心に従って柔軟な対応をいたします。

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
Société française-Etudes comparatives

准教授 アンリ、ナタリー

授業科目の内容：

Le domaine de ce cours est, au sens large, la société française, en elle-même ou dans une perspective comparative, vue à travers l'étude d'un thème choisi en commun au début de chaque semestre. Ce choix est librement modulable selon les intérêts (exemples récents: les établissements pénitentiaires pour mineurs, le traité de Versailles en France, la politique d'énergie nucléaire de la France). L'état de la recherche de chacun est exposé régulièrement, et le travail doit mener à la rédaction en français d'un court rapport. Le cours se divise en exposés, orientation de la recherche, discussion. Le but de ce cours est non seulement l'acquisition de connaissances, l'approfondissement de la maîtrise de la langue française, mais encore l'entraînement à la pratique et à la présentation de la recherche.

テキスト：

特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
中国の軍事と安全保障 教授 安田 淳

授業科目の内容：

少人数のゼミ形式で、主として中国の安全保障を勉強する。取り上げる題材として中国解放軍はもちろんのこと、中国の領土問題やエネルギー問題、人口問題、治安問題、交通問題、さらに周辺諸国との関係など、中国の安全保障に関わるならば履修者諸君の関心や希望を広く取り入れたい。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

---

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
現代中国政治と社会 原典資料で読み解く現代中国の歩み

准教授 林 秀光

授業科目の内容：

現代中国政治史を紐解くと、反右派闘争、大躍進、文化大革命、天安門事件など、執政者の圧制や、政策の失敗といったような救いがたい気持ちにさせられる歴史事実が続きます。しかし、そういった歴史の流れのなかで、そこに生きる人々は共産党支配のもつ矛盾や社会に存在する様々な問題に直面し、なんらかの形で自由で民主的な国づくりを目指していました。また、そういった努力や期待がときには現代中国の歴史を大きく変える契機にもなりました。本研究会では、真実を訴えたがために歴史の舞台から追われた勇気ある人々の「もがき」が感じられる原典資料を読み解き、現代中国の政治と社会に存在する核心的な問題がなにかを探ってみたいと思います。

同時に、中国の時事問題についても注目し、適宜に資料を読みディスカッションしていきたいと思っています。昨年は中国の選挙制度、農村問題、環境問題、中国の経済発展モデルの有効性の有無、などについての著作を日本語と中国語で読みました。

テキスト：

中国語文献は配布します。

日本語文献はテーマに応じて適宜に指示します。

参考書：

テーマに応じて適宜に指示します。

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
スペイン語圏の文化と社会 (歴史的視点から)

教授 大久保 教 宏

授業科目の内容:

スペイン語圏(スペイン, ラテンアメリカなど)の社会と文化に関してより深く理解し, 研究したい人のためのゼミです。スペイン語圏を扱う人文科学研究会はもう一つ, 本谷先生担当のものがありますが, そちらは現状分析を中心とし, こちらの研究会は歴史的視点からの分析を主にしています。ナマの歴史資料(一次資料)や, 研究書(二次資料)を精読し, 討論しながら, 履修者各自の問題関心を深めていきます。2年間履修し, 修了論文を提出すれば, 副専攻修了を認定します。

これまで, 「キューバにおける野球の歴史 ナショナリズムと帝国主義の狭間で」, 「メキシコが歩んだ道 独立から革命へ」, 「カリブ海のつば 小国ドミニカ奮闘の 500年」といった題目の修了論文がだされています。現在は「フリーダ・カーロの苦悩」, 「知られざるベリーズ」, 「サッカー戦争の歴史的背景」, 「サンティアゴ巡礼路の歴史」, 「中米バナナ共和国の歴史」, 「ラテンアメリカの世界遺産」, 「カタルーニャの特異性」, 「メキシコ壁画運動」, 「メキシコ教育史」といったテーマを掲げる学生が集まっています。

また, フィールドワークと親睦を兼ねて, スペイン(三田), アルゼンチン(赤羽橋), ペルー(五反田), ドミニカ(表参道), ハイチ(新橋), キューバ(築地), メキシコ(都内随所)など, 三田キャンパス周辺にある各国料理店を探訪しようと思っています。

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
スペイン語圏の社会と文化 (現状分析を中心に)

准教授 本谷 裕子

授業科目の内容:

この研究会では, スペイン・ラテンアメリカ諸国をはじめとするスペイン語圏の社会や文化について理解し学んでいきます(ポルトガル語圏のブラジル・フランス語圏のカリブ海の国々も含む)。スペイン語圏について学ぶ研究会には大久保先生担当のものもありますが, こちらの研究会は歴史研究というよりは当該地域の現状分析に焦点を当てていきます。スペイン・ラテンアメリカと一口にいってもその地域は広範にわたりますし, 異文化コミュニケーション, 貧困問題, 環境問題, 人種問題, 教育問題, 移民問題, 映画や美術などさまざまなアプローチからの研究が可能であるがゆえ, みなさんの関心や研究テーマも多岐にわたるはず。私はこれまで文化人類学・服飾学の視点からメソアメリカ地域の先住民社会を研究してきましたが, この研究会を通して私自身, みなさんとともにこれまで知らなかったスペイン語圏の国々の社会や文化について学んでいきたいと思っています。授業では日本語文献と外国語文献(英語, スペイン語)の精読と討論をおこなうとともに, みなさんには自分の関心に沿った研究テーマを設定してもらい, それについての研究発表も並行しておこないます。2年間履修し修了論文を提出した場合には副専攻修了を認定しますが, 論文は書かないがこの研究会で勉強したいという人ももちろん歓迎します。

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
ドストエフスキーからロシアを知る 教授 山田 恒

授業科目の内容:

今年度は『罪と罰』を中心に置いて, ロシア文化を追求し, ロシア人の考え方, ものの見方の基盤を考えてゆく。勿論, 主人公の思想, 否定すべき行為を犯すことによって人類を救うという考えは成立しうるのかといったドストエフスキーの提起したテーマも討議するが, 『罪と罰』で多用される, 売春婦の鑑札の色, ネワ川の水, 壁紙など, しばしば「黄色」という形容詞が使われるが, はたして何を意味しているのか, などとも考えたい。

更に殺害される金貸しの老婆の形象には, パーバ・ヤガーという古い信仰が映し出されているが, ロシアにおけるキリスト教と古代スラヴの信仰との関係にまで踏み込みたい。宗教的側面からするならば, 主人公の名前ラスコーニコフに象徴される分離派とロシア正教会との関係も研究会の重要なテーマである。聖母マリアに比定されるヒロインもまた分離派教徒であったのか?

またロシアの司法制度に関心があるなら, この作品が大きな示唆を与えてくれることも確かである。犯人を追い詰める治安判事は, 作品の構想に大きな影響を与えた直前の法改正の結果として生まれた存在だからである。

多様なロシア文化, 音楽, 食文化(なぜ『罪と罰』の主人公の食生活はどのようなものであったのか), などに関心のある諸君の参加も歓迎する。テキスト:

教材としての『罪と罰』には訳者の異なるいくつかの版があるが, 討議などで際に同一であることが望ましいので, 事前に購入しないこと。最初の授業で決定したい。ただし図書館などで事前に『罪と罰』を読んでおいてほしい。

参考書:

授業中に参考文献は紹介する

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
朝鮮半島研究 専任講師 磯崎 敦仁

授業科目の内容:

朝鮮半島の社会・文化を題材に, 自らの問題意識を鮮明にし, それを解明する力を養っていく。少人数のゼミ形式。担当者の専門領域は北朝鮮だが, 学生諸君の関心にも柔軟に対応していきたい。

春学期は, 北朝鮮現代史に関する文献を輪読する。同国に対する知見を深めるのみならず, 地域研究の手法, 広くは学術論文の読み方と議論のやり方の基礎を学ぶ。秋学期は, 各自の関心に基づいた研究発表を行ってもらい。研究テーマは, 広く朝鮮半島の社会・文化に関わることであれば受け入れる予定。

テキスト:

徐大肅『金日成と金正日 革命と主体思想』岩波書店, 1996年。  
崔銀姫・申相玉『闇からの罅 北朝鮮の内幕』上下巻, 文春文庫, 1989年。

小針進『韓国人は, こう考えている』新潮新書, 2004年。

人文科学研究会 ・ / 人文科学研究会 ・ (春学期)(秋学期)  
近・現代ヨーロッパ芸術史 教授 平林 正司

授業科目の内容:

本講は, オペラ, バレエ, 演奏会用音楽などの芸術, さらに政治や社会なども視野に入れた, 近・現代ヨーロッパ文明史である。各国文化の特異性とヨーロッパ文明の普遍性との関連を考察する。

テキスト:

(秋学期のみ)平林正司『ショパンとヴァルス』(慶應義塾大学出版会)

## 〔自然科学科目〕

自然科学研究会 (春学期)  
物理学 教授 下村 裕

授業科目の内容:

少人数のゼミ形式で, 興味ある不思議な現象を物理学的に解明することを通して, 「問の発見」から「問の答え」に至る物理学的研究過程, 数理的・論理的思考方法, そして科学論文の書き方やプレゼンテーションの技法を学ぶ。理論や実験からの学習ではなく, 各自が興味をもつ現象をまず見つけることから授業が始まる。その現象はどんなものでも良いが, 物理学的に研究するので, 実験や観測等が可能な, 身近な現象が望ましい。これまで研究したテーマは, 「アメンボの水上運動」, 「刀の不安定配置」, 「オライディスク」であるが, その他にもさまざまなものが考えられる。研究はグループで行っても個人で行っても良いが, 現象発生の物理的機構を継続して徹底的に調べる。

(参照 URL <http://web.hc.keio.ac.jp/~yutaka/>)

参考書:

下村裕, 比名祥子, 渋谷友彦, 安田有衣, 「日本刀の安定配置交換と打撃の中心」, 教養論叢 129, 1-11 (2008)。

下村裕研究会・下村裕, 「Dennyのパラドクス再考」, 慶應義塾大学日吉紀要 自然科学 42, 17-25 (2007)。

下村裕, 「ケンブリッジの卵 回る卵はなぜ立ち上がりジャンプするのか」, 慶應義塾大学出版会, 2007。

自然科学研究会 (秋学期)  
物理学 教授 下村 裕

授業科目の内容:

少人数のゼミ形式で, 興味ある不思議な現象を物理学的に解明することを通して, 「問の発見」から「問の答え」に至る物理学的研究過程, 数理的・論理的思考方法, そして科学論文の書き方やプレゼンテーションの技法を学ぶ。理論や実験からの学習ではなく, 各自が興味をもつ現象をまず見つけることから授業が始まる。その現象はどんなものでも良いが, 物理学的に研究するので, 実験や観測等が可能な, 身近な現象が望ましい。これまで研究したテーマは, 「アメンボの水上運動」, 「刀の不安定配置」, 「オライディスク」であるが, その他にもさまざまなものが考えられる。研究はグループで行っても個人で行っても良いが, 現象発生の物理的機構を継続して徹底的に調べる。

(参照 URL <http://web.hc.keio.ac.jp/~yutaka/>)

参考書:

下村裕, 比名祥子, 渋谷友彦, 安田有衣, 「日本刀の安定配置交換と打撃の中心」, 教養論叢 129, 1-11 (2008)。

下村裕研究会・下村裕, 「Dennyのパラドクス再考」, 慶應義塾大学日吉紀要 自然科学 42, 17-25 (2007)。

## 共通

下村裕,「ケンブリッジの卵 回る卵はなぜ立ち上がりジャンプするのか」,慶應義塾大学出版会,2007.

自然科学研究会 (春学期)  
分子生物学原著論文講読 専任講師 小野 裕 剛

### 授業科目の内容:

法学や政治学を専攻する場合でも,分野によっては高度な生物学の知識が求められる場合があります。このクラスでは生物学の原著論文をどのように読みこなしたらよいかを学びます。春学期は教員が指定した論文を全員で読みながら,分子生物学分野で使用される基本的な研究テクニックの原理やデータの読み方を指導します。

### テキスト:

Nature, Science, Cell など一流の科学雑誌から抜粋した記事を用います。メディアセンターの電子ジャーナルからダウンロードできますが,どの記事を採用するかは未定です。

### 参考書:

日本語の参考書として,以下のものを挙げておきます。事前に購入する必要はありません。

井出利憲「分子生物学講義中継」(羊土社),Alberts「細胞の分子生物学」(ニュートンプレス)

高木利久「これからのバイオインフォマティクスのためのバイオ実験入門」(羊土社)

自然科学研究会 (秋学期)  
分子生物学原著論文講読と実験シミュレーション 専任講師 小野 裕 剛

### 授業科目の内容:

法学や政治学を専攻する場合でも,分野によっては高度な生物学の知識が求められる場合があります。このクラスでは生物学の原著論文をどのように読みこなしたらよいか,またその研究を遂行するにはどのような手段があるのかを学びます。秋学期は自分の興味がある分野の論文を収集し,次にどのような実験を展開するかを考えます。

### テキスト:

Nature, Science, Cell など一流の科学雑誌から抜粋した記事を用います。メディアセンターの電子ジャーナルからダウンロードできますが,どの記事を採用するかは受講者と相談の上で決定します。

### 参考書:

日本語の参考書として,以下のものを挙げておきます。事前に購入する必要はありません。

井出利憲「分子生物学講義中継」(羊土社),Alberts「細胞の分子生物学」(ニュートンプレス)

高木利久「これからのバイオインフォマティクスのためのバイオ実験入門」(羊土社)

自然科学特論 (春学期)  
論理的思考とはなにかを問題解決の技法を使って考える 教授 鈴木 恒 男

### 授業科目の内容:

最近,大学を卒業する時に身につけておく力として問題解決力と論理的思考力が社会から要望されている。この問題解決力と論理的思考力と何か,これはどの様にして身につけることができるのかを,最近産業界で話題となっている問題解決の技法を題材として考える。論理的思考は科学を行う際に必要な思考方法であり,特別な思考方法のように考えるかもしれないが,そうではなく,思考の過程を一段ごとに意識し,明確な思考の連続を行うことであり,これが問題解決の基本的思考方法である。この思考方法実践するのが本講義の目的である。

### テキスト:

特に指定しません。

### 参考書:

随時,授業で参考図書を紹介いたします。

自然科学特論 (秋学期)  
科学と疑似科学を考えることから信じるとはなにか 教授 鈴木 恒 男

### 授業科目の内容:

最近,テレビ等で科学を装うことが一つの流行となっている。ある番組での報道が大きく話題となった。最近問題となっているのが科学を装った通説ないし,疑似科学である。現代ほど科学の知識が普及している時代はないのに,いまだ心霊現象,幽霊や超能力に関する関心はずたれないし,血液型と性格との関係は確固たる地位を築いている。この科学と疑似科学の違いを考えることから,我々は何を,どの様にして信じるのかを考えるのが本講義の目的である。

### テキスト:

特に指定しません。

### 参考書:

随時,授業で参考図書を紹介いたします。

自然科学特論 (春学期)  
多様な現象と力学法則の関連 講師 吉澤 徹

### 授業科目の内容:

台風のような流れに関連する自然現象を理解するために,現象に密接する物体の運動,圧力などに関する基本事項の解説から始めます。そのような知識を用いて流れの重要な性質の説明を行い,台風における風向を決めるコリオリ力などを理解します。説明に際しては,数式を極力減らし,直感的見方で補うことにします。

### テキスト:

特にありません。

### 参考書:

適宜紹介いたします。

自然科学特論 (秋学期)  
磁力線にまつわる自然科学現象 講師 吉澤 徹

### 授業科目の内容:

自然科学現象では,磁場(磁力線)が重要な役割を演じている事例が多々あります。そのような現象を理解するために,磁石のN極とS極がなぜ引き合うかというような簡単な事項の解説からはじめます。そこで得られた磁力線に関する基本的な知識を用いて,地球や太陽などにおけるさまざまな現象の考察を行います。

### テキスト:

特にありません。

### 参考書:

適宜紹介いたします。

実践自然科学(秋学期)  
実験要素を含む4年生のための自然科学  
商学部 教授 福澤 利彦  
文学部 教授 大場 茂  
法学部 教授 小林 宏充

### 授業科目の内容:

実験やデモンストレーションなど,実験要素を取り入れて,自然科学の考え方や方法論を教えることに重点を置いた授業とします。全体説明のガイダンスの後,化学,物理学,生物学の3分野の教員が,それぞれの分野において,4回ずつ異なるテーマで授業を行います。実験要素を含むことが本科目の特徴であるため,受講生諸君が授業に参加して自ら考えることが必要となります。

### テキスト:

特に指定しません。講義時に資料・プリントを配布します。

### 参考書:

特に指定しません。

## 〔数学・統計・情報処理科目〕

数学 (春学期)  
「行動科学における数学(集合論)」 講師 松岡 勝 男

### 授業科目の内容:

数学は,自然科学・工学はもとより,社会科学・人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで,テーマとしては,

(1)現代数学の最も重要な基礎をなし,哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」

(2)確率論をはじめとして,物理学・工学・統計学・制御理論・学習理論・ORなど,非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」

(3)経済・社会・政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて,適宜選択の上,「行動科学における数学」という立場から講義する。

### テキスト:

特に指定しません。

数学 (秋学期)  
「行動科学における数学(エントロピーとマルコフ連鎖)」  
講師 松岡 勝男

授業科目の内容:

数学は、自然科学・工学はもとより、社会科学・人文科学におけるいろいろな現象の解明のための基本的な道具としての役割を果たしている。そこで、テーマとしては、

- (1)現代数学の最も重要な基礎をなし、哲学や論理学の現代化にも著しい影響を与えている「集合論」
- (2)確率論をはじめとして、物理学・工学・統計学・制御理論・学習理論・OR など、非常に広汎な分野に現れる「エントロピーとマルコフ連鎖」
- (3)経済・社会・政治などで現れる競争状態の数学的モデルを扱う「ゲームの理論」

などについて、適宜選択の上、「行動科学における数学」という立場から講義する。

テキスト:

特に指定しません。

統計学 (春学期)  
推測統計学  
講師 望月 要

授業科目の内容:

この授業では確率分布や統計的検定の基本的な概念の説明から始め、推測統計の基本的な考え方と技法を講義する。複雑な数式や数学的議論には立ち入らず、「文系の統計ユーザ」のための授業をおこなうが、特定のコンピュータ・ソフトウェアの使い方やハウツー的な知識ではなく、統計手法の基礎にある考え方や原理を理解することを目指す。受講者は、記述統計学の初歩的知識を有することが望ましいが、学期当初の授業で必要部分については簡単な復習をおこなう。また参考書を利用して自学で補うことは十分に可能である。主なテーマは「授業計画」に挙げたものを予定しているが、受講者の希望により変更が可能である。要望があれば、初回授業の際に相談したい。

テキスト:

特に指定しない(配布資料に沿って授業をおこなう)

参考書:

鷲尾泰俊 1983 日常のなかの統計学 岩波書店 (ISBN 4-00-007636-1).  
他にも初回ガイダンス時に紹介する。

統計学 (秋学期)  
多変量解析入門  
講師 望月 要

授業科目の内容:

この授業では多変量解析法と呼ばれる統計手法について初心者向けに講義する。

授業では「データの解析」よりも「現象の解明」に重きを置く。多変量解析はコンピュータ処理が前提となるが、この授業は特定の解析ソフトウェアの実習ではなく、いろいろな解析手法の考え方を理解し、多変量解析を利用するに当たっての問題の立て方、解析結果の読み方、考察のしかたなどを習得して貰いたい。

受講者は必ずしも『統計学』を履修している必要はないが、統計的概念について基礎知識を持っている必要がある。少なくとも以下の用語 分散、統計的有意性、有意水準、相関、相関係数 は理解して欲しい。但し、受講者から希望があれば、学期当初の授業で最低限の復習をおこなうことは可能だと思う。また参考書を利用して自学で補うこともできる。

テキスト:

特に指定しない(配布資料に沿って授業をおこなう)

参考書:

初回ガイダンスおよび授業中随時紹介する。

情報処理 (春学期)  
データベース、オンライン・ジャーナルをつかってレポート作成をしよう  
講師 河村 和徳

授業科目の内容:

慶應義塾大学では、学生に対し様々なデータベースやオンライン・ジャーナルが提供されており、その規模は日本の大学の中でも高い水準にある。これらはレポートや卒業論文の作成に有用であるにもかかわらず、多くの学生はこれらのデータベースやオンライン・ジャーナルに気づくことはないのが現状ではないだろうか。この講義では、法学生に有用と思われるこれらのデータベース、オンライン・ジャーナルをとりあげ、利用方法について解説する。そして実際に検索やデータのダウンロード等を行ってもらう。履修者は、こうした経験を各自のレポート作成等に活かせるようにしてもらいたい。

また、折に触れて他大学や民間の法情報サービス等にも言及したいと思う。

テキスト:

とくに指定はしない。

参考書:  
とくに指定はしない。

情報処理 (秋学期)  
サーベイ・データから講義内容を学ぶ  
講師 河村 和徳

授業科目の内容:

本講義の内容は2つの要素から成り立っている。

1つは、サーベイ調査およびそのデータ・アーカイブについて学ぶことである。サーベイ調査は、近年、有権者の意向を把握する1つの大きな手段として用いられているが、個人情報保護法の施行以降、調査が困難にもなっている。こうした事情等についても講義内容として取り扱っていききたいと考えている。

本講義のもう1つの内容は、サーベイ調査によって得られたデータを具体的に用いながら、講義で聴く仮説を実際のデータから確認してみることである。統計ソフトを利用して公開されているデータを実際に分析してみることが、卒業論文作成等を考えている者にとって論文内容の向上等につながる。また機会をみて、公開されているデータの2次利用のメリット・デメリットについても論じていききたいと考えている。なお、本講義で扱う仮説はデータの入手のしやすさから鑑みて、投票行動に関わる仮説を取り扱っていききたい。

なお、この講義では、あくまでも実際に議論されている学説についてデータを用いながら理解していくことが目的であり、計量的な手法を学ぶことが目的ではないので注意すること。

テキスト:

とくに利用しない

参考書:

佐藤 博樹・石田 浩・池田謙一「社会調査の公開データ-2次分析への招待」東京大学出版会、2000年

統計情報処理 (春学期)  
データ分析の基礎  
講師 石上 泰州

授業科目の内容:

この授業では、パソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶ。授業で目標とするのは、SPSS (Statistical Package for the Social Sciences) という社会科学のための統計ソフトを利用して、簡単なデータ分析を行えるようになることである。データを適切に使いこなすことができれば、それだけ説得力のある議論を展開することができるので、この授業を通じてデータの取り扱いの基礎を身につけてもらいたい。なお、初歩的な内容から授業をはじめるので、履修者には何も基礎知識がないということを前提に授業をはじめるので、初心者の方も履修してもらいたい。

テキスト:

適宜、資料を配布する。

参考書:

適宜、資料を配布する。

統計情報処理 (秋学期)  
SPSS を利用したデータ分析  
講師 石上 泰州

授業科目の内容:

この授業では、「統計情報処理」に引き続いてパソコンを利用してデータを分析するために必要な基礎的な知識と技法を学ぶとともに、SPSS という統計ソフトを利用して、自らの問題関心にしたがいつつ実際に統計的な分析を行っていく。標準的には、自らテーマを設定し、自分の考えにもとづいて「仮説」をたて、その仮説の検証に必要なデータを収集、整理し、統計的な分析を通じて仮説の妥当性を検証する、という手順をふむ。そして最後には、これら一連の作業についてのプレゼンテーションを行ってもらう。なお、ここでは春学期の「統計情報処理」で学んだ知識や技法を前提に授業を進めるので、その旨あらかじめご了承ください。

テキスト:

適宜、資料を配布する。

参考書:

適宜、資料を配布する。

統計情報処理 (春学期)  
回帰分析を習得する  
講師 河村 和徳

授業科目の内容:

近年、パーソナル・コンピュータの演算処理速度があがり、かつて大型計算機を使用していた時代と比べ、計量分析を行うことは比較的容易になった。しかし、その一方で、統計的意義を考えずに使用しているケースも散見されるようになった。

この講義では、多変量解析を行ううえで基本となる回帰分析に焦点をあて、その手法、変数選択の留意点等を実習を通じて習得することを目

## 共通

的とする。講義は、単純な回帰分析から重回帰分析、共分散構造分析、数量化理論と、実際のデータを参考に積み上げ式で進めていく。

テキスト：

とくに使用しない

参考書：

とくに使用しない

---

統計情報処理 (秋学期)

分析手法のバリエーションを増やす 講師 河村和徳

---

授業科目の内容：

この講義では、統計情報処理 から までの間で講義されなかった分析手法をいくつか紹介し、より研究の幅を広げることを目的とする。統計情報処理 から で取り上げられなかった分析手法の全てを網羅することはできないが、比較的、学会論文でみかける分析手法をピックアップし講義をしたいと思う。具体的には、質的変数を主成分分析のように扱える数量化理論 類や尺度の信頼性分析、時系列的な変化を分析するうえで有効な ARIMA モデル等である。

また、講義の最後では実際にあるデータ(サーベイ、アグリゲート)を用い、習得した手法を用いて課題報告をしてもらうことになる。

テキスト：

とくに使用しない

参考書：

とくに使用しない

## 諸 研 究 所 設 置 講 座

慶應義塾外国語学校  
教職課程センター  
言語文化研究所  
メディア・コミュニケーション研究所  
ス道文庫  
体育研究所  
福澤研究センター  
国際センター  
保健管理センター  
情報処理教育室  
アート・センター  
知的資産センター  
外国語教育研究センター  
グローバルセキュリティ研究所